

手引き 第2部

---

教会の管理運営

2010

末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

手引き 第2部

---

教会の管理運営

2010

発行:

末日聖徒イエス・キリスト教会

ユタ州ソルトレーク・シティー

© 2010 by Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：アメリカ合衆国

英語版承認：2009年8月; 翻訳承認：2009年8月

原題：Handbook 2: Administering the Church - Japanese

08702 300

---

# 目次

序文.....	v	12. 日曜学校.....	95
1. 神の計画における家族と教会 .....	1	13. 活動 .....	101
2. 神権の原則 .....	7	14. 音楽 .....	113
3. イエス・キリストの教会における指導.....	11	15. ステークの組織.....	119
4. ワード評議会 .....	15	16. 独身会員.....	123
5. ワードおよびステークにおける救いの業...	21	17. 統一と調整 .....	131
6. 福祉の原則と指導 .....	33	18. 教会における集会.....	137
7. メルキゼデク神権 .....	39	19. 教会の召し .....	155
8. アロン神権 .....	49	20. 神権の儀式と祝福.....	167
9. 扶助協会.....	63	21. 教会の方針と指針の抜粋 .....	179
10. 若い女性.....	75	付録：参照資料一覧 .....	199
11. 初等協会.....	87	索引 .....	201



## 序文

主はこのように勧告しておられる。「人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」(教義と聖約 107:99)

教会の指導者は、自らの召しに関する義務を学び、果たすために、個人の啓示を求める。

聖典と末日の預言者たちの教えを研究することは、指導者が自分の義務を理解し、果たすのに役立つであろう。主は、絶えず神の言葉を心の中に蓄えるように指導者に勧告を与えてこられた。御霊の影響を受けやすくなるためである(教義と聖約 84:85 参照)。

指導者はまた、教会の手引きに記されている指示を研究することによっても、自らの義務を学ぶ。これらの指示を、原則、方針、手続きを理解するために用い、御霊の導きを求めながら応用するなら、啓示を受けやすくなるであろう。

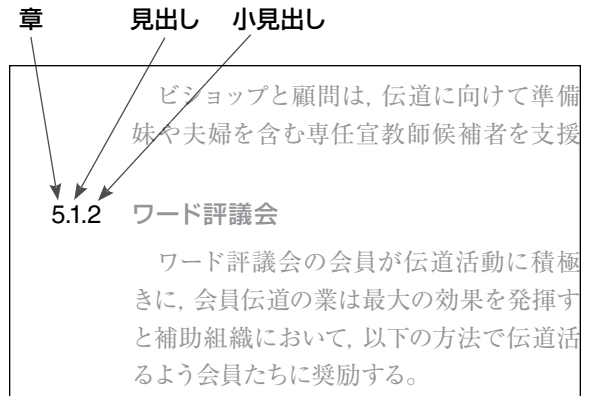
### 教会指導者のための手引き

教会は指導者用の手引きを2冊準備している。

『手引き 第1部——ステーク会長とビショップ』。この手引きはステーク会長とビショップの全般的な責任の概要を示し、方針と手続きに関する詳しい情報を与えるものである。

『手引き 第2部——教会の管理運営』。この手引きは、ワード評議会とステーク評議会の会員のためのガイドである。最初の2章には、教会の活動の教義的な基盤である、神権の力による個人の救いおよび家族の結び固めと昇栄について紹介されている。その他の章には、神権定員会と補助組織の管理に関する指示が採り上げられている。また、ワードにおける多様な組織に当てはまる原則と指針が紹介されている。

これらの手引きの中の見出しと小見出しには番号が付いており、主題を探して参照しやすくなっている。指導者は、ページではなく、その番号によって特定の主題を参照することができる。例えば、会員伝道活動についての話し合いで、ビショップが評議会会員に『手引き 第2部』の5.1.2を開くように求めた場合、数字の5は章、1はその章の見出し、2は小見出しを指している。



### 指示事項の更新および補足

これらの手引きの中の情報は、時折、大管長会、十二使徒定員会、また管理ビショップリックからの手紙や通知、そのほかの連絡手段により更新あるいは補足される。この場合、指導者は、自分の手引きにその変更を記入する必要がある。手引きとこれらの補足資料は一緒に保管しておく。

### 指示事項に関する質問

手引きの中の情報について、あるいは手引きで触れられていない問題について質問がある指導者は、直属の管理役員に問い合わせる。

### 支部、地方部、伝道部における適用

管理上の目的で、手引きの中の「ビショップ」と「ビショップリック」は、支部会長と支部会長会にも当てはまる。「ステーク会長」と「ステーク会長会」は、地方部会長と地方部会長会にも当てはまる。しかしながら、ビショップと支部会長の職は、権能と責任において同等ではない。ステーク会長と地方部会長の職も同等ではない。ビショップは神権の職であり、聖任は大管長会によってのみ認可される。ステーク会長は中央幹部と地域七十人により召される。

ワードとステークについて言及している部分は通常、支部、地方部、伝道部にも当てはまる。

### 教会本部や管轄する管理事務所への連絡

この手引きの幾つかの章には、教会本部または管轄する管理事務所への連絡に関する指示が記されている。教会本部への連絡に関する指示は、合衆国とカナ

ダにおける神権指導者と書記に対するものであり、管轄する管理事務所への連絡に関する指示は合衆国とカナダ以外の神権指導者と書記に対するものである。

---

### 配付先

『手引き 第2部——教会の管理運営』は以下のように配付するべきである。

- 中央幹部, 地域七十人, 中央補助組織会長会の各員, 教会本部役員, 実務ディレクター (各1部)
- 伝道部会長会 (3部)
- ステークまたは地方部会長会 (3部)
- ステークまたは地方部書記 (1部 [控え用])
- ステークまたは地方部幹部書記 (1部)
- 高等評議会 (12部)
- ステーク若い男性, 扶助協会, 若い女性, 初等協会, 日曜学校会長会 (各3部)
- ビショップリックまたは支部会長会 (3部)

- ワードまたは支部書記 (1部 [控え用])
- ワードまたは支部幹部書記 (1部)
- 大祭司グループ指導者 (3部)
- 長老定員会会長会 (3部)
- ワード若い男性, 扶助協会, 若い女性, 初等協会, 日曜学校会長会 (各3部)
- ワード伝道主任 (1部)

本手引きは、ひとえに中央および地方の教会指導者が教会の諸事を管理運営するために使う目的で作成されている。複写したり他人に渡したりするべきではない。配付先リストに記載されているように、ステーク書記およびワード書記は、控え用として1部を安全な場所に保管しておく。そして、財政や記録に関する情報や、ステーク会長やビショップを支援するための情報を得るために参照することができる。

本手引きを持つ教会役員は、解任されたら直ちにこれを後任者または管理役員に渡す。

# 1. 神の計画における家族と教会

1.1 父なる神が御自身の永遠の家族に与えられた計画 ..	2	1.3 永遠の家族を築く ..	3
1.1.1 前世における神の家族 ..	2	1.3.1 夫と妻 ..	3
1.1.2 現世の目的 ..	2	1.3.2 親と子供 ..	4
1.1.3 イエス・キリストの贖罪 ..	2	1.3.3 独身の教会員 ..	4
1.1.4 神の計画における家族の役割 ..	2		
1.1.5 教会の役割 ..	2	1.4 家庭と教会 ..	4
1.2 御父のもとに帰る ..	2	1.4.1 家庭を強める ..	4
1.2.1 イエス・キリストの福音 ..	2	1.4.2 家庭の夕べ ..	5
1.2.2 教会の指導者および教師の役割 ..	3	1.4.3 個人を強める ..	5



---

# 1. 神の計画における家族と教会

## 1.1 父なる神が御自身の永遠の家族に与えられた計画

### 1.1.1 前世における神の家族

家族は神によって定められたものである。家族はこの世と永遠にわたって最も大切な単位である。わたしたちは地上に生まれる前においても一つの家族の一員であった。一人一人は「神の属性と神聖な行く末とを」持つ「天の両親から愛されている霊の息子、娘」である（「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49）。神はわたしたちの天の御父であられ、わたしたちは前世で神の家族の一員として神の前で生活していた。わたしたちはそこで最初の教えを学び、死すべき世のために備えられた（教義と聖約138:56参照）。

### 1.1.2 現世の目的

神はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちが進歩してさらに神のようになるために、地上に来て、肉体を受け、試しを受けることを含む、一つの計画を用意された。この計画は「救いの計画」（アルマ24:14）、「偉大な幸福の計画」（アルマ42:8）、「贖いの計画」（アルマ12:25。26 - 33節も参照）と呼ばれる。

神の計画の目的はわたしたちを永遠の命へ導くことである。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である」と神は宣言された（モーセ1:39）。永遠の命は神が御自身の子供たちにお与えになる賜物の中で最も大いなるものである（教義と聖約14:7参照）。それは日の栄えの王国の最高の階級における昇栄である。わたしたちは救いの計画によって、神の前に帰って完全な喜びを受けるこの祝福にあずかることができる。

### 1.1.3 イエス・キリストの贖罪

神の王国において昇栄を得るには、この世の二つの障害である死と罪に打ち勝たなければならない。わたしたちはいずれの障害も自分の力で克服することができないため、天の御父は御子イエス・キリストをわたしたちの救い主、贖い主として遣わされた。救い主の贖いの犠牲によって、神のすべての子供たちは肉体の死に打ち勝ち、復活し、不死不滅を得られるようになった。贖罪はさらに、悔い改めて主に従う者が霊の死に打ち勝ち、神の前に帰って神とともに生活し、永遠の命を得ることを可能にした（教義と聖約45:3 - 5参照）。

### 1.1.4 神の計画における家族の役割

天の御父の計画に基づき、わたしたちは家族のもとに生まれた。天の御父は、わたしたちに幸福をもたらす、愛にあふれる環境の中で正しい原則を学ぶのを助け、永遠の命に備えさせるために家族を定められた。

親には、子供が天の御父のもとに帰る準備をするのを助けるという大切な責任がある。イエス・キリストに従い、主の福音に添って生活するよう子供に教えることによって、親はこの責任を果たす。

### 1.1.5 教会の役割

教会は神のすべての子供たちにイエス・キリストの福音を教える組織と手段を用意している。教会は、ふさわしく、進んで受け入れるすべての人に、救いと昇栄の儀式を執行する神権の権能を備えている。

---

## 1.2 御父のもとに帰る

### 1.2.1 イエス・キリストの福音

救いの計画は完全な福音である。救いの計画には創造、墮落、イエス・キリストの贖罪、そして福音の律法、儀式、教義のすべてが含まれる。救いの計画はこの世で喜びを経験する方法（2ニーファイ2:25参照）とともに永遠の命という祝福を得る方法を提供している。

わたしたちはイエス・キリストの贖罪を通して、罪から清められ、聖くなり、永遠の御父のもとに再び行く準備をすることができる。この祝福を得るには、福音の原則と儀式に従わなければならない（信仰簡条1:3参照）。わたしたちは以下の事項を行わなければならない。

1. 神の独り子である主イエス・キリストを信じる信仰を働かせる。
2. 心からの悔い改めを通して神に立ち返る。そのために、心の変化を経験し、罪を告白し、罪を捨てる。
3. 罪の赦しのためにバプテスマの救いの儀式を受ける。
4. 按手により教会員として確認され聖霊の賜物を受ける。

5. 神聖な聖約を守ることによって最後まで堪え忍ぶ。

これらの原則はアダムの時代から教えられてきた。これらの真理を理解し、信じ、そしてイエス・キリストに対して揺るぎない信仰を得るにつれ、わたしたちは主の戒めを守るよう努力し、家族や他の人々と祝福を分かち合うことを望む（1 ニューファイ 8:9 - 37 参照）。この証の確かな基が築かれると、教会に活発であるための他の要素は自然についてくる。

祈り、聖文研究、熟考、従順を通して神に近づくと、わたしたちは霊的に成長する。ニューファイは次のように教えた。

「あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもってキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼らなかつたならば、あなたがたは、ここまで進んで来ることさえできなかったからである。

したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」（2 ニューファイ 31:19 - 20）

神の戒めを学んで守り、福音に従って生活することについて、わたしたち一人一人は神の前に責任を負う。わたしたちは、自分の行いと心の望み、また自分がどのような人物となったかによって裁かれる。イエス・キリストの真の弟子になると、心の中に大きな変化が生じて、「悪を行う性癖をもう二度と持つこと」がなくなる（モーサヤ 5:2。アルマ 5:12 - 15；モロナイ 10:32 - 33 も参照）。イエス・キリストの福音に添って生活していると、教えに教えが加えられて成長し、人々を愛し仕えることにおいてさらに救い主に似た者となる。

### 1.2.2 教会の指導者および教師の役割

神権指導者と補助組織指導者、教師は、人々がイエス・キリストの真の弟子となるよう助けることに力を注ぐ（モーサヤ 18:18 - 30 参照）。この目的に添って個人と家族を支援するために、彼らは以下のことを行う。

1. イエス・キリストの福音の純粋な教義を教え、証する。
2. 神聖な聖約を守ろうと努力する個人と家族を強める。

3. 勧告し、支え、奉仕の機会を与える。

さらに、特定の神権指導者は救いにかかわる神権の儀式の執行を監督する権能を持つ。

## 1.3 永遠の家族を築く

家族は神の計画の中心を成す。神の計画は、家族関係が墓を超えて永続する方法を定めている。神殿の聖なる儀式と聖約は、忠実に守るならば、わたしたちが神のもとに帰って家族と永遠に結ばれるための助けとなる。

### 1.3.1 夫と妻

イエス・キリストの福音に忠実に生活し、永遠の伴侶として結び固められた人たちが、日の栄えの王国の最高の階級で昇栄を得ることができる。

神権の権能により夫婦がこの世と永遠にわたって結び固められること（神殿結婚とも言われる）は、すべての人が受けるよう努力すべき神聖な特権であり義務である。それは永遠の家族の基である。

男女の霊は互いを補完する性質を持っている。男性と女性は昇栄に向かって一緒に進歩するよう計画されている。

主は夫と妻に対して互いに結び合うよう命じておられる（創世 2:24；教義と聖約 42:22 参照）。この戒めの「結び合う」とは、だれかに完全に献身し、誠実であるという意味である。結婚した男女は互いに仕え合い、愛し合うことによって、また互いと神に対して完全に忠実であるという聖約を守ることによって、神と結び合い、互いに結び合う（教義と聖約 25:13 参照）。

夫婦は、義にかなった生活の基としての家族を築くことにおいて、一つとなるべきである。末日聖徒の夫婦は独身生活に終止符を打ち、生活の最優先事項として夫婦関係を築き上げる。彼らは神と互いに対して交わした聖約を守ることよりも、他の人や関心事を生活の中で優先させることはない。そして、結婚した男女は自分たちの家族を中心としながらも、親きょうだいを愛し支え続ける。同様に、賢明な親は、生涯にわたって家族を愛し、励まし続ける責任があることを理解している。

結婚生活で一つとなるには完全なパートナーシップが必要である。例えば、アダムとエバはともに働き、ともに祈り、ともに礼拝し、ともに犠牲を払い、ともに子供に福音を教え、道からそれた子供をともに嘆き悲しんだ（モーセ 5:1, 4, 12, 27 参照）。彼らは互いに一致し、神とも一致していた。

### 1.3.2 親と子供

「神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したもので……すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒め」であった（「家族——世界への宣言」）。神の計画により、男女双方はこの世に子供をもたらし、子供を養い育てる最善の環境を作るうえで互いに不可欠である。

結婚前のいかなる性的な関係も慎み、婚姻関係における貞節を完全に守ることで、この神聖な責任の尊厳が保たれる。親、神権指導者、補助組織指導者は、この教えをいっそう浸透させるために全力を尽くすべきである。

父親と母親の役割について、教会指導者はこのように教えている。「父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」（「家族——世界への宣言」）家庭に父親がいない場合は、母親が家族を管理する。

親には、「愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教える」という、神が定められた責任がある（「家族——世界への宣言」。モーサヤ4：14－15も参照）。

賢明な親は、贖罪の持つ癒しと和解、人を強める力を家族の中で取り入れるよう子供たちに教える。罪と同じように、肉体の持つ弱さ、精神的苦痛、怒りは、神の子供たちを神から遠ざけるとともに、家族を分断させることにもなる。家族の一致に向けて努力する責任は家族の一人一人にある。一致に向けて努力することを家庭で学んでいる子供は、家庭を離れた所でもそうしやすいであろう。

### 1.3.3 独身の教会員

すべての会員は、たとえ結婚したことがなくても、家族が教会員でなくても、永遠の家族の中で生活する理想に向かって努力するべきである。これはふさわしい伴侶、愛にあふれる父親や母親になるために準備するという意味である。時としてこれらの祝福は来世まで成就しないこともあるが、究極の目標はあらゆる人にとって同じである。

この世において永遠の結婚と親になる祝福を受けられない状況にある忠実な会員は、神と交わした聖約を守っているかぎり、約束されたすべての祝福を永遠という時の中で受ける。

## 1.4 家庭と教会

回復された福音の教えとその実践において、家族と教会は助け合い、強め合う。永遠の命の祝福を受けるにふさわしくあるために、家族は教義を学び、神権の儀式を受ける必要がある。これらは教会を通じてのみ受けられるものである。教会が強く活気のある組織となるには、義になかった家族が必要である。

儀式や教え、プログラムを通して、また、家庭を中心とする、教会主催の活動に参加することを通して、個人と家族が霊的に進歩するという過程を神は明らかにしておられる。教会の組織とプログラムは個人と家族に祝福をもたらすために存在するのであって、これら自体が目的ではない。神権指導者と補助組織指導者、教師は、親をないがしろにしたり、親に取って代わろうとしたりするのではなく、親を支援するように努める。

神権指導者と補助組織指導者は、教会のすべての活動が個人と家族の生活を支援するものとなるようにすることで、家庭の神聖さを高める努力をしなければならない。教会指導者は教会の責任を過剰に与えることによって家族に重圧を加えることのないように注意する必要がある。親と教会指導者は力を合わせて、個人と家族がイエス・キリストに従うことによって天の御父のもとに帰れるよう助ける。

### 1.4.1 家庭を強める

キリストに従う者は「集まり」、「聖なる場所に立ち」、「動かされない」ようにすることを求められている（教義と聖約45：32；87：8；101：22。歴代下35：5；マタイ24：15も参照）。これらの聖なる場所には神殿、家庭、礼拝堂が含まれる。御霊があることと建物内での人々の振る舞いが、これらの建物を「聖なる場所」にする。

教会員はどこに住んでいるかにかかわらず、御霊のある家庭を築くべきである。すべての教会員はその住まいを世から離れた聖なる場所とするよう努力することができる。教会のすべての家庭はその大小にかかわらず、「祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家」となることができる（教義と聖約88：119）。教会員は、健全な娯楽、良い音楽、心を豊かにする芸術品（例えば、救い主や神殿の絵）な

どの簡単な方法を通して家庭に御霊を招くことができる。

愛にあふれた誠実な親のいる家庭は、子供の霊的、物質的必要を最も有効に満たす環境となる。キリストを中心とする家庭は、大人にも子供にも罪から身を守る場所となり、世からの避け所であり、感情などの痛みを癒す場、献身的で偽りのない愛のある場となる。

親は「主の薫陶と訓戒とによって」(エペソ 6:4; エノス 1:1), 「光と真理の中で」(教義と聖約 93:40) 子供を育てるよう常に命じられている。大管長会は次のように宣言している。

「親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教養育てることに最善を尽くしてくださいお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。

わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」(大管長会の手紙, 1999年2月11日付)

親には天の御父と御子イエス・キリストを知るように子供を助けるという主要な責任がある(ヨハネ 17:3 参照)。末日聖徒の父親と母親は、子供に福音の教義、儀式、聖約、義にかなって生活する方法を教えるよう命じられている(教義と聖約 68:25-28 参照)。このように育てられ教えられる子供は、然るべき年齢に達したときに、神権の儀式を受けて神と聖約を交わして守る準備のできていることが多い。

ホームティーチング(教義と聖約 20:47, 51)、家庭訪問、家庭の夕べなど、靈感に基づいた教会のプログラムは、家族を強めることに焦点を合わせている。あ

らゆることについてそうであられたように、イエスは家々を訪れて、導き、教え、祝福を与えることの模範を示された(マタイ 8:14-15; 9:10-13; 26:6; マルコ 5:35-43; ルカ 10:38-42; 19:1-9 参照)。

#### 1.4.2 家庭の夕べ

末日の預言者は親に対して、毎週家庭の夕べを開いて子供に福音を教え、福音が真実であることを証し、家族の一致を強めるよう勧告している。ステーキとワードの指導者は家庭の夕べが開かれるように、月曜の夕べに教会の集会や活動が一切行われていないようにする必要がある。

家庭の夕べでは、家族の祈り、福音の教え、証を分かち合うこと、賛美歌や初等協会の歌、健全な娯楽活動を行うことができる。(家庭で音楽を用いることについては、14.8を参照する。)親は家庭の夕べの一環として、あるいは別の機会に、家族会議を定期的に開いて、目標を決め、問題を解決し、日程を調整し、家族に支援と励ましを与えることができる。

家庭の夕べは、親の指導の下で過ごす家族の個人的で神聖な時間である。この時間に家族が何を行うべきかについては、神権指導者が指示するべきではない。

#### 1.4.3 個人を強める

教会指導者は、堅固な教会員の家族からの支えを現在受けていない個人に特別な注意を払うべきである。親が教会員でない子供や青少年、パートメンバーの家族に所属するその他の個人、あらゆる年代のシングルアダルトがこれに該当する。彼らは神の永遠の家族に聖約をもって属する者であり、神から深く愛されている。こうした個人に教会で奉仕する機会を与えるべきである。教会はこれらの会員に、ほかでは得られない健全な社交の場とフェローシップを提供することができる。

すべての教会員は等しく貴い。神の永遠の計画は、すべての忠実な神の子供たちが永遠に家族として高く上げられ、永遠の命のあらゆる祝福を受けるために与えられている。



---

## 2. 神権の原則

2.1 神権の権能 .....	8	2.4 神権の権能の行使 .....	10
2.1.1 神権の鍵 .....	8	2.4.1 権能を受ける .....	10
2.1.2 儀式 .....	9	2.4.2 権能の委任 .....	10
2.1.3 聖約 .....	9	2.4.3 神権の権能を義にかなって行使する .....	10
2.2 教会の目的 .....	9	2.4.4 管理評議会 .....	10
2.3 神権と家族 .....	9	2.4.5 神権の召しを尊んで大いなるものとする .....	10

## 2. 神権の原則

神権は神の力であり、権能である。神権は常に存在してきた。そして終わりなく存在し続ける（アルマ13：7－8；教義と聖約84：17－18参照）。神は神権を通して、天地を創造し統治される。神はこの力を通して、従順な子供たちを高い所に上げ、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」される（モーセ1：39。教義と聖約84：35－38も参照）。

現世において、神権は神の子供たちの救いに必要なあらゆる事柄を行うために神が人に授けられる力と権能である。神権の祝福は福音を受け入れるすべての人に与えられる。

神権に関して指導者が研究すべき重要な聖句には、アルマ13章、教義と聖約13章、20章、84章、107章、121章、124章が含まれる。

### 2.1 神権の権能

神権は二つの部分、すなわちアロン神権とメルキゼデク神権とに分けられる。

アロン神権は小神権であり、「メルキゼデク神権に付属するもの」である（教義と聖約107：13－14参照）。アロン神権と呼ばれるのはモーセの兄アロンとその息子たちに授けられたからである。

アロン神権には、天使の働きの鍵、悔い改めの福音の鍵、そして罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵が含まれる（教義と聖約13：1；84：26－27；107：20参照）。アロン神権者は「外形上の儀式」であるバプテスマと聖餐を執行することができる（教義と聖約107：14参照）。ビショップはワードにおけるアロン神権の会長である。この責任の一部として、ビショップはワードにおける福祉や財政など現世の事柄をつかさどる（教義と聖約107：68参照）。

メルキゼデク神権はより高い神権またはより大いなる神権である。イエス・キリストの完全な教会が地上に存在するとき、それはいつも存在し、機能を果たす。メルキゼデク神権は初めに「神の御子の位に従う聖なる神権と呼ばれていた。しかし、至高者の名を敬い尊ぶことから、この名をあまり頻繁に繰り返すのを避けるために、昔の教会員はこの神権を、メルキゼデクにちなんで、メルキゼデク神権と呼んだのである。」（教義と聖約107：3－4）メルキゼデクはアブラハムの時代に生きた「偉大な大祭司」であった（教義と聖約107：2）。

教会の指導者は、メルキゼデク神権の権能を通して教会を導き、全世界に福音を宣べ伝える業を指示し、教会のあらゆる霊的な業をつかさどる（教義と聖約84：19－22；107：18参照）。教会の大管長はメルキゼデク神権の管理大祭司である。

人はメルキゼデク神権を受けるとき、忠実であること、自分の召しを尊んで大いなるものとする、そして神と神の僕たちの一つ一つの言葉に従って生きることを聖約する（教義と聖約84：33－44参照）。

#### 2.1.1 神権の鍵

神権の鍵とは、地上における神権の行使について指示を与え、支配し、統治するために神が神権指導者に与えられた権能である。神権の権能の行使を管理するのは神権の鍵を持つ者である（教義と聖約65：2；81：2；124：123参照）。神権の鍵を持つ者はその管轄の範囲内で教会を管理し、指示する権利を持つ。

イエス・キリストは御自身の教会にかかわるすべての神権の鍵を持っておられる。主は地上における神の王国にかかわるすべての鍵を御自身の使徒一人一人に授けてこられた。生ける先任使徒、すなわち教会の大管長は、神権のすべての鍵を行使することが許されている地上で唯一の人物である（教義と聖約43：1－4；81：2；107：64－67、91－92；132：7参照）。

七十人は大管長会と十二使徒定員会からの割り当てと権能の委任によって職務を果たす。地域会長は大管長会と十二使徒定員会の承認の下で、管理する地域を割り当てられる。七十人会長会は七十人定員会を管理するために任命され、鍵を授けられる。

教会の大管長は、他の神権指導者がその責任範囲において管理できるように、神権の鍵を彼らに付与する。神権の鍵は、神殿会長、伝道部会長、ステーク会長、地方部会長、ビショップ、支部会長、定員会会長に授けられる。この管理する権能は、指定された責任についてのみ、また各指導者の召しの地理上の管轄区域内に限り有効である。神権指導者は召しから解任されると、もはや召しに関連する鍵を持たない。

神権指導者の顧問は鍵を受けない。彼らは任命されて、割り当てと委任された権能によりその召しにおいて職務を果たす。

ワードおよびステークのすべての補助組織は、管理する鍵を持つビショップまたはステーク会長の指示の

下で運営される。補助組織の会長と顧問は鍵を受けない。彼らは召しにおいて職務を果たすための権能を委任される。

### 2.1.2 儀式

福音の儀式を執行するには神権の権能が必要である。儀式とは、バプテスマ、確認、あるいは聖餐のように象徴的な意味を持つ、神聖で具体的な行為である。それぞれの儀式は豊かな霊的祝福への扉を開く。象徴は儀式に携わる人たちが、御父の愛、御子の贖い、聖霊の影響を覚えていることができるように助ける。

儀式は常にイエス・キリストの福音の一部を成す。例えば、バプテスマはアダムとエバの時代に確立され、今日の主の教会で実施されている。教会員はしばしば集まって、いつも救い主を覚え、バプテスマの聖約と祝福を新たにするために聖餐を受けるよう命じられている（モロナイ 6:6；教義と聖約 59:8-9 参照）。

責任能力のある人は皆、日の栄えの王国において昇栄するために幾つかの儀式を受ける必要がある。これらの儀式には、バプテスマ、確認、メルキゼデク神権の聖任（男性）、神殿のエンダウメント、神殿の結び固めが含まれる。生存している教会員は、これらの救いと昇栄の儀式を自身で受ける。死者は身代わりによってそれらを受けることができる。身代わりによる儀式が効力を発するのは、儀式を執行された死者が霊界でそれらを受け入れ、関連する聖約を尊ぶ場合だけである。

儀式を執行することおよび必要な承認を受けることに関する具体的な情報については、第 20 章を参照する。

### 2.1.3 聖約

救いと昇栄に必要なすべての儀式には神と交わす聖約が伴っている。聖約とは神と神の子供たちの間で交わされる神聖かつ永遠の約束である。神が聖約の条件を示され、神の子供たちはそれらの条件に従うことに同意する。神は人が聖約を忠実に守ることを条件に祝福を約束しておられる。

教会員はその聖約を尊び、守るとき、この世において大いなる祝福を受け、昇栄する資格を得る（出エジプト 19:3-5；士師 2:1；3 ニーフアイ 20:25-27；モロナイ 10:33；教義と聖約 42:78；97:8 参照）。

両親、その他の家族、神権指導者と補助組織指導者、および教師は、儀式に携わる個人を準備させるために、本人が交わす聖約を確実に理解できる状態に達しているようにする（モーサヤ 18:8-11 参照）。儀式

が執行された後、彼らは本人がそれらの聖約を守るよう支援する（モーサヤ 18:23-26 参照）。

## 2.2 教会の目的

末日聖徒イエス・キリスト教会が神によって組織されたのは、神の子供たちに救いと昇栄をもたらす業を支援するためである。教会はすべての人に対して「キリストのもとに来て、キリストによって完全にな[るよう]」勧めている（モロナイ 10:32。教義と聖約 20:59 も参照）。キリストのもとへ来るようにとの勧めは、地上で過去に生を受けた、また現在生を受けており、また未来に生を受けるであろうあらゆる人に向けられている。

人はバプテスマと確認の儀式を受けると、教会の会員になる。教会は世俗の影響や邪悪の「嵐……の避け所」となることにより（教義と聖約 115:6）、個人と家族を支える。教会は奉仕、祝福、個人の成長の機会を提供する。教会のプログラムと活動は個人と家族を支え、強める。

教会は、個人と家族が昇栄する資格を得るよう助けるという目的を果たすため、神が定められた責任を果たすことに焦点を絞っている。これらの責任には、イエス・キリストの福音に従って生活するよう会員を助けることや、伝道活動を通じてイスラエルを集めること、貧しい人や助けの必要な人の世話をすること、神殿を建設し、身代わりの儀式を行うことによって死者が救いを得られるようにすることが含まれる。

## 2.3 神権と家族

教会の夫ならびに父親は、メルキゼデク神権を持つにふさわしくなるよう努力するべきである。対等のパートナーである妻とともに、彼は家族の霊的な指導者として仕え、義と愛によって家族を管理する。彼は定期的な祈りや聖文研究、家庭の夕べによって家族を導く。また、妻と力を合わせて子供たちに教え、子供たちが救いの儀式を受ける備えができるように助ける（教義と聖約 68:25-28 参照）。彼は神権の祝福を通して道を示し、癒しを与え、慰めを与える。

教会員の多くはその家庭に忠実なメルキゼデク神権者がいない。教会の指導者はこれらの会員に特別な関心に向け、ホームティーチングや家庭訪問を含む、靈感に基づいた注意深い養いによって彼らを愛し、支えるべきである。



## 2.4 神権の権能の行使

### 2.4.1 権能を受ける

兄弟たちを神権の職に聖任することに関する情報については、20.7を参照する。教会の召しにあって奉仕するよう会員を召し、支持し、任命する手順に関する情報については、第19章を参照する。

### 2.4.2 権能の委任

神権指導者は召しを果たすのを支援するよう他の人に割り当てることによって権能を委任することができる。委任に関する情報については3.3.4を参照する。

### 2.4.3 神権の権能を義にかなって行使する

神権は人々の生活に祝福をもたらすために活用するべきである。効果的な働きをする神権指導者は愛と思いやりによって管理する。自分の意思を他人に押し付けるようなことをしない。むしろ、人々と評議し、啓示を通して意見の一致を図る。神権の力は義に基づくものでなければ用いることができないと主は言われた(教義と聖約121:36参照)。神権は、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また心からの愛により、優しさによって正しく用いることができる(教義と聖約121:36, 41-42参照)。人が神権の力を不正に用いようとするとき、「天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そ

して、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。」(教義と聖約121:37)

### 2.4.4 管理評議会

評議会は指導者が一致して、信仰をもって集まり、全員で主の御心を願い求める手段を提供する。評議会はまた、定員会と補助組織の働きを調整する機会を与える。地元レベルの管理評議会の例として、ステーク会長会、ビショップリック、神権役員会がある。評議会が機能を果たす方法に関する情報については4.1を参照する。

### 2.4.5 神権の召しを尊んで大いなるものとする

神権者は自分の家庭において、また他の聖徒たちに仕え、教え、導くとき、さらに、割り当てられた責任を勤勉に果たすとき、その召しを尊んで大いなるものとする。主はこのように勧告しておられる。「今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」(教義と聖約107:99) 神権者は勤勉に奉仕し、信仰と証をもって教え、高め、強め、責任下にある人々を義に対する確信をもって生活するよう教えるとき、その召しを尊んで大いなるものとしていることになる。

## 3. イエス・キリストの教会における指導

3.1 救い主の指導法	12	3.3.4 責任を委任し、報告義務を確実に果たしてもらう	13
3.2 福音の指導原則	12	3.3.5 罪に対しては警告し、罪を犯した人には愛を示す	13
3.2.1 霊的に備える	12	3.3.6 敬虔さを促す	13
3.2.2 評議会に参加する	12	3.3.7 集会の議事予定案を書面で作成する	14
3.2.3 人々に仕え、教え、導く	12	3.3.8 目的をもって計画する	14
3.2.4 イエス・キリストの福音を教える	12	3.3.9 教会の支援手段を活用して義務を学ぶ	14
3.2.5 神権組織または補助組織を管理運営する	12	3.4 指導の目的	14
3.3 指導者に対するその他の指示	13		
3.3.1 主と主の教会を代表する	13		
3.3.2 一致と調和を築く	13		
3.3.3 人々を指導者や教師になるよう備える	13		

## 3. イエス・キリストの教会における指導

### 3.1 救い主の指導法

教会のすべての指導者は人々が「イエス・キリストに真に従う者」となるよう助けるために召されている（モロナイ7:48）。指導者はそのために、まず、自分が救い主の忠実な弟子となるよう努め、神のもとに帰るとともに住むことができるような生活を日々送る。その後、他の人々が証を強めて天の御父とイエス・キリストにいつそう近づくよう助けることができる。教会のプログラムと活動はこれらの目的を達成するよう支援する。

「真に従う者」になる方法を人々に教える最善の方法は、指導者が自ら模範を示すことである。人々が忠実な弟子となるよう助けるために自らが忠実な弟子となるというこの規範は、教会のすべての召しを支える目的となっている。

指導者はこの規範に従って奉仕するならば、会員が神殿結婚と永遠の家族の祝福にふさわしくなりたいと願うよう助けることができる。

### 3.2 福音の指導原則

#### 3.2.1 霊的に備える

救い主はペテロに命じて言われた。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカ22:32）指導者は自分が改心し霊的に成長しているときに、他の人々の改心と霊的成長を助けることができる。

指導者は戒めを守り、聖文と末日の預言者の教えを研究し、祈り、断食し、主の前にへりくだるとき、自らを霊的に備える。指導者はこのように準備することにより、指導者個人の生活や家族に対する責任、自分の召しにとって導きとなる靈感を受けることができる。

#### 3.2.2 評議会に参加する

指導者は管理役員の指示の下で評議会に集まり、個人と家族を助ける方法を話し合う。彼らは聖霊に導かれながら、彼らの組織の会員に効果的に仕える方法を協力して決める。教会における評議会の例として、ワード評議会、ステーキ評議会、ビショップリック、定員会会長会および補助組織会長会がある。評議会の参加に関する指針については第4章を参照する。

#### 3.2.3 人々に仕え、教え、導く

指導者は救い主がされたように、個人と家族に物心両面で仕え、教え、導くことを目指す。組織を運営することだけでなく、一人一人に関心を寄せる。新会員やあまり活発でない会員、孤独を感じたり慰めを必要としていたりするかもしれない人に手を差し伸べる。

人々に仕え、教え、導く業の目的はイエス・キリストに真に従う者となるよう人々を助けることである。人々に仕え、教え、導く業には以下の事項が含まれる。

- 名前を覚え、友達になる（モロナイ6:4参照）。
- 裁かずに、愛する（ヨハネ13:34-35参照）。
- 人々を見守り、救い主がされたように「一人ずつ」彼らの信仰を強める（3ニーファイ11:15、17:21も参照）。
- 人々と偽りのない友情を築き、彼らの家庭などに彼らを訪ねる（教義と聖約20:47参照）。

#### 3.2.4 イエス・キリストの福音を教える

すべての指導者は教師である。効果的な教えは、人々が神との関係を強め、福音の原則に従って生活するよう鼓舞するものとなる。

指導者が与える最も力強い教えは自身の模範から生まれる。指導者はまた、指導者会やクラス、活動で証を伝え、教義に基づいた話し合いを展開することによって教える。彼らは聖文と末日の預言者の言葉から教える。「御言葉を説き教えることは……剣やそのほか、……どのようなことよりも……力強い影響を及ぼす」ことを彼らは知っている（アルマ31:5）。

神権指導者と補助組織指導者は自ら福音を教えることに加えて、組織における学習と教授の質に責任を負う。クラスでの教授が有意義であって、教化し、教義にかなっているようにする。

福音を教えること、および学習と教授を改善する取り組みを監督することに関するその他の指針については、5.5を参照する。

#### 3.2.5 神権組織または補助組織を管理運営する

指導者は教会が定めた指針に従うときに、人々を力づける働きを最も効果的に行うことができる。神権組織と補助組織の管理運営に関する指針については第7-12章に記されている。

### 3.3 指導者に対するその他の指示

#### 3.3.1 主と主の教会を代表する

教会の指導者は主が任じられた僕を通して主によって召されているため、主と主の教会を代表する。主の代表者として、指導者は主を模範とする。主は言われた。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようではない。」(3 ニーフай 27:27)

#### 3.3.2 一致と調和を築く

主はこのように言われた。「一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」(教義と聖約 38:27) 管理役員はともに働く男女から助言を求めることによって一致を促す。会長会と評議会の会員は率直な気持ちや考えを分かち合い、意思を明確に伝え、互いに耳を傾けることによって一致の確立を図る。

教会の組織の指導者は神権指導者に従うとき、また会長会と評議会の会員が一致するとき、聖霊の導きを受け、主の御心に添って指導することができる。

#### 3.3.3 人々を指導者や教師になるよう備える

一部のワードでは、指導者が神権組織と補助組織における奉仕を数人の会員に繰り返し依存している。これは忠実な数人の会員に負担をかけすぎることになり、さらに、学び成長する経験をほかの人にさせないことになる。効果的な働きをする指導者はあらゆる会員に奉仕の機会を与える。

管理役員は指導者や教師の職を果たす会員を祈りによって考えるとき、主が御自分の召される人をふさわしくされることを覚えるべきである。会員は教師や指導者として仕える前から経験豊富である必要はない。会員は信仰を働かせ、勤勉に努めることにより、また、指導者から指導と支援を受けることにより、経験をを通して学ぶことができる。

管理役員は、新会員や教会に再び集うようになった会員、ヤングシングルアダルトに、奉仕する機会を与える方法を探す。新会員や、教会に再び集うようになった会員は、回復された福音に胸を躍らせており、他の人に奉仕し教会について学ぶ機会を受け入れる準備ができていることがしばしばある。ヤングシングルアダルトには、主の業に貢献し、霊的に成長する機会が必要である。

教会の召しにあって奉仕する会員を推薦することについての情報は 19.1.1 と 19.1.2 を参照する。

#### 3.3.4 責任を委任し、報告義務を確実に果たしてもらおう

個々の指導者は独りですべてを行うことはできない。また独りで行うべきではない。あまりに多くを抱え込もうとする指導者は「必ず疲れ果て」(出エジプト 18:18)、彼らが仕える人々も疲れ果ててしまうであろう。指導者は奉仕する機会を顧問、書記、評議会や委員会の会員など、ほかの人に委任するべきである。

委任とはだれかに割り当てを与えるだけにとどまらない。以下の要素が含まれる。

- 割り当ての目的を説明し、行う方法を提案し、いつまでに達成するべきかを説明する。割り当てを受けた人は、割り当てを実行し報告する責任を理解し、受け入れるべきである。
- 割り当ての記録を書面につけて、進捗状況を時々確認する。
- 割り当てを受けた人が自分で計画を立て、割り当てを果たす際に払う努力を尊重する。指導者は必要に応じて励ましと支援を与える。
- 割り当てについて報告を求める。報告を受けたら、指導者は本人の最善の努力を受け入れ、その人がした良い働きに感謝を表す。

#### 3.3.5 罪に対しては警告し、罪を犯した人には愛を示す

指導者は罪深い行いに毅然として、また断固として警告を発する必要がある。しかし罪を犯した人には憐れみと思いやりを示す必要がある。救い主がなされるであろう方法で、人々に接する。このようにすることで、会員たちは、生活の中に贖罪の効力を及ぼし、主の愛を感じることができる。

#### 3.3.6 敬虔さを促す

敬虔さとは落ち着いた穏やかな気持ちで神を礼拝し、敬う態度のことである。敬虔さは福音の習得と個人の啓示へと導いてくれる。真の敬虔さは各個人の内面から生じる。

指導者は教会の集会で敬虔な雰囲気をはぐくむうえで貢献することができる。聖餐会やステーキ大会、また同様の集会において、指導者は壇上に座って敬虔さの模範を示す。指導者はまた、礼拝にふさわしい音楽や靈感に満ちた話を手配することによって敬虔さを促すことができる。教師は霊的なレッスンを準備し、前もって教室を整え、適切な絵や音楽を用い、穏やかに愛を込めて生徒を歓迎することによって、クラス内の敬虔さを促すことができる。敬虔になるようワード全体

で取り組むことにより、礼拝行事と教会のクラスをいっそう高めることができる。

### 3.3.7 集会の議事予定案を書面で作成する

書面による議事予定案は、指導者が人々に奉仕する方法を話し合うときの指針とすることができる。評議会や計画会で前もって議事予定案を配付しておく、指導者はより準備して話し合いに臨めるであろう。様々な集会において議事予定案を作成することについての指針は第4章と第7-12章に記されている。

### 3.3.8 目的をもって計画する

指導者はワードの会員たちの生活に祝福をもたらすために、活動やレッスン、その他の取り組みを計画する。指導者は自分たちの取り組みが仕える人々の益となるよう、常に目的意識をもって計画する。活動を計画するに当たって、指導者は13.1と13.2の原則に従う。訓練と福音の教授を計画するに当たっては5.5の原則に従う。

指導者はまた、自分たちの組織の長期計画を立てる。これには年間予定の作成、目標の設定、さらに、これらの目標達成の度合いを定期的に評価することが含まれる。

指導者は書記の助けを借りて、自分たちの計画を記録・更新し、割り当ての進捗状況を把握する。計画を実行した後、計画によって目的がどれほどよく達成されたかを評価する。この評価は将来の計画に役立つ。

### 3.3.9 教会の支援手段を活用して義務を学ぶ

指導者は以下の支援手段を活用して義務を学び、果たす。

- 本手引き。ステーク会長会とビショップリックはこの手引き全体に精通するべきである。ほかの指導者は第1-6章および自分の組織についての章、自分の責任に関連するその他の情報に精通するべきである。手引きでは指導者が効果的に働くために役立つ原則と方法が教えられている。
- 報告書。書記は個人とグループの進歩を示す報告書を指導者に提出する。この情報は指導者がどの人々や組織に特別な注意を向ける必要があるかを理解するうえで役立つ。
- 地元の指導者による指導。新任の指導者は皆、支持を受けて間もなく、召しに関するオリエンテーションを受けるべきである。オリエンテーションを実施する指導者は、指導者会や個々の連絡を通して指導と支援を継続して行う。

- 教会の訓練資料。これらの資料はLDS.orgの「Serving in the Church」（教会における奉仕）の項から、あるいは教会本部や管轄する管理事務所から入手できる。

- 教会機関誌とその他の教会出版物。

## 3.4 指導の目的

大管長会と十二使徒定員会は、指導者がその召しを尊んで大いなるものとする際に心に留めておくべき以下の目的を定めている。

教会の使命を達成するため、指導者はどの会員にも、必要なすべての神権の儀式を受け、それに伴う聖約を守り、昇栄と永遠の命を受けるふさわしさを身に付けるように励ましを与える。教会の指導者は、神権定員会、補助組織、ステークならびにワードの評議会の取り組みを指導して、以下の成果を上げるようにする。

**家族：**教会の基本組織として、ほかの何ものにも比較できない家庭と家族の大切さを教える。個人や家族が昇栄にふさわしくなるよう助けるうえでの大神権の役割を強調する（教義と聖約84：19-22）。聖文を研究し、定期的に祈り、イエス・キリストの福音に従って生活するよう、家族一人一人、両親、子供たちを励ます。

**成人：**神殿の儀式を受けるふさわしさを身に付けられるように、成人一人一人を励ます。先祖を捜し出し、彼らのために神殿の身代わりの儀式を受けるよう、すべての成人に教える。

**青少年：**メルキゼデク神権を受け、神殿の儀式を受け、専任宣教師として伝道に出るふさわしさを身に付けられるように、若い男性一人一人を準備させる助けをする。神聖な聖約を交わしてそれを守り、神殿の儀式を受けるふさわしさを身に付けられるように、若い女性一人一人に準備をさせる助けをする。有意義な活動に参加することを通して青少年を強める。

**全会員：**神権指導者、補助組織指導者、ワード評議会、ワード宣教師、専任宣教師、会員が、改宗、定着、活発化を通して、個人を救い出し、家族と教会のユニットを強め、神権活動を活発にし、イスラエルを集合させる業にバランスよく取り組み、協力し合って働けるよう助ける。また、自立し、家族を養い、主の道にかなって貧しい人や助けの必要な人を支援するよう会員たちに教える。

---

## 4. ワード評議会

4.1 教会の評議会.....	16	4.6 ワード評議会集会.....	17
4.2 ビショップリック.....	16	4.6.1 指針となる原則.....	17
4.3 神権役員会.....	16	4.6.2 議事予定案の例.....	18
4.4 ワード評議会.....	16	4.6.3 行動計画を実施する.....	18
4.5 ワード評議会の働き.....	16	4.6.4 ワード書記の責任.....	18
4.5.1 個人の成長を助ける.....	16	4.6.5 幹部書記の責任.....	19
4.5.2 ワードの強化を助ける.....	17		

---

## 4. ワード評議会

### 4.1 教会の評議会

主の教会は、中央、地域、ステーク、ワードの各レベルにおける評議会によって管理されている。これらの評議会は教会の秩序を保つうえで基盤となる。

各レベルで鍵を持つ神権指導者の指示の下で、指導者は個人や家族の福利に関して評議する。評議会の構成員は、それぞれの割り当てに関する教会の業についても計画を立てる。効果的な評議会では、評議会の構成員全員に意見を出すように招き、個人、家族、組織の必要にこたえるために一つとなって働く。

ワードの管理大祭司であるビショップは、互いに関連する3つの評議会を管理する。すなわち、ビショップリック、神権役員会、ワード評議会である。この章ではそれぞれについて説明されている。

---

### 4.2 ビショップリック

ビショップリックは、ワードのすべての会員、組織、活動に対して責任を負う。ビショップリックは通常、少なくとも毎週会合を持つ。ワード書記とワード幹部書記も出席する。提案されている議事については18.2.6を参照する。

ビショップの決定事項は、顧問と話し合ってから決めることにより、また適切な場合はワード評議会で話し合ってから決めることにより、よりよく皆に伝わるとともに、実行しやすくなる。これらの話し合いの際、ビショップは内密に保つべき情報を共有しない。

---

### 4.3 神権役員会

ワード神権役員会 (priesthood executive committee [PEC]) は、ビショップリック、ワード書記、ワード幹部書記、大祭司グループリーダー、長老定員会会長、ワード伝道主任、若い男性会長によって構成される。

神権役員会は定期的に集まり、神権に関する諸事を検討する。原則として、ワード評議会で話し合う事柄について検討する必要はない。しかし、ワード評議会の議事予定案に記載される事柄の中には、神権役員会であらかじめ検討した方がよいものもある。便宜上、ワード評議会の直前に神権役員会を開いてもよい。

必要であれば、ビショップは福祉に関する内密事項について話し合ったり、ホームティーチングや家庭訪問の割り当てを調整したりするために、扶助協会会長をワード神権役員会に招くことができる。

---

### 4.4 ワード評議会

ワード評議会は、ビショップリック、ワード書記、ワード幹部書記、大祭司グループリーダー、長老定員会会長、ワード伝道主任、および扶助協会、若い男性、若い女性、初等協会、日曜学校の各会長によって構成される。

ワード評議会の構成員は、個人が証をはぐくみ、救いにかかわる儀式を受け、聖約を守り、献身的なイエスキリストの弟子となれるよう助けることに尽力する(モロナイ6:4-5参照)。ワード評議会の全構成員は、ワードの会員の福利に関して全般的な責任を負う。神権指導者や補助組織指導者はそれぞれの組織に属する会員を見守り、強めるという特定の責任も請け負っている。

一般的に、ワード評議会全体としては、以下に該当する事柄についてのみ話し合う。(1) 組織間で調整することで益をもたらす事柄、(2) 評議会で話し合い、一致協力することで益をもたらす事柄、(3) ワード全体にかかわる事柄。特定の神権組織あるいは補助組織に関するほとんどの事柄は、ワード評議会の全員ではなく、その組織に属する指導者によって話し合うべきである。また、慎重に取り扱うべき事柄や内密事項は、ワード評議会の各構成員が個別にビショップに提議するとよい。

---

### 4.5 ワード評議会の働き

#### 4.5.1 個人の成長を助ける

ワード評議会構成員の働きのほとんどは、ワード評議会集会以外の場所で行われる。構成員はそれぞれの顧問、ホームティーチャー、訪問教師、その他の人々と協力して、その組織の会員や助けを必要としている人々に手を差し伸べ、彼らを教え導く。

ワード評議会の構成員は、自分の組織に属する会員の必要、福利、霊的な進歩について、常に最新の情報を得るように努める。また、特別な問題や状況の変

化に直面している会員についても最新の情報を得るように努める。この情報によって助けを最も必要としている人々を強めることができる。同時に、その個人や家族のプライバシーを尊重する。個人のふさわしさに関してはビショップだけが対応する。

以下の資料は、ワード評議会の構成員が会員や求道者の進歩状況を認識するうえで役立つ。

1. 会員の出席状況の報告書、例えば、ワードの四半期報告書。これらの報告書はワード書記が作成する。そこには、個人別、年齢別、ワード全体の出席状況、儀式執行状況、動向などについての情報が載っている。教会の記録作成ソフトウェアを使用しているワードでは、書記が有益な情報が記されたその他の報告書を提供することもできる。
2. ホームティーチャーや訪問教師からの報告。
3. 『新会員および教会に再び集うようになった会員の進歩状況』フォーム。ワード評議会の構成員はこのフォームを活用して、新会員がバプテスマと確認を受けたときから神殿のエンダウメントを受けるまでの間、彼らを教え、強めるための具体的な方法を計画する。ワード評議会の構成員はまた、このフォームを使って、あまり活発でない会員が、神殿の儀式を含めて、その年齢に見合った儀式を受ける準備ができるよう計画を立てることもできる。
4. 『進歩状況報告書』。専任宣教師はこれを使って求道者の進歩状況を記録する。宣教師はこの情報をワード伝道主任に伝え、伝道主任はそれをワード評議会に伝える。

#### 4.5.2 ワードの強化を助ける

ワード評議会の構成員は、ワードの中で霊的な強さと一致がはぐくまれるように協力する。また、ワードの活動計画も監督する。活動は福音を中心とした目的を達成するために計画されるべきである。活動に関する詳細については、第 13 章を参照する。

### 4.6 ワード評議会集会

ワード評議会 は定期的に（少なくとも月に1度）会合する。この集会は 60 分から 90 分の間で行う。

この集会はビショップが管理する。ビショップが欠席の場合は、顧問に管理の割り当てをすることができる。しかし、ビショップが不在のときは重要な決定を下さない。

ワード伝道主任の勧めがあれば、ビショップは折にふれて専任宣教師がワード評議会と会合を持てるようにする。

#### 4.6.1 指針となる原則

神権指導者や補助組織指導者は、二つの役割をもってワード評議会集会に出席する。(1) ビショップがワードの必要や問題を提示し、その解決方法を見いだすのを助ける評議会の構成員としての役割と、(2) 各組織の代表としての役割である。これらの指導者は、自分が仕える人々への愛と関心を持って一致して働くに当たり、聖霊の導きを求める。

ワード評議会集会では、個人や家族を強める事柄に焦点を当てる。日程調整、活動計画、その他ワードの運営に関する話し合いは最小限の時間にとどめる。

集会の中で、ビショップは検討するそれぞれの議題について説明をするが、通常、話し合いの内容を聞くまでは、どのように解決するかは決定しない。ビショップは意見を押しつけずに話し合いを促す。質問を投げかけ、特定の評議会の構成員の意見を尋ねてもよい。ビショップは話によく耳を傾けてから決定を下す。このような話し合いを進めるうちに靈感へと導かれていく。

評議会の構成員は、個人的な経験から、また組織の長としての立場から、率直に発言することが奨励されている。男性も女性も、自分の意見が評議会の全構成員に尊重されていると感じるようにするべきである。ワード評議会 で検討するすべての事柄に関し、ビショップは扶助協会、若い女性、初等協会の指導者の意見を求める。女性の視点は男性と異なることがあり、会員の必要への理解と対処に関して重要な見解を与えてくれる。

ビショップは皆が率直に意見を述べた後で決定を下すか、顧問とさらに協議してから決定することができる。ビショップが決定を下した後、評議会の構成員は一致と調和の精神でそれを支持する。

重要な決定に対して、評議会の構成員が、不確かな気持ちを強く感じる場合、ビショップはさらに話し合い、霊的な確信と一致を得るために次の評議会までその件を留保することができる。

評議会の構成員は、議題に上った会員、家族、項目についての私的な情報や、慎重に取り扱うべき情報を内密に保たなければならない。



#### 4.6.2 議事予定案の例

幹部書記はビショップの指示の下でワード評議会集会の議事予定案を作成する。ビショップは議事予定案に載せる項目を幹部書記に伝えるよう評議会の構成員に促す。幹部書記は以前の議事の中でさらに話し合ったり、確認したりする必要のある項目などを含む議事予定案に載せる項目を提案することもできる。また、幹部書記は評議会の構成員が確認できるよう、近日中に開かれるワードの行事予定表を作成することもできる。

以下は議事予定案に載せることのできる項目の例である。ビショップはこれらのすべての項目を毎回の集会で検討しようとするべきではない。最も重要な案件から話し始めるよう議事予定案の項目に優先順位をつける。たくさんの案件について浅く話すよりも、最も多くの個人や家族に祝福をもたらす少数の項目に焦点を当てる方がよい。ビショップはそのときに最も大切な項目が何であるか知るために霊的な導きに頼る。

1. 前回の集会で割り当てに関する簡潔な報告。
2. 霊的および物質的な福祉。特定の個人や家族の霊的および物質的な福利について話し合う。長期的な必要も含め、必要を満たすうえで彼らをどのように助けられるか計画を立てる。家族を強める方法について話し合う。詳細については、6.2.2を参照する。
3. 伝道。ワード伝道計画を立て、確認する(5.1.8参照)。『進歩状況報告書』を用いてバプテスマ志願者や現在進歩している求道者を確認する。ビショップはワード伝道主任に、この部分の進行をするよう依頼することができる。詳細については5.1.2を参照する。
4. 改宗者の定着。『新会員および教会に再び集うようになった会員の進歩状況』フォームに記されている新会員一人一人の進歩状況を確認する。新会員が絶えず進歩できるように助ける方法を計画する(5.2.3参照)。
5. 活発化。『新会員および教会に再び集うようになった会員の進歩状況』フォームに記されているあまり活発でない会員の進歩とフェローシップの状況を確認する。彼らが絶えず進歩できるように助ける方法を計画する(5.3.2参照)。
6. 神殿と家族歴史。神殿の儀式を受ける準備をしている個人の進歩状況を確認する。ビショップが必要を感じた場合、神殿と家族歴史の業に十分に携わるように会員を励ます方法について話し合う。詳細については5.4.2を参照する。

7. 福音の学習と教授。教会や家庭で福音の学習と教授を改善する方法について話し合う(5.5.2参照)。
8. 長老定員会、大祭司グループ、補助組織の働きについての報告。この部分は簡潔にとどめ、評議会のおもな焦点である個人に関する話題からそれてしまわないようにする。
9. ワードの会員の霊的、物質的、社会面での必要を満たすための日程調整や活動計画(第13章参照)。
10. 永代教育基金(同プログラムが承認されている地域のみ)。プログラム参加者の進歩状況を確認する。
11. ビショップリックからまとめの指導。

#### 4.6.3 行動計画を実施する

ワード評議会は、会員の生活に祝福をもたらすための行動計画を立てる際に靈感を求める。評議会の目的はプログラムを行うことではなく、人を助けることにある。

神権指導者と補助組織指導者は、自分たちの組織の指導者集会の中でワード評議会の決定事項を確認し、評議会での割り当てを遂行するうえで組織内の他の指導者や教師の協力を得る。同様に、ワード伝道主任は、専任宣教師とワード宣教師と伝道調整集会を開いて、ワード評議会の決定事項を実行に移す。各組織の働きは、ワード評議会の精神と目的ののっとなって行う。

行動計画を実施する際、評議会の構成員は個人や家族に過度の負担をかけないように注意すべきである(モーサヤ4:27; 教義と聖約10:4参照)。会員の第一の責任は家族に対するものである。ワード評議会は、会員の家族に対する責任と、教会の中での責任との間に、適切なバランスが取れているよう配慮する。

ワード評議会の構成員は定期的に各行動計画を見直し、自分が受けた割り当てについて報告する。たいていの場合、進歩を見るには、支持をしながら注意を払い、フォローアップの割り当てを与える必要がある。

#### 4.6.4 ワード書記の責任

ワード書記はワード評議会集会で出された割り当てや決定を記録する。ワード評議会が使用する情報が正確で時宜にかなうものであることを確認する。最新情報を記載した『新会員および教会に再び集うようになった会員の進歩状況』フォームを用意する。また、教会の記録作成ソフトウェアを使って、関連する統計情報も準備する。依頼があるまで待つのではなく、自

ら進んでこれらの資料で見つけられる情報をビショップリックとワード評議会の構成員に伝える。

ワード書記が持つ他の責任は『手引き 第1部』13.4.2に概説されている。

#### 4.6.5 幹部書記の責任

幹部書記は、4.6.2で概説されている手順に従ってワード評議会集会の議事予定案を準備する。ビショップは幹部書記に、それぞれの割り当てをワード

評議会の構成員に確認する助けを依頼することもできる。さらに、ビショップは幹部書記に、求道者、新会員、教会に再び集うようになった会員の状況やその他の事柄についてワード評議会の構成員から報告を受けるように依頼することもできる。

幹部書記は、ワード評議会と神権役員会との連携が保たれるようにすることができる。

ワード幹部書記が持つ他の責任は『手引き 第1部』13.4.4に概説されている。



## 5. ワードおよびステークにおける救いの業

<b>5.1 会員伝道活動</b> .....	<b>22</b>	5.3.5 福音の原則クラス.....	27
5.1.1 ビショップおよび顧問.....	22	5.3.6 ステーク指導者.....	27
5.1.2 ワード評議会.....	22	<b>5.4 神殿・家族歴史活動</b> .....	<b>27</b>
5.1.3 ワード伝道主任.....	22	5.4.1 ビショップおよび顧問.....	28
5.1.4 ワード宣教師.....	23	5.4.2 ワード評議会.....	28
5.1.5 伝道調整集会.....	23	5.4.3 大祭司グループリーダー.....	28
5.1.6 会員と専任宣教師の協力.....	23	5.4.4 家族歴史相談員.....	28
5.1.7 バプテスマ会および確認.....	23	5.4.5 神殿・家族歴史クラスと支援手段.....	28
5.1.8 ワード伝道計画.....	23	5.4.6 ステーク指導者.....	29
5.1.9 ステーク指導者.....	24	5.4.7 ステークにおける神殿・家族歴史の支援手段... 29	
<b>5.2 改宗者の定着</b> .....	<b>24</b>	<b>5.5 福音を教える</b> .....	<b>30</b>
5.2.1 新会員が必要とする事柄.....	24	5.5.1 ビショップおよび顧問.....	30
5.2.2 ビショップおよび顧問.....	24	5.5.2 ワード評議会.....	30
5.2.3 ワード評議会.....	24	5.5.3 神権指導者および補助組織指導者.....	30
5.2.4 神権指導者および補助組織指導者.....	25	5.5.4 教師および指導者.....	31
5.2.5 ホームティーチャーおよび訪問教師.....	25	5.5.5 ワード日曜学校会長および顧問.....	31
5.2.6 ワード宣教師および専任宣教師.....	25	5.5.6 学習と教授のための出版物およびオンライン資料.....	31
5.2.7 ワードの他の会員からの影響力.....	25	5.5.7 福音の教え方コース.....	31
5.2.8 福音の原則クラス.....	25	5.5.8 ステーク会長および顧問.....	31
5.2.9 ステーク指導者.....	26		
<b>5.3 活発化</b> .....	<b>26</b>		
5.3.1 ビショップおよび顧問.....	26		
5.3.2 ワード評議会.....	26		
5.3.3 ホームティーチャーおよび訪問教師.....	27		
5.3.4 専任宣教師およびワード宣教師.....	27		

## 5. ワードおよびステークにおける救いの業

イエス・キリストの教会の会員は「人々の霊の救いのために主のぶどう園で働く」ために遣わされる（教義と聖約 138：56）。この救いの業には、会員伝道活動、改宗者の定着、あまり活発でない会員の活発化、神殿・家族歴史活動、福音を教えることが含まれる。ビショップリックはワードにおけるこの業を指示を、ワード評議会の他の会員から支援を受ける。

これらの分野の最終責任はビショップにあるが、ワード伝道主任は会員伝道活動の調整、大祭司グループリーダーは神殿・家族歴史活動の調整を実施し、日曜学校会長は福音の学習と教授の改善についてワードの他の指導者を支援する。ビショップは一人の顧問に改宗者の定着について、別の顧問に活発化についての調整を割り当てるとよい。神権指導者または補助組織指導者はそれぞれの組織において救いの業がさらに進むように支援する。

### 5.1 会員伝道活動

#### 5.1.1 ビショップおよび顧問

ビショップは、5.1.8 で説明されているワード伝道計画を立案し、実施するよう、ワード評議会に指示を出す。

ビショップは一人のメルキゼデク神権者をワード伝道主任として働くよう召し、任命する。ビショップと顧問は他の会員たちをワード宣教師として働くように召し、任命することができる。

ビショップと顧問は会員伝道活動を優先事項とする。彼らは伝道活動についての教義を定期的に教える。求道者を見つけ、教え、バプテスマを施すために専任宣教師と力を合わせるようワードの会員に奨励する。ビショップと顧問は、宣教師が教えられるよう個人や家族を見つけ備えることで模範を示す。

ビショップと顧問は、伝道に向けて準備している姉妹や夫婦を含む専任宣教師候補者を支援する。

#### 5.1.2 ワード評議会

ワード評議会の会員が伝道活動に積極的に携わるときに、会員伝道の業は最大の効果を発揮する。定員会と補助組織において、以下の方法で伝道活動に参加するよう会員たちに奨励する。

1. 教える人々を見つけて、備える。

2. （可能であれば、会員の家で）宣教師が教えるときに宣教師を補佐する。
3. 求道者のフェローシップを行う。
4. 専任宣教師として奉仕するために自身と子供たちを備える。

ワード評議会において、評議会の会員はワードの伝道計画を展開し、検討する（5.1.8 参照）。彼らは専任宣教師が作成した進捗状況報告書からバプテスマ候補者、その他の求道者、および他の事項を検討する。そして求道者一人一人が進歩するように支援するための計画を立てる。バプテスマと確認に向けて準備している求道者に割り当てる予定のホームティーチャーや訪問教師について協議する。

ワード伝道主任からの申し出があれば、ビショップは折にふれて専任宣教師をワード評議会に招くことができる。

### 5.1.3 ワード伝道主任

ワード伝道主任は、ビショップの指示の下で以下の責任を果たす。

伝道主任は求道者を見つけ、教え、バプテスマを施すためのワードの取り組みについて調整を図る。伝道主任はこの活動に関連して専任宣教師およびワード宣教師の活動の調整を行う。ワード評議会において、ビショップは伝道活動に関する話し合いの進行を伝道主任に依頼することができる。

伝道主任は伝道調整集会を開き、ワード宣教師の働きについて指示を与える。

伝道主任は専任宣教師が教える機会を毎週できるだけ多く持つように調整を行う。

伝道主任は専任宣教師の支援を受けて改宗者のバプテスマ会を計画する（20.3.4 参照）。

伝道主任は聖餐会で行われる新会員の確認についての調整を援助する。

伝道主任は、求道者を教え、フェローシップを行う働きに、専任宣教師とともに参加する。

伝道主任は福音の原則クラスに出席する。ビショップリックから割り当てを受けた場合に、このクラスを教えることができる。

一人のメルキゼデク神権者をワード伝道主任補佐として召すことができる。

### 5.1.4 ワード宣教師

ビショップリックとワード伝道主任は、ワードに必要なワード宣教師の人数を決定する。ワード宣教師は彼らの指示の下で働く。神権者、姉妹、夫婦がワード宣教師として働くことができる。割り当てられた同僚を持つ必要はないが、家庭を訪問する際に、単独で行くべきではない。夫婦でないかぎり、一人の男性と一人の女性がワード宣教師として一緒に訪問することはない。

ワード宣教師は、例えば2年間など、奉仕の期間を限定して召される。彼らはホームティーチャーや訪問教師の割り当てを除いて、通常は教会の他の責任を持たない。ホームティーチャーや訪問教師の割り当てを受ける場合は、できれば、パートメンバーの家族やあまり活発でない家族を担当する。ワード宣教師は名札を付けない。

ワード宣教師は専任宣教師が教えるために、人々を見つけて、彼らを備える。ワード宣教師はまた、求道者のフェロシップと求道者を教えることに関して支援する。

ワード宣教師は会員たちの家庭を訪れて、彼らが伝道の経験をし、宣教師が教えることのできる人々を見つけ、福音を学ぶ人々を備えるよう奨励する。

### 5.1.5 伝道調整集会

ワード伝道主任はワード宣教師と専任宣教師が出席する伝道調整集会を司会する。この集会は定期的に行われる。専任宣教師が複数のワードで働いている場合、彼らは状況が許すかぎりの頻度で伝道調整集会に出席する。

この集会でワード伝道主任は専任宣教師とワードの会員たちの働きを調整する。ワード伝道主任はまた、ワードの伝道計画を実施し、宣教師ができるだけ多く教えられるように日程を組み、また会員が可能なかぎり求道者が教えられている場に出席するよう手配するための話し合いを進行させる。

### 5.1.6 会員と専任宣教師の協力

伝道部会長は、改宗者にバプテスマを施し確認を行う鍵を持っている。専任宣教師は伝道部会長の指示の下で求道者を教える第一の責任を持つ。専任宣教師はまた、各志願者に対してバプテスマと確認の面接を実施し、儀式の執行を承認する。

ビショップはすべての求道者と面識を持ち、彼らの進歩状況を把握しておく。ビショップはバプテスマ志願者の面接を行わないが、バプテスマの前に本人と会う。ビショップはまた、志願者をフェロシップする

ワードの会員たちの働きを監督する。求道者は教会員と親しい関係を築いているときに、バプテスマを受け、確認を受け、活発であり続ける可能性が高い。

専任宣教師は通常、ワードの会員たちと働くために同僚と離れることはない。しかしながら、教える約束が非常に多い場合は同僚と分かれてワードの会員たちと働くことができる。そのような場合、ワード伝道主任は専任宣教師の同僚として働く会員が伝道部規則を確実に理解し、了承しているようにする。ワード伝道主任は、承認された同僚がいまま専任宣教師から離れてはならないことを会員たちに指導する。

### 5.1.7 バプテスマ会および確認

求道者がバプテスマを受ける決意をしたらできるだけ早くバプテスマ会を計画する。通常、求道者に準備ができていない場合を除いて、予定したバプテスマの日付を延期するべきではない。バプテスマ会を父親が神権を受けて自らバプテスマを執行することができるように、家族のバプテスマを延期するべきではない。

バプテスマ会は他の求道者を見だし、求道者に励ましを与える機会となる。改宗者に自分の家族や親戚、友人を招くよう勧めるべきである。教会指導者と宣教師は現在教えている求道者、求道者となる見込みのある人、さらに新会員に働きかけを行っている指導者と会員も招待するとよい。ワードのほかの教会員も出席することができる。

改宗者は自分の住んでいる地域のワードでの聖餐会で確認を受ける。確認は、バプテスマの次の日曜日に受けることが望ましい。

8歳児のバプテスマと確認に関する指針を含む、バプテスマ会と確認に関する指針については20.3に記されている。

### 5.1.8 ワード伝道計画

ワード評議会はビショップの指示の下で、ワード伝道計画を展開する。この計画は簡潔なものにするべきである。ワードの神権組織と補助組織の会員たちがかわる会員伝道活動、定着、活発化の具体的な目標と活動を計画に含める。ワード評議会はワードを担当する専任宣教師の計画とワードの伝道計画との調整を図る。計画を展開するに当たって以下の手順に従うとよい。

1. 専任宣教師を活用できるかどうかを含めて、会員伝道活動、定着、活発化に関するワードの必要と支援手段を考慮する。

2. 翌年までに達成する会員伝道活動、定着、活発化の目標を具体的に設定する。
3. 目標を達成する方法を決める。指導者は伝道活動に対するワード全体のビジョンと取り組みを改善する方法を計画する。専任宣教師がより多くの求道者を見つけ、教え、バプテスマを施すよう支援する活動のアイデアを練り上げる。また、新会員と親しくなり、彼らを強める方法、また、あまり活発でない会員の活発化について改善する方法を計画する。

ワード評議会は、ワードの伝道計画を定期的に検討し、必要に応じて改訂する。

### 5.1.9 ステーク指導者

ステーク会長および顧問

ステーク会長と顧問は伝道活動を優先事項とする。彼らは伝道活動についての教義を定期的に教える。求道者を見つけ、教え、バプテスマを施すために専任宣教師と力を合わせるようステークの会員に奨励する。ステーク会長と顧問は、宣教師が教えられるよう個人や家族を見つけ備えることで模範を示す。

ステーク会長はビショップとの定例個人面接で、ワードの求道者の進歩状況について報告を求める。

ステーク会長は伝道部会長と定期的に会合を開いて、ステーク内の専任宣教師の働きを調整する。討議事項には、宣教師の数と任地、伝道活動において会員の果たす役割、定着と活発化の取り組みにおける宣教師の支援、地元の会員の訓練に対する宣教師の支援、宣教師の食事、住居、移動手段が含まれる。

伝道担当高等評議員

ステーク会長会は、求道者を見つけ、教え、バプテスマを施し、確認することに関してステークで実施している活動を監督する。伝道に熱心な高等評議員に、ステーク会長会のこの業を補佐する割り当てを与える。この高等評議員はステーク神権役員会、ステーク評議会、ステーク神権指導者会、その他のステーク集会において、これらの議事に関する話し合いを司会することができる。

伝道活動を担当する高等評議員は、新しく召されたワード伝道主任にオリエンテーションを実施する。また、すべてのワード伝道主任に対して個人的にまたグループとして継続的に指導と励ましを与える。この高等評議員はステーク会長の承認を得て、ワードの指導者とワード宣教師を訓練できる。

## 5.2 改宗者の定着

新会員は教会指導者、ホームティーチャー、訪問教師、その他の会員からの支援と友情を必要とする。この支えは、新会員が固く「主に帰依〔する〕」助けになる（アルマ 23：6）。

### 5.2.1 新会員が必要とする事柄

ほとんどの人にとってこれまでの生活を教会員としての生活に切り替えることは容易ではない。それは、宗教上の新しい教えを受け入れ、かつて経験したことのない新しい生活に入ることを意味する場合がしばしばある。すべての教会員、特に新会員は教会に活発であるために3つの事柄を必要とする。すなわち、友情、教会で成長し奉仕できる機会、神の言葉で養われること（モロナイ 6：4 参照）である。神権指導者と補助組織指導者はビショップリックの指示の下、これらの面で新会員を助ける。

### 5.2.2 ビショップおよび顧問

ビショップは改宗者の定着について全般的な責任を持つ。ビショップと顧問は新会員が教会に活発であり続けるよう支援するために、以下の責任を果たす。ビショップは顧問の一人にこれらの取り組みを調整する割り当てを与えることができる。

新会員一人一人がフェローシップを確実に受けられるようにするための働きを監督する。

成人の新会員がそれぞれ召しまたは奉仕する機会を確実に受けられるようにする。

12歳以上の兄弟は確認を受けてから間もなく、通常は1週間以内に、該当するアロン神権の職に確実に聖任されるようにする。また、これらの兄弟が神権を行使する機会を与えられていることを確かめる。バプテスマと確認を受ける資格のある兄弟はアロン神権を受ける資格もある。

ビショップと顧問は、18歳以上の兄弟がメルキゼデク神権を受けるための準備を助ける大祭司グループリーダーと長老定員会会長の働きを監督する。最近バプテスマを受けた18歳以上の兄弟は、祭司として奉仕して、福音を十分に理解し、ふさわしさを示した後に、長老に聖任される。教会員として特定の期間を経ていなければならないという規定はない。

### 5.2.3 ワード評議会

ワード評議会において、評議会の構成員はワード伝道計画に記されている改宗者の定着の目標について

検討する(5.1.8 参照)。新会員一人一人の進歩状況について話し合い、さらに助けを必要とする事柄を明らかにする。この話し合いの指針として『新会員および教会に再び集うようになった会員の進歩状況』フォームを活用することができる。新会員が他の会員たちから愛を感じ、主の王国で奉仕する喜びを味わい、福音の原則に添って生活するときにもたらされる平安を感じられるように助ける方法について、意見を交換する。

ワード評議会では、新しい改宗者を強めるために努力している他の神権指導者や補助組織指導者に対してワード伝道主任が協力できる方法について話し合うことができる。ワード評議会の構成員は神殿・家族歴史活動など、新会員に勧めることのできる奉仕の機会についても提案することができる。

#### 5.2.4 神権指導者および補助組織指導者

神権指導者と補助組織指導者はビショップリックの指示に基づいて、新会員が霊的に成長し、教会に活発であり続けるために助けとなる機会を提供する。例えば、成人女性の改宗者を助ける責任は扶助協会会長が引き受ける。成人男性の改宗者は長老見込み会員であるため、ビショップリックの判断により長老定員会会長または大祭司グループリーダーのいずれかが成人男性の成長を助ける責任を引き受ける。家族から複数の人が教会に加入した場合、神権指導者と補助組織指導者はワード評議会においてこの取り組みについての調整を行う。

神権指導者と補助組織指導者は以下の方法で新会員を助けることができる。

新会員が宣教師のレッスンで学んだ教義と原則を理解し、応用するよう助ける。

教会で基本的に行われていること、すなわち証を述べ、什分の一とその他の献金を納め、断食の律法を守り、話の責任を果たし、神権の儀式を執行し、家族歴史活動に参加し(可能な地域)、死者のためのバプテスマと確認を執行し、ホームティーチャーまたは訪問教師として奉仕する方法などを新会員が確実に学ぶようにする。

新会員が聖典、教会機関誌、出席する教会のクラスに必要な教材を確実に入手できるようにする。

新会員がセミナーまたはインスティテュートに出席できる年齢であれば、神権指導者と補助組織指導者は彼らの登録を手伝う。

新会員が神殿の儀式を受ける資格を満たす状態に達していれば、神権指導者と補助組織指導者は神殿準備セミナーまたはその他の方法で彼らの準備を助ける。

神権指導者と補助組織指導者は、経験豊かな会員に新会員のフェロウシップを助けてもらう割り当てを与えることができる。指導者は、同様の関心事があるか、同様の問題に直面したことがあって新会員と親しくなりやすい会員を割り当ててくることを検討するとよい。

神権指導者と補助組織指導者(または彼らから割り当てを受けた会員)は、定員会または補助組織に所属する新会員が毎週の聖餐会に出席しているかどうかに注意する。また、出席していない新会員を訪問し、翌週の聖餐会に出席するよう勧める割り当てを会員に与える。

#### 5.2.5 ホームティーチャーおよび訪問教師

ホームティーチャーと訪問教師には新会員と親しい関係を築くという重要な責任がある。メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者はビショップと相談のうえ、新会員に対して熱心なホームティーチャーと訪問教師を優先的に割り当てる。

専任宣教師は伝道部会長の許可があれば、新会員に対するホームティーチングまたは家庭訪問を支援することができる。

#### 5.2.6 ワード宣教師および専任宣教師

新会員の定着はおもにワードの神権指導者と補助組織指導者の責任であるが、ワード宣教師と専任宣教師はこの働きを支援する。ワード宣教師はすべての新会員に対してレッスン1からレッスン4までをもう一度教える(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』第3章参照)。彼らはレッスン5も教える。ワード宣教師は必要に応じて専任宣教師から支援を受けることができる。

#### 5.2.7 ワードの他の会員からの影響力

神権指導者と補助組織指導者は、愛を示し、親しい関係を築くことによって新会員を強めるよう、ワードの会員たちに奨励する。指導者は、家庭の夕べ、教会の集会、クラス、活動に新しい改宗者を誘うようワードの会員たちに奨励するとよい。必要であれば送り迎えを手配する。

#### 5.2.8 福音の原則クラス

18歳以上の新会員は求道者とともに、日曜学校で福音の原則クラスに出席する。新会員が福音の原則ク



ラスに出席するのは通常数か月である。準備ができたなら、新会員は福音の教義クラスに出席する。

ワード伝道主任は福音の原則クラスに出席する。ワード伝道主任はこのクラスと、定着についてのワードにおける他の働きかけとの調整を図る。ビショップリックの一員はクラスを教える割り当てをワード伝道主任に与えることができる。他のワード宣教師もクラスに出席することができる。

ホームティーチャー、訪問教師、その他の会員はクラスに出席してフェローシップを行うことができる。教師は折にふれて、ワードの他の会員をクラスに招いて、経験や証を分かち合ってもらおうとよい。例えば、什分の一の祝福に関する証、問題を克服した体験、あるいは教会の召しを果たすことによって受けた祝福などについて彼らに話してもらうことができる。

このコースの教師には以下の責任がある。

『福音の原則』からレッスンを選んで教える。聖典、特にモルモン書を頻繁に使って教える。レッスンを生徒の必要に合わせ、生徒から自分の考えや経験を分かち合ってもらおう。

教師は度々証を述べることにより御霊を招く雰囲気を作る。

モルモン書を定期的に読んで、感じたことを分かち合うよう生徒に勧める。

## 5.2.9 ステーク指導者

ステーク会長および顧問

ステーク会長会はステーク内の新会員を強める働きかけを監督する。また、これらの働きかけについて他の指導者を指導し、励ます。ワードを訪問する際は新会員と会う。ステーク大会の際、折にふれて新会員のための集会を開くことができる。

ステーク会長はビショップとの定例個人面接で、ビショップのワードにおける新会員の進歩状況について報告を求める。

ステーク会長は伝道部会長との定期集会で、ステーク内の新会員の進歩状況について報告することができる。

高等評議員

ワードのメルキゼデク神権指導者を担当する高等評議員ならびにワード伝道主任を担当する高等評議員は、新会員に対する教授とフェローシップを支援することができる。また、メルキゼデク神権を受けるため

に準備している長老見込み会員を助ける取り組みに加わることができる。

ステーク補助組織会長会

ステーク補助組織会長会は折にふれて、新会員に教え、フェローシップを行うワードの補助組織指導者を助けて働くことができる。

## 5.3 活発化

ワード神権指導者と補助組織指導者は、あまり活発でない会員が教会の活動に戻って来るのを助けるための努力を継続して実施する。救い主は次のように言われた。「あなたがたは引き続き教え導〔かなければ〕ならない。彼らが立ち返って悔い改め、十分に固い決意をもってわたしのもとに戻って来るようにならないとは言いきれないからである。彼らがそうするならば、わたしは彼らを癒そう。だからあなたがたは、彼らに救いをもたらす者になりなさい。」(3 ニーファイ 18:32)

あまり活発でない会員は普通、福音をまだ信じているが、難しい試練を受けているため教会に出席する気持ちになれないのかもしれない。彼らはまた、教会での交友が乏しい傾向にあるため、ワードの集会に出席しても、周りにだれも友達がいないと感じていることがある。自分の生活に何かが欠けていることに気づいた人は戻って再び活発になることがよくある。生活を変える必要があることに気づくのである。そのようなときに彼らが必要とするのは、あるがままの自分を受け入れ、偽りのない関心を寄せてくれる、思いやりのある活発な教会員の愛と友情である。

### 5.3.1 ビショップおよび顧問

ビショップと顧問は活発化について全般的な責任を持つ。あまり活発でない会員が再び信仰を燃え立たせるよう支援し、戻って来た会員がフェローシップと支援を確実に受けられるようにするため、神権定員会と補助組織が実施している活動に指示を与える。戻って来た兄弟が神権を昇進できるよう助け、また、兄弟姉妹が神殿の儀式を受けるか、あるいはふさわしい状態で再び神殿に入ることができるように助ける。

ビショップは活発化についての調整を顧問の一人に割り当てることができる。

### 5.3.2 ワード評議会

ワード評議会の構成員はビショップの指示の下、ワード伝道計画に記されている活発化の目標を検討する(5.1.8 参照)。それぞれの組織であり活発で

ない会員に仕え、教え導くための方法を提案し合う。ワード評議会の構成員はあまり活発でない会員の必要と状況に絶えず配慮することにより、家族や個人が教会からの訪問者を受け入れたり、教会の活動に出席したり、あるいは神殿準備セミナーに参加したりするよう誘われたときに、それらに応じる状態にあるかどうかを見極めることができる。

ワード評議会はあまり活発でない会員の中から教会に最も戻りそうな人を祈りによって見つける。また、どの指導者や会員があまり活発でない会員を最もよく力づけ、個人的な関係を築けるかを判断する。家族で複数の人があまり活発でない場合、指導者はワード評議会ですべての働きかけについて調整を図る。

ワード評議会には、これらの会員の進歩状況についての報告を定期的に含める。これらの会員の一部が再び活発になった場合、あるいは教会に再び集うようにという勧めを拒否している場合、ワード評議会は勧めを受け入れると思われる他の会員を選ぶ。指導者はこれらの働きかけを記録するために『新会員および教会に再び集うようになった会員の進歩状況』フォームを活用するとよい。

### 5.3.3 ホームティーチャーおよび訪問教師

メルキゼデク神権指導者と扶助協会の指導者はビショップと相談のうえ、あまり活発でない会員に対して熱心なホームティーチャーと訪問教師を割り当てる。これらの指導者は、教会に再び集うようにという呼びかけに最もこたえやすいと思われる、あまり活発でない会員に努力を集中させる。

### 5.3.4 専任宣教師およびワード宣教師

ワード伝道主任、専任宣教師、ワード宣教師は適切な場合、特にあまり活発でない会員に教えることによって、彼らの教会員でない友人や親戚に教える機会が出てくると見込まれるとき、活発化の取り組みを支援することができる。

### 5.3.5 福音の原則クラス

あまり活発でない18歳以上の会員は日曜学校で、福音の原則クラスに出席することができる(5.2.8参照)。

### 5.3.6 ステーク指導者

ステーク会長および顧問

ステーク会長はビショップとの定例個人面接において、ビショップのワードであまり活発でない会員の進歩状況について報告を求める。ステーク会長とビショップはこれらの会員についてワード評議会が立案した計画と目標について話し合う。

ステーク会長と伝道部長は伝道活動について話し合う際に、あまり活発でない会員への働きかけに関連して専任宣教師が参加できる支援についても話し合うことができる。

### 高等評議員

ワードのメルキゼデク神権指導者を担当する高等評議員はあまり活発でない会員に教え、フェローシップを行う取り組みについて支援することができる。また、メルキゼデク神権を受ける準備をしている長老見込み会員の支援に加わることができる。

### ステーク補助組織会長

ステーク補助組織会長は折にふれて、あまり活発でない会員に教え、フェローシップを行うワードの補助組織指導者を助けて働くことができる。

## 5.4 神殿・家族歴史活動

教会員は神殿において、昇栄に欠くことのできない儀式を受け、神聖な聖約を交わす。教会員はまた、儀式を受けていない死者の身代わりとして儀式を執行するために神殿に参入する。

神権指導者と補助組織指導者は以下の段落で概略が述べられている神殿・家族歴史活動における基本的な責任についてワードの会員に教える。

自身の神殿のエンダウメントを受け、また自分の近親者がエンダウメントを受けるよう助けることを会員たちに奨励する。指導者は、エンダウメントの目的が結婚や伝道の準備だけにあるのではなく、昇栄の準備にもあることを会員たちに教える。

指導者はエンダウメントを受けた会員一人一人に対して、現在有効な神殿推薦状を持ち、状況と家族の必要が許すかぎりしばしば神殿に参入するよう奨励する。また、新会員を含む、エンダウメントを受けていない成人と12歳以上の青少年に、限定神殿推薦状を受け、死者の身代わりとしてバプテスマと確認を受けるために神殿へしばしば行くことを奨励する。指導者は神殿参入の割り当て数や報告制度を設けない。神殿活動に参加する頻度は会員がそれぞれに決める。

神権指導者と補助組織指導者は会員たちに、自分の先祖を探求し、必要であれば先祖のための神殿の儀式を要請し、可能であればこれらの儀式を自身で執行することによって家族歴史活動に参加するよう教える。

指導者は会員たちに、最も近い関係にある生存している親族の承認なしに、親族でない人のために神殿の儀式の執行を要請してはならないことを理解させる。また、自分の親族でない著名人、あるいは承認されていない人名索引化プロジェクトから集めた情報に基づいて、それらの人々のために神殿の儀式を要請すべきではないことを会員たちに理解させる。

#### 5.4.1 ビショップおよび顧問

ビショップと顧問は、ワードの神殿・家族歴史活動を監督する。彼らはワードの集会において神殿・家族歴史活動の教義と祝福が定期的に教えられていることを確認する。

ビショップは会員たちと面談する際、彼らが準備して神殿の儀式を受け、状況が許すかぎりできるだけ頻繁に神殿に参入するための資格を維持するよう支援する。

ビショップと顧問は会員たちに自分の先祖を探求し、彼らのために神殿の儀式を提供するよう奨励する。

神殿活動に関するビショップリックのその他の責任については『手引き 第1部』第3章に概略が述べられている。

#### 5.4.2 ワード評議会

指導者はワード評議会において少なくとも四半期ごとに神殿・家族歴史活動について以下の事項を検討する。

個人と家族が神殿の儀式を受け、状況が許すかぎりできるだけ頻繁に神殿に参入するよう助ける方法について話し合う。

神殿準備セミナーに参加することや、家族歴史相談員とともに作業することについて、ワードのどの会員に勧めたらよいか、よく祈って検討する。

会員たちを家族歴史活動に参加させる方法を話し合う。

家族歴史活動を利用して、専任宣教師の教える人を見つけ、新会員とあまり活発でない会員に手を差し伸べる方法について話し合うことができる。

#### 5.4.3 大祭司グループリーダー

大祭司グループリーダーはワードで神殿・家族歴史活動を奨励するためのワード評議会の取り組みについて調整を行う。

大祭司グループリーダーはさらに、家族歴史相談員の働きについて調整を図る。ステークに家族歴史センターがある場合、家族歴史センターディレクターからの要請に基づいて、スタッフとして奉仕する相談員を割り当てる。ステークとしてファミリーサーチ索引作成プログラムに参加していれば、ファミリーサーチ索引作成プログラム担当者として奉仕する人を推薦する。

ワードに大祭司グループリーダーがいなければ、長老定員会会長または割り当てを受けたメルキゼデク神権者がこの務めを果たす。

#### 5.4.4 家族歴史相談員

家族歴史相談員は大祭司グループリーダーの指示の下で、以下の責任を果たす。資料として『神殿・家族歴史活動に関する会員のガイド』を使用する。

家族歴史相談員は先祖を探求する会員たちを支援する。会員が自分の先祖のために神殿の儀式を執行できるよう情報の整理を手伝う。また、コンピューターが手もとにない会員またはコンピューターを操作できない会員を助ける。できれば、この支援は会員の自宅で行う。

割り当てを受けた場合に、家族歴史相談員は地元の家族歴史センターのスタッフとして定期的に奉仕する。ほかに、ワードで家族歴史クラスを教える割り当てを受けることがある。

家族歴史相談員の責任に関するその他の情報については、LDS.org から『神殿・家族歴史活動に関する家族歴史相談員のガイド』(*Family History Consultant's Guide to Temple and Family History Work* [英語])を参照する。

#### 5.4.5 神殿・家族歴史クラスと支援手段

##### 神殿準備セミナー

神殿準備セミナーは、神殿の儀式と祝福を受ける会員たちの準備を支援するために開かれる。これらのセミナーはビショップの指示の下で計画し、集会所または家庭で、必要に応じて開かれる。

神殿準備セミナーは、新会員や、教会に再び集うようになったあまり活発でない会員、またすでにエンダウメントを受けてはいるが長期間推薦状の更新をしていない会員にとって特に有益である。エンダウメント

を受ける準備をしている活発な会員にとってもこのセミナーは有益である。

ビショップの指示の下で、ワード評議会の構成員はよく祈って、セミナーへの参加を勧める会員たちを選ぶ。

ビショップリックは一人または複数の教師を召す。教師は既婚者の男女いずれでもよい。レッスンおよびコースを編成するための指示は『高い所から力を授けられ——神殿準備セミナー教師用手引き』に記されている。セミナーの各参加者には小冊子『聖なる神殿に参入する備え』を配付する。

#### 家族歴史コース

家族歴史コースは日曜学校の時間帯または会員たちの都合のよい他の時間帯に教えることができる。このコースは日曜学校会長でなく、ビショップリックの指示に基づいて設けられる。教師はレッスンを教えるために『神殿・家族歴史活動に関する教師のガイド』を使用する。通常は、家族歴史相談員が教師としてビショップリックから指名される。一般的にレッスンは作業会として実施され、会員たちはここで家族歴史作業を実際に完成させる。

#### 家族歴史オンライン支援手段へのアクセス

教会の家族歴史オンライン支援手段は、自分の先祖を探求し、先祖に関する情報を整理し、これらの人々のために神殿の儀式の執行を要請する会員たちを支援する。これらの支援手段の大半は教会の家族歴史インターネットサイト FamilySearch.org を通じて入手できる。

ステークまたはワードの集会所にインターネットにアクセスできるコンピューターがある場合、あるいはステークまたはワードのコンピューターに家族歴史プログラムがインストールされている場合、ステーク会長とビショップリックは、会員たちがこれらのコンピューターを通常の時間帯に確実に使用できるようにする。家族歴史相談員はコンピューターの使用日程を調整し、会員に操作方法を教えることができる。

家族歴史活動のために教会の管理者用コンピューターを使用する会員が、会員記録情報または財政情報にアクセスできるようにするべきではない。

### 5.4.6 ステーク指導者

ステーク会長および顧問

ステーク会長と顧問はステークの神殿・家族歴史活動を監督する。彼らはこの活動の教義と祝福がステークの集会で定期的に確実に教えられるようにする。

ステーク会長は会員たちと面談する際、彼らが準備して神殿の儀式を受け、状況が許すかぎりできるだけ頻繁に神殿に参入するための資格を維持するよう支援する。

ステーク会長と顧問は、会員たちに自分の先祖を探求し、先祖のために神殿の儀式を提供するよう奨励する。

神殿活動に関するステーク会長会のその他の責任については『手引き 第1部』第3章に記されている。

#### 神殿・家族歴史活動担当高等評議員

ステーク会長会は一人または複数の高等評議員に、神殿・家族歴史活動の責任に関して大祭司グループと長老定員会の指導者を指導する割り当てを与えることができる。これらの高等評議員は必要に応じて、ファミリーサーチ索引作成プログラムと家族歴史センターにおけるステークの取り組みを調整することができる。

### 5.4.7 ステークにおける神殿・家族歴史の支援手段

ステークにおけるファミリーサーチ索引作成プログラム

ファミリーサーチ索引作成プログラムに参加する人は、自分のコンピューターを使って、国勢調査記録、諸教会の信者名簿、生涯記録などの文書画像にアクセスする。彼らはこれらの画像から自動索引を作成する。その後これらの資料は FamilySearch.org からアクセスできるようになる。

教会員でない人も含めて、だれでも自分のファミリーサーチ索引を作成できる。しかし、ステーク会長会はステークの会員が協力して索引作成プログラムを実施することが有益であると判断するかもしれない。このような取り組みによって、あまり活発でない会員や、家庭を離れられない会員にも奉仕の機会を与えることができる。また、青少年も参加することができる。

ファミリーサーチ索引作成プログラムの実施に関する情報については、LDS.org から閲覧できる『家族歴史に関する管理運営ガイド』を参照する。

#### 家族歴史センター

一部のステークは家族歴史センターを有している。家族歴史センターは、自分の先祖を探求し、先祖のために神殿の儀式を提供する教会員を支援することをおもな目的としている。地域の住民もゲストとして家族歴史センターの資料を利用することができる。

これらのセンターでは教会によってマイクロフィルム化された家族歴史記録、ファミリーサーチなどの家族歴史コンピューターとインターネット支援手段、および家族歴史の活用方法に関する訓練を利用することができる。

家族歴史センターに関するその他の情報については、LDS.org から閲覧できる『家族歴史に関する管理運営ガイド』を参照する。

## 5.5 福音を教える

福音を効果的に教えることによって、人々が天の御父とイエス・キリストに対する証と信仰を強めるのを助けることができる。それは福音の原則に添って生活するために努力する会員たちに励ましを与えるものとなる。霊的な力によって教えるとき、神の言葉は「どのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼす」(アルマ 31:5)。神権指導者と補助組織指導者はそれぞれの組織において効果的に教えることを奨励する。指導者は、会員が神の言葉によって与えられる力、平安、靈感を求めて集会に出席することを忘れてはならない。

### 5.5.1 ビショップおよび顧問

ビショップと顧問は御霊の力により、自身の模範によって福音を教える。彼らはワード評議会に、ワードにおける教授が確実に人々を教化し、教義的に正しいものであるように指示する。

### 5.5.2 ワード評議会

ワード評議会の構成員はビショップリックの指示の下で、ワードにおける福音の学習と教授を改善する方法について定期的に協議する。ビショップはこれらの話し合いの進行と指導を日曜学校会長に依頼することができる。

### 5.5.3 神権指導者および補助組織指導者

神権指導者と補助組織指導者は福音を効果的に教えるよう努力する。彼らはまた、組織内の学習と教授を改善する取り組みについて責任がある。これらの取り組みに関して、日曜学校会長と意見を交換することができる。

教師として働く会員を推薦する

神権指導者と補助組織指導者はそれぞれの組織で教師に召されるワードの会員をビショップリックに推薦する。指導者は、生徒が福音の原則に従って生活

するよう鼓舞できるレッスンを準備するために努力を惜しまない教師を推薦するべきである。そのために 19.1.1 および 19.1.2 に記されている原則に従う。

### 新しく召された教師のオリエンテーション

神権指導者と補助組織指導者はそれぞれの組織で新しく召された教師一人一人と、できれば最初のレッスンを行う前に会合を開く。この会合で、指導者は以下の事項について教師にオリエンテーションを行う。

必要であれば、教師がクラスの生徒と親しくなるためのきっかけを作れるように助ける。生徒の一覧表を教師に与え、名前を覚えるよう奨励する。また、生徒との間に温かい関係を築くことを奨励する。

教師に『教師、その大いなる召し』の活用法を理解させる。教師一人一人にこの手引きを渡して、内容を手短かに検討する。

必要であれば、指導者はレッスンを準備する方法を理解できるように教師を助ける。クラスの正式な教科資料を渡して、使い方を説明する。また、『教師、その大いなる召し』の 98 - 99 から「レッスンの準備」の項を検討する。(承認されている教科資料およびそれらの注文方法に関する指示については、最新の『教科課程に関する指示』を参照する。)

### 教師に対する支援を継続する

神権指導者と補助組織指導者は教師との間に協力的で親しい関係を築く。最初のオリエンテーション以降も、指導者は個々の教師と定期的に来て、教師の必要を知り、生徒の必要について話し合い、本項で説明されている原則を検討する。『教師、その大いなる召し』の 24 - 27 ページに記されている「教授法改善の計画を立てる」に基づいて目標を設定するよう奨励する。

教えていることが教化するものであり、教義的に正しいことを確認する

神権指導者と補助組織指導者は、日曜日のクラスや他のレッスンにおける学習と教授を注意深く観察する。日曜学校と初等協会の会長会のように各クラスを定期的に訪問することのない指導者は、教師と打ち合わせたうえで、折にふれてクラスに出席する。指導者はこれらの観察に基づいて、クラスの学習を改善する方法について教師に助言する。

指導者は教師が聖典、末日の預言者の教え、および最新の『教科課程に関する指示』に基づいて、承認された教科資料を使っていることを確認する。教

科資料を補うために教会機関誌、特に『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』の総大会号を活用する方法を教師が理解できるように助ける。

#### 5.5.4 教師および指導者

教師と指導者は福音を教える際に以下の原則を指針とする。

##### 生徒を愛する

教師と指導者は教える人々に対して愛と心からの関心を示す。生徒の名前を覚える。定期的に出席していない生徒に気づくことができるように、出席情報を検討する。彼らに参加を促すために、クラス以外の場所で接触を図るとよい。

##### 御霊によって教える

教師と指導者はレッスンを準備し、また教える際に聖霊の導きを求める。彼らは、祈ることと、自分たちが主に依存していることをへりくだって認識することによってこの導きを求める。レッスンの間、教える教義について証を述べることにより、御霊を招く。

##### 教義を教える

教師と指導者は、聖典、末日の預言者の教えおよび承認された教科資料を使って福音の教義を教え、証する。各クラスまたは定員会のために承認されている教科資料は最新の『教科課程に関する指示』に記載されている。教師と指導者は教科資料を補うために教会機関誌、特に『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』の総大会号を必要に応じて使用する。

##### 熱心に学ぶよう勧める

教師と指導者は生徒に対して、個人として、それぞれの家族において、またクラスで指導を受ける間、責任をもって自分自身の福音学習を行うよう奨励する。

可能である場合に、自分の聖典をクラスに持参するよう生徒に奨励する。教師と指導者は、話し合いに活発に参加する機会を生徒に与え、また、福音に添って生活し、約束された祝福を受けるよう勧める。

#### 5.5.5 ワード日曜学校会長および顧問

ワード日曜学校会長会は、福音の学習と教授の強化に取り組んでいる他の指導者たちを支援するために働く。日曜学校会長会に対して、教師のためのオリエンテーションや指導を手伝い、継続的な支援の実施を要請することができる。

#### 5.5.6 学習と教授のための出版物およびオンライン資料

福音の学習と教授の改善について会員たちを支援するために、教会は2冊の出版物『教師、その大いなる召し』と『教師ガイドブック』を用意している。これらの資料は印刷物として、またLDS.orgからも入手できる。LDS.orgからは他の資料も入手できる。

#### 5.5.7 福音の教え方コース

ビショップリックとワード評議会がワードにおいて福音の教え方コースを定期的実施することができる。このコースは現職の教師にとって、また将来教師となる人々を準備させるうえで有益である。このコースは通常、日曜学校の時間に開かれる。レッスンは『教師、その大いなる召し』の186 - 238ページに記載されている。ビショップリックはこのコースを教えるよう日曜学校会長会に割り当てるか、他の会員を召す。

#### 5.5.8 ステーク会長および顧問

ステーク会長と顧問は御霊の力により、また自身の模範によって福音を教える。彼らはステーク内の教授が確実に人々を教化し、教義的に正しいものとなるよう指示する。



## 6. 福祉の原則と指導

6.1 教会の福祉の目的	34	6.2.4 大祭司グループ, 長老定員会, および扶助協会	36
6.1.1 自立	34	6.2.5 ワード福祉スペシャリスト	37
6.1.2 貧しい人や助けの必要な人を世話し, 奉仕をする会員の取り組み	35	6.3 ステークにおける福祉指導者	37
6.1.3 主の倉	35	6.3.1 ステーク会長	37
6.2 ワードにおける福祉指導者	35	6.3.2 ステーク評議会	37
6.2.1 ビショップ	35	6.3.3 ステーク福祉スペシャリスト	37
6.2.2 ワード評議会	35	6.4 守秘義務	38
6.2.3 ワード神権役員会	36		



## 6. 福祉の原則と指導

### 6.1 教会の福祉の目的

教会の福祉の目的は、会員が自立するのを助けること、貧しい人や助けの必要な人を世話すること、そして奉仕を行うことである。

1936年、大管長会は教会の福祉計画について次のように説明した。「わたしたちの第一の目的は、……忌まわしい怠惰を打破し、施しのもたらす悪弊を除去し、独立心、勤勉、儉約、自尊心を再びわたしたちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は、人々の自助努力を助けることにある。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」(Conference Report, 1936年10月, 3)

#### 6.1.1 自立

自立とは、自分自身と家族の生活における霊的・物質的な必要を満たす能力であり、決意であり、努力である。会員が自立するとき、さらによく人々に奉仕し、助けを与えることができる。

会員は自分自身の霊的・物質的な福利に関して責任がある。それぞれに選択の自由という賜物を与えられているので、自分の進むべき道を決め、自分自身の問題を解決し、自立できるように努力する特権と義務がある。会員はこれらのことを主の靈感の下に、自らの手の労苦をもって行う。

会員があらゆる手を尽くしても、基本的な必要を満たすことができないときには、まず家族に助けを求めるべきである。それでも十分でない場合、教会は支援することができる。

会員が自立するべき幾つかの要素が、以下の段落にまとめられている。

#### 健康

主は会員に対して、心身の健康を保つように命じられた。知恵の言葉を守り、栄養のある食物を取り、定期的に運動し、体重を管理し、十分な睡眠を取るべきである。心身に有害な、依存性のある薬物や習慣を避けるべきである。衛生管理をし、体や歯の適切な手入れや治療をするべきである。また、家族やほかの人々と良い関係をはぐくめるように努力するべきである。

#### 教育

教育は人が自立していくのに役立つ理解力と技術をもたらす。教会員は聖文をはじめ良書を研究し、読み書きや基本的な計算の能力を向上させるべきである。可能であれば正規のあるいは専門的な学校教育を含め、できるかぎりの教育を受けるべきである。このことは会員が才能を伸ばし、自分に適した職業を見つけ、家族と教会と地域社会に価値ある貢献をするのに役立つであろう。

#### 職業

労働は自立と物質的な福祉の基盤である。会員は、自分と家族の必要を満たすために、自分に適した職業や自営業に就くための備えをし、それらを注意深く選ぶべきである。仕事の技術を磨き、勤勉で信頼に足る働きをなし、受けている給料や報酬にふさわしく正直に働くべきである。

#### 家庭貯蔵

自分自身と家族を養う助けとなるよう、会員は普段の食事で食べるものを3か月分貯蔵するべきである。地域の法律と状況が許す場合には、より長期にわたって生命を維持する基本的な食料を少しずつ貯蔵していくべきである。また、水道の水が汚染されたり、断水したりした場合に備えて、飲料水を貯蔵するべきである。(『すべての必要なものを用意しなさい——家庭貯蔵』3参照)

#### 財政管理

経済的に自立するために、会員は什分の一と献金を納め、不必要な負債を避け、予算を立て、計画に基づいて生活するべきである。収入の一部を定期的に貯金することで、少しずつ経済的な貯えを築くべきである。(『すべての必要なものを用意しなさい——財政管理』3参照)

#### 霊的な力

霊的な力は、この世と永遠における個人の幸福にかかせない。教会員は、証をはぐくみ、天の御父とイエス・キリストへの信仰を働かせ、神の戒めを守り、日々祈り、聖文と末日の預言者の教えを研究し、教会の集会に出席し、教会の召しや責任を受けて奉仕するときに霊的な力が増す。

### 6.1.2 貧しい人や助けの必要な人を世話し、奉仕をする会員の取り組み

主は御自分の教会を通じて、貧しい人や助けの必要な人を世話する方法を用意しておられる。主は教会員に、自分が主から受けているものに応じて惜しみなく与えるように求めておられる。また、主は御自分の民に「貧しい者と乏しい者を訪れ、彼らに必要なものを与え」るように求めておられる（教義と聖約 44：6）。教会員は、助けを必要としている人に思いやりに満ちた奉仕をするように勧められている。頼まれたり、責任を与えられたりしなくても、「熱心に善いことに携わ」るべきである（教義と聖約 58：26 - 27 参照）。

主は御自分の民を祝福するために、また、民が助けを必要としている人々に奉仕する方法を提供するために、断食の律法と断食献金を設けられた（イザヤ 58：6 - 12；マラキ 3：8 - 12 参照）。会員は断食するとき、少なくともその間に食べていたと思われる食事の費用に相当する金額を断食献金として教会に納めるように求められている。可能であれば、会員は惜しみなく、さらに多くの額をささげるべきである。断食の律法に関連する祝福には、主に近くなり、霊的な強さが増し、物質的な福祉に恵まれ、思いやりが増し、仕えたいという望みが強くなるが含まれる。

助けを必要としている人々を支援する機会は、教会の召しを通じてもたらされることがある。それ以外にも、そのような機会は会員の家庭、近隣、地域社会に存在する。また、会員は教会の人道支援活動に貢献することによって、世界中のあらゆる宗教を信じる貧しい人々や助けの必要な人々を助けることができる。

主の方法で必要なものを与えることは、富んでいる者をへりくだらせ、貧しい者を高くし、両者を聖める（教義と聖約 104：15 - 18 参照）。J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は次のように教えている。

「福祉計画の真の長期目標は、与える側と受ける側双方の教会員の人格を築き、人の心の奥深くに眠っている最も優れたものをすべて解き放ち、内に秘められた豊かな精神を開花結実させることである。これは結局、この教会の使命と目的であり、また存在理由でもある。」（ステーキ会長との特別集会、1936年10月2日）

### 6.1.3 主の倉

一部の地域では、教会はビショップの倉と呼ばれる建物を設けている。ビショップから許可を受けた会員は、ビショップの倉に行って食料や衣類を得ることができる。しかし、主の倉は、貧しい人に食物や衣類を配付するために使われる建物に限らない。時間、才能、思い

やり、物資、金銭など、忠実な会員が信仰を込めてささげるものすべてが含まれ、ビショップを通して貧しい人や助けの必要な人に与えられる。つまり、主の倉はどのワードにも存在するのである。これらのささげ物は「主の倉に納め〔られ、〕すべての者はその隣人の益を図るように努め、また神の栄光にひたすら目を向けてすべてのことをなすようにしなければならない。」（教義と聖約 82：18 - 19）ビショップは主の倉の管理者である。

## 6.2 ワードにおける福祉指導者

### 6.2.1 ビショップ

ビショップはワードの福祉の業を指示する。ビショップには貧しい人を捜し出し、支援するという神聖な責任がある（教義と聖約 84：112 参照）。ビショップの目標は、会員が自助努力をし自立できるように助けることである。

ビショップの顧問、扶助協会会長、大祭司グループリーダー、長老定員会会長、およびワード評議会のその他の会員は、ビショップがこれらの責任を果たすのを助ける。

ビショップは会員が受ける福祉援助を内密に保つ。ビショップは慎重に、援助を受ける会員のプライバシーを保護し、尊厳を守る。助けを必要としている会員にワードのほかの指導者が援助を提供できると感じるとき、ビショップは6.4で述べられている指針に従って情報を伝えることができる。

断食献金基金から援助を与えることに関する指針を含め、ビショップの福祉の責任に関する詳しい情報は『手引き 第1部』5.2に述べられている。

### 6.2.2 ワード評議会

ワード評議会集会において、ビショップは福祉の原則を教え、評議会の会員に福祉に関する彼らの責任について指導する。評議会の会員は、霊的および物質的な福祉に関する事項について以下のように検討する。

ワードの会員が福祉の原則を理解し、それらの原則に従うように助ける方法についてともに話し合う。

個人的な訪問や、ホームティーチングおよび家庭訪問の報告から情報を得て、ワードにおける霊的および物質的な福祉の必要について報告する。内密性が高くワード評議会全体で共有するべきでないと考えられる情報については、指導者はビショップと個人的に話すか、神権役員会集会で話す（6.2.3 参照）。

評議会の会員は、ワードの特定の会員が、長期的な必要を含め霊的および物質的な必要を満たすのを助ける方法を計画する。障がいまたはその他の特別な必要を抱えた会員を助ける方法を決定する。これらの話し合いを内密に保つ（6.4 参照）。

教会の援助を受ける会員に労働や奉仕の機会が確実にあるようにするための取り組みを調整する。意義深い労働の機会のリストを作成し、維持する。地域に教会の福祉事業が存在する場合には、これらの事業によって、教会の援助を必要とする人々に労働の機会や訓練が提供されるようにするとよい。

短期的、長期的、あるいは災害時の必要を満たすうえで役立つ技術を持ったワードの会員のリストを作成し、維持する。

ワードが緊急時に対処するための簡単な計画書を作成し、維持する（『手引き 第1部』5.2.11 参照）。この計画を、ステークや地域社会における同様の計画と調整する。

### 6.2.3 ワード神権役員会

必要に応じて、ワード神権役員会は内密の福祉に関する事項について話し合う。ビショップはこれらの話し合いに扶助協会会長を招くことができる。

### 6.2.4 大祭司グループ、長老定員会、および扶助協会

福祉は、大祭司グループ、長老定員会、および扶助協会の働きの中心である。大祭司グループ指導者、長老定員会会長会、および扶助協会会長会の各会合において、指導者は、自立と奉仕の原則を教える方法、および、福祉の必要に対処する方法を計画する。ビショップの指示の下に、これらの指導者は会員が自立し、短期的および長期的な福祉に関する問題への解決策を見いだすのを助ける。

#### 短期的な福祉の必要

ビショップは短期的な援助を提供する際、メルキゼデク神権指導者または扶助協会指導者に割り当てを与えることができる。

通常、ビショップは扶助協会会長に、短期的な援助を必要としている会員を訪問するように割り当てる。扶助協会会長は、彼らの必要を評価するのを手伝い、どのような援助を提供するかビショップに提案する。ビショップは承認し署名するために、『ビショップの日用品注文書』を作成するよう扶助協会会長に依頼することができる。

家族の必要を知るための訪問における扶助協会会長の役割は、9.6.1 にさらに詳細に説明されている。扶助協会会長とその顧問に特に当てはまるその他の短期的な福祉に関する責任については、9.6.2 および 9.6.3 を参照する。

#### 長期的な福祉の必要

多くの短期的な問題は、病弱、技術の欠如、不十分な教育や雇用、生活習慣、情緒的な障がいなどの長期的な問題に起因している。メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者には、会員がこれらの事柄に対処するのを助ける特別な責任がある。指導者の目標は、継続する変化につながる方法で長期的な問題に対処することである。

メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者は、長期的な必要を知ったときには、個人や家族を助けるために思いやりをもって応じる。指導者は、自分の組織やワードで利用できる援助手段を用いる。また、助けを提供する方法を知るために導きを求めて祈る。

助ける方法をよりよく知るために、メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者は通常、福祉の必要を抱えた会員を訪問する。指導者は、会員が福祉の必要を満たす方法を計画するのを助けるために、『必要と援助手段の分析表』を用いるか、その原則に従うことができる。

指導者は、会員が長期的な必要を満たすのを助けるときにはビショップと相談する。場合によっては、メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者は協力して働く。

ビショップに報告し、ビショップの継続した指示を求める

大祭司グループリーダー、長老定員会会長、および扶助協会会長は、ワードにおける短期的および長期的な福祉の必要に対処するために自分および自分の組織が取っている行動について、定期的にビショップに報告する。また、自分たちの福祉に関する取り組みについてビショップの継続した指示を求める。

個人や家族が短期的な問題を抱えていて、本人たちで解決できず、メルキゼデク神権指導者や扶助協会指導者にも解決できない場合、指導者は直ちにビショップに知らせる。

メルキゼデク神権指導者および扶助協会指導者は、ふさわしさや家族の繊細な事柄に関して、問題となり得る事項を知った場合、その会員がビショップのもとに行けるように助ける。

### ホームティーチャーおよび訪問教師

霊的および物質的な福祉に関する助けは、しばしばホームティーチャーや訪問教師から始まる。毎月の訪問を行う以上の優しさと友情の精神をもって、ホームティーチャーと訪問教師は、助けを必要としている個人や家族を助ける。また、自分の仕える人々が抱えている必要を、自分の神権指導者や扶助協会指導者に報告する。

定員会および扶助協会の会員やそのほかの人々に奉仕を求める

メルキゼデク神権指導者や扶助協会指導者は、助けを必要としている人々の役に立つ技術や経験を持つ会員の奉仕を求めることができる。会員は、食事の提供や子供の世話、求人に関する情報の紹介など、短期的な奉仕を行うことができる。会員はまた、健康、衛生、栄養、職業のために備える、教育の機会を見つける、小規模事業を始める、家計を管理するなど、長期的な福祉の必要を満たすのを助けるための指導を行うこともできる。

指導者は、ほかの人々に援助の提供を要請した後、助けを必要としている個人や家族と連絡を取り続け、励ましを与え、必要に応じてそのほかの方法で助ける。

指導者は、ビショップが会員をビショップの倉、教会職業支援センター、デゼルト産業、および LDS ファミリーサービスなどの教会の福祉事業に紹介するとき、ビショップを助けることができる。指導者はまた、会員が地域社会や政府機関を通じて援助を受けるのを助けることができる。

### 6.2.5 ワード福祉スペシャリスト

福祉スペシャリストは、ビショップリックを助け、メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者が福祉に関する彼らの義務を果たすのを支援する助け手として働く。

ビショップリックは、会員が適した職業に備え、就職するのを助けるために、雇用スペシャリストを召すことができる。ビショップリックはまた、教育、訓練、栄養、衛生、家庭貯蔵、健康管理、家計管理、永代教育基金などの必要を抱えた会員を助けるために、ほかの福祉スペシャリストを召すことができる。

## 6.3 ステークにおける福祉指導者

### 6.3.1 ステーク会長

ステーク会長はステークにおける福祉の業を監督する。ステーク会長の福祉に関する責任について、詳しい情報は『手引き 第1部』5.1に述べられている。

### 6.3.2 ステーク評議会

ステーク評議会集会において、指導者は霊的および物質的な福祉に関する事項について以下のように検討する。

ステーク内の福祉に関する懸念事項を確認し、それらの事項に対処する方法を検討する。しかしながら、ワードの福祉に関する事項を解決する責任は負わない。

ステークとワードの指導者に福祉の原則を教える方法を計画する。

福祉の必要を助けるためのリソースとして奉仕できるステーク内の人々を、ワードの指導者が認識できるようにする方法について話し合う。

ステークが緊急事態に対処するための簡単な計画書を作成し、維持する（『手引き 第1部』5.1.3参照）。この計画は、調整評議会においてほかのステークの同様の計画と、また地域社会における計画と調整するべきである。

ワードの指導者に過度の負担をかけないように気をつけながら、福祉活動を計画する。

ステークが受ける福祉の割り当てに応じる方法を計画する。

七十人会長会の一員または地域会長会から割り当てられた場合、福祉事業に関する指導と支援を与える。

渡り労働者またはホームレスへの援助要請に対応するようビショップに割り当てられた場合、ステーク評議会の会員は、そのビショップがステークの援助手段を利用できるようにする方法を決める。

### 6.3.3 ステーク福祉スペシャリスト

ステーク会長会の一員または割り当てを受けた高等評議員は、ステーク雇用スペシャリストおよびそのほかの福祉スペシャリストを召すことができる。これらのステークスペシャリストは、ビショップやそのほかのワード指導者の助け手として働く。スペシャリストは6.2.5に挙げられているような福祉の必要について支援することができる。

---

#### 6.4 守秘義務

ビショップやワードの指導者は、会員が抱える福祉の必要や受けてきた援助について知るとき、その情報を内密に保つ。指導者は慎重に、援助を受ける会員のプライバシーを保護し、尊厳を守る。指導者は、援助を必要とする会員に恥ずかしい思いをさせることのないように注意する。

時には、個人や家族が抱える福祉の必要について、ワード評議会全体、また場合によってはワードのその

ほかの会員が知ることが有益な場合がある。例えば、会員が失業している場合やより良い仕事を探している場合、ほかの人の助けによってその会員がより迅速に仕事を見つけられるかもしれない。そのような場合、ビショップやほかの指導者は通常、助けを必要としている会員の状況に関する情報を伝えることに本人の許可を求める。

指導者は、ほかの人に助けを依頼する場合、割り当てを果たすのに必要な情報だけを伝える。指導者はまた、彼らに守秘義務を守るように指示する。

## 7. メルキゼデク神権

7.1	メルキゼデク神権の定義と目的	40	7.7	指導者会	45
7.1.1	メルキゼデク神権の職と義務	40	7.7.1	ワード神権役員会集会およびワード評議会集会	45
7.1.2	メルキゼデク神権定員会	40	7.7.2	長老定員会会長会集会および大祭司グループ指導者会	45
7.2	ステーキメルキゼデク神権指導者	40	7.7.3	ステーキ神権指導者会	46
7.2.1	ステーキ会長会	40	7.8	定員会およびグループの集会	46
7.2.2	高等評議員	41	7.8.1	日曜日の神権会	46
7.3	ワードメルキゼデク神権指導者	41	7.8.2	ステーキ大祭司定員会集会	47
7.3.1	ビショップリック	41	7.9	儀式と祝福の執行方法を教える	47
7.3.2	長老定員会会長会および大祭司グループ指導者	41	7.10	その他の指針および方針	47
7.3.3	長老定員会および大祭司グループの書記および書記補佐	42	7.10.1	特別な必要を抱えた兄弟たち	47
7.3.4	長老定員会および大祭司グループ教師	42	7.10.2	死に際して支援を提供する	47
7.4	ホームティーチング	42	7.10.3	神殿衣とガーメントに関する指示	47
7.4.1	ホームティーチャーの責任	42	7.10.4	活動のための資金	47
7.4.2	ホームティーチングを組織する	43			
7.4.3	ホームティーチングを地元の必要に合わせる	44			
7.4.4	ホームティーチングの報告を行う	44			
7.5	福祉	44			
7.6	長老見込み会員	44			
7.6.1	長老見込み会員に対する責任	45			
7.6.2	長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける備えをするのを助ける	45			

## 7. メルキゼデク神権

### 7.1 メルキゼデク神権の定義と目的

神権とは神の力と権能である。神権は教会のふさわしい男性会員に授けられる。神権の鍵を持つ者は、福音の儀式を執行すること、福音を宣べ伝えること、地上における神の王国を統治することにおいて業を導く。

メルキゼデク神権は「教会のすべての霊的な祝福の鍵」を持つ（教義と聖約 107：18）。

神権の目的と神権の鍵に関する詳しい情報については第 2 章を参照する。

#### 7.1.1 メルキゼデク神権の職と義務

メルキゼデク神権の職には長老、大祭司、祝福師、七十人、使徒がある。それぞれの神権の職に、神権の儀式を執行する権能を含む務めの権利と責任がある。本章には、長老と大祭司の指導者のための情報が載っている。長老と大祭司の職への聖任についての情報は、20.7 を参照する。

#### 長老

ふさわしい兄弟は、18 歳以上であればメルキゼデク神権を受けて長老に聖任されることができる。長老の権限と責任は、教義と聖約 20：38 - 45；42：44；46：2；および 107：11 - 12 に啓示されている。長老はまた、執事、教師、および祭司の権能も持つ。

#### 大祭司

兄弟たちは、ステーク会長会、高等評議会、ビショップリックに召されたとき、またはステーク会長が適切と判断したときに大祭司に聖任される。大祭司の権限と責任は、管理すること、長老の持つすべての権限を持つことである（教義と聖約 107：10 参照）。

地方部内の兄弟たちは大祭司の職には聖任されない。

#### 7.1.2 メルキゼデク神権定員会

神権定員会とは同じ神権の職を持つ兄弟たちの組織である。定員会のおもな目的は、人々に奉仕し、一致と兄弟愛をはぐくみ、定員会会員に教義や原則、義務を指導することである。

各ワードには一つまたは複数の長老定員会がある。各長老定員会の人数は最大で長老 96 名である（教義と聖約 107：89 参照）。

各ステークには一つの大祭司定員会がある。大祭司定員会会長会はステーク会長会が務める。各ワードにおいて、大祭司は一つの大祭司グループに組織される。

祝福師は定員会に組織されることはない。使徒と七十人は教会中央レベルで定員会に組織される。

### 7.2 ステークメルキゼデク神権指導者

#### 7.2.1 ステーク会長会

ステーク会長はステークにおける管理大祭司である。ステーク会長とその顧問はステーク大祭司定員会会長会を構成する。彼らは大祭司定員会の集会で指導を行う。彼らは時々、大祭司グループの集会や長老定員会の集会を訪問して指導を行い、助言を与えることができる。

ステーク会長は、メルキゼデク神権の授与ならびに長老および大祭司の職への聖任を監督する（『手引き第 1 部』 16.7.1 参照）。

ステーク会長は各ワードにおいて一人の長老を長老定員会会長として召す。大祭司グループがある各ワードにおいて、ステーク会長または割り当てを受けたステーク会長会の顧問は一人の大祭司を大祭司グループリーダーとして召す。長老定員会会長または大祭司グループリーダーを新たに召す前に、ステーク会長はワードのビショップと相談する。ビショップは、召す人を推薦することができる。

ステーク会長、割り当てを受けた顧問、または割り当てを受けた高等評議員は、長老定員会会長会の顧問および大祭司グループリーダー補佐を召す。長老定員会会長および大祭司グループリーダーは、ビショップと評議のうえでそれぞれ顧問および補佐を推薦することができる。

長老定員会会長会の会員と大祭司グループの指導者の召しへのすべての推薦は、ステーク会長会と高等評議会の承認を得なければならない。

定員会またはグループの指導者が新たに召されるときは、ステーク会長会の一員または高等評議会の一員

が、新たに召される人の名前を定員会またはグループの会員に提示し、賛意の表明を得る。

長老が大祭司グループの指導者として働くように召される場合、その長老は任命を受ける前に大祭司に聖任されなければならない。

新たに召される長老定員会会長はステーキ会長が任命を行い、召しにかかわる鍵を授ける。新たに召される大祭司グループリーダーはステーキ会長の一員が任命を行う。大祭司グループリーダーは鍵を受けない。長老定員会会長の顧問と大祭司グループリーダーの補佐の任命はステーキ会長の一員または高等評議会の一員が行う。

新しい定員会またはグループの指導者が支持を受けたら、ステーキ会長の一員またはビショップリックの一員が聖餐会で召しの発表を行う。聖餐会では賛意の表明は求めない。

伝道部内の支部における長老定員会の召しについての情報は、第19章にある召しの一覧表を参照する。

## 7.2.2 高等評議員

ステーキ会長会の指示の下に、高等評議員はステーキにおいて教会の業を監督するのを助ける。長老定員会および大祭司グループに関連する高等評議員の責任については、15.3.1に述べられている。

## 7.3 ワードメルキゼデク神権指導者

本章では、個人と家族を強めるような方法で長老定員会と大祭司グループを管理運営することに焦点が当てられている。メルキゼデク神権指導者は、指導の一般原則の概要が述べられている第3章を度々読み返すべきである。これらの原則には、霊的に備えること、評議会に参加すること、人々に仕え、教え、導くこと、およびイエス・キリストの福音を教えることが含まれる。

### 7.3.1 ビショップリック

ビショップはワードの管理大祭司である。ビショップとその顧問は、長老定員会会長および大祭司グループリーダーと密接に働き、定員会やグループの会員とその家族を見守り、定員会やグループを強化し、神権の業が成し遂げられるようにする。

長老定員会会長および大祭司グループリーダーに対しては、ステーキ会長が直接的な責任を持つが、ビショップは長老定員会会長および大祭司グループリー

ダーと定期的に会合を持つ。ビショップは、定員会またはグループにおけるホームティーチングを含め、彼らの責任について報告を求める。ビショップはまた、彼らに勧告を与え、召しを導んで大いなるものとするように励ます。

### 7.3.2 長老定員会会長会および大祭司グループ指導者

長老定員会会長会と大祭司グループ指導者は、定員会およびグループの会員を管理し、彼らとともに評議会の席に着き、彼らを教える（教義と聖約 107:89 参照）。彼らはワードにおいて救いの業を推し進めるための定員会およびグループの会員の働きを導く（第5章参照）。彼らは、ステーキ会長会、割り当てを受けた高等評議員、およびビショップから指示を受ける。

#### 長老定員会会長および大祭司グループリーダー

長老定員会会長と大祭司グループリーダーには以下の責任がある。

ワード神権役員会およびワード評議会の一員として働く。この役員会および評議会の一員として、個人と家族の信仰を築き、彼らを強めるための取り組みに参加する（第4章参照）。大祭司グループリーダーは、ワードにおいて神殿・家族歴史活動を奨励するためのワード評議会の取り組みを調整する（5.4.3 参照）。大祭司グループリーダーがいない場合、長老定員会会長または割り当てを受けたメルキゼデク神権者がこの役割を果たす。

本手引きを資料として用いて、定員会およびグループのほかの指導者や教師に彼らの義務を教える。

ビショップと評議会のうえで、長老定員会会長会の顧問または大祭司グループリーダー補佐として召す兄弟の推薦書を提出する。また、書記や教師として召す兄弟の推薦書をビショップに提出する。これらの推薦を行う際には、19.1.1 および 19.1.2 に述べられている指針に従う。

定員会またはグループの記録、報告、予算、および財政を監督する。定員会またはグループの書記はこの責任を補佐する。

#### 長老定員会会長と顧問および大祭司グループリーダーと補佐

長老定員会会長会および大祭司グループ指導者には以下の責任がある。長老定員会会長および大祭司グループリーダーは、顧問および補佐にこれらの責任の一部を監督する割り当てを与える。



定員会およびグループの会員に自分たちの神権の義務、特に夫および父親としての義務を果たすように奨励する。定員会およびグループの指導者はこの責任を定員会およびグループの集会において、また定員会およびグループ会員との面接や対話において果たす。

ホームティーチングを編成し、監督する。

長老定員会および大祭司グループにおける福音の学習と教授を改善するための取り組みを監督する。これらの取り組みにおいては、5.5.3 および 5.5.4 に述べられている原則に従う。

長老定員会会長または大祭司グループ指導者の会合を持つ。

ビショップの指示の下に、定員会またはグループにおける福祉の必要に取り組む方法を計画する (7.5 および 第 6 章を参照)。

可能であれば、定員会またはグループの会員を少なくとも年に 1 度は訪問するか面接する。

定員会またはグループの働きを推し進めるため、またワード評議会集会で与えられた割り当てを果たすために、定員会またはグループの会員の中で委員会を組織することができる。

長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける備えをするのを助ける (7.6 参照)。

ビショップの承認を受けて、時々定員会またはグループの会員のための活動を計画してもよい。これらの活動には、定員会またはグループの会員の家族や、定員会またはグループの会員がホームティーチャーとして訪問している独身の姉妹たちを招いてもよい。活動は第 13 章に述べられている指針に従ったものとするべきであり、ワード評議会と調整されるべきである。

ビショップの割り当てを受けて、18 歳の若い男性がメルキゼデク神権を受ける備えをし、祭司定員会から長老定員会にうまく移行するのを助けるために両親や若い男性指導者と協力して働く。

長老定員会会長は顧問の一人に、ワードのヤングシングルアダルトの兄弟たちに対する定員会の取り組みを調整する割り当てを与える。ワードにヤングシングルアダルト委員会がある場合は、この顧問が委員会で働く (16.3.3 および 16.3.4 参照)。

### 7.3.3 長老定員会および大祭司グループの書記および書記補佐

ビショップの承認を受けて、長老定員会会長またはその顧問の一人は、一人の長老を長老定員会書記として召し、任命する。同様に、大祭司グループリーダー

またはその補佐の一人は一人の大祭司を大祭司グループ書記として召し、任命する。

定員会またはグループの書記には以下の責任がある。

定員会またはグループの指導者と相談して会長会集會またはグループ指導者会の議事予定案を準備する。これらの集会に出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を確認・把握する。

毎月、長老定員会会長および大祭司グループリーダーがビショップに報告できるようにホームティーチングの報告をまとめる。少なくとも四半期ごとに、出席情報をまとめ、長老定員会会長または大祭司グループリーダーとともにこの情報に目を通し、ワード書記に提出する。

定員会またはグループが支出の伴う活動を計画する場合、書記は、指導者が年間予算案を作成し、支出を管理するのを助ける。

ビショップの承認を受けて、長老定員会および大祭司グループの指導者は、これらの責任を援助する書記補佐を召し、任命することができる。書記補佐には長老見込み会員を召すこともできる。

### 7.3.4 長老定員会および大祭司グループ教師

ビショップの承認を受けて、長老定員会会長またはその顧問の一人は、一人または複数の長老を長老定員会教師として召し、任命する。同様に、大祭司グループリーダーまたはその補佐の一人は、一人または複数の大祭司を大祭司グループ教師として召し、任命する。

定員会およびグループの指導者は教師に神権会でレッスンを教える割り当てを与える。教師は 5.5.4 に述べられている原則に従う。

## 7.4 ホームティーチング

ビショップの指示の下に、定員会およびグループの指導者はホームティーチングを監督する。指導者はホームティーチャーに彼らの義務を教え、これらの義務をよく果たすよう鼓舞する。

ホームティーチングは教師、祭司、およびメルキゼデク神権者に託された神権の責任である。したがって、ホームティーチャーは神権指導者によって割り当てられる。ホームティーチャーは召しや支持、任命を受けない。

### 7.4.1 ホームティーチャーの責任

ホームティーチングは天の御父が御自分の子供たちに祝福をお与えになる方法の一つである。ホームティーチャーは「各会員の家を訪れて、彼らが声に出

して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧める」(教義と聖約 20:51)。ホームティーチャーは割り当てを受けた家族や個人を「見守り、彼らとともにいて彼らを強める」(教義と聖約 20:53)。ホームティーチャーは「警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招く」(教義と聖約 20:59)。

可能であれば、ホームティーチャーは会員の家を少なくとも月に1度訪問する。ホームティーチャーはまた、担当の家族を見守り、強めるために、そのほかにも意義深い方法を見いだすことができる。例えば、家族のために奉仕を行ったり、手紙や電話で家族の人々に連絡を取ったりすることができる。

ホームティーチャーは主とビショップ、定員会またはグループの指導者を代表する。ホームティーチャーは会員にとって重要な助け手となることができる。ホームティーチャーは家族の必要と、最も役立つ方法について家長と相談する。

ホームティーチャーは家族の人々の興味と必要を知り、彼らの生活における特別な出来事に心を向ける。

必要に応じて、ホームティーチャーは両親を助けて、子供が確実に祝福、バプテスマ、確認を受けるようにする。また、両親を助けて、息子が確実に適切な年齢でアロン神権やメルキゼデク神権を受け、神権の職に聖任されるようにする。

ホームティーチャーは会員が失業、病気、孤独、引越、その他の必要を抱えているときに助けを提供する。

ホームティーチャーは会員が天の御父とイエス・キリストを信じる信仰を強めるのを助け、彼らが神聖な聖約を交わし、守るよう励ます。この務めは新会員とあまり活発でない会員に対して特に重要である。

ホームティーチャーは個人や家族にとって都合のよいときに訪問するための約束を作る。ホームティーチャーは、自分たちは訪問する会員に招待されていることを心に留める。

各訪問は計画された目的に的を絞るべきである。家庭を訪問する前に、同僚とともに祈る。同僚は訪問先の人々を強める方法について話し合う。この話し合いと聖霊の導きに基づいて、ホームティーチャーはメッセージを伝える。通常、メッセージは聖文および『エンサイン』(Ensign) または『リアホナ』に掲載される大管長会メッセージから用意する。ビショップまたはその他の指導者からほかにメッセージが与えられることも

ある。また家長が特別なメッセージを依頼してもよい。ホームティーティングの訪問には、通常祈りが含まれる。

ホームティーチャーは毎月、定員会またはグループの指導者に、訪問した家族の霊のおよび物質的な福祉について報告を行う。会員の必要が急を要するときは、直ちに報告する。

#### 7.4.2 ホームティーティングを組織する

長老が家長である家族は通常、長老定員会からのホームティーチャーが担当する。大祭司が家長である家族は通常、大祭司グループからのホームティーチャーが担当する。メルキゼデク神権者が家長でない家族について、ビショップリックは長老定員会と大祭司グループのどちらのホームティーチャーが担当すべきかを決定する。この決定を下す際、ビショップリックは神権役員会やワード評議会と相談することができる。

ホームティーティングを組織する際、定員会またはグループの指導者は個人や家族の必要について祈りをもって話し合う。指導者は、必要に応じて神権役員会やワード評議会と相談しながら、ホームティーチャーが会員を見守り、強めることのできる方法について話し合う。指導者はまた、距離や交通手段、安全などの要素について考慮する。

これらの話し合いに基づいて、指導者は可能であれば各家庭に対して二人組のホームティーチャーを割り当てる。指導者はそれぞれの組み合わせおよびホームティーティングの割り当てにビショップの承認を得る。

定員会およびグループの指導者は、最も効果的なホームティーチャーを、最も必要としている会員に割り当てる。ホームティーチャーを割り当てるとき、指導者は新会員、働きかけを最も受け入れやすいと思われるあまり活発でない会員、そのほか、ホームティーチャーを最も必要としているひとり親、伴侶を亡くした男女などを最優先する。特別な問題に直面している若い男性や若い女性のいる家庭には、青少年の指導者を割り当てると助けになることがしばしばある。改宗者にはバプテスマの前にホームティーチャーを割り当てべきである。

長老定員会会長、大祭司グループリーダー、および若い男性会長と相談した後、ビショップリックの一員は教師および祭司にホームティーティングの割り当てを伝える。彼らはメルキゼデク神権者の同僚として割り当てを受ける。

アロン神権者は、訪問先の会員を見守り、世話をする働きに同僚とともに取り組む。これには約束を取る

こと、メッセージを伝えること、奉仕を行うことが含まれる。この経験は伝道への備えを含む神権の訓練に役立つ（教義と聖約 84：106 - 107 参照）。

ヤングシングルアダルトワードの長老定員会指導者は、ワードの会員一人一人にホームティーチャーを割り当てる。ルームメイトとして同居している独身の会員たちには同時に訪問してもよい。しかしながら、ホームティーチャーは一人一人に仕えることに焦点を当てるべきであり、報告は個別に行うべきである。

例外としてビショップの承認があれば、メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者は、夫婦による訪問が必要な場合、夫と妻を同僚として割り当ててもよい。夫婦はこのような訪問をホームティーチングと家庭訪問として報告する。通常、若い親にはそのような割り当てを与えない。親を子供から離すことになるからである。

### 7.4.3 ホームティーチングを地元の必要に合わせる

一部の場所では、十分な人数の活発な神権者がいないため、あるいはその他の問題から、一時の間、毎月すべての家庭を訪問することができないかもしれない。このような状況において指導者は、新会員、またあまり活発でない会員で、教会に再び集うようにという招きに応じる可能性が最も強い会員、および深刻な必要を抱えている会員を訪問することを優先する。

指導者は各会員を見守り、強めるために、利用できる援助手段を用いるよう最善を尽くす。ホームティーチングを状況に適應させる場合、それはすべて一時的な措置と見なされるべきである。

ホームティーチングを状況に適應させることについて、以下の段落に幾つかの提案が概説されている。

ビショップの承認を受けて、メルキゼデク神権指導者および扶助協会指導者は、特定の家族に一時的にホームティーチャーだけ、あるいは訪問教師だけを割り当てることができる。場合によっては、指導者は、ある月にホームティーチャーがある家族を訪問し、翌月には訪問教師がその家族にいる扶助協会の会員を訪問するように割り当てを与えることができる。

伝道部会長の承認を受けて、指導者は限られた範囲でメルキゼデク神権者と一緒にホームティーチングに行くよう専任宣教師に依頼することを検討してもよい。伝道部会長はこの承認をステーク会長に伝え、ステーク会長がビショップに伝える。そのような承認が与えられるとき、専任宣教師はおもに新会員、パートメンバーの家族、およびあまり活発でない会員を訪問する割り当てを受ける。

必要と優先順位に基づいて、定員会およびグループの指導者は、定員会およびグループのホームティーチングの責任が全うされるように幾つかの訪問を行うことができる。

### 7.4.4 ホームティーチングの報告を行う

定員会またはグループの指導者は毎月、ホームティーチャーのそれぞれの組から報告を受ける。加えて、指導者は定期的にホームティーチャーと会合を持ち、担当の会員の霊的および物質的な福祉について話し合い、助けを必要としている会員を助ける計画を立てる。ホームティーチャーは内密事項を長老定員会会長または大祭司グループリーダーにだけ報告するべきであり、長老定員会会長または大祭司グループリーダーはその情報をビショップに報告する。

長老定員会会長および大祭司グループリーダーは毎月、ビショップにホームティーチングの報告を行う。毎回の報告には、連絡を受けなかった人のリストが含まれる。報告は、新会員、あまり活発でない会員、その他の深刻な必要を抱えた会員に特に焦点を当てる。家族や個人が緊急の必要を抱えている場合は、長老定員会会長または大祭司グループリーダーはこの情報を直ちにビショップに報告する。

## 7.5 福祉

福祉は、長老定員会と大祭司グループの働きにとって中心となるものである。

ビショップの指示の下で、長老定員会会長会、大祭司グループ指導者、およびワード扶助協会会長会は福祉に関する以下の責任を担う。

物質的および霊的な自立の原則を教える。

貧しい人、助けの必要な人を世話し、会員が奉仕をするよう励ます。

個人と家族が自立し、短期的および長期的な福祉の問題に解決策を見いだすのを助ける。

これら福祉の責任に関する詳しい情報については第 6 章を参照する。

## 7.6 長老見込み会員

長老見込み会員とは 19 歳以上の男性会員でメルキゼデク神権を受けていない人のことである。19 歳未満の既婚の兄弟でメルキゼデク神権を受けていない人も長老見込み会員である。

### 7.6.1 長老見込み会員に対する責任

定員会およびグループの指導者には、長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける備えをするのを助ける責任がある。ビショップは、定員会とグループの指導者および各長老見込み会員と話し合い、各長老見込み会員が長老定員会と大祭司グループのどちらのレッスンや活動に参加するかを決定する。ビショップは長老見込み会員がワードの長老たちや大祭司たちとの間に築いている関係や、長老見込み会員の年齢や必要を考慮する。

定員会およびグループの指導者は長老見込み会員に効果的なホームティーチャーを割り当てる。長老見込み会員が教師または祭司の職に聖任されている場合、指導者は彼らにホームティーチャーとして奉仕する割り当てを与えることができる。

定員会およびグループの指導者は長老見込み会員を定員会またはグループの集会や活動に招く。

### 7.6.2 長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける備えをするのを助ける

長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける備えをするのを助けることは、指導者が最優先することの一つであるべきである。それによって家族を強め、夫婦を神殿結婚に備えることになるからである。長老見込み会員は適度に準備ができた時点で、不必要に待つことなく、速やかに聖任されるべきである。

長老定員会会長および大祭司グループリーダーは、長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける準備の中で確実に以下の原則を教わるようにする。

1. 預言者ジョセフ・スミスによる神権と神権の鍵の回復
2. 神権の誓詞と聖約（教義と聖約84:33-44参照）
3. 夫および父親の責任
4. 長老の義務と神権定員会の目的
5. 神権の儀式と祝福の目的、およびそれらの儀式と祝福の執行方法（第20章および『家族ガイドブック』参照）

指導者はこれらの原則を一对一で教えてもよいし、一つまたは複数のワード、あるいはステークの長老見込み会員を対象とするクラスを組織してもよい。指導者は有能なホームティーチャーにこのレッスンを行う割り当てを与えることもできる。指導者はまた、このレッスンを神殿準備セミナーの一部として行うこともできる（5.4.5 参照）。必要に応じて、ステーク会長は定員会お

よびグループの指導者がこの責任を果たすのを助ける割り当てを高等評議会の一員に与えることができる。

長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける備えをするのを助ける際、以下の資料を用いることができる。教義と聖約 20, 84, 107, 121 の各章；『家族ガイドブック』；『神権の義務と祝福 A』1-4, 9 の各課；『神権の義務と祝福 B』1-6 の各課。

ビショップは定員会およびグループの指導者、ならびにワード評議会と相談して、最も優先的にこの準備のレッスンを受けるべき長老見込み会員を特定する。ほかの方法で準備がなされていないならば、18歳のアロン神権者も含めることができる。

長老見込み会員がメルキゼデク神権を受ける備えをするのを助ける際、ビショップは『手引き 第1部』16.7.1 に述べられている指示に従う。

## 7.7 指導者会

### 7.7.1 ワード神権役員会集会およびワード評議会集会

長老定員会会長と大祭司グループリーダーはワード神権役員会およびワード評議会の一員として働く（第4章参照）。

### 7.7.2 長老定員会会長会集会および大祭司グループ指導者会

長老定員会会長会は定期的に会長会集会を持つ。大祭司グループ指導者も定期的に指導者会を持つ。定員会会長またはグループリーダーが集会を管理し、司会をする。定員会またはグループの書記は出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を確認・把握する。ワードに割り当てられた高等評議員が定期的に出席してもよい。

議事予定案には以下の事項を入れることができる。

1. 長老見込み会員を含め、定員会またはグループの会員とその家族を強める方法を計画する。
2. 神権指導者の責任に関する聖文や教会指導者からの指示を読み、話し合う。
3. ホームティーチングの割り当てと達成状況について話し合い、改善方法を計画する。
4. 定員会またはグループの集会での福音の指導について話し合い、改善方法を計画する。
5. ワード評議会集会で与えられた割り当てについて報告する。

6. 奉仕やその他の定員会またはグループの活動を含め、定員会またはグループの一致を築く方法を計画する。

### 7.7.3 ステーク神権指導者会

ステーク会長会は毎回のステーク大会時にステーク神権指導者会を開く(18.3.1, 第2項参照)。会長会はまた、その年内にステーク神権指導者会をもう一度開き、合計で年に3回開く。定員会とグループの指導者および書記が出席する。

---

## 7.8 定員会およびグループの集会

### 7.8.1 日曜日の神権会

日曜日の神権会は、メルキゼデク神権者とアロン神権者を対象とする開会行事で始め、その司会はビショッププリックの一員が行う(18.2.4 参照)。

開会行事の後、兄弟たちは所属する定員会またはグループの集会に出席する。定員会およびグループの集会の目的は、定員会の業務を行い、神権の義務を学び、家族を強め、イエス・キリストの福音を学ぶことである。指導者はこれらの目的を達成するために祈りをもって集会を計画する。

ステーク会長会またはビショッププリックの一員(またはその他の管理役員)が出席していないかぎり、長老定員会の集会は長老定員会会長が管理し、大祭司グループの集会は大祭司グループリーダーが管理する。定員会会長会またはグループ指導者の一員が司会をする。

長老と大祭司は通常、分かれて集会を行う。しかし、神権会に出席できるワードの長老または大祭司が非常に少数の場合は、集会を合同で行うことができる。集会を合同で行うとしても、どのような場合も決して単独のメルキゼデク神権定員会を設けるべきではない。ワードに聖任を受けた長老と大祭司がいるかぎり、長老定員会と大祭司グループの両方が組織されるべきである。

地方部には大祭司定員会がないので、地方部内の支部には大祭司グループはない。これらの支部に出席する大祭司は、長老定員会とともに集う。

ビショップは、本人にとって有益であると思われる場合、長老が大祭司グループの集会に参加することを許可することができる。ビショップはまた、18歳のアロン神権者を長老定員会の集会に参加するように招くことができる。

毎月、定員会およびグループの指導者は以下のパターンに倣って日曜日のレッスンを計画する。

### 第1日曜日

第1日曜日には、長老定員会会長会または大祭司グループ指導者の一員が教える。教える人は聖文や末日の預言者の教え、承認された教会の資料を用いる。メルキゼデク神権指導者はこの集会を活用して福音の教義を教え、兄弟たちが神権の義務に活発に携わることができるのを助ける。

定員会およびグループの指導者は、教えるテーマを決める際に御霊の導きを求める。テーマには、ホームティーチング、神権の儀式と祝福の執行、夫婦と家族関係の強化、奉仕、伝道活動、改宗者の定着、活発化、霊的および物質的な福祉、および神殿・家族歴史活動が含まれるであろう。定員会およびグループの指導者はまた、ほかの人々を助ける方法を計画し、割り当てを与え、以前の割り当てについて報告を求めることにこの時間を充てることもできる。

### 第2, 第3日曜日

第2, 第3日曜日には、定員会またはグループの指導者、あるいは教師がレッスンを教える。教える人は最新のメルキゼデク神権者用テキストを用いる。レッスンは通常、手引きに提示されている順序に従い、同じ日曜日に扶助協会に教えられるものを教える。

定員会およびグループの指導者は、兄弟たちが定員会またはグループの集会に出席できるかどうかにかかわらず、ワード内の18歳以上のすべての男性が個人学習用にメルキゼデク神権者用手引きを受け取るようにする。指導者は出席者が手引きと、可能であれば自分の聖典を持って来るように促す。

### 第4日曜日

第4日曜日には、定員会またはグループの指導者、あるいは教師がレッスンを教える。教える人は最近の大会のメッセージを用いる。ステーク会長またはビショップがメッセージを選ぶ。

### 第5日曜日

第5日曜日には、教えるテーマ、教師(通常はワードまたはステークの一員)、およびメルキゼデク神権者と扶助協会が集会を個別に行うか合同で行うかをビショップが決める。

## 7.8.2 ステーク大祭司定員会集会

ステーク会長会は少なくとも年に1度、ステーク内の全大祭司を対象に大祭司定員会の集会を開く。ステーク会長会はこの集会で定員会の業務を行い、定員会会員にその義務を教える。

## 7.9 儀式と祝福の執行方法を教える

儀式と祝福の執行に関する指示は以下の出版物に記されている。

1. 本手引きの第20章
2. 『家族ガイドブック』18-25ページ
3. 『神権の義務と祝福B』40-46ページ

神権指導者はこれらの出版物を用いて兄弟たちに儀式と祝福の執行方法を教える。指導者は、それぞれの神権者が『家族ガイドブック』または『神権の義務と祝福B』を持つことで、これらの指示が載っている資料を確実に持てるようにする。

指導者は、大管長会が承認したものでないかぎり、儀式、祝福、または祈りに関する指示事項を記載したその他の出版物を作成したり、使用したりするべきではない。

## 7.10 その他の指針および方針

### 7.10.1 特別な必要を抱えた兄弟たち

特別な必要を抱えていると思われる兄弟には、病気の人、高齢者、妻に先立たれた人、離婚した人、家から出られない人、近親を亡くした人、または慢性的な病気を患っている家族の世話をしている人が含まれる。彼らが所属する定員会またはグループの会員たちは、そのような兄弟たちに助けを提供するべきである。

これらおよびその他の特別な問題を抱える兄弟たちは、長老定員会会長または大祭司グループリーダーのもとに相談に行くことができる。これらの指導者は耳を傾け、愛と励ましを与え、内密性を適切に保つべきである。ふさわしさや家族の繊細な事柄に関して、問題になり得る事柄を知った場合、指導者はその兄弟がビショップのもとへ行けるように助ける。

障がいのある兄弟たちを助けることについては、21.1.26 および disabilities.lds.org を参照する。

### 7.10.2 死に際して支援を提供する

ワードにおいてだれかが亡くなったとき、ビショップは大祭司グループリーダーまたは長老定員会会長に、遺族に連絡を取って慰め、必要を見極めて手伝いを提供するように要請することができる。ビショップは同様の手伝いを扶助協会会長に要請することもできる。メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者はこれらの働きを調整する。

ビショップはまた、メルキゼデク神権指導者に葬儀の準備を手伝うように要請することができる。葬儀に関する追加情報は、18.6 を参照する。

可能な場合、亡くなった会員がエンダウメントを受けていれば、神殿衣を着せて埋葬するべきである。ビショップは状況により、大祭司グループリーダーまたは長老定員会会長に次のように依頼することができる。すなわち、エンダウメントを受けている亡くなった男性に神殿衣を着せるか、または神殿衣が正しく着せられるように監督するよう、エンダウメントを受けている一人の男性に割り当てる。これらの指導者は、快く引き受けてくれる人にこれを割り当てるようにする。亡くなった会員に神殿衣を着せることに関する指針は、『エンダウメントを受けている人の埋葬衣に関する指示』に記されている。指導者は教会配送サービスを通してこの指示を入手することができる。

亡くなった会員に神殿衣を着せることに関する追加の指示について、ビショップは『手引き 第1部』3.4.9 を参照することができる。

長老定員会会長、大祭司グループリーダー、ホームティーチャー、およびその他の兄弟たちは、遺族が死から立ち直るまでの間、引き続き遺族に手伝いを提供し、彼らを慰め、援助する。

### 7.10.3 神殿衣とガーメントに関する指示

21.1.42を参照する。

### 7.10.4 活動のための資金

13.2.8を参照する。



## 8. アロン神権

8.1	アロン神権の定義と目的	50	8.9.5	ステーキ神権指導者会	57
8.1.1	アロン神権の職と義務	50	8.10	標準	57
8.1.2	アロン神権定員会	51	8.11	日曜日の定員会集会	57
8.1.3	アロン神権の目的	51	8.12	「神への務め」プログラム	57
8.2	両親と教会指導者の役割	51	8.13	活動	58
8.3	ワードアロン神権指導者	51	8.13.1	ミューチャル	58
8.3.1	ビショップリック	51	8.13.2	ビショップリックと青少年の話し合い	58
8.3.2	定員会会長会と祭司定員会におけるビショップの補佐	53	8.13.3	標準の集い	58
8.3.3	定員会書記	53	8.13.4	スカウト活動	59
8.3.4	ワード若い男性会長会（アロン神権定員会アドバイザー）	53	8.13.5	ステーキおよび複数のステーキによる活動	59
8.3.5	ワード若い男性書記	54	8.13.6	ユースカンファレンス	59
8.3.6	アロン神権定員会アドバイザー補佐	54	8.13.7	活動のための資金	59
8.3.7	スポーツコーチ	54	8.14	指導技術と指導者の資質について教える	60
8.4	ホームティーチング	54	8.15	ステーキアロン神権指導者	60
8.5	断食献金を集める	54	8.15.1	ステーキ会長会	60
8.6	10歳と11歳の少年が神権を受ける準備を助ける	55	8.15.2	ステーキ若い男性担当高等評議員	60
8.6.1	両親とホームティーチャー	55	8.15.3	ステーキ若い男性会長会	60
8.6.2	初等協会の指導者と教師	55	8.15.4	ステーキ若い男性書記	60
8.7	定員会会員が専任宣教師として奉仕するのに備えるのを助ける	55	8.15.5	ステーキアロン神権・若い女性委員会	60
8.8	18歳の若い男性へのメルキゼデク神権の授与	55	8.16	若い男性組織を地元の必要に合わせる	60
8.9	指導者会	56	8.17	その他の指針と方針	60
8.9.1	ワード神権役員会集会とワード評議会集会	56	8.17.1	ユースカンファレンスとダンスでの14歳未満の青少年	60
8.9.2	ビショップリック青少年委員会集会	56	8.17.2	『真理を守る—福音の参考資料』	61
8.9.3	定員会会長会集会	56	8.17.3	他の宗教の若い男性	61
8.9.4	ワード若い男性会長会集会	56	8.17.4	障がいのある若い男性	61



## 8. アロン神権

### 8.1 アロン神権の定義と目的

神権は神の力と権能である。神権は教会のふさわしい男性会員に授けられる。神権の鍵を持つ者は、福音の儀式を執行すること、福音を宣べ伝えること、地上における神の王国を統治することに関して指示を与える。

アロン神権は、「天使の働きと備えの福音の鍵を持つものである。この福音は、悔い改めとバプテスマと罪の赦しの福音」である(教義と聖約 84:26 - 27。教義と聖約 13:1; 107:20 も参照)。アロン神権はまた、「外形上の儀式を執行する力を持つ」(教義と聖約 107:14)。

神権の目的と神権の鍵に関する詳しい情報については第 2 章を参照する。

#### 8.1.1 アロン神権の職と義務

アロン神権の職には、執事、教師、祭司、およびビショップがある。それぞれの神権の職には、神権の儀式を執り行う権能を含む、奉仕の権利と責任がある。執事、教師、祭司の職への聖任に関する情報については、20.7 を参照する。

##### 執事

ふさわしい兄弟は、12 歳以上でアロン神権を受け、執事に聖任されることができる。執事には次の責任がある。

執事は義にかなった生活をし、神権を行使するふさわしさを保つ。同じ定員会の会員やその他の教会員に良い模範を示す。

執事は聖餐のパスをする(20.4.3 参照)。

執事は、「教会員を見守……るように任じられ」た常任教導者として奉仕する(教義と聖約 84:111)。また、「警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招かなければならない。」(教義と聖約 20:59) この責任には、定員会会員とその他の若い男性をフェローシップすること、会員に教会の集会について知らせること、集会で話をする、福音を分かち合うこと、証を述べるが含まれる。

執事は、ビショップが「現世の事柄をつかさどる」のを助ける(教義と聖約 107:68)。この責任には、断食献金を集めること、貧しい人や助けの必要な人の世話をすること、集会所や敷地の手入れをすること、教会の

集会でビショップのメッセンジャーを務めることも含まれる。

執事は福音を熱心に学ぶことによって定員会のレッスンに参加する。

執事は執事の職に関連するその他の点でビショップリックを助ける。また、「必要であれば、教会における教師のすべての職務について」教師を助ける(教義と聖約 20:57)。

##### 教師

ふさわしい兄弟は、14 歳以上で教師に聖任されることができる。教師は執事の責任をすべて負い、また次の責任もある。

教師は聖餐の準備をする(20.4.2 参照)。

教師は、「常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強め」る(教義と聖約 20:53)。これを行う一つの方法は、ホームティーチャーとして奉仕することである。

教師は、「教会の中に罪悪がないように、互いにかたくなになることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計ら[う]。」(教義と聖約 20:54) この責任には、平和を作り出す人となること、道徳的に誠実で高潔な模範となることが含まれる。

教師は、「教会員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たすように取り計ら[う]。」(教義と聖約 20:55)

教師は教師の職に関連するその他の点でビショップリックを助ける。

##### 祭司

ふさわしい兄弟は、16 歳以上で祭司に聖任されることができる。祭司は執事と教師の責任をすべて負い、また次の責任もある。

祭司は、「説き、教え、説き明かし、勧め、……また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧め」る(教義と聖約 20:46 - 47)。

祭司は、ビショップから承認された場合、バプテスマを執行し、アロン神権を受け、執事、教師、祭司を聖任する(教義と聖約 20:46, 48 参照)。

祭司は、承認された場合、聖餐台に着き、聖餐の祈りをささげることにより、聖餐を執行することができる

(教義と聖約 20:46, 77, 79 参照。本手引きの 20.4.3 も参照)。

祭司は祭司の職に関連するその他の点でビショップリックを助ける。

### ビショップ

アロン神権に関するビショップの責任は、8.3.1 に概説されている。

## 8.1.2 アロン神権定員会

神権定員会とは同じ神権の職を持つ兄弟たちの組織である。定員会のおもな目的は、人々に奉仕し、一致と兄弟愛をはぐくみ、定員会会員に教義や原則、義務を指導することである。

ビショップは、執事を 12 名以下の会員から成る定員会に、教師を 24 名以下の会員から成る定員会に、また祭司を 48 名以下の会員から成る定員会に組織する(教義と聖約 107:85 - 87 参照)。定員会会員がこれらの人数を超える場合、ビショップはその定員会を分割することができる。それを行う前に、ビショップは、分割後の定員会の規模、指導者になれる人、また定員会会員への影響を考慮する。

若い男性が少ないワードまたは支部では、アロン神権定員会は、一緒にレッスンや活動を行うことができる。

## 8.1.3 アロン神権の目的

若い男性は、準備と個人としての霊的成長の時期にある。したがって、両親、ビショップリック、およびその他のアロン神権指導者は、それぞれの若い男性が次のことができるように助ける。

1. イエス・キリストの福音に帰依し、その教えに従って生活するようになる。
2. 神権の召しにおいて忠実に奉仕し、神権の職に伴う責任を果たす。
3. 有意義な奉仕を行う。
4. メルキゼデク神権と神殿の儀式を受ける準備をし、ふさわしい生活をする。
5. 専任宣教師として立派に奉仕できるように準備をする。
6. 可能な限りの教育を受ける。
7. ふさわしい夫また父親になる準備をする。
8. 女性、少女、子供たちにふさわしい敬意を払う。

両親と指導者は、家庭の夕べ、家族の聖文学習、集会、活動、面接で、また「神への務め」プログラム(8.12 参照)への参加を促すことによって、若い男性がこれらの目的を達成するのを助ける。

若い男性は、集会や活動でこれらの目的を復唱するべきではない。

## 8.2 両親と教会指導者の役割

子供の霊的また物理的な福祉に対する第一の責任は両親にある(教義と聖約 68:25 - 28 参照)。ビショップとその他のアロン神権指導者は、この責任において両親を支援するが、両親に取って代わることはない。指導者は次の方法で支援を提供する。

両親を支援し、彼らの息子が神権の聖任、神殿のエンダウメント、専任宣教師としての奉仕、神殿結婚、父親としての務めに備えられるよう助ける。

若い男性と両親がよく意思の疎通を図るように励ます。

定員会の活動やその他の青少年の行事が家族にとって過度の負担にならないように、また家族の活動と競合しないようにする。

指導者は特に、福音に従って生活するためのしっかりとした支援が家庭で得られない若い男性に細心の注意を払う。

## 8.3 ワードアロン神権指導者

本章では、個々の若い男性とその家族を強めるような方法でアロン神権定員会を管理運営することに焦点が当てられている。アロン神権指導者は、指導の一般的な原則の概説されている第 3 章を度々読み返す。これらの原則には、霊的に備えること、評議会に参加すること、人々に仕え、教え、導くこと、およびイエス・キリストの福音を教えることが含まれる。

本章では、*定員会指導者*という言葉は、執事定員会会長会、教師定員会会長会、ビショップと祭司定員会におけるビショップの補佐を指す。若い男性会長会の会員は、定員会アドバイザーであり、定員会指導者ではない。

### 8.3.1 ビショップリック

ビショップは、ワードのアロン神権定員会を監督する。ビショップとその顧問は、ワードのビショップリックおよびアロン神権の会長会を構成する(教義と聖約 107:13 - 15 参照)。彼らは、両親およびその他の指

導者と密接に協力して、個々の若い男性を見守り、強める。

### ビショップ

ビショップはワードの管理大祭司であり、また祭司定員会の会長でもある（教義と聖約 107：87 - 88 参照）。支部では、支部会長が祭司定員会の会長を務める。

祭司定員会の指導者として、ビショップは、二人の補佐とともに奉仕する。補佐は二人とも祭司である。ビショップは多くの責任を補佐に委任するが、定員会会長として直接、また活発に務めを果たす。ビショップは定員会に愛と一致の精神がはぐくまれるようにする。ビショップは定期的に定員会会長会集と日曜日の定員会集会に出席し、管理する。ビショップは定員会の奉仕と活動に参加する。ビショップは不在の場合、定員会を指導する責任を果たすよう補佐の一人に委任する。ビショップが解任されると、補佐たちも解任される。

ビショップは、祭司の職に聖任される備えをしている若い男性を面接する。

### ビショップおよび顧問

ビショップは、執事定員会を監督するよう一人の顧問に割り当て、また教師定員会を監督するよう別の顧問に割り当てを与える。これらの顧問は定員会に愛と一致の精神がはぐくまれるようにする。彼らはできるだけ頻繁に定員会会長会集と日曜日の定員会集会に出席する。また、定員会の奉仕と活動にも参加する。

ビショップおよび顧問は、定員会アドバイザーの助けを得て、定員会指導者に指導技術を教え、また彼らが責任を果たすのを助ける。

ビショップは、自分の指示の下でワードの若い男性組織を監督するよう一人の顧問に割り当てを与える。この顧問は若い男性に関する事項についてワード若い男性会長と定期的に話し合う。この顧問はビショップリック集会でこれらの話し合いについて報告する。

ビショップは、少なくとも年に1度、若い男性一人一人と面接を行う。可能であれば、ビショップは、16歳と17歳の若い男性一人一人を年に2度面接する。これができなければ、これらの面接の一部を顧問に割り当てる。定員会を監督するビショップリックの顧問は、12歳から15歳までの若い男性一人一人を、ビショップの年次面接から6か月後に面接する。青少年の面接に関する指針について、ビショップと顧問は、『手引き第1部』の7.1.7を参照するとよい。

ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、執事と教師の職に聖任される備えをしている若い男性を面接する。

ビショップおよび顧問は、ホームティーチャーとして奉仕するように教師と祭司に割り当てを与える。

ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、執事定員会会長、教師定員会会長、また祭司定員会補佐と定期的に面接する。これらの面接で、ビショップリックの一員と定員会指導者は、個々の定員会会員の進歩状況と定員会全体の進歩状況について話し合う。

ビショップおよび顧問は、それぞれの若い男性が初等協会からアロン神権に進むとき、神権の職に聖任されるとき、また「神への務め」プログラムを完了したとき、聖餐会で一人一人の達成認め、表彰する。

スカウト活動が教会によって承認されている地域では、ビショップおよび顧問は、スカウト活動を監督する（8.13.4 参照）。

ビショップは若い男性会長を召し、任命する。ビショップは、若い男性会長会の顧問、若い男性書記、定員会アドバイザー補佐、また若い男性とともに奉仕する他の人々を召し、任命するようにビショップの顧問に割り当てを与えることができる。

ビショップは祭司定員会における補佐を召す。ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、執事および教師定員会会長と定員会書記を召す。ビショップリックは、これらの職にだれを召すかを定めるためによく祈って協議する。指導者を年齢や定員会に所属した順番だけで選ばないようにする。ビショップおよび顧問は、だれを召すか靈感を求めるとき、ワード若い男性会長と協議するとよい。

ビショップリックの一員は、執事または教師定員会会長として奉仕する若い男性を召すとき、その若い男性に顧問と書記として召す人を推薦するよう求める。その際、だれを推薦するかについて主の導きを求めながら、よく祈ってこの責任を果たすように定員会会長に助言する。しかしながら、だれを召すかについて靈感を受ける最終的な責任はビショップリックにあることも定員会会長に理解させる。

ビショップリックの一員は、若い男性にこれらのどの召しを受けて奉仕するよう依頼する前にも、その両親に許可を求める。

これらの召しを与えた後、ビショップリックの一員は、定員会集会で賛意の表明を求めるために定員会指導者の名前を提示する。その後、ビショップまたは割り当てを受けた顧問がその若い男性を任命する。祭

司定員会における補佐はビショップが任命する。ビショップはまた、執事定員会会長と教師定員会会長を任命する。彼らの召しに伴う神権の鍵を授けることができるのはビショップだけだからである。ビショップは、執事および教師定員会会長の顧問と定員会書記を任命するようにビショップの顧問に割り当てることができる。

ビショップリックの一員は、聖餐会でこれらの召しを発表するが、賛意の表明は求めない。

### 8.3.2 定員会会長会と祭司定員会におけるビショップの補佐

アロン神権定員会指導者は、定員会会員とともに「評議会の席に着き、彼らにその職の義務を教える」（教義と聖約 107:85 - 86 参照）。彼らは責任を果たすに当たって靈感を求め。彼らはまた、ビショップリックと定員会アドバイザーから指示と指導を受ける。アロン神権定員会会長は、自分が管理する定員会の業を導く神権の鍵を持つ。執事および教師定員会会長の顧問と、祭司定員会におけるビショップの補佐は、神権の鍵を持たない。

アロン神権定員会会長会と、祭司定員会におけるビショップの補佐は、定員会会員および定員会の年齢のその他の若い男性を見守り、フェローシップする。彼らは新会員やあまり活発でない会員、また障がいのある会員やその他の特別な助けを必要とする会員に特に注意を払う。定員会指導者は、定員会会員の間の愛と兄弟同士のつながりを増すように努める。

アロン神権定員会指導者は、定員会会員に、神権の割り当て、指導の経験、霊的な成長といった機会を提供する。彼らは以下を行う。

定員会会長会集を定期的に行う。

日曜日の定員会集を司会する。

ミーチャルを含む定員会活動の計画を手伝う。

定員会会員が「神への務め」プログラムにおける目標を設定し、達成するのを助ける。

時折、定員会アドバイザーの助けを得て、日曜日の定員会集会で福音を教えることができる。

執事定員会会長、教師定員会会長、および祭司定員会補佐の一人は、ビショップリック青少年委員会で奉仕する（18.2.9 参照）。

### 8.3.3 定員会書記

定員会書記には次の責任がある。

出席情報をまとめ、見直し、若い男性書記に提出する。

定員会指導者と相談して、会長会集の議事予定案を準備する。また、これらの集会に出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を把握する。

定員会指導者とアドバイザーが活動を計画するのを助けることができる。

### 8.3.4 ワード若い男性会長会（アロン神権定員会アドバイザー）

ワード若い男性会長会は会長と二人の顧問から成る。彼らはアロン神権定員会に対するアドバイザーを務める。彼らはビショップリックの指示の下で働く。また、ステーク若い男性会長会からオリエンテーションと継続した支援を受ける。

#### ワード若い男性会長

若い男性会長には次の責任がある。

ワード神権役員会およびワード評議会の一員として働く。この役員会と評議会の一員として、信仰を築き、個人と家族を強める働きに参加する（第4章参照）。また、ビショップリック青少年委員会の一員でもある（18.2.9 参照）。

本手引きを資料として使用して、その他の若い男性指導者に彼らの義務について教える。

ワード若い男性組織の記録、報告、予算、財政を監督する。若い男性書記がこの責任を助ける。

#### ワード若い男性会長および顧問

ワード若い男性会長および顧問は、アロン神権定員会アドバイザーとして奉仕する。会長は祭司定員会に対するアドバイザー、第一顧問は教師定員会に対するアドバイザー、第二顧問は執事定員会に対するアドバイザーである。彼らには次の責任がある。

アロン神権の各定員会が神権の義務を果たせるよう導く。

それぞれの若い男性について知り、その才能、関心事、直面している問題に精通する。彼らは若い男性の各人を強める方法を探し、証を強めるのを助け、また定員会に参加するように励ます。新会員の若い男性とあまり活発でない若い男性に特に注意を払う。

家族における若い男性一人一人を支援する。

若い男性が 8.1.3 に挙げられている目的を目指して努力するのを助ける。これには、「神への務め」プログラ

ムにおける目標を設定し、達成するのを助けることも含まれる。

神権役員会集会和ワード評議会集会で与えられた割り当てに応じて、定員会会長が奉仕委員会を組織するのに協力することができる。

若い男性が必要としている事項について両親と神権指導者と協議することができる。

定期的の日曜日の定員会集会でレッスンを教える。この責任をアドバイザー補佐と分担することができる。彼らは定員会における福音の学習と教授を改善する働きを監督する。この働きにおいて、5.5.3 および 5.5.4 にある原則に従う。

アロン神権定員会会長会集會に出席し、必要に応じて指導を与える。彼らは、ビショップリックが定員会会長会と祭司定員会補佐に指導技術と指導者の資質について教えるのを支援する(8.14 参照)。

定員会指導者と協力して、ミューチャル活動を含む定員会の活動を計画し実施する。

ビショップリックと定員会指導者が定員会の一致を築くのを援助する。

若い男性会長会集會を行う。また、若い男性組織を監督するビショップリックの顧問と定期的に会合を持つ。

スカウト活動が教会によって承認されている地域では、若い男性会長会の会員は、通常、スカウト指導者として奉仕するように召される。しかし、スカウト指導者補佐として奉仕するように召されることもある(8.13.4 参照)。

### 8.3.5 ワード若い男性書記

若い男性書記には次の責任がある。

若い男性会長会と相談して、会長会集會の議事予定案を準備する。また、これらの集會に出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を把握する。

定員会書記を指導し、定員会の出席記録をつける彼らの働きを監督する。少なくとも四半期に1度、出席情報をまとめ、若い男性会長とともに見直し、ワード書記に提出する。

ビショップリックと若い男性会長会が、集會に定期的に出席していない若い男性と、もうすぐ神権の別の職に聖任される資格が間もなくできる若い男性を確実に認識するようにする。

「神への務め」プログラムに参加する個々の若い男性の進捗状況を記録する割り当てを受けることがある。

若い男性会長会が年間予算案を作成し、支出を管理するのを助ける。

### 8.3.6 アロン神権定員会アドバイザー補佐

ビショップリックは、若い男性会長会が責任を果たすのを助けるために定員会アドバイザー補佐を召すことができる。定員会アドバイザー補佐は、日曜日の定員会集會でレッスンの幾つかを教えることができる。また、ミューチャルを含む活動で援助することもできる。

スカウト活動が教会によって承認されている地域では、定員会アドバイザー補佐は、通常、スカウト指導者補佐として奉仕するように召されるが、スカウト指導者として奉仕するように召されることもある(8.13.4 参照)。

### 8.3.7 スポーツコーチ

ビショップリックは、若い男性スポーツチームのために男性のコーチを召すことができる。コーチは若い男性会長会の指示の下で奉仕する。スポーツプログラムに関する情報については、13.6.21を参照する。

## 8.4 ホームティーチング

ホームティーチングは、教師、祭司、およびメルキゼデク神権者に託された神権の責任である。アロン神権者にホームティーチングの割り当てを与えることについての指示をはじめ、ホームティーチングに関する詳細な情報については、7.4を参照する。

## 8.5 断食献金を集める

ワードの会員宅が地理的に密集しており、また状況が安全と認められる所では、ビショップは、アロン神権者、特に執事に、断食献金を納める機会を会員に与えるために会員の家族と毎月連絡を取るよう指示する。

断食献金を集めるとき、神権者は二人一組で行くべきである。必要であれば、メルキゼデク神権者がアロン神権者に同行するとよい。

会員は、断食献金を集める人に什分の一などその他の献金を渡すべきではない。

断食献金を集める人は、ビショップリックの一員に献金を速やかに渡す。

## 8.6 10歳と11歳の少年が神権を受ける準備をするのを助ける

### 8.6.1 両親とホームティーチャー

10歳または11歳の少年がアロン神権を受ける準備をするのを助ける第一の責任は、少年の両親にある。その少年の家族とホームティーチャーが援助する。父親がいない、あるいは活発な教会員ではない家庭では、ホームティーチャーの支援が特に重要であろう。

### 8.6.2 初等協会の指導者と教師

初等協会の指導者と教師は、10歳と11歳の少年の家族を支援し、その少年がアロン神権を受けるのを助けるのを助けられるようにする。

毎年、初等協会指導者は、ビショップリックの指示の下で神権予行プログラムを準備する(11.5.5参照)。執事定員会会長と若い男性会長も参加するよう招待するとよい。

## 8.7 定員会会員が専任宣教師として奉仕するのに備えるのを助ける

主は、能力のあるそれぞれの若い男性が専任宣教師として奉仕するために霊的、身体的、精神的、情緒的、また経済的に備えるように期待しておられる。若い男性は伝道に出ることを早く決意すればするほど、より確実に伝道に出られるであろう。

それぞれの若い男性は、自分自身の証を増し、主と自分の関係を強めることによって準備すべきである。また、聖文、特にモルモン書を研究することによって準備すべきである。「神への務め」プログラムで提案されている目標と活動の多くは、若い男性が宣教師として奉仕するのに備える助けとなる。

若い男性が専任宣教師としての奉仕に備えるのを助ける第一の責任は、両親にある。その若い男性の家族やビショップリック、アロン神権定員会会長とアドバイザー、ホームティーチャー、その他の人々は、両親がそのように働きかけるのを支援する。

定員会会員が伝道に出る備えをするのを助けることは、ビショップリックと定員会アドバイザーにとって優先順位の高い事項である。この準備は執事定員会に始まり、若い男性のアロン神権の各年代にわたって継続する。指導者は、定員会集会、会長会集会、定員会活動、その他の集會に伝道の準備を盛り込む方法を探す。

ビショップリックと定員会アドバイザーは、次の方法で若い男性が専任宣教師として伝道するのに備えるのを助ける。

定員会会員が聖霊の影響力を感じ、認識する機会を、定員会集会と活動で与える。

イエス・キリストの贖罪、預言者ジョセフ・スミスを通じて行われた福音の回復、救いの計画、バプテスマ、聖霊の賜物など、宣教師が教える基本的な教義を若い男性に教える。これらの教義を教える資料として『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使うとよい。

毎日自分で聖文、特にモルモン書を研究するように若い男性を励ます。また、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を研究するように若い男性を励ます。

専任宣教師に期待されることについて若い男性と両親に教える。期待される事項には、福音の知識と証、本人のふさわしさ、身体の健康、社会的また情緒的な成熟、経済的な準備が含まれる。また、これらの期待に到達する目標を設定するように若い男性を導く。

セミナーに出席するように若い男性に勧める。

教師と祭司へのホームティーチングの割り当てなど、奉仕の機会を与える。

定員会集会やその他の集會で福音を教える機会を若い男性に与える。

友人や家族と福音を分かち合うように若い男性に勧める。

公式な場と非公式な場の両方で、模範的な帰還宣教師から学んだり、彼らと交流したりする機会を若い男性に与える。

この準備の一環として、ビショップリックと定員会アドバイザーは、宣教師準備クラスに出席するように祭司の年齢の若い男性に勧める。これらの若い男性の人数によって、このクラスは、ビショップリックがワードレベルで設けるか、あるいはステーク会長会がステークレベルで設けることができる。このクラスの主要な資料は、聖典と『宣教師の手引き』『わたしの福音を宣べ伝えなさい』である。

ビショップに対する追加の指示は、『手引き 第一部』4.2に記されている。

## 8.8 18歳の若い男性へのメルキゼデク神権の授与

ふさわしい兄弟は、18歳またはそれ以上の年齢でメルキゼデク神権を受け、長老に聖任されることができ。ただし、若い男性の証、成熟度、卒業、同年代

の友人のもとにとどまりたいという要望、大学への出席などの個々の事情により、若い男性が18歳の誕生日後すぐに長老に聖任されるようにするか、それとも彼を祭司定員会にとどめておくか、ビショップが決める。それを決める際、ビショップは、まず若い男性およびその両親と相談する。すべてのふさわしい兄弟を、19歳までに、あるいは大学に通うか、軍に入隊するか、または常勤の仕事に就くために家を離れる前に、長老に聖任するべきである。

若い男性指導者と長老定員会指導者は、若い男性一人一人が長老定員会へ円滑に移行できるよう協力する。

## 8.9 指導者会

### 8.9.1 ワード神権役員会集会和ワード評議会集會

若い男性会長は、ワード神権役員会およびワード評議会の一員として奉仕する（第4章参照）。

### 8.9.2 ビショップリック青少年委員会集會

ビショップはビショップリック青少年委員会集會を管理する。この委員会は、ビショップリック、ビショップの祭司定員会補佐の一人、執事および教師定員会会長、若い女性クラス会長、若い男性および若い女性会長から成る。詳しい情報については、18.2.9を参照する。

### 8.9.3 定員会会長集會

各定員会会長会は定期的に会長集會を開く。ビショップは、祭司定員会会長集會に定期的に出席して管理し、補佐の一人が司会を行う。執事定員会会長と教師定員会会長は、彼らの会長集會を司会し、ビショップリックの一員が出席しなければ管理する。定員会アドバイザーと書記もこれらの集會に出席する。書記は議事録を取り、割り当ての進捗状況を把握する。

議事予定案には次の事項を含めるとよい。

1. 新会員とあまり活発でない会員をはじめ、定員会会員を強める方法を計画する。また、他の宗教の若い男性をフェローシップする方法も計画する。
2. 神権指導者の責任に関する聖句と教会指導者の指示を読んで話し合う。
3. 必要に応じて、定員会会員を訪問する計画を立てる。
4. それぞれの若い男性が「神への務め」プログラムを達成するのに助ける方法について話し合う。

5. 定員会集會と活動を計画する。

6. ビショップリック青少年委員会集會で話し合う事項を検討する（18.2.9参照）。

7. ビショップリックまたは定員会アドバイザーから指導訓練を受ける。

スカウト活動が教会によって承認されている地域では、上記の事項について話し合った後、定員会会長集會を使って定員会のスカウトユニットに関する計画を立てることができる。青少年と成人のスカウト指導者がまだ出席していなければ、この話し合いのために彼らを集會に招くとよい。スカウトユニットで指導者の地位にある他の宗教の若い男性にも参加してもらうとよい。集會のこの部分も引き続き定員会会長が管理する。定員会会長は、青少年スカウト指導者に集會の司会をしてもらうことができる。定員会アドバイザーは、スカウトの各活動が8.1.3にある目的と決して矛盾しないようにする。

### 8.9.4 ワード若い男性会長集會

若い男性会長会は定期的に会長集會を開く。集會は会長が管理し、司会する。書記は出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を把握する。

議事予定案には次の事項を含めるとよい。

1. 各定員会の若い男性が8.1.3にある目的をどのように達成しているかを評価する。個々の若い男性がこれらの目的をもっと完全に達成するのに助ける方法を計画する。
2. 神権指導者の責任に関する聖句と教会指導者の指示を読んで話し合う。
3. 定員会指導者に彼らの義務を教える計画を立てる。
4. 定員会活動の効果について話し合う。有意義な活動の計画を立てるのに若い男性を参加させる方法について話し合う。
5. 日曜日の定員会集會で福音の指導について話し合い、改善する方法を計画する。
6. 出席記録を検討する。新会員とあまり活発でない若い男性が参加するのを支援する方法を計画する。
7. 若い男性の予算と支出を検討する。

若い男性組織を監督するビショップリックの顧問は、報告を受け、また助言を与えるために、折にふれて若い男性会長集會に出席するとよい。若い男性会

長会は、必要に応じて、定員会指導者とアドバイザー補佐を出席するように招くとよい。

### 8.9.5 ステーク神権指導者会

ステーク会長会は毎回ステーク大会と合わせてステーク神権指導者会を開く(18.3.1, 第2項参照)。ステーク会長会はまた、年内にさらにもう1度ステーク神権指導者会を開き、そのような集会を合計で年内に3度開く。

ワード若い男性会長会と書記はこれらの集会に出席する。執事および教師定員会会長会、ならびに祭司定員会補佐が召しを果たすのに特に役立つ事項が集会で採り上げられるような場合、彼らを時折招待するとよい。

## 8.10 標準

標準は、教会員を強め、導くための確かな指針となる。若い男性は福音の標準を守ることにより、教会と社会に大いに貢献するようになるであろう。また、神殿の儀式を受けるのにふさわしい人になれるであろう。

小冊子『若人の強さのために』の中で、大管長会は、福音の標準を概説し、応用する方法を青少年に教えている。すべての若い男性は、『若人の強さのために』を持つべきである。そして標準についてしばしば復習し、自分が標準にどれほどよく従って生活しているか考えてみるべきである。

定員会アドバイザーとアドバイザー補佐は、小冊子に書かれた標準をよく研究し、それらに従う模範を示すべきである。レッスン、ミューチャル活動、キャンプ、ユースカンファレンス、その他の活動でこれらの標準をしばしば教え、浸透させる方法を見つけるべきである。

ビショップリックと定員会アドバイザーは、両親に、福音の標準を研究し、それらに従う模範を示し、息子と標準について話し合うように勧めることができる。彼らはまた、若い男性に、家庭の夕べのレッスンや話の資料として『若人の強さのために』を使用するように勧めることができる。

### 8.11 日曜日の定員会集會

日曜日の神権会はメルキゼデク神権者とアロン神権者を対象とする開会行事で始め、その司会はビショップリックの一員が行う(18.2.4 参照)。

開会行事の後、神権者は所属する定員会の集会に出席する。通常、アロン神権定員会は個別に集会を行う。しかしながら、若い男性が少ないワードまたは支部では、定員会はレッスンを一緒に行うことができる。定員会と一緒に集会するとしても、定員会は個別に組織し、各定員会のために指導者を召し、支持を取るべきである。可能になったら、各定員会は個別に集会を始めるべきであり、また会長会の全員と書記がいるようにするべきである。

定員会集会の目的は、定員会の業務を行い、神権の義務を学び、イエス・キリストの福音を研究することである。定員会指導者およびアドバイザーは、これらの目的を達成するために祈りをもって集会を計画する。彼らは、定員会会員が、可能であれば自分の聖典を持って来るように促す。各レッスンでの必要に応じて、指導者は、若い男性に教会承認のその他の資料を持って来るよう求めてもよい。

上位の管理役員が出席しないかぎり、定員会集会は定員会会長が管理する。司会は定員会会長会の一員、または祭司定員会補佐が行う。複数の定員会と一緒に集会する場合は、祭司定員会補佐、教師定員会会長、執事定員会会長が交代で司会を行う。

定員会集会のレッスンは、通常、定員会アドバイザーまたはアドバイザー補佐が教える。これらの兄弟は、必要に応じて、この責任を分担することができる。ビショップリック、定員会指導者、およびその他の定員会会員は、時々レッスンを教えるのを手伝うことができる。定員会指導者または会員が教える場合、アドバイザーは、彼らが準備するのを助ける。教える人は、5.5.4の原則に従うべきである。

アロン神権の職を持っている成人はその定員会の会員である。しかしながら、彼らは日曜日のレッスンは長老または大祭司とともに受ける。ビショップはまた、長老定員会とともに集会に参加するよう18歳のアロン神権者を招くことができる。

定員会集会の時間中、若い女性と若い男性は、ビショップリックの指示に従って、折にふれて一緒に集会を行うことができる。

### 8.12 「神への務め」プログラム

すべてのアロン神権者は「神への務め」プログラムに参加するように奨励されている。このプログラムは、霊的な強さを増し、神権の義務を学んで果たし、メルキゼデク神権を受けて専任宣教師として奉仕する準



備をし、身体を健康を維持し、また他の人々との関係を改善する機会をアロン神権者に与える。

両親と指導者は、若い男性に、最初の神権の職への聖任を受けたらすぐにこのプログラムに参加するように勧める。若い男性は、アロン神権者である数年間にわたって目標を設定し続ける。

## 8.13 活動

定員会指導者と定員会アドバイザーは、定員会会員の必要と関心に基づいて活動を計画する。彼らは、最近教会に加入した人々やあまり活発でない人々をはじめ、すべての若い男性に手を差し伸べるように特別な努力を払う。活動を、若い男性が「神への務め」プログラムの目標を達成する助けとすることができる。定員会指導者は、活動の計画と実施にできるだけ参加するべきである。

定員会の活動計画は、ビショップリックの一員の承認を受け、第13章にある指針に従うものであるべきである。

### 8.13.1 ミューチャル

定員会活動の大半はミューチャルと呼ばれる時間に行われる。ミューチャルという言葉は、互いに敬い助け合っていく中で共有していく様々な体験と、一緒に学ぶ機会を示している。ミューチャル活動は、他の人に奉仕し、霊的、社会的、肉体的、知的に成長する様々な機会を青少年に与えるものとするべきである。

ミューチャルは、通常週に1回行われる。交通の便またはその他の制約により実行できない場合には、頻度を減らすこともできるが、少なくとも月に1回行うべきである。長さは1時間から1時間半とし、日曜日や月曜日を除く日の日中または夕べに開くべきである。

若い男性のためのミューチャルは、ビショップリックの指示の下で、若い男性会長会が監督する。

若い男性・女性の会長会は折に時々、ミューチャルの活動を用いて、ステーキまたは複数のステーキによる活動の準備を行うことができる（13.3 参照）。

#### ミューチャルの年間テーマ

毎年、大管長会はミューチャルのテーマを発表する。指導者はこのテーマをミューチャルの開会行事および他の青少年の活動で強調する。

#### 開会行事

ミューチャルは通常、ビショップリックの一員が管理する短い開会行事で始める。ビショップの祭司定員会補佐とローレルクラス会長会が順番に司会をする。成人指導者はこの責任を果たせるよう、指導者として召されている青少年を備える。

開会行事は賛美歌と祈りを含め、音楽の発表、青少年が才能や証を分かち合う機会を盛り込んでよい。

#### 定員会とクラスの活動または合同活動

開会行事の後、アロン神権定員会と若い女性クラスは通常別々の活動を行う。若い男性の人数が非常に少ないワードや支部では、若い男性全員と一緒に活動を行うことができる。また、定員会とクラスの様々な組み合わせによる活動を計画してもよい。

すべての若い男性と女性の合同活動は、通常月に1回行われる。これらの活動はビショップリック青少年委員会で日程を組み、計画し、検討される。活動はビショップリックの指示の下で実行される。

適切な活動の例としては、奉仕プロジェクト、音楽、ダンス、演劇、文化的行事、スポーツや運動競技、職業の研究、野外活動などが挙げられる。

### 8.13.2 ビショップリックと青少年の話し合い

ビショップリックと青少年の話し合いはビショップリックにより計画され、行われる。折にふれて開かれるこの話し合いは、ビショップにとって、青少年の興味を引き、彼らを霊的に強めるようなテーマで話をする機会となる。『若人の強さのために』や『真理を守る——福音の参考資料』に記されたトピックは特に適切なものである。時々、ビショップリックはゲストを招いて参加してもらってもよい。ゲストは通常、ワードまたはステーキの会員とする。

ビショップリックと青少年の話し合いは、青少年全員または特定の年齢別グループを対象にすることができる。ミューチャルの間、日曜日の定員会集会および若い女性クラス、そのほか家族に過度な負担をかけない時間を開くことができる。頻度についてはビショップリックが決定する。ビショップリック青少年委員会で予定を立てる。

### 8.13.3 標準の集い

標準の集いは、道徳的な価値観と永遠の目標を強調する特別プログラムである。それは、『若人の強さのために』に記されている標準を実践するよう、若い男性を促すものである。同冊子は、若い男性を救い主にさらに近づけてくれる。

この集いは年に1度、あるいは必要に応じてそれ以上、通常はミーチャルのときに行う。定員会やワード、複数のワード、ステークなどの単位で行うことができる。テーマの発表の仕方により、アロン神権定員会をどのように組み合わせてもよい。この行事に、母親と父親のいずれかあるいは両方、若い女性にも参加してもらうことができる。

#### 8.13.4 スカウト活動

スカウト活動が教会によって承認されている地域では、定員会はミーチャルの間にスカウト活動に参加することができる。スカウト活動は、若い男性が日曜日に学ぶ福音の原則を実践するのに助けとなるものであるべきである。

ビショップリックの各員は、自分が監督するアロン神権定員会のスカウトプログラムを監督する。ワード若い男性会長会の会員は、通常、スカウト指導者として奉仕する。あるいは、ビショップリックは、定員会アドバイザー補佐をスカウト指導者として召し、若い男性会長会の会員をスカウト指導者補佐として奉仕するよう召すこともできる。

ビショップは、通常、各定員会で、スカウトプログラムにおける青少年の指導者として奉仕するように定員会会長または祭司定員会におけるビショップの補佐の一人を指名する。しかしながら、ビショップは、別の若い男性を青少年スカウト指導者に指名することもできる。

スカウト活動が教会によって承認されている地域では、12歳から15歳の若い男性が登録する。16歳と17歳の若い男性は、上位の隊に進もうとしている場合、あるいはステーク会長またはビショップがこの年齢の若い男性のためにスカウトプログラムを後援することを選んでいない場合、登録するべきである。

すべての成人スカウト指導者は、奉仕を始める前に登録し、また責任に関する適切な訓練を受けるべきである。合衆国では、登録した成人指導者はボーイスカウトアメリカ連盟から法的な保護を受ける。

スカウト活動のための若い男性と成人指導者の登録費はすべて、あるいは一部、教会が支払う。教会は隊の設立費用も支払う。登録と設立にかかる費用はステーク当座預金口座から支払われる。教会は予算交付金に加えてこれらの基金を支給する（訳注——日本ではステークのMLSを使って、施設管理基金の費目から支払う）。

ビショップリックは、ワードスカウト委員会を組織し、スカウト活動がアロン神権定員会に対する支援活動として適切に機能するようにする。

若い男性が少ない所では、複数のワードまたは支部で、あるいは場合によってはステークまたは地方部全体で一つのスカウト隊を組織することができる。

スカウト活動の資金に関する情報については、8.13.7を参照する。スカウト活動に関する追加の情報については、教会の『スカウト活動の手引き』(Scouting Handbook [英語])を参照する。

#### 8.13.5 ステークおよび複数のステークによる活動

13.3を参照する。

#### 8.13.6 ユースカンファレンス

13.4を参照する。

#### 8.13.7 活動のための資金

教会が承認した地域のスカウト活動を含むアロン神権活動の資金は、ワード予算で賄うべきである（13.2.8参照）。

年次キャンプまたは類似の活動のための資金

年次長期スカウトキャンプ、または若い男性の類似の活動のために使う十分な資金がワード予算にない場合、指導者は、その一部またはすべての支払いを参加者に求めることができる。参加者からの資金が十分でない場合、ビショップは、13.6.8の指針に沿った資金獲得活動を行うことを、一つのグループに対して年に1度許可することができる。

いかなる場合も、年次キャンプまたはそれに類する活動にかかる経費または移動は、妥当な範囲にとどめるべきである。また、自己資金が足りないために会員が参加できないということがないようにするべきである。

器材や消耗品のための資金

可能ならば、青少年の年次キャンプでワードが必要とする器材および消耗品はワード予算で購入する。ワード予算が十分ではない場合、ビショップは、年に1度、13.6.8にある指針に従って、グループでの資金獲得活動を認可することができる。

ワード予算からであれ資金獲得活動からであれ、教会の資金で購入した器材および消耗品は、教会のためにだけ使用する。個人または家族が私的に使用するものではない。

教会の資金を使って、個人のためのユニフォームを購入することはできない。

## 8.14 指導技術と指導者の資質について教える

定員会アドバイザーとアドバイザー補佐は、定員会会長会およびビショップリック青少年委員会とともに働くとき、若い男性が活動を計画し実施するのを助けるとき、また若い男性が奉仕するのを手伝うとき、指導技術と指導者の資質について教える。この取り組みにおいて、アドバイザーとアドバイザー補佐は、本手引きの第3章を参照するとよい。

## 8.15 ステークアロン神権指導者

### 8.15.1 ステーク会長会

ステーク会長会の会員は、ステークにおけるアロン神権を監督する。この責任の一部として、ステーク会長会は、ビショップに、ワードにおけるアロン神権を管理する彼らの義務を教える。

ステーク会長は、ステーク若い男性組織とステークのスカウト活動（あるいは、スカウト活動が教会によって承認されていない地域では若い男性のためのその他のステーク活動）を監督するように一人の顧問に割り当てを与える。スカウト活動が教会によって承認されている地域では、この顧問は、スカウト活動の責任について適切な訓練を受けるべきである。

ステーク会長会の責任に関する詳しい情報については、15.1を参照する。スカウト活動に関する詳しい情報については、教会の『スカウト活動の手引き』（Scouting Handbook〔英語〕）を参照する。

### 8.15.2 ステーク若い男性担当高等評議員

ステーク会長は、ステーク若い男性会長会と協力して働くように高等評議会の一員に割り当てを与える。この高等評議員の責任については、15.3に概説されている。

### 8.15.3 ステーク若い男性会長会

ステーク若い男性会長会の責任は、15.4.1に概説されている。

### 8.15.4 ステーク若い男性書記

ステーク若い男性書記の責任は、15.4.2に概説されている。

### 8.15.5 ステークアロン神権・若い女性委員会

ステーク会長は、ステークアロン神権・若い女性委員会を管理するように一人の顧問に割り当てを与える。同委員会のその他の会員は、ステーク若い男性組織を担

当する高等評議員、ステーク若い女性組織を担当する高等評議員、ステーク若い男性会長会と書記、ステーク若い女性会長会と書記である。

ステーク会長会は、必要に応じて、委員会集会に出席するように青少年を招待することができる。青少年を、ユースカンファレンス、ダンス、デイボーショナル、複数のステークによる行事などの活動の計画と実施にできるだけ参加させるべきである。また、ステークの青少年が直面している問題についての話し合いにも青少年が参加するとよい。

## 8.16 若い男性組織を地元の必要に合わせる

若い男性が少ないワードまたは支部では、アロン神権定員会は、レッスンを一緒に行うことができる（8.11参照）。活動も一緒に行うことができる。

ワードや支部の成人指導者が限られている場合、若い男性会長会はアドバイザー補佐がいなくても、日曜日のレッスンを教え、活動プログラムを管理することができる。非常に小さなユニットでは、若い男性会長が若い男性組織のただ一人の成人指導者であることもある。その場合には、会長がすべての若い男性のために日曜日のレッスンを教え、活動を監督する。可能になったら、顧問や書記を召すべきである。

青少年は大きなグループで交流することによりしばしば益を受けるため、二つまたはそれ以上の小さなワードや支部の若い男性・女性は、折にふれて合同活動を行うことができる。近隣のワードや支部に若い男性が少ない場合には、ビショップや支部会長は、若い男性が合同で週日の活動を行うのを承認することができる。このような選択肢を検討する際、ビショップや支部会長は、距離や交通費などの様々な要因を考慮に入れる。

小規模のステークまたは地方部では、若い男性会長が唯一のステークまたは地方部若い男性指導者ということもあり得る。可能になったら、顧問と書記を召すべきである。

地元の必要に合わせることに関する一般的な情報については、第17章を参照する。

## 8.17 その他の指針と方針

### 8.17.1 ユースカンファレンスとダンスでの14歳未満の青少年

14歳未満の青少年は、普通ユースカンファレンスに参加しない。また、定期的に予定されているミュー

チャルの夕べ以外の機会に行われるダンスにも参加しない(13.6.14 参照)。宿泊を伴うキャンプと長期スカウトキャンプはこの指針の例外である。

#### 8.17.2 『真理を守る—福音の参考資料』

教会は、聖典と末日の預言者の教えを研究するための副読本として『真理を守る—福音の参考資料』を出版している。ビショップリックまたは定員会アドバイザーは、それぞれの若い男性が確実にこの本を持つようにする。若い男性は、福音の原則を学んで実践し、話を準備し、クラスを教え、教会に関する質問に答えるとき、この本を参考資料として使うことができる。

#### 8.17.3 他の宗教の若い男性

教会の標準に従うことに同意している他の宗教の若い男性は温かく迎え入れ、青少年の活動に参加するよ

うに奨励するべきである。彼らの参加費用は、教会員の若い男性と同様に扱うべきである。これらの若い男性がスカウト活動に参加する場合、彼らの両親は、活動資金を援助するために寄付することができる。

#### 8.17.4 障がいのある若い男性

通常、障がいのある若い男性は、正規の定員会に出席する。例外については、両親とビショップリックの承認が必要である。

障がいのある若い男性を理解し、参加させ、教えることに関する情報については、21.1.26 および [disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) を参照する。



## 9. 扶助協会

9.1 扶助協会の概要	64	9.7 扶助協会の若い姉妹たちを強める	71
9.1.1 目的	64	9.7.1 若い女性会長会と協力する	71
9.1.2 歴史	64	9.7.2 ヤングシングルアダルトの姉妹たちに対する責任	71
9.1.3 モットーとシンボル	64	9.7.3 ヤングシングルアダルト対象の別個の扶助協会クラス	71
9.1.4 会員	64		
9.2 ワード扶助協会指導者	65	9.8 ステーク扶助協会指導者	71
9.2.1 ビショップリック	65	9.8.1 ステーク会長会	71
9.2.2 ワード扶助協会会長会	65	9.8.2 ステーク扶助協会会長会	71
9.2.3 ワード扶助協会書記	65	9.8.3 ステーク扶助協会書記	72
9.2.4 扶助協会教師	66		
9.2.5 ワード扶助協会のその他の召し	66	9.9 扶助協会の組織を地元の必要に合わせる	72
9.3 指導者会	66	9.9.1 ワード内の複数の扶助協会	72
9.3.1 ワード評議会集会	66	9.9.2 小さなユニットにおける扶助協会	72
9.3.2 ワード扶助協会会長会集会	67		
9.3.3 ステーク扶助協会指導者会	67	9.10 その他の指針と方針	72
9.4 ワード扶助協会集会	67	9.10.1 特別な必要を抱えた姉妹たち	72
9.4.1 日曜日の扶助協会集会	67	9.10.2 服装の標準	72
9.4.2 その他の扶助協会の集会	68	9.10.3 死に際しての援助	72
		9.10.4 未婚のまま妊娠または出産した若い女性	73
		9.10.5 神殿衣とガーメントに関する指示	73
		9.10.6 財政管理	73
9.5 家庭訪問	69		
9.5.1 訪問教師の責任	69		
9.5.2 家庭訪問の編成	69		
9.5.3 家庭訪問を地元の必要に合わせる	69		
9.5.4 家庭訪問の報告	70		
9.6 福祉と慈善奉仕	70		
9.6.1 家族の必要を知るための訪問	70		
9.6.2 慈善奉仕	70		
9.6.3 読み書きの能力	71		

## 9. 扶助協会

扶助協会は神権組織を助ける補助組織である。すべての補助組織は、教会員が天の御父とイエス・キリスト、回復された福音に対する証を増し加えるのを助けるために存在する。補助組織の働きを通して、会員は福音の原則に従って生活しようと努めるときに、教えと励まし、支持を受ける。

### 9.1 扶助協会の概要

#### 9.1.1 目的

扶助協会は、女性たちが信仰を深め、義にかなった人格を築き、家族と家庭を強め、困っている人に手を差し伸べるのを助けることにより、永遠の命の祝福に備えられるようにする。扶助協会は、日曜日の福音の教え、扶助協会のその他の集会、家庭訪問、福祉と慈善奉仕を通して、これらの目的を達成する。

#### 9.1.2 歴史

預言者ジョセフ・スミスは1842年3月17日に扶助協会を組織した。ジョセフ・スミスは、扶助協会が組織された目的は、「貧しい人、困窮している人、やもめや孤児を助けることであり、あらゆる慈善を行うこと」であると教えた（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』452）さらに、扶助協会は「貧しい人を助けるだけでなく、人を救うために存在」すると教えた（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』452 - 453）。今日、扶助協会の業の大部分は「教会の女性会員すべての霊的な福祉と救いを図る」ことである（『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』185参照）。

扶助協会は「神によって作られ、神によって承認され、神によって組織され、神によって聖任され」たものであり（『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』184）、神権指導者の指示の下で運営される。

#### 9.1.3 モットーとシンボル

扶助協会のモットーは「愛はいつまでも絶えることがない」である（1コリント13:8）。この原則は扶助協会のシンボルに表れている。



#### 9.1.4 会員

教会のすべての成人女性は扶助協会の会員である。

若い女性は通常、18歳の誕生日または誕生日を迎えた翌年に扶助協会へ移行する。19歳になるまでには、各若い女性が扶助協会に完全に参加するべきである。個人の証、成熟度、卒業、同年代の友人のもとにとどまりたいという要望、大学への出席などの個々の事情により、18歳の誕生日以前に扶助協会に移行したり、若い女性に残ったりすることができる。教会に活発にとどまるうえで助けになる最良の道を選ぶために、それぞれの若い女性は両親やビショップと相談する。

若い女性の指導者と扶助協会の指導者は、若い女性一人一人が扶助協会へ円滑に移行できるよう協力する。

初等協会、若い女性、その他の召しを果たすために日曜日の扶助協会集会に出席できない成人の姉妹たちも、扶助協会の一員である。訪問教師が割り当てられ、自らも訪問教師として奉仕する割り当てを受ける。また、慈善奉仕をしたり、その他の扶助協会集会でクラスを教えたりする割り当てを受けることもできる。ただし、そのような割り当てが過度の負担となるようであってはならない。

18歳未満の既婚女性も扶助協会の会員である。その他の例外については、10.12.4を参照する。

信仰を異にする女性が扶助協会に出席する場合は、温かく歓迎し、参加を促す。

## 9.2 ワード扶助協会指導者

本章は、個人、家族、家庭を強めるような方法で扶助協会を管理運営することに焦点を置く。扶助協会指導者は、指導に関する一般的な原則が概説された第3章を頻繁に読み直す。これらの原則には、霊的な備え、評議会への参加、周りの人に仕え、教え、導くこと、イエス・キリストの福音を教えることが含まれる。

### 9.2.1 ビショップリック

ビショップと顧問は扶助協会に対する神権指導を行う。

ビショップは扶助協会会長として奉仕する姉妹を召し、任命する。また、ワード扶助協会会長顧問、ワード扶助協会書記、扶助協会の召しを受けて奉仕するほかの姉妹たちの召しと任命を監督する。ビショップは、これらの姉妹の召しと任命を顧問に割り当てることができる。

ビショップは定期的にワード扶助協会会長と会い、扶助協会および福祉に関する問題について話し合う。

### 9.2.2 ワード扶助協会会長

扶助協会会長会は一人の会長と二人の顧問によって構成される。会長会は姉妹たちとその家族を強める取り組みにおける霊的な指導者である。会長会はビショップリックの指示の下で働く。また、ステーク扶助協会会長会からオリエンテーションと継続的な支援を受ける。

#### ワード扶助協会会長

扶助協会会長には以下の責任がある。

ワード評議会の一員を務める。評議会の一員として、信仰を築き、個人と家族を強める取り組みに参加する(第4章参照)。

定期的にビショップと会い、扶助協会および福祉に関する問題について報告し、話し合う。

ビショップの要請に応じて、会員の家庭を訪問し、福祉の必要を判断し、どのように対応したらよいかを提案する(9.6.1参照)。扶助協会会長が不在の場合、ビショップは扶助協会会長顧問に緊急の必要に対応するよう割り当てることができる。

扶助協会の指導者や教師、その他の召しで奉仕する姉妹たちをビショップリックに推薦する。この推薦を行う際には、19.1.1 および 19.1.2 に記された指針に従う。

緊急時のワード扶助協会福祉活動を調整する。

本手引きを資料として用いて、ほかの扶助協会指導者と教師にそれぞれの務めを教える。

ワード扶助協会の記録、報告、予算、財政を監督する。扶助協会書記がこの責任を助ける。

#### ワード扶助協会会長と顧問

扶助協会会長と顧問は協力して以下の責任を果たす。会長はこれらの責任の幾つかを監督するよう顧問に割り当てる。

家庭訪問を編成し監督する。

ワード内の慈善奉仕を監督する。

扶助協会における福音の学習と教授法を改善する取り組みを監督する。この取り組みに際し、5.5.3 および 5.5.4. に記された原則に従う。

ビショップの指示の下で、福祉の必要に取り組む方法を計画する(9.6 および第6章参照)。

扶助協会集会を計画し、司会する。

扶助協会会長集会を開く。

必要に応じて、扶助協会の姉妹たちを訪問する。

扶助協会会長は、ワード内のヤングシングルアダルトの姉妹たちを助ける扶助協会の働きを調整するよう顧問の一人に割り当てる。ワードにヤングシングルアダルト委員会がある場合、この顧問が委員を務める(16.3.3 および 16.3.4 参照)。

### 9.2.3 ワード扶助協会書記

扶助協会書記には以下の責任がある。

会長と相談して会長集会の議事予定案を準備する。これらの集会に出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を確認・把握する。

毎月、家庭訪問の報告書を作成し、扶助協会会長がビショップに提出できるようにする。ただし、家庭訪問コーディネーターが作成を割り当てられている場合を除く(9.5.4 参照)。少なくとも4半期に1度、出席情報をまとめ、扶助協会会長と一緒に検討し、ワード書記に提出する。

扶助協会会長会が、扶助協会に入る若い女性を確実に把握できるようにする。

年間予算案の作成や支出の管理において、扶助協会会長会を助ける。



## 9.2.4 扶助協会教師

扶助協会教師は、扶助協会会長会の割り当てを受けてレッスンを教える。5.5.4 に概説されている原則に従う。

## 9.2.5 ワード扶助協会のその他の召し

本項目に挙げられた召しは提案である。ビショップと扶助協会会長は、すべての職を埋める必要はないと判断することもできるし、さらに召しが必要であると判断することもできる。

### 家庭訪問コーディネーターと家庭訪問主任

女性の数が多いワードでは、扶助協会会長が家庭訪問を調整するのを助け、家庭訪問が効果的に行われるようにするために、一人の姉妹を召すことができる。また、家庭訪問主任は家庭訪問コーディネーターが情報を集め、家庭訪問を調整するのを助けることができる。

家庭訪問コーディネーターは、訪問教師が行った訪問やその他のコンタクトに関する報告を毎月受ける。家庭訪問に関する月例報告書の作成を助ける割り当てを受けることもできる(9.5.4 参照)。

### 慈善奉仕コーディネーターと補佐

扶助協会会長会が慈善奉仕の必要を察知し、調整するのを助けるために、一人の姉妹を召すことができる。また、補佐を召すこともできる。

### 扶助協会集会コーディネーターと委員会

扶助協会会長会が日曜日以外に開かれる扶助協会集会の計画を調整するのを助けるために、一人の姉妹を召すことができる。これらの集会には、奉仕、クラス、プロジェクト、大会、ワークショップなどが含まれる。扶助協会会長会はコーディネーターを助ける委員会の委員を召すよう要請することができる。委員たちに特定の責任分野を与えることができる。

### 扶助協会書記補佐

書記がその責任を果たすのを助けるために、一人の書記補佐を召すことができる。

### ヤングシングルアダルトの姉妹たちのアドバイザー

ヤングシングルアダルトの姉妹たちのアドバイザーは、ヤングシングルアダルト担当扶助協会顧問の指示の下で働く。顧問とアドバイザーはヤングシングルアダルトの姉妹たちを見守り、強める。

アドバイザーには以下の責任をどれでも与えることができる——

ヤングシングルアダルトの姉妹の家庭訪問の同僚を務める。

ヤングシングルアダルトの活動を助ける。

ヤングシングルアダルトの姉妹たちがインスティテュートのクラスやその他の宗教クラスに参加するよう励ます。

ヤングシングルアダルト委員会のあるワードでは、その委員を務める(16.3.4 参照)。

ワードにヤングシングルアダルトの姉妹を対象とした扶助協会クラスがある場合は、そのクラスに出席する。

### 委員会

扶助協会会長会は、個人や家族、家庭を強める、ヤングシングルアダルトの姉妹たちを見守る、福祉、緊急時の備え、神殿と家族歴史活動、伝道活動、改宗者の定着、活発化などの継続的な働きを遂行するために、委員会を設けることができる。委員会の指導者たちは扶助協会会長または担当顧問に報告する。委員たちに特定の責任分野を与えることができる。

必須ではないが、扶助協会の業を達成し、いっそう多くの姉妹に奉仕の機会を与えるのに役立つ場合には、委員会を設けることができる。

短期間の必要を満たすために臨時の委員会を設けてもよい。そのような委員会の姉妹たちには、召しと任命は必要ない。長期的な委員会で指導する、または奉仕する姉妹たちは、ビショップリックの一員によって召され、任命される。

### 音楽指導者とピアニスト

適切な音楽は扶助協会の集会に御霊を招くのに役立つ。扶助協会会長会は、扶助協会の集会で音楽指導者およびピアニストとして奉仕する姉妹たちを推薦することができる。

---

## 9.3 指導者会

### 9.3.1 ワード評議会集会

扶助協会会長はワード評議会の一員として働く(第4章参照)。

必要に応じて、ビショップは特定のワード神権役員会集会に出席するよう扶助協会会長を招待し、福祉に関する内密の問題について話し合い、ホームティーチン

グと家庭訪問の割り当てを調整するよう要請することができる。

### 9.3.2 ワード扶助協会会長会集会

扶助協会会長会は定期的に会長会集会を開く。会長が集会を管理し、司会をする。書記は出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を確認・把握する。

議事予定案には以下の事項を入れることができる。

1. 扶助協会の業において姉妹たちを組織し、教え、鼓舞する方法について話し合う。
2. ビショップから受けた勧告や割り当て、ワード評議会集会で決められた割り当てを検討し、達成する方法を計画する。
3. 扶助協会の姉妹たちとその家族が福祉の必要を満たすのを助ける方法について話し合う。この中に慈善奉仕に関する話し合いを含めることもできる。
4. 扶助協会の姉妹たちとその家族を見守り強める訪問教師の取り組みを検討する。扶助協会に新しく入った会員やヤングシングルアダルトの姉妹たちの必要に特に目を向ける。
5. 日曜日の扶助協会集会や扶助協会のその他の集会で効果的に教えられているかどうかについて話し合い、改善する計画を立てる。
6. 扶助協会の各集会を計画する。
7. 姉妹たちを扶助協会の責任に召すことについて検討し、扶助協会会長がビショップリックに推薦を出せるよう準備する。また、短期間の割り当てを手伝うよう依頼する姉妹についても検討する。

### 9.3.3 ステーク扶助協会指導者会

ステーク扶助協会指導者会は、18.3.11 に述べられているように、通常、年に1度開かれる。ワード扶助協会会長会と書記が出席する。必要に応じて、扶助協会の召しを受けているその他の人を招待することができる。

## 9.4 ワード扶助協会集会

### 9.4.1 日曜日の扶助協会集会

日曜日の扶助協会集会で、末日聖徒の女性は、信仰を深め、個人の義を増し加え、家族と家庭を強め、困っている人に手を差し伸べるのを助ける福音の教義と原則を学ぶ。

扶助協会会長会の一員が日曜日の集会の司会を行う。各集会の始めに会長会の一員が歓迎の言葉を述

べ、賛美歌と祈りに続き、奉仕の機会、行事予定、病氣、その他の適切な情報を短く発表する。できるだけたくさんの時間を福音のレッスンに充てる。賛美歌と祈りで閉会する。

毎月、扶助協会会長会は以下の規範に従い日曜日の集会を計画する。

#### 第1日曜日

ワード扶助協会会長会の一員が第1日曜日に教える。聖典、末日の預言者の教え、承認された教会資料を使用する。扶助協会指導者はこの集会を活用して福音の教義を教え、姉妹たちが扶助協会の業に積極的に取り組むよう助ける。

扶助協会会長会は教えるテーマを決める際に御霊の導きを求める。扶助協会会長は、ビショップが姉妹たちに話し合ってもらいたいと望んでいるテーマについて、ビショップと話し合うこともできる。テーマは、福音における女性の役割と責任、夫婦と家族を強める、家庭訪問、奉仕、伝道活動、改宗者の定着、活発化、霊的および物質的な福祉、神殿と家族歴史活動、扶助協会の歴史と目的などが挙げられる。姉妹たちに証を分かち合う時間を与えてもよい。

#### 第2, 第3日曜日

第2, 第3日曜日には、扶助協会会長会の一員または扶助協会教師がレッスンを教える。最新の扶助協会テキストを使用する。レッスンは通常、テキストに提示された順で行い、長老定員会と大祭司グループの集会で教えられるのと同じ日曜日に教える。

扶助協会会長会はワード内の18歳以上のすべての女性が、日曜日の扶助協会集会に出席できるか否かにかかわらず、個人学習用の扶助協会テキストを受け取れるようにする。指導者は出席者に、テキストと、可能な地域では自分の聖典を持って来るように促す。

#### 第4日曜日

第4日曜日には、扶助協会会長会の一員または扶助協会教師がレッスンを教える。教師は最新の大会説教を使用する。ステーク会長またはビショップが説教を選ぶ。

#### 第5日曜日

第5日曜日には、教えるテーマと教える人（通常はワードまたはステークの一員）、扶助協会の姉妹たちとメルキゼデク神権者が別々に集会を持つか合同にするかをビショップが決める。

### 9.4.2 その他の扶助協会の集会

日曜日の集会で学ぶ事柄を補うために、扶助協会の姉妹たちはその他の集会に参加することができる。これらの集会には、奉仕、クラス、プロジェクト、大会、ワークショップなどが含まれる。これらの集会で姉妹たちは扶助協会の慈善奉仕の責任や実践的な責任を学び、果たす。また、信仰を深める、個人の義を増し加える、家族を強めて家庭を霊的な強さの中心とする、困っている人を助ける、などに役立つ技能を身に付け、実践する。賢明な生活の原則、霊的および物質的な自立の原則を学び、応用する。また、互いに教え、ともに仕えながら、姉妹たちのきずなと一致を強める。

扶助協会のすべての姉妹が出席するよう招かれる。その中には、若い女性と初等協会で奉仕する姉妹、教会に活発に参加していない姉妹も含まれる。また、姉妹たちは信仰を異にする友人を招待することもできる。

これらの集会への出席が義務付けられていると姉妹たちに感じさせないようにする。

扶助協会会長は扶助協会のすべての集会を監督する。この責任の一環として、これらの集会をワードの個人と家族の必要を満たすうえでどのように役立てることができるかについてビショップと定期的に話し合う。

扶助協会会長は集会を監督するが、すべての集会に出席する必要はない。しかし、どの集会にも扶助協会会長会の少なくとも一人が出席するべきである。

#### 集会の頻度と場所

扶助協会会長会は、扶助協会のその他の集会を開くべき頻度と場所について、祈りの気持ちで検討する。決定を下したら、扶助協会会長はビショップに承認を求める。

これらの集会は通常、日曜日または月曜日の夕べ以外に開く。一般的に月に1度開くが、扶助協会会長会は頻度を増やすか、または減らすかを提案することができる。少なくとも四半期に1度開くように努力するべきである。

その他の集会の頻度、場所、所要時間を決める際に、ビショップと扶助協会会長会は、姉妹たちの時間的制約、家族の状況、移動距離と費用、ワードが負担する経費、安全性、その他の地元の状況を考慮する。

#### 集会を計画する

扶助協会指導者は、姉妹たちとその家族を強めるテーマについて、またそのテーマを教える最良の方法について、祈りの気持ちで話し合う。

扶助協会会長は、扶助協会のすべての集会の計画が、ビショップによって承認されているようにする。また、すべての計画が第13章に記された指針に従ったものとなるようにする。

扶助協会会長はこれらの集会を監督するが、計画と実行の責任を引き受けるよう第一顧問または第二顧問に依頼してもよい。この責任を果たすために、別の姉妹を扶助協会集会コーディネーターとして召すよう推薦することもできる(9.2.5参照)。

集会は一つのテーマに焦点を置くか、または複数のクラスや活動に分けてもよい。通常、ワードまたはステークの会員が教師を務めるべきである。毎年1回、扶助協会の創立を祝い、その歴史と目的に焦点を当てるために一つの集会を使うことができる。

これらの集会を計画するに際し、扶助協会指導者は地元の必要を満たすために採り上げるようビショップから依頼されたテーマに特に注意を払う。また、以下のようなテーマを優先する。

**結婚と家族**：結婚と家庭生活に備える、結婚生活を強める、母性、幼児教育、青少年を将来の責任に備えさせる、家庭の夕べの奨励と準備、親戚との関係を強める。

**ホームメイキング**：掃除、整理整頓、家庭の美化、料理、裁縫など、家庭と家族の世話に必要な技能を学び、向上させる。

**自立と賢明な生活**：財政管理（家計管理、債務削減、就職資格）；教育と読み書きの能力（聖文の研究と福音学習、人に読み方を教える、子供と青少年を教える、子供の本を選ぶ、コンピューターその他の技術の活用、文化的な意識を高める）；保健（身体の健康、体力増進、依存症の防止と回復、健全な社会性や精神衛生、疾病予防）；園芸、食料の生産と貯蔵、緊急時への備え。

**慈善奉仕**：病人、高齢者、家から出られない人、障がいのある人、貧しい人や助けを必要とする人の世話；出産したばかりの母親と乳児の世話；人道支援と地域支援。

**神殿と家族歴史**：家族歴史情報の収集と保管、家族歴史を書く、神殿参入に備える、神殿活動を行う。

**福音を分かち合う**：会員伝道活動、新会員とあまり活発でない会員のフェローシップ、近隣に手を差し伸べる活動、活発化と定着、扶助協会に新たに入る姉妹の歓迎、専任宣教師になる準備。

## 子供のクラス

幼い子供を持つ母親が日曜日以外の日に開かれる集会に出席できるよう、子供のクラスを開くことができる。ビショップリックの承認の下で、扶助協会会長会は扶助協会の姉妹またはワードのほかの会員に、このクラスを監督し教えるよう依頼する。扶助協会の姉妹がこのクラスを教える場合、扶助協会会長会はこの責任を持ち回りできるようにし、すべての姉妹が集会に出席する機会を得られるようにする。男性がこのクラスを教える場合には、扶助協会会長会は 11.8.1 に記された指針に従う。

子供のクラスの教師は、天の御父とイエス・キリストについて子供たちに教えられるような、年齢に適した活動を計画する。子供たちを教えるために、初等協会の教師用手引きや初等協会のその他の教材を使用することができる。

子供のクラスで食物を与える場合、指導者は一人一人の子供の両親とまず話し合い、子供に糖尿病やアレルギーなどの疾患による食事制限がないかどうか確認する。

## 9.5 家庭訪問

家庭訪問は互いに見守り、強め、教える機会を姉妹たちに与える。扶助協会会長は、家庭訪問を通して、ビショップが姉妹たちとその家族の短期的および長期的な必要を確認し、解決するのを助ける。

扶助協会会長会は、互いに世話し、見守り、心にかけて、強め合う方法を訪問教師に教える。会長会は、月の第1日曜日のレッスンまたはその他の扶助協会集会でこれについて教えることができる。

訪問教師は支持や任命を受けない。

### 9.5.1 訪問教師の責任

訪問教師は真心から姉妹一人一人を知り、愛し、信仰を深めるのを助け、奉仕を行う。訪問先のそれぞれの姉妹の霊的および物質的な必要に対処する方法を知るために、個人的な啓示を求める。

訪問教師はそれぞれの姉妹の個人的な必要と状況を考慮しながら、割り当てられた姉妹に定期的に（できれば毎月）コンタクトする。直接訪問できない場合、姉妹たちを見守り、強めるために、電話や手紙、電子メール、その他の手段を用いてもよい。

適切な場合、訪問教師は福音のメッセージを分かち合う。このメッセージは『エンサイン』(Ensign) または

『リアホナ』に掲載される毎月の家庭訪問メッセージおよび聖文を基にするといふ。

訪問教師は、病気や死、その他の特別な状況で慈善奉仕を行う。また、要請に応じて、扶助協会会長が短期的および長期的援助を調整するのを助ける。

### 9.5.2 家庭訪問の編成

ビショップと扶助協会会長は、地元の必要と状況を祈りの気持ちで考慮した後、ワードでどのように家庭訪問を編成すべきかを決定する。可能であれば、会長会は姉妹たちを二人一組の同僚となるよう割り当てる。家庭訪問は個々の姉妹に焦点を当てたものであるため、扶助協会指導者は家庭訪問を目的に姉妹たちをグループに編成することはない。

家庭訪問の編成に際し、扶助協会会長会は個人と家族の必要について祈りの気持ちで話し合う。次のような姉妹たちを優先して世話が確実に行き届くようにする。若い女性から扶助協会へ入って来る姉妹、独身の姉妹、新しくワードに入って来た会員、最近の改宗者、新婚の姉妹、あまり活発でない会員、そのほか特別な必要を持った姉妹。また、距離、交通手段、安全性などの要因を考慮する。

こうした話し合いに基づき、会長会はワード内の姉妹一人一人に訪問教師を割り当てる。それぞれの割り当てにビショップの承認を受ける。

例外としてビショップの承認があれば、メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者は、夫婦による訪問が必要な場合、夫と妻を同僚として割り当ててもよい。夫婦はこのような訪問をホームティーチングと家庭訪問として報告する。通常、子供のいる若い夫婦にはそのような割り当てを与えない。親を子供から離すことになるからである。

### 9.5.3 家庭訪問を地元の必要に合わせる

訪問教師の人数が少ないワードでは、指導者は最も大きな必要を抱えた姉妹たちが毎月必ず訪問を受けられるように、家庭訪問を調整することができる。

ビショップの承認の下で、メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者は、特定の家族にホームティーチャーのみ、あるいは訪問教師のみを一時的に割り当てることができる。場合によっては、ホームティーチャーに1か月ある家族を訪問させ、翌月にその家族の中の扶助協会会員を訪問するよう訪問教師に割り当てることができる。

伝道部会長の承認の下、指導者は限られた範囲内で家庭訪問を支援するよう、専任宣教師の姉妹に要請

することができる。伝道部会長はこの承認をステーク会長に伝え、ステーク会長はビショップに伝える。そのような承認が下りたら、専任宣教師はおもに新会員、パートメンバーの家族、あまり活発でない会員を訪問するよう割り当てられる。

#### 9.5.4 家庭訪問の報告

扶助協会会長会または会長会を助けるよう召された人は、訪問教師から毎月報告を受ける。訪問教師は訪問先の姉妹が抱えている特別な必要や、訪問教師が行った奉仕をすべて報告する。さらに会長会は、訪問教師と定期的に会合し、姉妹たちの霊的および物質的な福祉について話し合い、困っている人を助ける計画を立てる。内密情報は扶助協会会長にのみ報告する。会長はそれをビショップに報告する。

扶助協会会長は毎月ビショップに家庭訪問の報告をする。各報告にはコンタクトされなかった姉妹のリストも載せる。姉妹と家族に差し迫った必要がある場合、扶助協会会長はこの情報を直ちにビショップに報告する。

### 9.6 福祉と慈善奉仕

福祉と慈善奉仕は扶助協会の業の中心である。

ビショップの指示の下、ワード扶助協会会長会、長老定員会会長会、大祭司グループ指導者は、福祉に関する以下の責任を担う。

物質的および霊的な自立の原則を教える。

貧しい人、助けの必要な人を世話する。また、奉仕をするよう会員たちを励ます。

個人と家族が自立し、短期的および長期的な福祉の問題に解決策を見いだすのを助ける。

これらの福祉の責任に関する詳しい情報については、第6章を参照する。

以下の項目は、特に扶助協会会長と顧問に当てはまる責任の概要である。

#### 9.6.1 家族の必要を知るための訪問

通常ビショップは扶助協会会長に、福祉援助が必要な会員を訪問し、会員の必要を判断して対処法を提案するよう割り当てる。訪問先に女性がいない場合には、会長は顧問、扶助協会書記、または慈善奉仕コーディネーターの一人を同伴する。

家族の必要を知るための訪問の準備として、扶助協会会長はビショップから得た家族に関する情報について考え、主からの導きを求める。

扶助協会会長は家族が持っている生活必需品を調べ、家族に必要な基本的食料と衣類を一覧表にして、ビショップに渡す。また、ビショップが検討し承認できるように『ビショップの日用品注文書——ビショップの倉がない地域用』も準備することができる。扶助協会会長はこの奉仕を配慮と思いやりをもって行い、援助を受ける人が自尊心と尊厳を保てるように助ける。

扶助協会会長は家族の全般的な状況をビショップに報告する。食料（貯蔵のためでなく通常必要なもの）、衣類、家庭管理、健康、社会的および情緒的福利などの面の必要について報告する。また、家族一人一人の仕事の能力や働く機会に対する評価を伝えることもできる。

ビショップは家族が自立計画を立てるのを助ける。また、家族を助ける他の機会について、扶助協会会長と相談する。場合によっては、次に挙げる事柄が最も有益な助けとなることがある。(1) 姉妹が収入や資産の管理をするのを助ける。(2) 掃除、裁縫、整理整頓、献立作り、食品の保存、健康増進などのホームメーキング技術を教える。

扶助協会会長と会長を補佐する人はだれでも、訪問を通じて得た、あるいはビショップから得たどのような情報も、きわめて内密に扱う。

#### 9.6.2 慈善奉仕

扶助協会のすべての姉妹は、ほかの人の必要に心を向ける責任がある。自分の時間や技術、才能を用い、霊的および情緒的な支援を与え、信仰の祈りをもってほかの人を助ける。

扶助協会会長会は、訪問教師やワードの会員の助けを通して、高齢、身体または心の病、緊急事態、出産、死、障がい、孤独、その他の問題のために特別な必要を抱えた人を見いだす。扶助協会会長は分かったことをビショップに報告する。会長はビショップの指示の下で援助を調整する。だれが助けることができるかを判断する際は、すべての姉妹の技能や状況を見極める。

会長はこうした奉仕活動の調整を助けるよう、顧問、慈善奉仕コーディネーター、または訪問教師に依頼することができる。また、委員会を設けて助けてもらうこともできる。姉妹たちは食事の提供、子供の世話や在宅看護、個々の姉妹の読み書きの能力向上、必要な医療

支援のための交通手段、そのほかの必要に応じることにより援助することができる。

### 9.6.3 読み書きの能力

読み書きの能力は、雇用や物質的な自立に役立つ。また、福音の知識を増し、霊的な自立を培うのにも役立つ。各ワードは必要性和利用できる手段に応じて、読み書きの能力を高める活動を行う。会員たちに基本的な読み書きの能力が欠如している場合、扶助協会会長会はビショップやワード評議会と協力し、こうした能力の向上に役立つ実用的な方法を特定する。割り当てられた指導者と教師は、『あなたはわたしの言葉を得るであろう』[英語](Ye Shall Have My Words)の生徒用テキストと教師用テキスト、教師訓練用DVDなどを含む教会の読み書き能力向上コースを活用できる。さらに、扶助協会指導者は幾つかの集会を読み書き能力向上に充てることができる。

## 9.7 扶助協会の若い姉妹たちを強める

### 9.7.1 若い女性会長会と協力する

青少年から大人への過渡期は、若い女性の人生を左右する重要な時である。扶助協会会長会は若い女性会長会と協力し、若い女性が扶助協会に円滑に移行するのを助ける両親の努力を支える方法を決定する。

以下の提案はこの取り組みの助けとなるであろう。

扶助協会会長が若い女性のクラスを訪問し、扶助協会の概要を説明する。

若い女性と扶助協会の姉妹たちが折にふれて、扶助協会の集会や活動を一緒に計画する。

ステーク会長の承認があり場所の余裕がある場合、若い女性と扶助協会の開会行事を日曜日に月に1度、合同で行うことができる。若い女性と扶助協会の姉妹たちが福音を学び教える時間が十分に取れるように、扶助協会と若い女性の会長会は準備の行き届いた短い開会行事を計画する。司会の責任は扶助協会会長会とローレルクラス会長会が分担する。

「成長するわたし」プログラムを完了したり、教会に活発でいたりするために助けが必要な若い女性を支援するよう、扶助協会の若い姉妹たちに依頼することができる。

### 9.7.2 ヤングシングルアダルトの姉妹たちに対する責任

扶助協会会長会には、ヤングシングルアダルトの姉妹たちに関心を寄せる責任がある。扶助協会の指導者は、ヤングシングルアダルトの姉妹たちに扶助協会

の目的を教え、扶助協会の業に参加する機会を与える。また訪問教師として奉仕するよう割り当てる。扶助協会の指導者は、その他の有意義な奉仕の機会をヤングシングルアダルトの姉妹たちに与え、扶助協会に奉仕する召しを受けるよう勧めることもできる。

扶助協会会長会は、ヤングシングルアダルトの姉妹一人一人に訪問教師を割り当てる。ヤングシングルアダルトの姉妹が親と同居している場合には、扶助協会会長会は別個に訪問教師を割り当てるか、母親の訪問教師が彼女も同様に訪問するかどうかを決める。

### 9.7.3 ヤングシングルアダルト対象の別個の扶助協会クラス

ワードに十分な人数のヤングシングルアダルトがいる場合、ビショップは日曜日のレッスンおよび時折活動を行うための扶助協会クラスを別に設けることを承認することができる。ヤングシングルアダルトリーダーとして奉仕する姉妹がワードにいる場合（16.3.3参照）、その姉妹がクラスリーダーを務めることができる。クラスの会員がレッスンを教え、若い姉妹たちの必要に重点を置いて教える。聖典、末日の預言者の教え、承認された扶助協会テキストを使用する。

## 9.8 ステーク扶助協会指導者

### 9.8.1 ステーク会長会

ステーク会長はステーク内の扶助協会を監督する。ステーク会長はステーク扶助協会会長または会長会と定期的に（通常は月に1度）会合を持つ。扶助協会の姉妹たちとその家族にかかわる問題について相談しながら神権指導を行う。それらの問題には、福祉の必要、ステーク内の姉妹たちの進歩と必要、扶助協会の集会や指導、活動などを含むことができる。

補助組織に関するステーク会長会の責任についての詳しい情報は、15.1を参照する。

### 9.8.2 ステーク扶助協会会長会

ステーク補助組織の会長会の責任は、15.4.1に概説されている。ステーク扶助協会会長会には以下の責任もある。

ステーク会長会の指示の下で、ステーク内の扶助協会のすべての姉妹を対象にステーク扶助協会集会を年に1度か2度、計画・実行することができる。この集会には奉仕、クラス、プロジェクト、大会、ワークショップなどが含まれる。その一つは中央扶助協会集会に合わせて開催することができる。ステーク扶助

協会会長会は必要に応じて支援するための委員会を設けることができる。

ステーキ扶助協会会長会は、ワード扶助協会会長が福祉の原則、および福祉にかかわる事柄においてビショップを助ける会長の役割を確実に理解するようにする。

ステーキ扶助協会会長会は、ステーキ内のヤングシングルアダルトの姉妹たちを助ける。ステーキにヤングシングルアダルト委員会がある場合は、会長会の一員はその委員を務める（16.3.2 参照）。

ステーキ扶助協会会長はステーキ扶助協会の福祉活動を監督する。また、緊急時におけるステーキ扶助協会の活動を調整する。

### 9.8.3 ステーキ扶助協会書記

ステーキ扶助協会書記の責任は、15.4.2 に概説されている。

## 9.9 扶助協会の組織を地元の必要に合わせる

以下の指針は、ワードおよびステーキが扶助協会の組織を地元の必要に合わせるのを助けるためのものである。地元の必要に合わせることに関する一般的な情報については、第 17 章を参照する。

### 9.9.1 ワード内の複数の扶助協会

特別な状況の下では、ビショップとステーキ会長は一つのワードに複数の扶助協会を設けることを承認してもよい。特別な状況には、養老ホームのあるワード、ヤングシングルアダルトのワード、独りで子供を育てる母親や夫を亡くした人が多いワード、地理的に広範囲にわたるワードなどが含まれる。複数の扶助協会を設ける意図は、姉妹たちとその家族を見守り強めるのを容易にするためである。

複数の扶助協会があるワードでは、それぞれの扶助協会会長会の指導者は、家庭訪問や福祉などの扶助協会の全プログラムを管理運営する。それぞれの扶助協会会長はワード評議会集会で等しい発言権を持ち、福祉にかかわる事柄や姉妹たちとその家族を強める取り組みについて、めいめいがビショップとともに働く。

### 9.9.2 小さなユニットにおける扶助協会

小さなワードや支部では、扶助協会会長会が扶助協会の唯一の指導者や教師であることもある。非常に小さなユニットでは、扶助協会会長が唯一の扶助協会の

指導者である場合もある。顧問、書記、教師、本章に挙げたその他の役員は、可能になったら召すべきである。

若い女性会長または初等協会会長のいない非常に小さな支部では、若い女性会長と初等協会会長が召されるまで、若い女性と子供たちを教える備えをする親たちを扶助協会会長が助けることができる。

小さなステーキまたは地方部では、扶助協会会長が唯一のステーキまたは地方部の扶助協会指導者である場合もある。顧問や書記は可能になったら召すべきである。

## 9.10 その他の指針と方針

### 9.10.1 特別な必要を抱えた姉妹たち

特別な必要を抱えた姉妹には、病人、高齢者、夫を亡くした人、離婚した人、家から出られない人、あるいは近親を亡くした人、慢性疾患を持つ家族を世話している人などが含まれる。扶助協会のほかの会員たちは援助の手を差し伸べるべきである。

このような特別な問題を抱えた姉妹たちは、扶助協会会長に心配事を相談することができる。会長は耳を傾け、愛と励ましを与え、適切に秘密を守るべきである。ふさわしさや家族の繊細な事柄に関して、問題となり得る事項を知った場合は、その姉妹がビショップのもとへ行けるように助ける。

障がいのある姉妹たちへの援助に関する情報については、21.1.26 および [disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) を参照する。

### 9.10.2 服装の標準

扶助協会会長会は姉妹たちに、身なりを整え、慎みのある服装をするように教える。教会の集会には、主に対する敬虔な態度と敬意を表す外見と服装で臨むべきであることを姉妹たちが理解するよう助ける。また、扶助協会の指導者は、神殿に行くときには主の宮に参入するのにふさわしい服装をするべきであることを姉妹たちが理解するよう助ける。このような機会には普段着、運動向きの服装、人目を引く装飾品などは避けるべきである。

### 9.10.3 死に際しての援助

ワードでだれかが亡くなった場合、ビショップは扶助協会会長に、家族と連絡を取り、慰め、必要を見極め、手伝いを提供するよう要請することができる。ビショップは長老定員会会長と大祭司グループリーダーにも同様の援助を要請することができる。メルキゼデク神権

指導者と扶助協会指導者はこの援助の取り組みを調整する。

葬儀の準備に際し、ビショップは扶助協会指導者に、花や食事の準備、子供の世話、葬儀の後で遺族に簡単な食事を用意するなどの奉仕を依頼することもできる。葬儀に関するその他の情報については、18.6を参照する。

可能な場合、亡くなった会員がエンダウメントを受けていれば、神殿衣を着せて埋葬すべきである。ビショップは状況により、扶助協会会長に次のように依頼することができる。すなわち、エンダウメントを受けている亡くなった女性に神殿衣を着せるか、または神殿衣が正しく着せられるように監督するよう、エンダウメントを受けている一人の女性に割り当てる。ビショップと扶助協会会長は快く引き受けてくれる人にこれを割り当てるようにする。亡くなった会員に神殿衣を着せることに関する指針は、『エンダウメントを受けている人の埋葬衣に関する指示』に記されている。指導者は教

会配送サービスを通してこの指示を入手することができる。

亡くなった人に神殿衣を着せることに関するその他の指示について、ビショップは『手引き 第1部』3.4.9を参照することができる。

扶助協会会長、訪問教師、その他の姉妹たちは、遺族が死から立ち直るまでの間、引き続き遺族に手伝いを提供し、彼らを慰め、援助する。

#### 9.10.4 未婚のまま妊娠または出産した若い女性

10.12.4を参照する。

#### 9.10.5 神殿衣とガーメントに関する指示

21.1.42を参照する。

#### 9.10.6 財政管理

13.2.8を参照する。





## 10. 若い女性

10.1	若い女性の組織の概要	76	10.8.6	若い女性のキャンプ	84
10.1.1	若い女性の組織の目的と目標	76	10.8.7	ステークおよび複数のステークによる活動	84
10.1.2	若い女性のテーマ	76	10.8.8	ユースカンファレンス	84
10.1.3	若い女性のモットーとロゴ	76	10.8.9	活動と行事のための資金	84
10.1.4	若い女性の徳質	76	10.9	指導者としての技術と資質を教える	85
10.1.5	若い女性のクラス	77	10.10	ステーク若い女性指導者	85
10.2	両親と教会指導者の役割	78	10.10.1	ステーク会長会	85
10.3	ワード若い女性指導者	78	10.10.2	ステーク若い女性担当高等評議員	85
10.3.1	ビショップリック	78	10.10.3	ステーク若い女性会長会	85
10.3.2	ワード若い女性会長会	79	10.10.4	ステーク若い女性書記	85
10.3.3	ワード若い女性書記	79	10.10.5	ステークアロン神権・若い女性委員会	85
10.3.4	ワード若い女性アドバイザー	79	10.10.6	ステーク若い女性活動スペシャリスト	85
10.3.5	若い女性クラス会長会	80	10.11	若い女性組織を地元の必要に合わせる	85
10.3.6	若い女性クラス書記	80	10.12	その他の指針と方針	86
10.3.7	ワード若い女性活動スペシャリスト	80	10.12.1	ユースカンファレンスとダンスにおける14歳未満の青少年	86
10.3.8	若い女性音楽指揮者とピアニスト	80	10.12.2	他の信仰を持つ若い女性	86
10.4	指導者会	80	10.12.3	障がいを持つ若い女性	86
10.4.1	ワード評議会集会	80	10.12.4	妊娠しているか、または母親となった未婚の若い女性	86
10.4.2	ビショップリック青少年委員会集会	80			
10.4.3	ワード若い女性会長会集会	80			
10.4.4	ビショップリック顧問との会合	81			
10.4.5	クラス会長会集会	81			
10.4.6	ステーク若い女性指導者会	81			
10.5	標準	81			
10.6	日曜日の福音のレッスン	81			
10.6.1	開会行事	81			
10.6.2	クラス	82			
10.7	「成長するわたし」	82			
10.7.1	ミューチャルにおける「成長するわたし」の活動	82			
10.7.2	エンブレム、証明書、表彰	82			
10.7.3	「成長するわたし」に関する指導者の責任	82			
10.8	活動と行事	83			
10.8.1	ミューチャル	83			
10.8.2	ビショップリックと青少年の話し合い	83			
10.8.3	新年度セミナー	84			
10.8.4	若い女性エクセレンスプログラム	84			
10.8.5	標準の集い	84			

## 10. 若い女性

若い女性の組織は神権組織を助ける補助組織である。すべての補助組織は、教会員が天の御父とイエス・キリスト、回復された福音に対する証において成長するのを助けるためにある。補助組織の働きを通して、会員は福音の原則に従って生活しようと努めながら、教えと励まし、支持を受ける。

### 10.1 若い女性の組織の概要

#### 10.1.1 若い女性の組織の目的と目標

若い女性の組織の目的は、神聖な聖約を交わしてそれを守り、神殿の儀式を受けるふさわしさを身に付けられるように、若い女性一人一人を助けることである。この目的を達成するために、若い女性指導者は若い女性一人一人が以下の目標を達成するよう指導する。

1. 天の御父とイエス・キリストへの信仰と証を強める。
2. 自分が神の娘であることを理解する。
3. 戒めに従い、福音の標準を守ることに、ふさわしくなる。
4. 聖霊の促しを受け、それに気づき、頼る。
5. 娘、妻、母親、指導者としての神聖な役割に備える。
6. バプテスマの聖約を理解して守る。

#### 10.1.2 若い女性のテーマ

若い女性のテーマは、若い女性一人一人が上記の目標を達成するのを助けるための礎を提供する。

若い女性と成人指導者は、日曜日の開会行事や若い女性の他の集まりの始めにこのテーマを繰り返す。若い女性のテーマは次のとおりである。

わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し、わたしたちも天父を愛しています。わたしたちは若い女性の徳質に従って生活するように努め、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても……神の証人に」なります（モーサヤ 18:9）。若い女性の徳質——

信仰

神から受け継いだ特質

個人の価値

知識

選択と責任

善い行い

誠実

徳

わたしたちは、これらの徳質を受け入れ、それに従って行動するようになるにつれて、家庭と家族を強め、神聖な聖約を交わして守り、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかる備えができるようになりますと信じます。

#### 10.1.3 若い女性のモットーとロゴ

若い女性のモットーは、「真理と義を守る」である。

若い女性のロゴは、若い女性のモットーで囲まれたトーチ（たいまつ）である。トーチは、若い女性一人一人を通して輝くことのできるキリストの光を表している。若い女性は次のように招かれている。「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためである。」（教義と聖約 115:5 参照）



#### 10.1.4 若い女性の徳質

若い女性の徳質はキリストのような属性である。日曜日の福音のレッスン、ミューチャル、その他の活動は若い女性一人一人がこれらの徳質を生活の中で応用する助けとなる。

下記に述べた事柄と参照聖句はそれぞれの徳質の意味について洞察を与えるものである。指導者はこれらの言葉をレッスンで用い、若い女性が生活の中で応用し、話や発表の参考として活用できるように励ます。

各信条に結びついた色は、若い女性に徳質を思い出させるのに役立つ。

信仰（白）——わたしは天の御父の娘です。御父はわたしを愛してください。わたしは救い主イエス・

キリストを中心とした御父の永遠の計画を信じます（アルマ 32：21 参照）。

神から受け継いだ特質（青）——わたしは神から受け継いだ特質を伸ばすように努力します（2ペテロ 1：4-7 参照）。

個人の価値（赤）——計り知れない価値を持つわたしは、神から授かった使命を果たすように努力します（教義と聖約 18：10 参照）。

知識（緑）——わたしは学び成長する機会を見つけるように常に心がけます（教義と聖約 88：118 参照）。

選択と責任（<sup>だいだい</sup>橙）——わたしは悪よりも善を選び、その選択に対して責任を取ります（ヨシュア 24：15 参照）。

善い行い（黄）——わたしは義にかなった奉仕を通して、ほかの人々を助け、神の王国を築きます（3ニーファイ 12：16 参照）。

誠実（紫）——わたしは道徳的な勇気をもって、善悪に関するわたしの知識に一致した行動を取ります（ヨブ 27：5 参照）。

徳（金）——わたしは神殿に参入する備えをし、清さとふさわしさを保ちます。わたしの思いと行動は高い道徳的標準に基づいています（箴言 31：10 参照）。

### 10.1.5 若い女性のクラス

ワードの若い女性は年齢別に次の3つのクラスに分かれる。ピーハイブ（12、13歳）、マイアメイド（14、15歳）、ローレル（16、17歳）。

若い女性が新しい年齢別クラスに進級するとき、その若い女性の新しい指導者やクラス会長が歓迎する。

#### ピーハイブ（12、13歳）



若い女性は12歳になると、ビショップの面接を受ける。初等協会から若い女性へ移行し、初等協会の分かち合いの時間に若い女性の集会に出席し始める（11.4.3 参照）。そして、ピーハイブクラスの一員となる。

教会の初期の開拓者たちにとって、ピーハイブ（ミツバチの巣）は調和と協力、労働の象徴だった。教会の若い女性が最初に一つのグループとして組織されたとき、彼女たちはピーハイブとして知られるようになった。

今日、ピーハイブクラスの若い女性は、天の御父とイエス・キリストを信じる信仰を強め、ほかの人と調和し協力して働くことを学ぶ。今の時代は彼女たちにとって、真理と正義を擁護し、「立って光を放〔つ〕」時である（教義と聖約 115：5）。

#### マイアメイド（14、15歳）



若い女性は14歳になると、マイアメイドクラスの一員となる。

マイア（Mia）という言葉は、かつて教会の青少年プログラムに付けられた名前の相互発達協会〔Mutual Improvement Association〕（MIA）を指す。メイドは若い女性を意味する。相互発達協会は組織の紋章としてバラの花を採用したが、その紋章が今日も愛と信仰、清さの象徴としてマイアメイドに受け継がれている。

今日、マイアメイドクラスの一員である若い女性は、天の御父とイエス・キリストについての証を強め、若い女性の徳質を受け入れ、それに基づいて行動し、愛と信仰、清さについて学ぶ。

#### ローレル（16、17歳）



若い女性は16歳になると、ローレルクラスの一員となる。

何世紀もの間、ローレル（月桂樹）の葉は、名誉と功績を象徴するものとして、特に王冠の形に織り込まれてきた。

今日、ローレルクラスの一員である若い女性は、神聖な聖約を交わして守り、神殿の儀式を受けるように備える。

#### 18歳の若い女性

若い女性は通常、18歳の誕生日または誕生日を迎えた翌年に扶助協会へ移行する。19歳になるまでには全員が扶助協会に出席するべきである。個人の証、成熟度、卒業、仲間との交際を続けたいという希望、大学進学など、個人的な状況により、18歳の誕生日以前に移行したり、若い女性組織にしばらくとどまったりすることもできる。教会に活発に集ううえで役立つ最良の道を決めるために、若い女性一人一人は、両親やビショップと相談する。

若い女性指導者と扶助協会指導者は、若い女性一人一人が扶助協会へ円滑に移行できるよう協力する。

## 10.2 両親と教会指導者の役割

両親は、子供の霊的・肉体的福利について第一の責任を負っている（教義と聖約 68:25 - 28 参照）。ビショップリックや若い女性指導者は、この責任において両親を支援するが、両親に取って代わることはない。下記のような援助を申し出る。

10.1.1 に挙げられた指針に従うことにより、両親を援助して、彼らの娘が神殿の祝福を受ける備えができるよう助ける。

若い女性と両親の間のコミュニケーションを促す。

若い女性の活動やその他の青少年の行事が家族の負担にならないよう、または家族の活動と競合しないようにする。

指導者は特に、福音に従って生活するためのしっかりとした支援が家庭で得られない若い女性に細心の注意を払う。

## 10.3 ワード若い女性指導者

本章では若い女性一人一人とその家族を強めるような方法で若い女性の組織を管理することに焦点が置かれている。若い女性指導者は、指導者の一般的な原則について概略が述べられている第3章をしばしば読み直す。これらの原則には、霊的に備える、評議会に参加する、ほかの人を教え導く、イエス・キリストの福音を教えることが含まれている。

### 10.3.1 ビショップリック

ビショップと顧問は若い女性の組織に対して神権による指導を行う。この取り組みにおいて、両親および若い女性指導者と綿密に協力しながら、若い女性一人一人を見守り、強める。

#### ビショップ

ビショップは若い女性会長として奉仕する姉妹を召し、任命する。また、その他の若い女性指導者の召しと任命を監督する。これらの他の若い女性指導者の召しと任命を顧問に割り当ててもよい。

ビショップは「成長するわたし」のプログラムを完了する若い女性一人一人と面接する（10.7.3 参照）。

#### ビショップと顧問

ビショップと顧問は若い女性の集会、奉仕、活動に定期的に参加する。ビショップはローレルを担当する。ビショップはまた、執事を担当する顧問にピーハイブ

を、教師を担当する顧問にマイアメイドを担当するよう割り当てる。

ビショップは顧問の一人にワードの若い女性組織を監督するよう割り当てる。担当顧問は若い女性会長と定期的に会合を持ち、ビショップリック集会で若い女性に関する事柄について報告する。

ビショップは少なくとも年に1回、若い女性一人一人と面接する。可能な場合、16歳と17歳の若い女性一人一人を年に2回面接する。可能でない場合、これらの面接の幾つかを顧問に割り当てる。12歳から15歳までの若い女性一人一人は、年に1度のビショップとの面接を受け、その6か月後にクラスを監督するビショップリックの顧問と面接する。

これらの面接でビショップと顧問は、『手引き 第1部』7.1.7 に述べられた指針に従う。またワード若い女性書記から受け取る『若い女性——成長するわたし』記録用紙（指導者用）を参照することができる。

ビショップおよび顧問は、若い女性が初等協会から若い女性へ移行するとき、新しい年齢別クラスへ進級するとき、『若い女性表彰』を受けるとき、聖餐会で一人一人の達成を認め、表彰する。新しい年齢別クラスへ進級するとき、ビショップリックの一員が証明書を授与する。

ビショップリックはクラス会長として召す人を決めるために祈りの気持ちで話し合う。年齢またはクラスに入った順番だけを考慮して選ばない。若い女性会長会はクラス会長として働く若い女性を推薦することができる（19.1.1 および 19.1.2 参照）。

ビショップリックの一員がクラス会長として奉仕する若い女性を召すとき、顧問および書記として召す人をそのクラス会長に推薦してもらう。だれを推薦するかについて主から導きを求め、祈りの気持ちでこの責任を果たすよう勧める。しかし、だれを召すかという靈感を受ける最終的な責任はビショップリックにあることをクラス会長が理解できるようにする。

ビショップリックの一員は、これらの召しについてはいずれも、奉仕するよう求める前に若い女性の両親の承諾を求める。

これらの召しを伝えた後、ビショップリックの一員は賛意の表明を得るために、該当するクラスでその若い女性の名前を提示する。次に、ビショップまたは担当顧問がその若い女性を任命する。ビショップリックの一員は聖餐会でこれらの召しを発表するが、賛意の表明は求めない。

若い女性指導者は、クラス会長会で必要となるかもしれない変更について、ビショップリックに伝えるとよい。

### 10.3.2 ワード若い女性会長会

ワード若い女性会長会は一人の会長と二人の顧問から成る。彼女たちは、ビショップリックの指示の下で働く。また、ステーク若い女性会長会からオリエンテーションおよび継続的な援助を受ける。

ワード若い女性会長会の各会員は、下記のとおり、若い女性クラスの一つを担当する。

会長 —— ローレル

第一顧問 —— マイアメイド

第二顧問 —— ビーハイブ

#### ワード若い女性会長

若い女性会長には下記の責任がある。

会長はワード評議会の一員として働く。評議会の一員として、信仰を築き、個人と家族を強める取り組みに参加する（第4章参照）。また、ビショップリックの青少年委員会の一員を務める（18.2.9 参照）。

会長は、若い女性の組織で奉仕するよう召される姉妹をビショップリックに推薦する。これらの推薦をするに当たり、19.1.1 および 19.1.2 に述べられた指針に従う。

会長は本書を資料として用い、他の若い女性指導者にそれぞれの義務を教える。

会長はワード若い女性の組織の記録、報告、予算、財政を監督する。若い女性書記がこの責任を助ける。

#### ワード若い女性会長と顧問

ワード若い女性会長と顧問には下記の責任がある。

若い女性一人一人を知り、その才能、関心、問題に精通する。若い女性一人一人を強める方法を探し、証において成長するよう助け、若い女性の組織に参加するよう励ます。新会員の若い女性や、あまり活発でない若い女性に特別な注意を払う。

家族の中で若い女性一人一人を支える。

若い女性が「成長するわたし」プログラムに取り組むのを助ける。会長会は同プログラムに自分たちも取り組むように奨励されている。

若い女性の必要について、両親や神権指導者に相談することができる。

ワード若い女性のプログラムが正しく運営され、機能するように図る。この取り組みの一環として、ワード若い女性アドバイザーとスペシャリストを監督し、指導する。

日曜日のクラスでしばしばレッスンを教える。この責任は、若い女性アドバイザーと分担してもよい。若い女性の組織における福音の学習と教授を改善する取り組みを監督する。その際、5.5.3 および 5.5.4 に述べられた原則に従う。

クラス会長会集會に出席し、必要に応じて指導する。

クラス会長会と協力して、ミューチャル活動を含む様々な活動を計画・実行する。クラス会長会が若い女性の間に一致をはぐくむのを助ける。

クラス会長会および若い女性の組織の他の指導者に、指導者としての技術と資質を教える（10.9 参照）。

若い女性の会長会集會を開く。また、若い女性の組織を監督するビショップリックの担当顧問と定期的に集會を持つ。

### 10.3.3 ワード若い女性書記

若い女性書記には下記の責任がある。

会長会と相談して、会長会集會の議事予定案を準備する。それらの集會に出席し、議事録を取り、割り当てる進捗状況を確認・把握する。

クラス書記を指導し、出席記録をつけるクラス書記の作業を監督する。少なくとも四半期に1度、出席に関する情報を集め、若い女性会長とともに目を通し、ワード書記へ提出する。

集會に定期的に出席していない若い女性や、間もなく別の若い女性クラスへ進級する若い女性について、ビショップリックと若い女性会長会が確実に把握するようにする。

『若い女性 —— 成長するわたし』記録用紙（指導者用）を用いて、若い女性一人一人が「成長するわたし」プログラムやその他の活動に参加し、指導者としての召しを果たしながら成長していく過程を記録する。若い女性がビショップリックの一員と面接する予定があるとき、その若い女性の記録用紙をビショップに渡すとよい。

若い女性会長会が年間予算案を作成し、支出を管理するのを助ける。

### 10.3.4 ワード若い女性アドバイザー

ビショップリックは、若い女性会長会がその責任を果たすのを助けるために若い女性アドバイザーを召すこ

とができる。各アドバイザーは若い女性の特定の年齢別グループを担当し、その年齢別グループを担当する会長会の一員の指示の下で働く。アドバイザーには下記の責任がある。

若い女性会長会とクラス会長会がミューチャルを含む、様々な活動を計画・実行するのを助ける。

日曜日のレッスンを教えることができる。また、クラス会長会に指導技術を教えるのを助けることもできる。

「成長するわたし」プログラムにおける若い女性一人一人の進歩記録をつけるのを助けることができる。

招待されたときには、ワード若い女性会長会集會に出席する。

### 10.3.5 若い女性クラス会長会

クラス会長会は通常、若い女性の各クラスに召される。若い女性の人数が少ないワードや支部では、若い女性の各クラスが組織されるようになるまで、一つの会長会が合同年齢グループのために召されることがある。

クラス会長会には下記の責任がある。

クラスの会員、特に新会員やあまり活発でない会員、障がいや特別な必要を抱えた人を見守り、フェローシップをする。彼女たちのために祈り、彼女たちとともに時を過ごし、真の友となる。

クラスの会員が互いに親密な関係を築き、指導技術を学び、福音に従って生活できるように助ける。

クラスに入って来る若い女性一人一人が歓迎されることが分かるように助ける。

クラスの会員が「成長するわたし」プログラムに取り組むのを支援する。

クラス会長会を定期的に開く。

担当クラスの日曜日の集會で司会をする。

ミューチャルを含む、様々な活動の計画を助ける。

各クラスの会長は、ビショップリックの青少年委員会の一員として働く(18.2.9 参照)。

### 10.3.6 若い女性クラス書記

クラス書記には下記の責任がある。

出席に関する情報を集め、目を通し、若い女性書記に提出する。

クラス会長会と相談し、クラス会長会の議事予定案を準備する。これらの集會に出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を確認・把握する。

クラス会長会と若い女性指導者が活動を計画するのを助ける。

### 10.3.7 ワード若い女性活動スペシャリスト

ビショップリックは特定の活動を計画・実行する際に、一時的に働くスペシャリストを召すことができる。例えば、若い女性キャンプ、ユースカンファレンス、スポーツなどの活動を助けるスペシャリストである。これらのスペシャリストは、ワード若い女性会長会の指示の下で働く。

### 10.3.8 若い女性音楽指揮者とピアニスト

ビショップリックは、若い女性音楽指揮者およびピアニストを召すことができる。成人女性または若い女性をこの責任に召すことができる。

音楽指揮者は日曜日の開會行事で歌う賛美歌を選び、指揮をする。また、特別に選曲された歌を若い女性が学ぶのを助け、音楽の能力を伸ばせるように援助することもできる。

ピアニストは、若い女性の集會で前奏曲、後奏曲、賛美歌の伴奏を行う。

## 10.4 指導者会

### 10.4.1 ワード評議会集會

若い女性会長はワード評議会の一員として働く(第4章参照)。

### 10.4.2 ビショップリック青少年委員会集會

ビショップはビショップリック青少年委員会を管理する。同委員会はビショップリック、ビショップの祭司定員会補佐の一人、教師および執事定員会会長、若い女性クラス会長、若い男性および若い女性の会長で構成される。詳しい情報については18.2.9を参照する。

### 10.4.3 ワード若い女性会長会集會

ワード若い女性会長会は、定期的に集會を開く。会長が集會を管理し、司会をする。書記は出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を確認・把握する。

議事予定案には以下の事項を入れることができる。

1. 各クラスの若い女性が10.1.1に記された目標をどのように達成しているかを評価する。若い女性一人一人がこれらの目標をさらに完全に達成するのを助ける方法を計画する。
2. 自分たちの召しに関連した聖句や教会指導者の教えを読み、話し合う。

3. クラス会長会がその務めを果たすよう指導するための計画を立てる。
4. 若い女性の活動が効果的に行われているかどうかについて話し合う。若い女性の徳質を生活に取り入れるのに役立つ活動を若い女性とともに計画する方法について話し合う。
5. 日曜日のクラスの福音のレッスンについて話し合い、改善する方法を計画する。
6. 出席簿に目を通す。新会員やあまり活発でない若い女性が参加できるように助ける方法を計画する。
7. 若い女性の予算と支出に目を通す。

若い女性会長会は必要に応じて、アドバイザーとスペシャリストをこの集会に出席するよう招くことができる。

#### 10.4.4 ビショップリック顧問との会合

若い女性会長会は、若い女性の組織を監督するビショップリック顧問と定期的に会合を持つ。この会合では、各若い女性の進捗状況と必要について話し合う。若い女性会長会は集会や活動のための報告や推薦を行い、計画を検討する。適切であれば、報告したり、指示を受けたりするために、若い女性アドバイザーやクラス会長会をこの会合に招くことができる。

#### 10.4.5 クラス会長会集會

各クラス会長会は会長会集會を定期的に開く。クラス会長が集會を司会する。書記は出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を確認・把握する。クラスを担当する若い女性会長会の一員とクラスアドバイザーも出席する。

議事予定案には以下の事項を入れることができる。

1. 新会員やあまり活発でない若い女性を含め、クラスの会員を強める方法を計画する。また、他の信仰を持つ若い女性をフェロウシップする方法を計画する。
2. 自分たちの召しに関連した聖句や教会指導者の教えを読み、話し合う。
3. 必要に応じて、クラスの会員を訪問する計画を立てる。
4. 若い女性一人一人が「成長するわたし」を順調に進められるよう助ける方法について話し合う。
5. クラスの集會と活動を計画する。
6. ビショップリックの青少年委員会集會で話し合う事項について考察する (18.2.9参照)。

7. ワード若い女性指導者から指導者訓練を受ける。

#### 10.4.6 ステーク若い女性指導者会

ステーク若い女性指導者会は、18.3.11に述べられているように、通常、年に1度開かれる。ワード若い女性会長会と書記が出席する。必要に応じて、アドバイザー、スペシャリスト、若い女性担当のビショップリックの一員を出席するよう招くことができる。

#### 10.5 標準

標準は教会員を強め、導くための確かな方向を示す。若い女性は福音の標準を守るにつれて、教会および世の中で素晴らしい奉仕をするようになる。また、神殿の儀式を受けるのにふさわしくなる。

小冊子『若人の強さのために』の中で、大管長会は福音の標準の概略を述べ、標準を実践する方法を青少年に教えている。すべての若い女性は、『若人の強さのために』を所持し、頻繁に標準を読み返し、自分がいかに実践しているか考えるべきである。

若い女性指導者は、この小冊子に記された標準を研究し、模範を示すべきである。レッスンやミューチャルの活動、キャンプ、ユースカンファレンス、その他の活動でこれらの標準を教え、強調する方法を見いだすべきである。

ビショップリックと若い女性指導者は、両親に福音の標準を研究し、模範を示し、標準について娘と話し合うよう奨励することができる。また、若い女性に家庭の夕べのレッスンやお話のための資料として、『若人の強さのために』を用いるように奨励することができる。

#### 10.6 日曜日の福音のレッスン

若い女性は、福音への理解を増し、福音が日ごろの疑問に答えてくれることに気づき、御霊を感じる機会を得、証を強めて分かち合うために、毎週日曜日に集う。

#### 10.6.1 開会行事

可能な場合は、すべての若い女性が一緒に集まって、日曜日のクラスの前に短い開会行事を行う。ワード若い女性会長会が開会行事を監督し、クラス会長会の一員が司会をする。

開会行事で指導者は、その後のレッスンのために御霊を招く雰囲気を作り出すようにする。開会行事は、歓迎のあいさつ、賛美歌、祈り、若い女性のテーマの暗唱、発表から成る。



ステーキ会長の承認があれば、月に1度の日曜日に、若い女性と扶助協会の開会行事を合同で行ってもよい(9.7.1 参照)。

### 10.6.2 クラス

開会行事の後、若い女性は福音のレッスンを受ける。若い女性のクラスは通常、年齢別に分級する。しかし、必要に応じて、指導者は下記の代替案を考えてもよい。

1. 若い女性の人数が多いワードでは、一つの年齢別グループに複数のクラスを組織し、各クラスにアドバイザーとクラス会長会を召すことができる。
2. 若い女性の人数が少ないワードや支部では、年齢別グループが合同で日曜日の福音のレッスンを受けてもよい。その場合は、アドバイザーは必要ないかもしれない。
3. どのワードでも、すべての若い女性は月に1度、合同のレッスンに集うことができる。

レッスンは通常、若い女性会長会または若い女性アドバイザーが教える。必要に応じて、会長会とアドバイザーはこの責任を分担することもできる。時々若い女性がレッスンを補佐してもよい。若い女性がレッスンをする場合、若い女性会長会の一員またはアドバイザーが準備を手伝う。時々、神権指導者やその他の忠実なワードの会員にクラスを教えるよう依頼してもよい。教える人は5.5.4に記された原則に従うべきである。

可能な場合は、指導者は若い女性一人一人に、自分の聖典を持参するよう奨励する。また、個々のレッスンで必要に応じて、教会承認のその他の資料を持参するよう若い女性に勧めることもできる。

若い女性と若い男性は折にふれて、ビショップリックの指導の下で、合同で集会を持つことができる。

## 10.7 「成長するわたし」

「成長するわたし」は達成プログラムであり、若い女性がイエス・キリストについての証を強め、将来の役割に備え、神聖な神殿の聖約を交わし、それを守るのにふさわしくなる備えができるよう作成されている。

このプログラムの目標は、小冊子『若い女性——成長するわたし』に概説されている。若い女性は、両親と若い女性の指導者と一緒に、若い女性の徳質に基づいた目標を設定し達成する。

両親と指導者は慎重に考慮した後、特別な必要を抱えた若い女性を助けるために、プログラムの一部を変更することができる。例えば、障がいや教育上の制約を持つ若い女性、16歳以降に教会に入ったか、または

活発になった若い女性、教会員ではない若い女性の必要を考慮することができる。一人の会員のために変更や例外を設ける場合には、指導者はこれらの変更が他の会員に与えるかもしれない影響を考慮するべきである。

### 10.7.1 ミューチャルにおける「成長するわたし」の活動

若い女性指導者とクラス会長会は、ミューチャルのための「成長するわたし」の活動を幾つか計画することができる(10.8.1 参照)。例えば、すべての若い女性は、他の若い女性の徳質プロジェクトを助けることができる。そのようなグループ活動は祈りの気持ちで入念に計画し、「成長するわたし」プログラムが若い女性一人一人にとって常に個人的なものであるようにするべきである。

### 10.7.2 エンブレム、証明書、表彰

ワード指導者は教会配送サービスから「成長するわたし」の証明書と賞を入手することができる。これらの品目を購入するにはワード予算を使う。

### 10.7.3 「成長するわたし」に関する指導者の責任

若い女性指導者

若い女性が12歳になると、若い女性会長会の第二顧問とビーハイブ担当クラスアドバイザーは、若い女性とその両親と面談できるよう手配する。ビーハイブクラス会長会の一員も出席することができる。

指導者は若い女性に、小冊子『若い女性——成長するわたし』を渡し、プログラムについて若い女性と両親に説明する。指導者は両親に、娘が「成長するわたし」の体験やプロジェクトを選択・完了するに当たって、一緒に取り組むよう勧める。母親も「成長するわたし」に参加し、表彰を受けることができると説明する。他の女性も彼女たちを援助し、自らもプログラムに参加することができる。

若い女性指導者は、(ビショップがすでに渡していない場合には)若い女性に『若人の強さのために』および『真理を守る——福音の参考資料』を渡す。また、若い女性のロゴ入りペンダントを渡す。ペンダントは教会配送サービスに注文できる。

若い女性指導者は、12歳以降に入る若い女性にもこのオリエンテーションを行う。

両親と指導者に向けたその他の指示が、小冊子『若い女性——成長するわたし』に掲載されている。

## ビショップ

若い女性は「成長するわたし」のプログラムをすべて完了すると、ビショップの面接を受ける。これは年次面接または半期面接のいずれかとする事ができる。ビショップは『若人の強さのために』に記された標準を指針として用いることができる。また、聖餐会やセミナー（行われている場合）に出席しているか、モルモン書を読んでいるかを確認することもできる。『若い女性表彰』を受ける準備ができていると判断したら、『成長するわたし』の冊子の該当箇所に署名する。聖餐会で表彰するとよい。

## 10.8 活動と行事

クラス会長会を含む若い女性指導者は、若い女性の必要と関心に基づいた活動を計画する。最近教会に入った人やあまり活発でない会員を含め、すべての若い女性に手を差し伸べる特別な努力をする。活動は、若い女性が「成長するわたし」のプログラムで設定した目標を達成するうえで役立つことができる。クラス会長会は活動の計画・実行にできるだけ参加するべきである。

若い女性の活動のための計画は、ビショップリックの一員の承認を受け、第13章に記された指針に従うべきである。

### 10.8.1 ミューチャル

若い女性の活動の大半はミューチャルと呼ばれる時間に行われる。ミューチャルという言葉は、互いに敬い助け合っていく中で共有していく様々な体験と、一緒に学ぶ機会を示している。ミューチャル活動は、他の人に奉仕し、霊的、社会的、肉体的、知的に成長する様々な機会を青少年に与えるものとするべきである。

ミューチャルは、通常週に1回行われる。交通の便またはその他の制約により実行できない場合には、頻度を減らすこともできるが、少なくとも月に1回行うべきである。長さは1時間から1時間半とし、日曜日や月曜日を除く日の日中または夕べに開くべきである。

若い女性会長会はビショップリックの指示の下で、若い女性対象のミューチャルを監督する。

若い男性・女性の会長会は時折、ミューチャルの活動を用いて、ステーキまたは複数のステーキによる活動に備えることができる（13.3 参照）。

ミューチャルの年間テーマ

毎年、大管長会はミューチャルのテーマを発表する。指導者はこのテーマをミューチャルの開会行事および他の青少年の活動で強調する。

### 開会行事

ミューチャルは通常、ビショップリックの一員が管理する短い開会行事で始める。ビショップの祭司定員会補佐とローレルクラス会長会が順番に司会をする。成人指導者はこの責任を果たせるよう、指導者として召されている青少年を備える。

開会行事は賛美歌と祈りを含め、音楽の発表、青少年が才能や証を分かち合う機会を盛り込んでもよい。

### 定員会とクラスの活動または合同活動

開会行事の後、アロン神権定員会と若い女性クラスは通常別々の活動を行う。若い女性の人数が非常に少ないワードや支部では、若い女性全員が一緒に活動を行うことができる。また、定員会とクラスの様々な組み合わせによる活動を計画してもよい。

すべての若い男性と女性の合同活動は、通常月に1回行われる。これらの活動はビショップリックの青少年委員会で日程を組み、計画し、検討される。活動はビショップリックの指示の下で実行される。

適切な活動の例としては、奉仕プロジェクト、音楽、ダンス、演劇、文化的行事、スポーツまたは運動、職業の調査、屋外活動などが挙げられる。

### 10.8.2 ビショップリックと青少年の話し合い

ビショップリックと青少年の話し合いはビショップリックにより計画され、行われる。折にふれて開かれるこの話し合いは、ビショップリックにとって、青少年の興味を引き、彼らを霊的に強めるようなテーマで話をする機会となる。『若人の強さのために』や『真理を守る——福音の参考資料』に記されたテーマは特に適切なものである。時々、ビショップリックはゲストを招いて参加してもらってもよい。ゲストは通常、ワードまたはステーキの会員とする。

ビショップリックと青少年の話し合いは、青少年全員または特定の年齢別グループを対象にすることができる。ミューチャルの間、日曜日の定員会集会および若い女性クラス、そのほか家族に過度な負担をかけない時間に関くことができる。頻度についてはビショップリックが決定する。ビショップリックの青少年委員会に予定を立てる。

### 10.8.3 新年度セミナー

新年度セミナーは、若い女性と両親、神権指導者、若い女性指導者のために毎年行われる行事である。これから12歳になる若い女性とその両親も出席するよう招待する。学年の初めまたは年の初めに開く。ミーチャルの中で行うこともできる。

このセミナーは、若い女性と両親が若い女性のプログラムについて知るうえで助けとなる。「成長するわたし」プログラムを説明し、若い女性のテーマ、ロゴ、モットー、年齢別グループの使命とシンボルを紹介する(10.1参照)。さらに、若い女性と両親が新年度の行事に対して計画を立てるのに役立つものとするべきである。

新年度セミナーは指導者にとって、若い女性に愛を表し、「成長するわたし」に取り組む娘を助けるよう両親を励まし、これから12歳になる若い女性を紹介し、新会員またはワードに転入した若い女性を歓迎する機会となる。またこのときに、若い女性と「成長するわたし」の達成を表彰することもできる。若い女性会長会はビショップリックの一員を招き、結びの言葉を述べてもらう。

クラス会長会は、若い女性会長会の指示の下に、プログラムを計画する。若い女性会長会がスペシャリストに援助を求めてもよい(例えば、コーラスや楽器演奏の指導、話の練習、寸劇の指導など)。ローレルクラス会長会の一員が司会を行ってもよい。

### 10.8.4 若い女性エクセレンスプログラム

若い女性エクセレンスプログラムは、若い女性が行っている善い事柄をたたえる行事である。それは「成長するわたし」プログラムの祭典であり、若い女性が卓越した徳質を示しながら1年間に達成した徳質の体験や徳質のプロジェクトを発表する場である。「成長するわたし」プログラムの目標を通して、若い女性が伸ばした才能や技術を発表することもできる。若い女性指導者は、エクセレンスプログラムに両親を招待する。

年度初めに、指導者は若い女性一人一人に、この行事のためにどの徳質に焦点を当てるか真剣に考えさせる。若い女性は、家族や他の若い女性、その他の人と協力してプロジェクトを行うことができる。このプロジェクトは完了までに数か月かかる場合もある。

エクセレンスプログラムは通常、ワード単位でミーチャルのときに行われるが、ステーキ単位で行ってもよい。成人指導者は、若い女性を計画に参加させる。日程と計画は、年度の早い時期に発表するべきである。

### 10.8.5 標準の集い

標準の集いは、道徳的な価値と永遠の目標を強調する特別プログラムであり、『若人の強さのために』に記されている標準を実践するよう、若い女性を励ますものである。同冊子は、若い女性を救い主にさらに近づけてくれる。

この集いは年に1度、あるいは必要に応じてそれ以上、通常はミーチャルのときに行う。クラスやワード、合同ワード、ステーキなどの単位で行うことができる。テーマの発表の仕方により、若い女性の年齢別グループをどのように組み合わせる行ってもよい。また、母親か父親の一方または両方、および若い男性にも参加してもらうことができる。

### 10.8.6 若い女性キャンプ

教会は年に1回、若い女性対象のキャンプまたは同様の活動を行うよう推奨している。この活動の計画に当たり、若い女性指導者は『若い女性キャンプ手引き』および『若い女性キャンプ——神権指導者および若い女性指導者用ガイド』を使用する。

キャンプは、ワードまたはステーキ単位で行うことができる。神権指導者の指示の下に、ステーキとワードの若い女性会長会は、若い女性対象のキャンププログラムの規模を決める。

神権指導者は、キャンプ指導者としてステーキとワードの若い女性スペシャリストを召すことができる。キャンプ指導者は、若い女性会長会の指示の下に、キャンププログラムを計画・準備し、実行する。用具の調達や交通手段、その他の手配について、ワード指導者とステーキ活動委員会に協力を求めてもよい。

キャンプの予算については、10.8.9を参照する。キャンプでの安全性については、13.6.20、および『若い女性キャンプ手引き』を参照する。

### 10.8.7 ステーキおよび複数のステーキによる活動

13.3を参照する。

### 10.8.8 ユースカンファレンス

13.4を参照する。

### 10.8.9 活動と行事のための資金

若い女性の活動と行事のための資金は、ワード予算から拠出するべきである(13.2.8参照)。

## 年次キャンプまたは同様の活動のための資金

ワード予算に年次キャンプまたは同様の活動のための十分な資金がない場合、指導者は参加者に資金の一部または全部を負担するよう求めてもよい。参加者からの資金が十分ではない場合、ビショップは、13.6.8に記された指針に従って、団体での資金獲得活動を毎年1回、承認することができる。

いかなる場合も、年次キャンプまたは同様の活動のための支出または移動が度を越したものであってはならない。また、個人の資金が不足しているために参加できない会員を出さないようにするべきである。

## 用具や用品のための資金

可能な場合、年次青少年キャンプのためにワードが必要とする用具や用品は、ワード予算で購入する。この資金が十分ではない場合、ビショップは13.6.8に記された指針に従って、団体での資金獲得活動を年に1回、承認することができる。

教会の資金で購入した用具や用品は、資金源がワード予算あるいは資金獲得活動かを問わず、教会の使用に限定される。個人や家族が私用で使ってはならない。

## 10.9 指導者としての技術と資質を教える

若い女性指導者はクラス会長会、キャンプ指導者、その他の指導的立場にある若い女性と一緒に働くときに、指導者としての技術と資質を教える。指導者は、若い女性が活動を計画実行するのを助けたり、「成長するわたし」の奉仕プロジェクトにともに参加したりするときに、指導者としての技術と資質を教えることができる。この取り組みを行う際、指導者は本書の第3章を参照するとよい。

## 10.10 ステーク若い女性指導者

### 10.10.1 ステーク会長会

ステーク会長会はステーク内の若い女性の組織を監督する。この責任の一環として、ビショップに若い女性に対する責任について指導する。

ステーク会長は顧問の一人にステーク若い女性の組織を監督するよう割り当てる。

補助組織に関するステーク会長会の責任についての詳しい情報は、15.1を参照する。

### 10.10.2 ステーク若い女性担当高等評議員

ステーク会長は、高等評議会の一員にステーク若い女性会長会とともに働くよう割り当てる。この高等評議員の責任は、15.3に概説されている。

### 10.10.3 ステーク若い女性会長会

ステーク若い女性会長会の責任は、15.4.1に概説されている。

### 10.10.4 ステーク若い女性書記

ステーク若い女性書記の責任は、15.4.2に概説されている。

### 10.10.5 ステークアロン神権・若い女性委員会

ステーク会長は一人の顧問にステークアロン神権・若い女性委員会を管理するよう割り当てる。その他の委員は、ステークの若い男性と若い女性の組織を担当する高等評議員、ステークの若い男性と若い女性の会長会と書記である。

ステーク会長会は、必要に応じて委員会の集会に出席するよう青少年を招待することができる。ユースカンファレンス、ダンス、デイボーショナル、複数のステークによる行事などを計画・実行するに当たっては、できるだけ青少年を参加させるべきである。また、青少年はステーク内の青少年が直面している問題についての話し合いに参加することができる。

### 10.10.6 ステーク若い女性活動スペシャリスト

ステーク会長会は、ステークの活動やプログラムの計画・実行を助けるために、一時的に働く若い女性スペシャリストとしてステークの会員を割り当てることができる。例えば、若い女性キャンプ、ステークおよび複数のステークによる行事、スポーツなどの活動のために、スペシャリストを割り当てることができる。これらのスペシャリストは、ステーク若い女性会長会の指示の下で働く。

## 10.11 若い女性組織を地元の必要に合わせる

若い女性の人数が少ないワードや支部では、若い女性全員が合同でレッスンを受けることができる(10.3.5および10.6.2参照)。また、活動も合同で行うことができる。

ワードや支部の成人指導者が限られている場合、若い女性会長会はアドバイザーがいなくても、日曜日のレッスンを教え、活動プログラムを管理することがで

きる。非常に小さなユニットでは、若い女性会長が若い女性組織の唯一の成人指導者であることもある。その場合には、会長がすべての若い女性のために日曜日のレッスンを教え、活動を監督する。可能になったら、顧問や書記を召すべきである。

若い女性会長がいない非常に小さな支部の場合、若い女性会長が召されるまで、扶助協会会長は両親が若い女性のためのレッスンを計画・準備するのを助けることができる。

青少年は大きなグループで交流することによりしばしば益を受けるため、二つまたはそれ以上の小さなワードや支部の若い男性・女性は、折にふれて合同活動を行うことができる。近隣のワードや支部に若い女性が少ない場合には、ビショップや支部会長は、若い女性が合同で週日の活動を行うのを承認することができる。このような選択肢を検討する際、ビショップや支部会長は、距離や交通費などの要因を考慮に入れる。

小さなステークや地方部では、若い女性会長が唯一のステークまたは地方部の若い女性指導者であることがある。可能になったら、顧問や書記を召すべきである。

地元の必要に合わせることに関する一般的な情報については、第 17 章を参照する。

## 10.12 その他の指針と方針

### 10.12.1 ユースカンファレンスとダンスにおける14歳未満の青少年

14 歳未満の青少年は、普通ユースカンファレンスに参加しない。また、定期的に予定されているミューチャルの夕べ以外の機会に行われるダンスにも参加しない(13.6.14 参照)。年次若い女性キャンプはこの指針には該当しない。

### 10.12.2 他の信仰を持つ若い女性

教会の標準に従うことに同意する他の信仰を持つ若い女性に対しては、青少年活動への参加を温かく歓迎し、奨励するべきである。また、「成長するわたし」プログラムにも参加し、表彰を受けることができる。彼女たちの参加費用は、教会員の若い女性に対するのと同様の方法で取り扱われるべきである。

### 10.12.3 障がいを持つ若い女性

障がいを持つ若い女性は通常、正規のクラスに出席する。例外については、両親とビショップリックの承認が必要である。

障がいを持つ若い女性を理解し、輪に加え、教えることについての情報は、21.1.26 および disabilities.ids.org を参照する。

### 10.12.4 妊娠しているか、または母親となった未婚の若い女性

未婚の若い女性が妊娠している場合、若い女性のクラスや活動に参加するかどうかは、本人と両親、ビショップが、よく祈って慎重に決める。

17 歳以上で未婚のまま子供を産み、育てる決心をした若い女性は、扶助協会に歓迎し、新しい責任を果たせるよう指導と援助を与える。彼女はもはや若い女性に参加しない。

17 歳未満で未婚のまま子供を産み、育てる決心をした若い女性については、本人と両親、ビショップがともに祈りをもって、若い女性に参加するべきかどうかを決定する。もし若い女性のクラスや活動に参加する場合には、子供を連れて行くべきではない。

教会は、独身の若い女性が、未婚で産んだ自分の子供を独りで扶養することを勧めていない。この方針に関する情報については、21.4.12 を参照する。

# 11. 初等協会

11.1 初等協会のテーマと目的 .....	88	11.5.5 神権予行プログラム .....	92
11.2 ワード初等協会指導者 .....	88	11.6 ステーク初等協会指導者 .....	93
11.2.1 ビショップリック .....	88	11.6.1 ステーク会長会 .....	93
11.2.2 ワード初等協会会長会 .....	88	11.6.2 ステーク初等協会担当高等評議員 .....	93
11.2.3 ワード初等協会書記 .....	89	11.6.3 ステーク初等協会会長会 .....	93
11.2.4 ワード初等協会音楽指導者とピアニスト .....	89	11.6.4 ステーク初等協会書記 .....	93
11.2.5 初等協会教師と託児指導者 .....	89	11.6.5 ステーク初等協会音楽指導者 .....	93
11.2.6 活動の日の指導者とスカウト指導者 .....	89	11.7 初等協会を地元の必要に合わせる .....	93
11.3 指導者会 .....	90	11.8 その他の指針と方針 .....	93
11.3.1 ワード評議会集会 .....	90	11.8.1 初等協会で奉仕する男性 .....	93
11.3.2 ワード初等協会会長会集会 .....	90	11.8.2 8歳の記録上の子供のバプテスマ .....	94
11.3.3 ビショップリック顧問との集会 .....	90	11.8.3 初等協会で証を述べる .....	94
11.3.4 ステーク初等協会指導者会 .....	90	11.8.4 敬虔さを促す .....	94
11.4 日曜日の初等協会 .....	90	11.8.5 ロールプレー活動で神の役を演じる .....	94
11.4.1 集会時間 .....	90	11.8.6 特別な必要を抱えた子供 .....	94
11.4.2 分かち合いの時間 .....	91	11.8.7 財政 .....	94
11.4.3 クラス .....	91		
11.5 初等協会のプログラム, 活動, 行事 .....	92		
11.5.1 「神への信仰」プログラム .....	92		
11.5.2 活動の日 .....	92		
11.5.3 スカウト活動 .....	92		
11.5.4 聖餐会での子供の発表 .....	92		

## 11. 初等協会

初等協会は神権組織を助ける補助組織である。すべての補助組織は、教会員が天の御父とイエス・キリスト、回復された福音に対する証を増し加えるのを助けるために存在する。補助組織の働きを通して、会員は福音の原則に従って生活しようと努めるときに、教えと励まし、助けを受ける。

### 11.1 初等協会のテーマと目的

初等協会の対象は18か月から11歳までの子供たちである。初等協会のテーマは「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い」である(3ニーファイ22:13)。初等協会の目的は子供たちが以下のことを行えるよう助けることである。

1. 自分たちへの天の御父の愛を感じる。
2. イエス・キリストの福音を学び理解する。
3. 聖霊の導きを感じ、認識する。
4. 神聖な聖約を交わして守る備えをする。

親は、子供たちの霊的および物質的な福祉について第一の責任を負っている(教義と聖約68:25-28参照)。ビショップリック、初等協会の指導者と教師は、この責任において親を支援するが、親に取って代わることはない。

### 11.2 ワード初等協会指導者

本章は、個人と家族を強めるような方法で初等協회를管理運営することに焦点を置いている。初等協会指導者は、指導に関する一般的な原則が概説された第3章を頻繁に読み直す。それらの原則には、霊的な備え、評議会への参加、ほかの人を教え導くこと、イエス・キリストの福音を教えることなどが含まれる。

#### 11.2.1 ビショップリック

ビショップと顧問

ビショップと顧問は初等協会に対して神権指導を行う。

ビショップは初等協会会長として奉仕する姉妹を召し、任命する。また、初等協会で働くその他すべての人の召しと任命を監督する。彼らを召し、任命するよう、顧問に割り当てることもできる。

ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、8歳の記録上の子供、および記録上の子供ではないが少なく

とも親のいずれかまたは保護者の一人が会員である8歳の子供と、バプテスマと確認の儀式のための面接を行う。両方の親が会員ではない8歳の子供、およびバプテスマを受けるときに9歳以上になる子供には、専任宣教師が教え、面接する。

ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、子供が12歳の誕生日を迎え、初等協会から進級する前に面接をする。

ワード初等協회를監督する割り当てを受けた顧問

ビショップは顧問の一人にワード初等協회를監督するよう割り当てる。この顧問には以下の責任がある。

ワード初等協会会長会と定期的に会合を持つ。初等協会に関する事柄をビショップリック集会で報告する。

毎年行う聖餐会での子供の発表に備える取り組みを指導する。

神権予行プログラムの計画を指導する。

ビショップリックの一人が分かち合いの時間に短いメッセージを子供たちに伝える働きを調整する。

スカウト活動が教会により承認されている地域では、8歳から11歳の男子を対象としたスカウト活動を監督する。

#### 11.2.2 ワード初等協会会長

ワード初等協会会長会は一人の会長と二人の顧問によって構成される。会長会はビショップリックの指示の下で働く。また、ステーク初等協会会長会からオリエンテーションと継続的な支援を受ける。

ワード初等協会会長

初等協会会長には下記の責任がある。

会長はワード評議会の一人として働く。評議会の一人として会長は、信仰を築き、個人と家族を強める取り組みに携わる(第4章を参照)。

会長は初等協会で指導者や教師として働くよう召されるワードの会員をビショップリックに推薦する。この推薦を行う際には、19.1.1および19.1.2に記された指針に従う。

会長は本手引きを資料として用いて、ほかの初等協会指導者と教師にそれぞれの務めを教える。

会長は 11.5.1 に記されたとおり、『神への信仰』ガイドブックの活用を監督する。

会長はワード初等協会の記録、報告、予算、財政を監督する。初等協会書記がこの責任を助ける。

#### ワード初等協会会長と顧問

初等協会会長と顧問は協力して下記の責任を果たす。会長はこれらの責任の幾つかを監督するよう顧問に割り当てることができる。

子供たちの名前を覚え、子供たちの才能、関心事、直面している問題に精通する。一人一人の子供を強める方法、初等協会に参加するように助ける方法を見いだす。

新たに召された教師にオリエンテーションを施し、初等協会における福音の学習と教授を改善する取り組みを監督する。この取り組みに際し、5.5.3 および 5.5.4 に記された原則に従う。また、初等協会の教師と託児指導者を下記の方法で支援する。(1) 折にふれて会って質問や懸念事項を検討し、子供たちに奉仕する方法を話し合う。(2) 分かち合いの時間、クラス、休憩時間の敬虔さを保つよう助ける。(2) クラスへの訪問を取り決める。

分かち合いの時間を計画し、11.5 に挙げられたプログラム、活動、行事を監督する。

初等協会会長会集を開く。また、初等協会を監督するビショップリックの顧問と定期的に会合を持つ。

#### 11.2.3 ワード初等協会書記

ワード初等協会書記には下記の責任がある。

会長と相談して会長会集の議事予定案を準備する。また、これらの集会に出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を把握する。

少なくとも 4 半期に 1 度、出席情報をまとめ、初等協会会長と一緒に検討し、ワード書記に提出する。

初等協会会長とワード幹部書記が、バプテスマを受ける年齢に間もなく達する子供たち、および初等協会からアロン神権や若い女性へ間もなく移行する子供たちを確実に把握するようにする。

初等協会会長会が年間予算案を作成し、支出を管理するのを助ける。

初等協会会長会の要請に応じて、子供たち、教師、親を助ける。例えば、分かち合いの時間にクラスの様子を観察し、敬虔さを保つのを助けることができる。また、子供たちに次回の分かち合いの時間で話をするよう割り当て、子供たちの親に連絡することができる。

#### 11.2.4 ワード初等協会音楽指導者とピアニスト

初等協会会長会の指示の下で、初等協会音楽指導者とピアニストには下記の責任がある。

分かち合いの時間のための音楽を計画し、教え、指導する。聖餐会での子供の発表で歌う歌も含まれる。

要請に応じて、託児クラスおよび初等協会のほかのクラスを、音楽に関して支援する。

要請に応じて、子供のコーラスを組織し、指導する。

初等協会会長会は、音楽がいかに初等協会に貢献するかをワード初等協会音楽指導者とピアニストが理解できるよう助ける。初等協会の歌の旋律、歌詞、メッセージは、子供たちに福音の教義を教え、彼らの心に生涯残ることができる。

初等協会の音楽は、敬虔さを招き、福音を教え、歌うことで得られる聖霊の影響力と喜びを子供たちに感じさせるものであるべきである。子供たちが歌を歌う間、音楽指導者は適度に体を動かしたり伸ばしたりする機会を与える。

『子供の歌集』および最新の分かち合いの時間の概要は、初等協会の音楽の基本教材である。賛美歌集に掲載された賛美歌や、『フレンド』(*Friend* [英語]) および『リアホナ』に掲載された歌も適切である。折にふれて、子供たちの年齢に合った、日曜日にふさわしい、国を愛する歌や祝祭日の歌も使うことができる。初等協会での他の音楽を使う場合は、ビショップリックから承認を受けなければならない。

子供たちに音楽を教えることについては、『子供の歌集』149-151 ページを参照する。また、本手引きの第 14 章、最新の分かち合いの時間のための概要、LDS.org の“Serving in the Church”(教会における奉仕)の項目にある“Music Callings and Resources”(音楽の召しと資料)[英語]を参照する。

#### 11.2.5 初等協会教師と託児指導者

初等協会教師と託児指導者は特定の年齢別クラスを担当する。これらの教師と指導者は、5.5.4 に概説された原則に従う。

初等協会教師と託児指導者は、分かち合いの時間と休憩時間を含め、日曜日の初等協会の全時間を子供たちと一緒に過ごす。分かち合いの時間には、担当クラスと一緒に座り、子供たちと一緒に歌を歌い、子供たちが敬虔な態度で参加するのを助ける。

#### 11.2.6 活動の日の指導者とスカウト指導者

ワード初等協会では 8 歳から 11 歳の子供たちを対象



とした活動の日およびスカウト活動が行われている場合、これらの子供たちを担当する教師、またはこれらの責任を果たすようビショップリックから召されたその他の指導者が活動を計画し実行する（11.5.2 および 11.5.3 参照）。

### 11.3 指導者会

#### 11.3.1 ワード評議会集会

初等協会会長はワード評議会の一員として働く（第4章参照）。

#### 11.3.2 ワード初等協会会長会集会

初等協会会長会は定期的に会長会集会を開く。会長が集会を管理し、司会をする。書記は出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を把握する。

議事予定案には以下の事項を入れるとよい。

1. 初等協会の子供と教師一人一人を強める方法を計画する。
2. 自分たちの召しに関連した聖句や教会指導者の指示を読み、話し合う。
3. 音楽を含む日曜日の初等協会の効果について話し合う。また、週日の活動の効果についても話し合う。改善する方法を計画する。
4. 初等協会で働くその他の人に各自の責任を教える計画を立てる。
5. 出席記録を検討する。最近初等協会に入った子供たちや、あまり活発でない家族の子供たちを助ける計画を立てる。
6. 初等協会の予算と支出を検討する。

必要に応じて、会長会は初等協会で働くその他の人をこれらの集会に招き、出席してもらうことができる。

#### 11.3.3 ビショップリック顧問との集会

初等協会会長会は初等協会の組織を監督するビショップリック顧問と定期的に集会を持つ。この集会で、個々の子供の進捗状況と必要について話し合う。初等協会会長会は報告や推薦を行い、集会や活動の計画を検討する。適切な場合、この集会に出席して報告し、指導を受けるよう、初等協会で働くほかの人を招待することもできる。

#### 11.3.4 ステーク初等協会指導者会

通常、ステーク初等協会指導者会は、18.3.11 に説

明されているように年に1度開く。ワード初等協会会長会と書記が出席する。必要に応じて、初等協会のその他の指導者や教師、初等協会の割り当てを受けたビショップリックの一員を招待することができる。

## 11.4 日曜日の初等協会

### 11.4.1 集会時間

日曜日の初等協会は通常、成人と青少年が神権会、扶助協会、若い女性クラス、日曜学校に出席している間、1時間40分行う。

託児の手引き『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』に記されているとおり、託児の子供たちは全時間、託児クラスにとどまる。その他の子供たちは二つのセッションに出席する。一つのセッションでは、分かち合いの時間に50分間一緒に集う。もう一つのセッションでは、小さなクラスに分級し、初等協会教師が教える40分間のレッスンに参加する。

分かち合いの時間とクラスに出席する子供たちと教師は、二つのセッションの間で10分間の休憩を取る。この休憩の間、次のセッションの準備をする。子供たちはトイレへ行ったり、水を飲んだりすることができる。教師は休憩の間中、子供たちを監督する。

下の表には、日曜日の初等協会の集会時間に関して、3つの選択肢が示されている。初等協会指導者はどの選択肢を選ぶかを検討する際に、年長の子供たちがアロン神権定員会集会や若い女性クラスと同じ時間帯に分かち合いの時間に確実に出席するようにする。このようにすると、子供たちが12歳に達したときに円滑に移行することができる。

**選択肢 1:** 年少と年長の子供たちが二つのグループに別れて分かち合いの時間に集う。最初の50分間、一つのグループが分かち合いの時間に参加し、もう一つのグループが40分間分級し10分間の休憩を取る。次に二つのグループが場所を替わり、最初のグループが10分間の休憩を取り、続いてそれぞれのクラスに参加する。

分かち合いの時間 50分	休憩 10分	クラス 40分
クラス 40分	休憩 10分	分かち合いの時間 50分

選択肢 2: 最初にすべての子供たちが一緒に分かち合いの時間に集う。次に休憩を取り、それぞれのクラスに出席する。

分かち合いの時間 50分	休憩 10分	クラス 40分s
-----------------	-----------	-------------

選択肢 3: すべての子供たちが最初にそれぞれのクラスに出席する。次に休憩を取り、分かち合いの時間に一緒に集う。

クラス 40分	休憩 10分	分かち合いの時間 50分
------------	-----------	-----------------

#### 11.4.2 分かち合いの時間

分かち合いの時間は子供たちに、イエス・キリストの福音を学び、聖霊の導きを感じる機会を与える。初等協会会長会は、毎年ワードに送付される分かち合いの時間の概要に従う。さらに部数が必要な場合は、教会配送センターおよび LDS.org の“Serving in the Church”(教会における奉仕)の項目にある“Primary”(初等協会)[英語]で入手できる。

会長会は交替で分かち合いの時間の司会をする。分かち合いの時間は通常、下記の要素を含む。

1. 前奏曲、子供たちが知っている敬虔な歌または賛美歌、子供の一人による開会の祈り。
2. 次の中の一つまたはそれ以上: 子供の一人が選んで読む聖句、信仰箇条の暗唱、ビショップリックの一員による短いメッセージ、1曲か2曲の活動の歌、その月のテーマに関連した子供たちの話。
3. 初等協会会長会による福音のレッスン。この部分には約15分間を使う。会長会は準備し教えるに当たって、聖句を使い、最新の分かち合いの時間の概要に従う。
4. 音楽指導者の指導による歌の時間。この部分には約20分間を使う(最新の分かち合いの時間の概要を参照)。
5. 子供の一人による閉会の祈り。続いて後奏曲。

#### 11.4.3 クラス

下記の指針に示されているとおり、子供たちは通常、年齢に応じた初等協会のクラスに分かれる。

親、指導者、教師は、可能な場合、年長の子供たちに自分の聖典を教会に持って来るよう励ます。

クラスを地元の必要に合わせることについては、11.7を参照する。

#### 託児クラス

子供たちは1歳半になると、託児クラスに出席し始めることができる。次の見出しの表に示すとおり「ひかり」クラスに出席できるようになるまで託児に出席する。

#### 初等協会のクラス

子供たちは毎年1月の最初の日曜日に初等協会の新しいクラスに出席し始める。下記の表に示すとおり、通常、1月1日現在の年齢に従ってクラスに分かれる。

1月1日現在の年齢	クラス
3	ひかり
4	CTR 4
5	CTR 5
6	CTR 6
7	CTR 7
8	勇者 8
9	勇者 9
10	勇者 10
11	勇者 11

#### 12歳の子供

12歳になった子供は、初等協会から進級する。指導者は進級証明書を授与することができる。

新たに12歳になった子供は、分かち合いの時間にアロン神権定員会の集会または若い女性のクラスに出席する。

新たに12歳になった子供たちは通常、その年が終わるまでは、初等協会のクラスの時間に勇者11のクラスに出席する。しかしながら、ビショップと初等協会、若い男性、若い女性、日曜学校の会長会は、その子供たちが12歳と13歳対象の日曜学校クラスに出席することによっていっそう恩恵を受けるかどうかを判断するために協議することができる。協議する際、子供たちの必要、およびそれぞれの子供が1年のうちのいつ12歳になるかを考慮する。彼らの決定はその年に12歳になる若い男性と若い女性全員に適用される。

## 11.5 初等協会のプログラム、活動、行事

### 11.5.1 「神への信仰」プログラム

「神への信仰」プログラムは、8歳から11歳までの少年少女が福音の原則に従って生活し、証を培い、義にかなったアロン神権者および義にかなった若い女性となるよう備えるうえで助けになる。また、同プログラムを通じて、子供たちに「信仰箇条」を暗唱するよう促すことができる。

ワード初等協会会長は、8歳になる子供一人一人が『神への信仰 少女用』または『神への信仰 少年用』を確実に受け取るようにする。また、それぞれの子供および家族全員が行う活動の資料としてこのガイドブックを活用できることを、親が理解できるよう助ける。

### 11.5.2 活動の日

実施できる地域では、8歳から11歳までの少年少女を対象とした活動の日を開くことができる。指導者と教師は活動の日の資料として『神への信仰』ガイドブックを用いて、「神への信仰」の必要条件を満たすために子供たちと親が家で行う活動を支援する。

活動の日を開く頻度は月2回以下とする。集会所または家で開くことができる。指導者は活動の日を開く頻度と場所を決定する際に、子供たちの家族の時間的な制約、移動の距離と費用、子供たちの安全性、その他の地元の状況を考慮する。また指導者は、活動の日が11.8.1および第13章に記された指針に確実に添ったものとなるようにする。

ビショップリックが活動の日の指導者を別個に召す場合は除いて、その子供たちの初等協会の教師が活動の日の司会をする。

### 11.5.3 スカウト活動

教会がスカウト活動を承認している地域では、スカウト活動は8歳から11歳までの男子を対象とした活動の日に取って代わる。スカウト活動で福音に重点を置くために、指導者は『神への信仰 少年用』ガイドブックを資料の一つとして用いる。男子がこのガイドブックに記された必要条件を満たすと、スカウト活動で宗教章を受ける資格も得ることになる。

子供たちの初等協会の教師がスカウト指導者を務めるか、またはビショップリックがほかの人をスカウト指導者に召すことができる。指導者はスカウト活動が11.8.1および第13章に記された指針に確実に従ったものとなるようにする。

初等協会会長会は、8歳から11歳までの男子全員がスカウトプログラムに確実に登録するよう、またスカウト指導者全員が確実に登録し適切な訓練を受けるようにする。年次デイキャンプ計画のための指針を含むスカウト活動に関する詳細については、教会の『スカウト活動の手引き』(*Scouting Handbook* [英語]) および『11歳スカウトのためのデイキャンプガイド』(*Day Camp Guide for Eleven-Year-Old Scouts* [英語]) を参照する。

教会は、初等協会年齢の男子のために、タイガーカブプログラム(合衆国)またはビーバープログラム(カナダ)を採用していない。

### 11.5.4 聖餐会での子供の発表

年に1度行われる聖餐会での子供の発表は、初等協会ですんだ事柄を分かち合う機会を子供たちに与える。通常、毎年第4四半期に行う。

初等協会会長会と音楽指導者は、ビショップリックの指示の下で発表を計画する。彼らは、必要に応じて子供たちの状況に合わせてながら、最新の分かち合いの時間の概要に記された指針に従う。

この発表は聖餐会で聖餐が執行された後に、残りの時間をすべてまたは一部使って行うことができる。初等協会の3歳から11歳の子供たちは全員分かち合いの時間に習った歌を歌う。また、聖句を読むか暗唱する、話をする、小グループで歌う、証を述べるなどの発表をすることによって参加することもできる。初等協会の一人の成人指導者も短いメッセージを述べてもよい。

聖餐会の神聖さを保つために、発表の中で視覚資料、衣装、各種機器によるプレゼンテーションを使用するべきではない。

### 11.5.5 神権予行プログラム

11歳の男子とその親のために、毎年「神権予行プログラム」と呼ばれる集会が開かれる。この集会の目的は、男子が神権について理解し、神権を受ける備えをする決意を強めることにある。集会のトピックとしては、神権の目的、責任、祝福などを採り上げることができる(その他のアイデアについては、『神への信仰 少年用』12-13ページを参照する)。

ビショップリックの一員が「神権予行プログラム」を司会し、初等協会会長会の少なくとも一人が出席する。そのほか、執事定員委員会会長会や若い男性会長会など、ほかの指導者も出席することができる。

ワードの11歳の男子の数が非常に少ない場合は、ステーク会長会の指示の下で、ほかのワードと合同または

ステーク全体で行うこともできる。地元の必要に応じて、日曜日の夕方や執事定員会集会の一部として、またはその他の時間に開くこともできる。

## 11.6 ステーク初等協会指導者

### 11.6.1 ステーク会長会

補助組織に関するステーク会長会の責任は、15.1に概略が述べられている。

### 11.6.2 ステーク初等協会担当高等評議員

ステーク会長は、ステーク初等協会会長会とともに働くよう高等評議会の一員に割り当てる。この高等評議員の責任は、15.3に概略が述べられている。これらの責任に加え、スカウト活動が教会により承認されている地域では、8歳から11歳の男子を対象としたスカウトプログラムの実施を助ける（教会の『スカウト活動の手引き』（*Scouting Handbook* [英語])を参照）。

### 11.6.3 ステーク初等協会会長会

ステーク初等協会会長会の責任は15.4.1に概説されている。

### 11.6.4 ステーク初等協会書記

ステーク初等協会書記の責任は15.4.2に概略が述べられている。

### 11.6.5 ステーク初等協会音楽指導者

ステーク初等協会会長会の指示の下で、ステーク初等協会音楽指導者は、ステーク初等協会指導者会での指導を助けることができる。初等協会会長会、音楽指導者、ピアニストに個別に指導を行うこともできる。要請があれば、ステーク初等協会音楽指導者は子供のステーク聖歌隊を組織し、指導することができる。

指導は、音楽を通して子供たちに福音を教える効果的な方法の実演を含むべきである。資料として、『子供の歌集』149 - 151ページ、本手引きの第14章、最新の分かち合いの時間の概要、LDS.orgの“*Serving in the Church*”（教会における奉仕）の項目にある“*Music Callings and Resources*”（音楽の召しと資料）[英語]を参照する。

## 11.7 初等協会の組織を地元の必要に合わせる

一つの年齢別グループに多くの子供がいるワードでは、初等協会指導者はこれらの子供たちのために複数

のクラスを組織することができる。この変更は託児の子供が多いワードでは特に有益かもしれない。

子供の数が少ないワードでは、初等協会指導者は二つまたはそれ以上の年齢別グループを合同にして一つのクラスにすることもできる。

小さなワードや支部では、初等協会会長会のみが初等協会の指導者と教師を務めることもある。非常に小さなユニットでは、初等協会会長のみが初等協会の指導者と教師を務めることもある。この場合には、会長が分かち合いの時間を司会し、子供たち全員のための一つのクラスを教える。可能になったら、下記の順に、より多くの指導者と教師が召されるべきである。

1. 初等協会会長会顧問
2. 音楽指導者
3. 初等協会教師と託児指導者
4. 書記
5. 活動の日の指導者とスカウト指導者（該当する地域）

初等協会会長のいないきわめて小さな支部では、初等協会会長が召されるまで、子供たちのレッスンを準備する親を扶助協会会長が助けることができる。

小さなステークまたは地方部では、初等協会会長のみがステークまたは地方部の初等協会指導者を務めることもある。可能になったら、下記の順に、その他の指導者が召されるべきである。

1. ステークまたは地方部の初等協会会長会顧問
2. 音楽指導者
3. 書記

地元の必要に合わせることに関する一般的な情報については、第17章を参照する。

## 11.8 その他の指針と方針

### 11.8.1 初等協会に奉仕する男性

初等協会に奉仕する会員について検討するとき、ビショップリックと初等協会会長会はワードのふさわしい男性の良い影響力を覚えておくべきである。子供たち、特に家庭にふさわしい神権者がいない子供たちは、思いやりのある義にかなった神権者の模範を見る必要がある。男性は教師、音楽指導者、ピアニスト、活動の日の指導者、スカウト指導者として奉仕することができる。また、託児で補佐をすることもできる。

男性が子供を教える割り当てを受けた場合、少なくとも二人の信頼できる成人が常に出席するべきである。二人の成人は二人の男性、夫婦、または同じ家族に属する二人とする。小さな支部で、一つの教室を二人の教師がいるのが実際的でない場合は、初等協会会長会の一員が男性一人だけで教える各クラスを頻繁に視察する。

#### 11.8.2 8歳の記録上の子供のバプテスマ

20.3.4を参照する。

#### 11.8.3 初等協会で証を述べる

親および初等協会の指導者、教師は、教えるときに単純で率直な証を述べ、子供たちが証とは何かを学ぶとともに、証をする方法についても学べるように助ける。

証会は初等協会では行わない。しかし、親、初等協会指導者や教師は、証を述べるその他の機会を与えることができる。例えば、子供たちは家庭の夕べでレッスンを行うときや分かち合いの時間に話をするときに、証を述べるができる。そのような機会は、子供たちが親やきょうだい、その他の人の助けを借りずに証を述べられる十分な年齢に達したときに断食証会で証を述べる備えとなる。

#### 11.8.4 敬虔さを促す

敬虔さは天の御父とイエス・キリストに対する愛と敬意の表れである。初等協会指導者と教師は子供たちが敬虔さとは何か、また敬虔に振る舞うにはどうしたらよいか理解するのを助ける。自ら模範を示すことで、敬虔さを促す。また、聖霊の導きを招くような視覚教材や学習活動を用いたり、聖文から教えたりする準備をして教会へ来ることにより、敬虔さを促す。

#### 11.8.5 ロールプレー活動で神の役を演じる

指導者と教師はロールプレー活動を行うことを選択した場合、特に神聖な出来事を演じる場合は、敬虔さを保つよう注意を払う。父なる神と聖霊はいかなる方法でも演じてはならない。救い主は、降誕の場面を除き、子供が演じるべきではない。その他の指針については、13.6.15を参照する。

#### 11.8.6 特別な必要を抱えた子供

子供が長期に及ぶ病氣、障がい、その他の必要を抱えている場合、初等協会指導者は神権指導者と子供の親に相談し、助ける方法を決定する。

障がいのある子供は通例、正規の初等協会クラスに加わる。必要に応じて、また可能な場合、子供と一緒に出席するか、または別個に教えるために、専門の教師を召すこともできる。病氣や障がいのために子供が家にいる必要のある場合には、初等協会教師は子供の家族が初等協会のレッスンを子供に教えるのを助けることができる。その子供は初等協会の該当する年齢別クラスに登録され、レッスンが行われたとき、教師はその子供を出席扱いにする。

障がい、またはその他の特別な必要のある子供は通常、12歳になったら初等協会から進級する。

障がいのある子供を理解し、クラスに溶け込ませ、教えることについては、21.1.26、および [disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) [英語]を参照する。

#### 11.8.7 財政

初等協会のすべての活動にかかる費用は、ワードの予算で賄う。これには、託児、活動の日、スカウト活動の費用も含まれる。初等協会の活動、クラス、集会のために購入した備品はワードの所有物である。初等協会で働く人やその家族が私用に使ってはならない。

年に1度のデイキャンプ、または8歳から11歳の子供たちを対象とした同様の活動の費用を、ワード予算で十分に賄えない場合、指導者は参加者に費用の一部または全額を負担するよう依頼することができる。しかし、いかなる場合も、年に1度のデイキャンプや同様の活動の費用や交通費が、度を超えたものにならないようにするべきである。また、個人の資金が不足しているために参加できない会員がいないようにするべきである。

教会の資金を使って、個人のためのユニフォームを購入することはできない。

活動のための資金に関する詳細については、13.2.8を参照する。

## 12. 日曜学校

12.1 日曜学校の目的 .....	96	12.6 集会所図書室 .....	98
12.2 ワード日曜学校指導者 .....	96	12.6.1 ワード図書委員および図書委員補佐 .....	98
12.2.1 ビショップリック .....	96	12.6.2 複数のワードが共用する建物における集会所図書室の指導者 .....	98
12.2.2 ワード日曜学校会長会 .....	96	12.6.3 集会所図書室の方針 .....	98
12.2.3 日曜学校教師 .....	97	12.7 ステーク日曜学校指導者 .....	98
12.2.4 ワード日曜学校書記 .....	97	12.7.1 ステーク会長会 .....	98
12.2.5 日曜学校クラス会長 .....	97	12.7.2 ステーク日曜学校担当高等評議員 .....	98
12.3 指導者会 .....	97	12.7.3 ステーク日曜学校会長会 .....	99
12.3.1 ワード評議会集会 .....	97	12.7.4 ステーク日曜学校書記 .....	99
12.3.2 ワード日曜学校会長会集会 .....	97	12.8 日曜学校の組織を地元の必要に合わせる .....	99
12.3.3 ビショップリックの顧問との集会 .....	97		
12.3.4 ステーク日曜学校指導者会 .....	97		
12.4 日曜学校のクラス .....	97		
12.4.1 青少年のクラス .....	98		
12.4.2 ヤングシングルアダルトのクラス .....	98		
12.4.3 障がいのある生徒を助ける .....	98		
12.5 ワードにおける学習と教授を改善する .....	98		

## 12. 日曜学校

日曜学校は神権組織を補助する組織である。すべての補助組織は、教会員が天の御父、イエス・キリスト、および回復された福音に対する証を強めるのを助けるために存在する。会員たちは福音の原則に従って生活しようと努力するときに、補助組織の働きを通して指導と励まし、支持を受ける。

### 12.1 日曜学校の目的

12歳以上のすべての教会員は日曜学校の会員である。信仰を異にする人も自由に日曜学校のクラスに出席し、参加することができる。日曜学校組織の目的は以下のとおりである。

1. 教授、学習、フェローシップを通して、天の御父とイエス・キリストに対する個人と家族の信仰を強める。
2. 教会と家庭において「互いに王国の教義を教え合[う]」よう教会員を助ける（教義と聖約88:77）。

### 12.2 ワード日曜学校指導者

本章は個人と家族を強める一つ的手段として日曜学校を運営することに焦点を絞っている。日曜学校の指導者は指導の一般原則が概説されている第3章をしばしば見直す。これらの原則には霊的に備えること、評議会に参加すること、人々に仕え、教え、導くこと、イエス・キリストの福音を教えることが含まれる。

#### 12.2.1 ビショップリック

ビショップと顧問は日曜学校に対して神権に基づく指導を行う。

ビショップは日曜学校会長を召して、任命する。また、日曜学校で奉仕するほかの人々の召しと任命を監督する。ビショップはそれらの人々を召して任命する割り当てを顧問に与えることができる。

ビショップは集会所図書室を含むワード日曜学校を監督する割り当てを顧問の一人に与える。この顧問はワード日曜学校会長と定期的に集会を開く。また、日曜学校と集会所図書室に関する事柄をビショップリックの集会で報告する。

#### 12.2.2 ワード日曜学校会長

ワード日曜学校会長は神権者が務める。可能であれば、会長はメルキゼデク神権を保持する人が務める。会長会はビショップリックの指示の下で働く。また、ステーク日曜学校会長会からオリエンテーションと継続的な支援を受ける。

#### ワード日曜学校会長

日曜学校会長には以下の責任がある。

日曜学校会長はワード評議会の一員として奉仕する。また、この評議会の一員として、信仰を築き、個人と家族を強める働きに携わる（第4章参照）。日曜学校会長は、ワード評議会集会に出席する際、会員たちが教会や家庭で学習と教授を改善できるようにするために、提案を準備して来る。ビショップから要請された場合、ワードにおける福音の学習と教授を改善できるように、日曜学校会長はワード評議会集会で訓練を実施する。

日曜学校会長は、日曜学校会長会の顧問、日曜学校教師、ワード図書委員、および図書委員補佐として奉仕するよう召されるワードの会員をビショップリックに推薦する。必要であれば、日曜学校書記として奉仕するワードの会員も推薦する。これらの推薦を行うに当たっては、19.1.1と19.1.2の指針に従う。

日曜学校会長はこの手引きを資料として、日曜学校のほかの指導者にその義務を教える。

#### ワード日曜学校会長および顧問

ワード日曜学校会長会は以下の責任を果たすために協力する。

日曜学校における福音の学習と教授を改善するための取り組みを監督する。これらの取り組みにおいて、彼らは5.5.3と5.5.4の原則に従う。また、以下を行うことによって日曜学校教師を支援する。(1) 折に触れて教師と話し合い、彼らの疑問や問題に対処し、生徒に仕える方法について話し合う。(2) クラスを訪問するための調整を行う。

福音の学習と教授を改善するワードの取り組みにおいてスペシャリストとして奉仕する（12.5参照）。

集会所図書室を監督する。これには以下の事項が含まれる。(1) 新しく召された図書委員のオリエン

テーションを行う。(2) 継続的な支援と訓練を提供する。(3) ワード図書委員と前もって協議してから、図書室の年間予算案を提出する。

日曜学校会長会集を開く。また、日曜学校を監督するビショップリックの顧問との集会に出席する。

日曜学校会長は、責任分野の一部を監督する割り当てを顧問に与える。例えば、年齢別の日曜学校クラスを編成すること、教師のオリエンテーションを実施すること、集会所図書室を監督すること、日曜学校教師が必要に応じて代理教師を手配するのを助けることなどの責任を委任することができる。顧問は各々の働きについて会長にしばしば報告する。

### 12.2.3 日曜学校教師

日曜学校教師はビショップリックならびに日曜学校会長会から割り当てられたクラスを教える。教師は5.5.4で概説されている原則に従う。

### 12.2.4 ワード日曜学校書記

必要であれば、ビショップリックはワード日曜学校書記として奉仕するよう兄弟を一人召してもよい。書記には以下の責任を与えることができる。

会長会集の議事予定案を作成するために会長会と話し合う。会長会集会に出席し、議事録を取り、割り当ての進捗状況を把握する。

出席情報をまとめて日曜学校会長とともに見直し、会員たちに日曜学校に出席するよう奨励する方法を決める手助けをする。この情報の控えを教師たちに配付すべきである。

### 12.2.5 日曜学校クラス会長

日曜学校会長会はビショップリックの承認を得て、会員に日曜学校クラス会長を務めるよう要請することができる。クラス会長は男女どちらでもよい。クラス会長には、クラスを始めるときに簡単な歓迎のあいさつを述べ、新たにクラスに加わった生徒や訪問者を紹介し、生徒に開会および閉会の祈りを割り当てるよう依頼することができる。さらにクラス会長には、生徒の出席状況の確認・把握や、定期的に出席していない生徒に対するフェロシップの支援を依頼することもできる。

### 12.3.1 ワード評議会集会

日曜学校会長はワード評議会の一員として奉仕する(第4章参照)。

### 12.3.2 ワード日曜学校会長会集

日曜学校会長会は定期的に会長会集を開く。会長が集会を管理し、司会する。書記も出席して、記録を付け、割り当ての進捗状況を確認・把握することができる。

議事予定案には以下の事項を含めるとよい。

1. 日曜学校会長会の召しに関連する聖句および教会指導者からの指示を読んで、話し合う。
2. 日曜学校のクラスが効果的に行われているかどうかについて話し合い、教師と生徒の進歩を助ける方法を計画する。
3. ほかの神権組織または補助組織における学習と教授の改善を支援する要請にこたえる方法を計画する。
4. 出席簿を見直す。日曜学校にさらに活発に参加することを奨励する方法を計画する。

### 12.3.3 ビショップリックの顧問との集会

日曜学校会長会は、日曜学校を監督するビショップリックの顧問と定期的に集会を開く。この集会では、日曜学校とワードにおける学習と教授について意見を交換する。日曜学校会長会は報告をし、推薦を行い、集会の計画を見直す。

### 12.3.4 ステーク日曜学校指導者会

ステーク日曜学校指導者会は、18.3.11で説明されているとおり、通常毎年1回開かれる。ワード日曜学校会長会と書記が出席する。日曜学校教師と日曜学校を担当するビショップリックの一員を必要に応じて招待してもよい。

## 12.4 日曜学校のクラス

日曜学校のクラスは、聖餐会と、神権会・扶助協会・若い女性の集会の間に開かれる。クラスは40分間である。開会および閉会の祈りは各クラスで行われる。必ずしも開会または閉会の賛美歌を歌う必要はない。

日曜学校は成人クラスと青少年クラスで構成される。幾つかの任意のコースを含めて、承認されているコースは、現行の『教科課程に関する指示』の中で明らかにされている。

## 12.3 指導者会



### 12.4.1 青少年のクラス

日曜学校会長会は一般的に、12歳から18歳までの青少年を1月1日の年齢に基づいてクラス分けする。例えば、1月1日の時点で14歳または15歳の若い男性と若い女性全員のために、会長会是一个のクラスを組織することができる。青少年は翌年まで同じクラスに在籍する。

若い男性と若い女性が12歳に達したときの日曜学校に関する情報については、11.4.3を参照する。

### 12.4.2 ヤングシングルアダルトのクラス

十分な人数のヤングシングルアダルトがいるワードは、日曜学校の時間に彼らのために別のクラスを設けることができる。教師はヤングシングルアダルトの必要に重点を置きながら、聖典および承認された日曜学校の手引きを使用する。

### 12.4.3 障がいのある生徒を助ける

障がいのある会員を理解し、クラスに迎え、教えることに関する情報については、21.1.26と disabilities.lds.org を参照する。

---

## 12.5 ワードにおける学習と教授を改善する

ワード日曜学校会長会は、学習と教授を改善するワードの取り組みにおいてスペシャリストとして奉仕する。ビショップリックまたは神権組織と補助組織の指導者から要請された場合、彼らは助言を与え、訓練や支援を提供する。また、指導者が新任の教師にオリエンテーションを行い、組織における福音の学習と教授を改善できるよう支援する。

---

## 12.6 集会所図書室

各集会所には、会員たちが福音を学び、教えるのを支援するため、資料を備えた図書室を設置するべきである。ワード日曜学校会長会は集会所図書室を監督する。

集会所図書室の規模は利用できるスペースによって様々である。以下の品目の一部またはすべてを収蔵することができる。聖典、教会機関誌、教会が作成した絵・写真および視聴覚資料、チョーク、黒板ふき、鉛筆、紙、テレビ、DVDプレーヤー、コピー機。

ステーク会長会は集会所図書室の資材をワード、インスティテュートのクラス、家族歴史センターが共用することを承認することができる。

### 12.6.1 ワード図書委員および図書委員補佐

ワード図書委員は、指導者、教師、その他の会員が、使用できる資料、備品および器材の利用方法について学べるよう支援する。図書委員は図書室に配置する人員の予定表を作成する。すべての図書委員が毎週日曜日に聖餐会に出席することができ、日曜学校のクラスまたはメルキゼデク神権あるいは扶助協会の集会のいずれかに出席できる日程であるようにするべきである。

ワード図書委員は図書室の利用を調整するために、必要であればほかのワードや組織と協力する。図書委員は図書室の資料や器材の整備と手入れをし、会員たちに教材を貸し出すために簡単なシステムを用いる。

図書委員補佐はワード図書委員の指示の下で働き、図書委員の責任の多くを分担する。

### 12.6.2 複数のワードが共用する建物における集会所図書室の指導者

複数のワードが共用する建物において、それらのワードは通常同じ図書室を使用する。この場合、図書室の調整は代表ビショップの責任となる。代表ビショップは図書室の利用のために計上されている予算を管理するための委員会を任命することができる。この委員会は各ワードの日曜学校会長会の一員と各ワードの図書委員によって構成されるべきである。

### 12.6.3 集会所図書室の方針

集会所図書室に関する方針については、LDS.orgの「Serving in the Church」(教会における奉仕)の項にある「Sunday School」(日曜学校)に記されている。

---

## 12.7 ステーク日曜学校指導者

### 12.7.1 ステーク会長会

ステークの補助組織に関するステーク会長会の責任については15.1に概説されている。

日曜学校を監督するステーク会長会の顧問はステークの集会所図書室も監督する。

### 12.7.2 ステーク日曜学校担当高等評議員

ステーク会長は高等評議会の一員にステーク日曜学校会長会を支援する割り当てを与える。この高等評議員の責任については15.3に概説されている。

### 12.7.3 ステーク日曜学校会長会

ステーク日曜学校会長会は神権者が務める。可能であれば、会長はメルキゼデク神権を有する人が務める。ステーク補助組織指導者としての彼らの責任については 15.4.1 に概説されている。さらに、以下の責任がある。

福音の学習と教授を改善するステークの取り組みにおいてスペシャリストとして奉仕する。

ステーク内の集会所図書室の利用について調整する。これには以下の事柄が含まれる。

1. ワード日曜学校会長会から要請された場合に、新任のワード図書委員に対して実施されるオリエンテーションを支援する。
2. ステーク内のワード図書委員と図書委員補佐のためにその他の訓練集会を開く。
3. 集会所図書室に必要な教材と器材が備えられているようにする。
4. ステーク指導者が、必要な集会所図書室の教材と器材を持ち合わせているようにする。

### 12.7.4 ステーク日曜学校書記

必要であれば、ステーク会長会はステーク日曜学校書記として奉仕するよう兄弟を一人召してもよい。ス

テーク日曜学校書記の責任については 15.4.2 に概説されている。

## 12.8 日曜学校の組織を地元の必要に合わせる

小規模のワードまたは支部において、日曜学校会長会は教師を兼任することができる。青少年のクラスは必要に応じて併合することができる。きわめて小規模のユニットでは、日曜学校会長が日曜学校の唯一の指導者であり、教師であるかもしれない。その場合、日曜学校会長は日曜学校のクラスとして 12 歳以上のすべての会員を教える。可能になったら、指導者と教師をさらに召すべきである。

小規模のステークまたは地方部において、日曜学校会長はステークまたは地方部日曜学校の唯一の指導者であるかもしれない。可能になったら、顧問を召すべきである。さらにステーク日曜学校書記も召すことができる。

地元の必要に合わせることに関する一般的な情報については第 17 章を参照する。



## 13. 活動

13.1 教会における活動の目的	102	13.6.4 著作権表示のある資料	106
13.2 活動を計画する	102	13.6.5 夜間外出禁止令	106
13.2.1 活動を計画する責任	102	13.6.6 ダンスと音楽	106
13.2.2 家族を強める	102	13.6.7 活動参加者のためのデイポーションナル	107
13.2.3 参加を奨励する	102	13.6.8 資金獲得活動	107
13.2.4 標準	102	13.6.9 保険	107
13.2.5 安全	103	13.6.10 月曜日の夜	108
13.2.6 バランスと多様性	103	13.6.11 おおみそかのパーティー	108
13.2.7 活動の日程を組む	103	13.6.12 宿泊を伴う活動	108
13.2.8 活動のための資金	103	13.6.13 親の許可	109
13.2.9 機材および消耗品に対する資金	104	13.6.14 14歳以下の青少年の参加	109
13.3 ステーキ、複数のステーキおよび地域の活動	104	13.6.15 神会の描写	109
13.3.1 一般的な指針	104	13.6.16 活動での祈り	109
13.3.2 ステーキ活動委員会	105	13.6.17 活動のために教会以外の施設を借りる	109
13.4 ユースカンファレンス	105	13.6.18 虐待の報告	109
13.5 自由参加の活動	106	13.6.19 安息日の遵守	109
13.6 方針および指針	106	13.6.20 安全措置、事故の対処および報告	109
13.6.1 事故に対する防止および対処	106	13.6.21 スポーツ	110
13.6.2 成人による監督	106	13.6.22 課税対象となる活動	111
13.6.3 商業活動または政治活動	106	13.6.23 神殿訪問	111
		13.6.24 移動	111
		13.6.25 承認されていない活動	112

## 13. 活動

### 13.1 教会における活動の目的

ワード、ステーク、および複数のステークレベルの活動は、教会員を「聖徒たちと同じ国籍の者」として一つにする（エペソ2:19）。活動は、楽しみと娯楽を提供するだけでなく、証を築き、家族を強め、一致と個人の成長をはぐくむものであるべきである。

活動は、帰属意識と互いに支え合う精神をもたらすことによって会員を強める。活動は、会員が同世代同士の、また、指導者および家族との連帯感を得るうえで役立つものであるべきである。また、福音に従った生活がどのように「聖徒たちの喜び」をもたらすかを理解するうえで役立つものであるべきである（エノス1:3）。

教会の活動は、福音を中心とした目的を果たすために計画するべきである。上記の全般的な目的に加え、以下のような目的がある。

1. 周りの人々を祝福し、地域社会との関係を築くような奉仕プロジェクトに参加する。
2. 才能を伸ばし、文化芸術を鑑賞する力を培う。
3. 健康を改善し、スポーツマンシップを学ぶ。
4. 教育および職業訓練を受ける。
5. 特別な祭典を祝い、教会または地元の歴史的出来事を記念する。
6. 指導技術を伸ばす。
7. 自立を養う。
8. 伝道活動、定着、活発化、神殿活動、および家族歴史活動に取り組む。

### 13.2 活動を計画する

#### 13.2.1 活動を計画する責任

活動を計画する前に、指導者は会員の霊的および物質的必要を考慮する。指導者は、どのような活動がそれらの必要を満たすのに役立つか判断するうえで、御霊の導きを求める。福音を中心とした目的を達成し、参加する人々の必要を満たす活動となるよう、入念に計画する必要がある。

ビショップリックの指示の下で、ワード評議会はワードの活動計画を監督する。ワードにおける特定の組織またはグループを対象とする活動の場合、その組織に責任がある神権指導者または補助組織指導者の指示の下で計画する。ワード全体を対象とする活動の

場合、ビショップはワード評議会において代表となる一つまたは複数の組織に活動の責任を割り当てることができる。ビショップは、ワード評議会の指示の下で働くほかの個人または委員会に活動の責任を割り当てることができる。通常、これらの割り当ては特定の活動に対する一時的なものである。

ステーク会長会の指示の下で、ステーク評議会はステークの活動計画を監督する。ステークの活動の詳細については、13.3を参照する。

#### 13.2.2 家族を強める

指導者は、教会の活動が家族と競合するのではなく、家族を強めるものとなるようにする。幾つかの活動は、家族を中心とし、家族がともに参加する機会を提供するものとすることもできる。活動は、キリストの忠実な弟子となるよう子供たちに教えることによって、親を支援するものであるべきである。

指導者はまた、教会の活動が多すぎて会員に過度の負担となることがないようにする。

#### 13.2.3 参加を奨励する

活動を計画する人は、参加者が積極的にかかわることができるように努力する。通常、単に傍観するよりも参加した方が有益だからである。参加を奨励する方法の一つは、会員が活動の中で自分の賜物、技術、才能を使えるようにすることである。

活動を計画する人は、新会員、あまり活発でない会員、青少年、シングルアダルト、障がいのある人、信仰の異なる人に手を差し伸べるよう、特別な努力を払うべきである。指導者は参加者の身体的な制約、家族の問題、文化や言葉の違いといった、いかなる特殊な状況にも細心の注意を払うべきである。

#### 13.2.4 標準

教会の活動は、教会の標準を守り、教えるものとするべきである。参加者が同様の信条と標準を持つ人々との友情をはぐくめる、健全な環境を提供するものとするべきである。活動は人々を高め、「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値する」ことを強調するものであるべきである（信仰箇条1:13）。活動にはいかなる不道徳またはいかがわしいこと、または悪を好ましいものや普通のものと思わせる

ことも含まれてはならない。指導者は、すべての活動が救い主の教えに一致したものとなるようにする。

服装および身だしなみは慎み深く、上品で、活動に適したものであるべきである。ビショップリックまたはステーク会長会は、活動のための服装の標準を決める。活動を計画する指導者は、福音の原則と一致する服装の標準を推薦することができる。

知恵の言葉に反する物質は、教会の活動でも、あるいは教会の敷地内でも許可されない。明らかにアルコールまたはその他の薬物の影響下にある人を教会の活動に参加させてはならない。

教会の標準の詳細については、『若人の強さのために』を参照する。

### 13.2.5 安全

13.6.20を参照する。

### 13.2.6 バランスと多様性

指導者は、多彩な活動を含むバランスの取れた活動プログラムを計画するべきである。会員は、自分たちの興味を引く活動に参加する機会を与えられるべきである。会員はまた、それぞれの関心のある事柄において人々を支援する機会を与えられるべきである。指導者は、年間予定を立てることによって、奉仕、文化芸術、および身体活動のバランスを取ることができ、会員に過度の時間的負担をかけずに済む。

以下の段落は、価値ある活動の幾つかの例である。

#### 奉仕

奉仕活動は、教会の会員であるかどうかにかかわらずなく、困っている人々に愛を示し、助けることを通して喜びを感じる機会を会員に与える。これらの活動には、病人や孤独な人々を訪問したり、福祉の割り当てを果たしたり、教会の建物や敷地を美しくしたり、地域社会のプロジェクトに参加したりすることを含むことができる。

#### 文化芸術

文化芸術活動は、才能や興味を育てる機会を会員に提供する。また、このような活動は創造性、自信、コミュニケーション能力、および協調性を養う。そのような活動にはタレントショーまたはダンス、音楽、演劇の発表を含むことができる。地元の教会歴史または全般的な教会歴史を祝う式典も含むことができる。

スポーツ、レクリエーション、健康および健康管理

教会のスポーツ活動の詳細については、13.6.21を参照する。

レクリエーション活動の内容は、それぞれの地域で利用できるリソースによって異なる。このような活動には、歴史記念行事、キャンプ、ハイキング、または趣味を深めることが含まれる。レクリエーション活動の多くは、しばしば家族がともに参加できるように計画することができる。

個人、家族、また教会のグループとして、会員は健康および健康管理に貢献する活動に参加するよう勧められている。このような活動には、ウォーキング、ジョギング、エアロビクスその他の運動プログラム、健康に関するクラスおよび体力作りのためのトレーニングを含むことができる（13.6.25、項目2参照）。

### 13.2.7 活動の日程を組む

教会の活動は適度な余裕を持って計画し、ステークやワードの予定表に組み込むべきである。指導者は、子供や青少年のための活動に関する情報を、親に絶えず提供し続けるべきである。

集会所または教会のその他の施設で活動を行う場合、計画者はほかの活動または集会所と重ならないよう事前に施設を予約する。各集会所にはステーク会長会から割り当てを受けた代表ビショップがいる。代表ビショップは集会所の施設の使用日程を監督するが、実際の日程調整については、通常、ほかの人に担当させる。

月曜日の夜は、家庭の夕べのために取っておかれている（13.6.10参照）。

### 13.2.8 活動のための資金

指導者は、活動の支出が教会の予算および財政の現行の方針にのっとったものとなるようにする。以下の原則が該当する。

大部分の活動は簡素で、ほとんどまたはまったく費用のかからないものであるべきである。支出については、事前にステーク会長会またはビショップリックの承認を受けなければならない。

すべての活動、プログラム、消耗品にかかる費用は、ステークまたはワードの予算から支払うべきである。会員は参加費を払うべきではない。また教会員に用具、消耗品、使用料または入場料、あるいは遠距離の交通費を自己負担させるべきではない。会員にとって

過度の負担にならなければ、会員が食べ物を準備して行う活動は開催してもよい。

前段落の資金に関する方針で例外となり得るものは次のとおりである。ワード予算に以下の活動の費用を払う十分な資金がない場合、指導者は参加者に費用の一部または全部を支払うよう依頼することができる。

1. 若い男性の1回の年次長期スカウトキャンプまたはそれに類する活動。
2. 若い女性年次キャンプまたはそれに類する活動。
3. 初等協会に属する8歳から11歳までの子供のための年次日帰りキャンプまたはそれに類する活動。
4. 13.5に概略が述べられているような自由参加の活動。

参加者の提供する資金が十分でない場合は、ビショップは年に1度、13.6.8にある指針に従って、グループでの資金獲得活動を認可することができる。

いかなる場合も、年次キャンプまたはそれに類する活動にかかる経費または移動は、妥当な範囲にとどめるべきである。また、自己資金が足りないために会員が参加できないということがないようにするべきである。

ヤングシングルアダルトのために開かれる複数のステークまたは地域の大規模な行事を資金援助する場合の考えられる例外については、16.3.7を参照する。

活動に伴う交通費の援助に関する指針については、13.6.24を参照する。

### 13.2.9 機材および消耗品に対する資金

可能ならば、青少年の年次キャンプでワードが必要とする機材および消耗品はワード予算で購入する。ワード予算が十分ではない場合、ビショップは、年に1度、13.6.8にある指針に従って、グループでの資金獲得活動を認可することができる。

ワード予算からであれ資金獲得活動からであれ、教会の資金で購入した機材および消耗品は、教会のためにだけ使用する。個人または家族が私的に使用するものではない。

教会の資金を使って、個人のためのユニフォームを購入することはできない。

教会の活動はほとんどワードレベルで行われる。しかしステークおよび複数のステークによる活動が、13.1に概略が述べられている目的をより果たすことができる場合、地元の指導者は、そのような活動をときどき行うように勧められている。

ステークおよび複数のステークによる活動は、特に青少年やヤングシングルアダルトにとって有益である。このような活動は、若い会員がほとんどいない、あるいは大勢の会員と交流する機会がめったにない地域ではとりわけ大切である。ステークや複数のステークによる、よく計画された活動は、若い会員に教会員であることに対する自信、より広範に及ぶ友情の輪、神殿で結婚する将来の伴侶に出会う機会を与える。

ヤングシングルアダルトが妥当な時間と費用で集まれる所では、様々な、簡単にできる複数のステークによる活動を適当な頻度で行うべきである。ヤングシングルアダルトのためのより大規模な行事を定期的に行うこともできる。

すべてのステークの活動は、ステーク会長会によって承認され、ステーク評議会集会で調整されなければならない。ステークの指導者は、ステークの活動について事前に十分な余裕をもってワードの指導者に知らせる。また、ステークの指導者は、ステークの活動がワードの活動と競合するものではなく、ワードの活動を補足するものとなるようにする。

複数のステークによる活動がステークの会員に有益と考えられる場合、ステーク会長は七十人会長会または地域会長会の一員に許可を求めることができる。祝日または地元の重要な記念行事といった特別な祝典を、そのような活動の機会とすることができる。ユースカンファレンス(13.4参照)、奉仕活動、文化芸術活動、スポーツ活動またはレクリエーション活動は、すべて複数のステークレベルで行うことができる。そのような活動は、調整評議会集会でしばしば調整を図る。

複数のステークによる活動を提案する前に、ステーク会長はその活動が自分たちの把握している必要を満たす最善の方法かどうかを判断する。また、その活動に要する費用、時間、移動距離についても検討する。さらに、安全性や必要な施設・用具・人員などのリソースが利用できるかどうかについても考慮する。

七十人会長会または地域会長会の一員は、複数のステークまたは地域の活動を計画し実行する委員会の委員長に地域七十人またはステーク会長を割り当てることができる。ステーク会長会は、これらの委員会で

## 13.3 ステーク、複数のステークおよび地域の活動

### 13.3.1 一般的な指針

奉仕する会員をステークの中から召すことができる。これらの会員はステーク会長会に報告を行う。

ほとんどの場合、複数のステークによる活動の資金は、参加するステークの予算から支払われる。神殿の奉獻に関連した文化式典のような、より大規模な活動の資金は、承認されれば、地域または教会本部の予算で賄うことができる。

ステーク、複数のステークおよび地域の活動は、教会の標準、移動距離に関する教会の方針に従ったものであるべきである（13.2.4 および 13.6.24 を参照）。このような活動には、効果的な指導力、入念な計画、適切な施設・用具・人員などのリソースが必要である。

### 13.3.2 ステーク活動委員会

ステークの活動は、13.2にある指針に従って計画する。ステーク会長会は、ステーク評議会およびステーク補助組織指導者がステークの活動を計画するのを助けるために、ステーク活動委員会を組織することができる。ステーク活動委員会は、委員長（高等評議員）、一人または複数のステーク活動ディレクター、（必要であれば）ステーク活動スペシャリストから成る。

ステーク活動委員会の委員は、ステークの活動を計画するのを助けるだけでなく、ワードの活動を計画する取り組みにおいても、ワードの指導者に助言と支援、指導を与えることができる。

ワードの活動を計画する一時的な委員会とは異なり、ステーク活動委員会は、通常、ステークの複数の活動を計画する。

#### ステーク活動委員会委員長

ステーク会長会は、ステーク活動委員会を組織する場合、高等評議員の一人をステーク活動委員会の委員長として割り当てる。ステーク会長会の判断によって、同委員長に以下の責任を与えることができる。

ステーク会長会が承認したステークの活動予定表を調整し、更新する。

ステークの活動を計画する際に、委員会の委員を指導する。

詳しいステークの活動予算を、各年度が始まる前にステーク会長会に提示する。この予算にはステーク補助組織が計画する活動は含まれない。

ステークの補助組織指導者が活動を計画するとき、助け手として働く。

ステークの会員の特技と興味に関する一覧表を最新の状態に保つ。この一覧表を作成、更新するに当たって、ステーク内の各ワードを担当する高等評議員の助けを得ることができる。『特技と興味に関する調査票』をこの目的で活用してもよい。

#### ステーク活動ディレクターおよびスペシャリスト

ステーク会長会または割り当てを受けた高等評議員は、ステーク活動ディレクターを召すことができる。ステーク活動ディレクターはステーク活動委員会で委員長の指示の下に働く。ステーク活動ディレクターは、奉仕活動、文化芸術活動、スポーツおよび体力作り活動、また、その他の活動の企画および準備を支援することができる。

ステーク会長会の一員または割り当てを受けた高等評議員は、ステーク活動委員会スペシャリストを召すこともできる。これらのスペシャリストは支持や任命は受けない。彼らはステーク活動委員会委員長の指示の下で働く。

## 13.4 ユースカンファレンス

14歳から18歳までの若い男性および若い女性は、ユースカンファレンスと呼ばれる一つの活動または一連の活動にともに参加するよう勧められている。ユースカンファレンスは通常毎年1回、ワードまたはステークレベルで開く。複数のステークまたは地域レベルで開くこともできる。

ユースカンファレンスの目的は、青少年がイエス・キリストへの信仰を築き、証を強め、才能を伸ばし、新しい友人を作り、同様の信条と標準を共有する青少年と楽しい時間を持つのを助けることである。また青少年はユースカンファレンスの計画を手伝うにつれて、指導技術を身に付けることができる。

ワードのユースカンファレンスは、ビショップリックの指示の下、ビショップリックの青少年委員会が計画し実行する。ビショップリックは、ワードのユースカンファレンスの計画にステーク会長会の承認を得る。

ステークのユースカンファレンスは、ステーク会長会の指示の下、ステークアロン神権・若い女性委員会が計画し実行する。ステークのユースカンファレンスを計画するに当たって、青少年がアロン神権・若い女性委員会をできるかぎり援助するように求めるべきである。ステーク会長会は、必要に応じ、青少年に委員会集會に出席するよう求めてもよい。



ユースカンファレンスの資金は、ステーキまたはワード予算で賄う。会員にユースカンファレンスの費用を支払うよう要請するべきではない。

指導者および青少年は、ユースカンファレンスを計画するときに、この章に記載されている方針および以下の指針に従うべきである。

1. 青少年がカンファレンスで期待されていることを理解できるように助け鼓舞する福音のテーマ（聖句など）を選ぶ。ミューチャルの年間テーマをユースカンファレンスのテーマとして用いてもよい。ビショップリックまたはステーキ会長会がテーマを承認するべきである。
2. テーマに添った活動、例えば、デイポーションナル、グループ集会、学習体験、および奉仕プロジェクトのような活動を計画する。
3. すべての話者や活動にビショップリックまたはステーキ会長会の承認を得る。話者は御霊により教える教会員であるべきである。聞き手を楽しませるのがおもて福音に表面的にしか言及しない話者を選ぶべきではない。また、長距離の移動が必要になる話者も選ぶべきではない。話者に関するその他の指針については21.1.20を参照する。
4. 安息日にふさわしくない行事を日曜日の予定に入れることは避ける。証会、ビショップリックと青少年の話し合い、またはそれに類する集会は認められる。しかし、神権指導者が管理するワードまたはステーキの管轄区域外で聖餐会を開いたり聖餐を執行したりしてはならない。例外については、七十人会長会または地域会長会の一員から承認を得なければならない。また日曜日には、グループとしてユースカンファレンスへの行き帰りの移動をするべきではない。
5. 然るべき成人が常に監督するようにする（13.6.2参照）。

ビショップリックまたはステーキ会長会は、可能な限り多くの時間、カンファレンスに出席するよう求められている。若い男性および若い女性会長会は、カンファレンス全体に出席することが奨励されている。

### 13.5 自由参加の活動

ユニットは教会関連の団体が提供する自由参加の活動を主催・後援することができる。そのような活動の中には、教会の大学の公演グループ、特別な青少年プログラム、また定期的に行われる大規模な文化行事が含まれる。七十人会長会または地域会長会の一員

から承認を得た場合、会員から小額の料金を徴収し、そのような行事の費用を負担させてもよい。ただし、(1) プログラムがまったくの自由参加であり、(2) 大きな負担となるような費用でなく、(3) 資金獲得が目的の行事でないことを条件とする。出席したくても費用を支払えない人々のために予算を使ってもよい。

## 13.6 方針および指針

指導者は、教会が行うすべての活動で以下の方針および指針が守られるようにする。

### 13.6.1 事故に対する防止および対処

13.6.20を参照する。

### 13.6.2 成人による監督

子供、青少年およびヤングシングルアダルトの活動は、適切な人数の責任ある成人が付き添うべきである。必要とされる成人の人数は、グループの規模、(特定の技術が必要な活動に対する)グループの技術レベル、予想される環境条件、および活動の全般的な難易度によって決定される。親の助けを奨励するべきである。

### 13.6.3 商業活動または政治活動

教会施設を使って行ういかなる商業目的または政治目的での活動も承認されない。教会の建物およびその他の資産の使用に関する方針については、21.2を参照する。

### 13.6.4 著作権表示のある資料

21.1.12を参照する。

### 13.6.5 夜間外出禁止令

活動は地域社会の夜間外出禁止令に従うべきである。

### 13.6.6 ダンスと音楽

あらゆるダンスにおいて、服装、身だしなみ、照明、ダンスのスタイル、歌詞、および音楽は、主の御霊がともにあるような雰囲気貢献するものであるべきである（『若人の強さのために』参照）。ダンスを監督する人は、以下に概略が述べられている方針に注意深く従うべきである。

指導者は、バンド、オーケストラ、またはディスクジョッキーを雇うときは、『公演契約書』を利用する。

この契約書は、振る舞いおよび音楽が教会のダンスに適するようにするうえで助けとなる。音楽を提供する人々は不適切な歌詞の曲を用いたり下品な服装をしたり、または慎みのない話し方をしたりするべきではない。指導者はオーディションを開き、書面による確固とした明確な同意を得て、音楽を提供する人が教会の活動のために演奏するときには教会の標準に従うことを義務づける。

楽器であれボーカルであれ、旋律が聞き取れないほど強烈なリズムの音楽であるべきではない。音楽の音量は、隣り合わせて立つ二人が、普通に会話したときに相手の声が十分聞こえる程度であるべきである。

照明は、会場の反対側まで見渡せるだけの明るさであるべきである。ストロボ照明や強烈なリズムに応じて明滅するサイケデリックな照明は認められない。会場の床や隅に適度な照明を配置したり、壁にスポットライトを当てたり天井を飾ったりするのはよい。

### 13.6.7 活動参加者のためのディボーション

活動の一部として、短いディボーションプログラムを開くことができる。ディボーションには、通常、祈り、賛美歌または音楽の発表、指導者の話、一人または複数の参加者による霊的な話、証、または聖句が含まれる。このようなプログラムは御霊を招き、活動全体を把握しておくのに役立つ。

### 13.6.8 資金獲得活動

ステーキおよびワードの活動費用は予算で賄われるため、通常、資金獲得活動は認められない。例外的に、ステーキ会長またはビショップは、毎年1回、グループでの資金獲得活動を認可することができる。資金獲得のためにそのような活動を行えるのは、以下の目的がある場合に限られる。

1. 13.2.8に概略が述べられているような1回の年次キャンプまたはそれに類する活動の費用の支払いを助けるため。
2. 13.2.9に概略が述べられているような年次キャンプのためにユニットが必要とする器材の購入を助けるため。

資金獲得活動を実施する場合、その活動自体が意味のあるもの、あるいは奉仕の機会となるべきである。また、一致をはぐくむ有意義な経験となるべきである。

資金獲得活動への参加は本人の自発的な意思に任せる。神権指導者は、会員が参加を義務付けられていると感じないように特に注意するべきである。

資金獲得活動を主催するステーキならびにワードは、管轄区域を越えて広告したり、資金提供を要請したりするべきではない。また、戸別訪問により物品やサービスを販売するべきではない。

以下のような活動は資金獲得活動として認められない。

1. 課税対象となる活動。
2. 雇ったり契約したりした相手の労力に賃金を支払って行われる活動。
3. 出演者のパフォーマンスにステーキまたはワードが料金を支払う催し物で、入場料を徴収し、かつ資金獲得を活動の目的としている場合。
4. 食糧貯蔵品を含む商品またはサービスの販売。
5. 富くじや福引き、ビンゴなど、運任せのゲーム。

これらの指示の例外には、七十人会長会または地域会長会の一員から承認を受けなければならない。

合衆国における「スカウトの仲間」(Friends of Scouting) 基金は、独立した自発的な募金活動として今後も継続する。

### 13.6.9 保険

#### 自動車保険

13.6.24を参照する。

#### 個人の健康保険および傷害保険

世界の多くの地域で、会員は、雇用主、個人または政府のプログラムを通じて健康保険および傷害保険の補償が受けられる。そのような補償が受けられる会員は、教会の活動中に負傷した場合、提供される最大限の給付を受けるよう努める責任がある。

#### 教会活動保険プログラム

合衆国およびカナダでは、教会活動保険プログラムが医療、歯科治療、および特定の死亡および手足の切断に対する二次的な給付を提供している。このプログラムのおもな目的は、個人の健康保険および傷害保険を補填することであって、それらに取って代わることでない。

これらの国々において教会の活動を計画、実行、および管理する会員は、教会活動保険プログラムについて、その制約や限度も含めて精通しておくべきである。このプログラムは『教会活動保険の手引き』(Church Activity Insurance Handbook) [英語] で概略が述

べられており、手引きは以下に連絡することにより入手できる。

Deseret Mutual Benefit Administrators  
 P.O. Box 45530  
 Salt Lake City, UT84145 - 0530  
 電話番号：1 - 801 - 578 - 5650 または 1 - 800  
 - 777 - 1647  
 電子メール：churchactivity@dmba.com  
 ホームページ：www.dmba.com/churchactivity

#### 個人賠償責任保険

可能ならば、活動を監督する人は、適切な額の賠償責任保険に加入することにより、自らを守るべきである。そのような保険は住宅総合保険またはその他の手段を通じて利用できるであろう。

#### 13.6.10 月曜日の夜

月曜日の夜は、教会では家庭の夕べのために取っておかれている。月曜日の午後6時以降は教会のいかなる活動、集会、バプテスマ会、試合、または練習も行うべきではない。それ以外にも家庭の夕べを妨げることは避けるべきである。おおみそかが月曜日に当たる場合は例外とすることができる（13.6.11 参照）。

指導者は、月曜日の夜は教会の建物および施設が閉まっているようにする。月曜日の夜に教会の施設でレセプションおよびそれに類する活動を行うことはできない。ほかの施設であっても、会員は月曜日の夜にレセプションを行うことは勧められない。

現実的であれば、会員は地域社会や学校の指導者に、子供または親が月曜日の夕方に家を離れなければならないような活動の計画は避けるように提案するとよい。

#### 13.6.11 おおみそかのパーティー

おおみそかが土曜日、日曜日、または月曜日に当たり、教会の活動が計画されているとき、指導者は以下の指針に従うべきである。

**土曜日。**ステーク会長は代わりの日曜日を断食日として予定する。ダンスおよびそれに類する活動は午前零時をもって打ち切るが、その後リフレッシュメントまたは食事を出すことができる。参加者が日曜日の集會に出席できるように、無理のない時間で解散するべきである。

**日曜日。**(1) 前段落にある指針を用いて、12月30日土曜日にダンスおよびそれに類する活動を計画することができる。(2) 教会のユニットが活動を計画する代わりに、家庭においておおみそかとともに祝うよう家族に勧めることもできる。活動は安息日にふさわしいものとするべきである。(3) 日曜日の夕方の妥当な時間に特別な集會を開いてもよい。

**月曜日。**すべての家族は、公の集まりに参加する前に家庭の夕べを開くよう勧められる。午後9時以前は、教会主催のおおみそかの活動を予定するべきではない。ステーク会長またはビショップはこの場合、月曜日の夜に教会の建物の使用を認可することができる。

#### 13.6.12 宿泊を伴う活動

青少年が参加する宿泊を伴う活動にはすべて、親の許可が必要である。（13.6.13 参照）。

若い男性と若い女性の合同グループまたはシングルアダルトの男女合同グループの宿泊を伴う活動は、ステーク会長およびビショップによって承認されないかぎり、認可されない。そのような活動は、ごくまれであるが、例えばユースカンファレンスまたは神殿訪問に際して行われる。

宿泊を伴う活動において、指導者は、男性と女性の参加者が互いに隣接して就寝することのないような宿泊施設を手配する。男性および女性指導者は異なる宿泊施設で就寝しなければならない。適切な施設が利用できる場合は、夫婦は同一の部屋を共用することができる。

テントに宿泊する場合、青少年は、次の場合を除いて、成人と同じテントに宿泊することはできない。(1) 成人が自分の親または保護者である、あるいは、(2) 青少年と同性の成人が最低二人いる。

成人指導者と青少年が、例えば丸太小屋のような宿泊施設を共用する場合、その施設に少なくとも二人の成人がいなければならない。また、その成人は青少年と同性でなければならない。

宿泊を伴うあらゆる活動には、最低二人の成人指導者が参加しなければならない。

宿泊を伴う活動の間、常に、援助と保護を与える十分な数の成人神権指導者がいなければならない。若い女性の活動の場合、神権指導者は若い女性とは異なる施設に宿泊しなければならない。

宿泊を伴うすべての活動について、指導者は『活動計画書』に必要事項を記入する。

教会の集会所または集会所の敷地内で宿泊を伴う活動を行うことは認められていない。

スポーツ施設あるいは体育館などの商業ビルにおける宿泊を伴う活動は承認されない。神権指導者の承認を受けた場合には、午前零時をもって終了するものであれば、閉館時間を過ぎた後でも商業ビルでダンスその他の活動を催してもよい。

### 13.6.13 親の許可

青少年が教会の活動に参加する場合、教会は親または保護者に知らせ、同意してもらうべきである。(地元の指導者が決定した) 地元地域外への移動を伴う活動、または宿泊を伴う活動の場合には、書面による承諾が必要である。指導者はほかの活動に関しても適切と感じた場合には書面による承諾を要請することができる。

この承諾は、親および保護者が『両親または保護者の承諾書／医療手当依頼書』に署名することによって行う。活動の指導者は、書面による承諾を必要とする各活動について、各参加者のための署名された書類を持つべきである。

### 13.6.14 14歳以下の青少年の参加

14歳以下の青少年は、ユースカンファレンス、または定例のミューチャルの夕べ以外の時間に開かれるダンスには通常参加しない。

ビショップリックまたはステーキ会長会は、14歳以下の青少年がその他の活動にどの程度参加するかを決定する。指導者は、遅い時間帯、話し合いのテーマ、活動の性質、および参加者の成熟度などの要素を考慮する。

### 13.6.15 神会の描写

父なる神および聖霊は、集会、演劇、またはミュージカルにおいて描写しない。

救い主を描写する場合は、最大限の敬虔さと尊厳に満ちたものでなければならない。救い主の役を与えられる人は、ふさわしい人格を備えた人であるべきである。救い主を描写する人は、歌ったり踊ったりするべきではない。語るときには、聖典に書かれた救い主の言葉のみを使うべきである。

救い主を描写する人は、催し物の終了後、休憩室やその他の場所で衣装を着用せず、直ちに私服に着替えるべきである。

降誕の場面を除き、子供が救い主を描写するべきではない。

### 13.6.16 活動での祈り

すべての活動は祈りによって始め、適切な場合には祈りによって終わるべきである。

### 13.6.17 活動のために教会以外の施設を借りる

教会所有の施設がステーキまたは複数のステーキによる活動に不十分であるとき、ビショップまたはステーキ会長、および教会施設代表者の承認の下で施設を借りることができる。

教会が所有していない施設を借りたり使用したりするとき、地元ユニットはしばしば賠償責任保険を証明するものを提示するように求められる。ビショップまたはステーキ会長は、この証明書を教会本部の危機管理課または管轄する管理事務所から入手することができる。入手するための依頼書には依頼人(通常は施設の所有者)の氏名および住所、施設の説明および所在地、必要な損害賠償の限度、その他関連情報が含まれるべきである。指導者は、この証明書の作成と郵送に十分な時間を取れるよう前もって計画するべきである。

### 13.6.18 虐待の報告

指導者が教会の活動の間にだれかの肉体的、性的、または情緒的虐待に気づいた場合は、直ちにビショップに連絡を取るべきである。ビショップへの指示は『手引き 第1部』の17.3.2に示されている。

### 13.6.19 安息日の遵守

いかなる教会主催のスポーツ行事(試合、練習、またはそれらに伴う移動など)またはレクリエーション行事(キャンプやハイキングなど)も日曜日には予定しない。また青少年のグループなどは、キャンプまたはユースカンファレンスへの行き帰りの移動を日曜日にするべきではない。

保安上の危険または交通費が重大な問題であるとき、指導者は青少年を対象とする幾つかの活動を日曜日に予定することができる。そのような活動は日曜日の集会スケジュールとは分け、安息日の精神に添ったものであるべきである。

### 13.6.20 安全措置、事故の対処および報告

安全措置

活動が参加者に及ぼすけがや病気の危険性は最小限にするべきである。また、教会資産に損害を与える危険性も最小限にするべきである。活動の間、指導者は安全を確保するために最大の努力を払う。効果的に計画し、安全措置を心がけることで、指導者は事故の危険性を最小限に抑えることができる。

活動は適切な訓練、そして正当な権限を有する者による管理を含むべきである。また、参加者の年齢および成熟度にふさわしいものであるべきである。

指導者は起こり得る緊急事態に備えておくべきである。また地元の警察や救急隊への連絡方法を前もって知っておくべきである。

#### 事故の対処

事故または傷害が教会の敷地内で、または教会主催の活動の際に起きた場合、指導者は以下に挙げた指針の中から該当するものに従う。

1. 応急手当を施す。簡単な応急手当以上の医療が必要な場合、救急医療機関、ビショップまたはステーキ会長、親、保護者またはその他の近親者に連絡する。
2. 行方不明者や不慮の死亡者が出た場合は、直ちに地元の警察当局に連絡し、全面的に協力する。
3. 情緒面での支援を提供する。
4. 教会に対して法的措置を執るよう、または執らないようにと勧めてはならない。また、教会を代表して約束をしてはならない。
5. 目撃者の名前や情報、起こったことの記録、および写真を集め、保持する。

#### 事故の報告

以下の場合、速やかにビショップまたはステーキ会長に通報するべきである。

1. 教会の敷地内で、または教会主催の活動の際に、事故、傷害、または病気が発生した場合。
2. 教会主催の活動に参加していた人が行方不明になった場合。
3. 教会主催の活動中に個人、公共、または教会の資産が破損した場合。

重傷者または行方不明者が出た場合、資産が深刻な損害を被った場合、法的手段に訴えると脅かされた、あるいはそのような恐れがある場合、ステーキ会長（また

は彼の指示の下にビショップ）は、直ちに以下の措置のいずれかを取る。

1. ユニットが合衆国またはカナダ国内の場合には、教会本部の危機管理課に通報する（電話1-801-240-4049または1-800-453-3860、内線2-4049；通常の業務時間後または週末には1-801-240-1000または1-800-453-3860に電話すると、オペレーターが直ちに担当者に連絡を取ることになっている）。
2. ユニットが合衆国またはカナダ以外の場合は、地域管理本部に通報する。

教会の施設または資産が被害や損害を被った場合、指導者は施設主任にも通報する。

#### 保険および質問

指導者は、教会が主催する活動、行事または割り当ての最中に傷害が発生した場合、教会活動保険プログラムが適用されるかどうか検討するべきである。保険の詳細については13.6.9を参照する。

ステーキ会長（または彼の指示の下にビショップ）は、安全性の問題に関する質問や教会に対する苦情は、危機管理課または地域管理本部に問い合わせる。

### 13.6.21 スポーツ

教会のスポーツ活動は、健全な身体活動、フェロウシップ、およびスポーツマンシップの機会を提供する。教会のスポーツで重要視されているのは、参加、スポーツマンシップ、および技術の向上であって、競争ではない。チームのすべてのメンバーが競技する一定の機会を与えられるべきである。

ステーキ会長会はステーキ内で主催されるスポーツ活動のルールを承認する。地域または複数のステーキによるスポーツ活動を行う場合、七十人会長会または地域会長会の一員が、参加する全ユニットのためのルールを承認する。地元の学校や地域社会のスポーツ活動で用いられているルールを参考にしてもよい。

複数のステーキによるスポーツ活動を開く場合は、七十人会長会または地域会長会の一員に指名された代表ステーキ会長が召すスポーツスペシャリストが運営する。地域でスポーツトーナメントを行うことは承認されない。

教会主催のスポーツ活動に参加する人は教会員である必要はない。しかし参加者は、ステーキの管轄区域内に住んでいるべきであり、教会の標準や方針に従うことに同意するべきである。

ステーキ会長会は、教会のスポーツに参加できる選手の年齢を具体的に定めた指針を制定する。これらの指針は地元の文化、地理的環境、学校制度、およびスポーツ運営団体の規則を考慮に入れるべきである。そのような指針の決定は、関係者全員が年齢および資格に関する規則を理解するよう、シーズンの開始前に行うべきである。

学校、州、省や県および国のスポーツの機関は、同一シーズンに学校のチームと教会のチームでプレーすることに関する規則を定めることがしばしばある。教会の指導者および教会のスポーツの参加者は、これらの規則に従うようにする。規則に違反することは、学校のチームまたは個人の参加資格を失うことになる可能性がある。

合衆国およびカナダでは、学校のスポーツチームのメンバーである人は、一般に同一シーズンに同一種目で教会のスポーツプログラムに参加する資格を持たない。学校のチームには、中学校、高校、短大を含む単科大学や総合大学関連のチームが含まれる。この指針は学内運動競技大会に参加する人には当てはまらない。二つの試合日程が同時、または一部が重なっている場合、同一シーズンであると見なされる。指導者は学校チームでプレーする青少年に、選手以外の方法で教会のスポーツプログラムを援助するように勧める。

チームのユニフォームは簡素で、廉価で、慎み深く、活動に適したものであるべきである。通常、カラーTシャツまたはリバーシブルのプルオーバーなどで十分である。ユニフォームの代金はステーキ予算またはワード予算から支払うべきである。

チームまたは個人への賞品またはトロフィーの授与は勧められない。

### 13.6.22 課税対象となる活動

指導者は活動が教会の免税資格を脅かすものにならないようにする。指針については、21.2を参照する。

### 13.6.23 神殿訪問

神殿訪問は割り当てられた神殿地区内のワードまたはステーキレベルで計画される。割り当てられた神殿地区外にある神殿への訪問をワードまたはステーキで計画することは奨励されていない。そのような訪問はステーキ会長会の承認が必要になるであろう。宿泊を伴う神殿訪問にも、ステーキ会長会の承認が必要である。

神殿訪問に際しては13.6.24の移動の指針に従わなければならない。また、宿泊を伴う神殿訪問に際しては13.6.12の指針に従わなければならない。

### 13.6.24 移動

教会主催のグループで移動する会員は、ビショップまたはステーキ会長の承認を得るべきである。活動のための移動で会員に過度の負担をかけるべきではない。

活動のための長距離の移動は勧められない。ステーキ会長またはビショップは、そのような移動が妥当であると感じたら、承認する前に、活動がもたらし得る霊的な祝福、移動にかかる費用、家族に及ぼす影響について祈りの気持ちで考える。

活動のための長距離の移動が認められた場合、会員に交通費を負担させるべきではない。また、交通費に充てるためにステーキまたはワード予算交付金のかなりの部分を翌年に繰り越すべきではない。

本章の移動に関する指針の実施および適用は、同じ調整評議会に属するユニット間で一貫して適用するべきである。ステーキ会長は調整評議会集会の間に、移動に関する全体的な一貫性について話し合い、合意することができる。

地元地域外への移動を伴う活動については、指導者は『活動計画書』に必要事項を記入する（この書類はワード書記から入手することができる）。

青少年のための活動に地元近辺外への移動または宿泊が伴う場合、親は子供の参加に書面による許可を与えるべきである（13.6.13参照）。このような活動は責任ある成人が監督しなければならない（13.6.2参照）。

可能なときは、教会のグループは、免許を有し、賠償責任保険によって保護されている商業交通機関を利用するべきである。

教会のグループが個人の乗用車で旅行するときは、各車両は安全に運転できる状態であるべきであり、各人はシートベルトを着用するべきである。各運転手は免許を有し責任ある成人が務めるべきである。すべての自動車および運転手は、妥当な額の自動車損害賠償責任保険に加入しているべきである。

教会の組織は、団体旅行用の車両またはバスを所有したり購入したりすることはできない。

女性と男性は、教会の活動、集会、または割り当てのために、二人だけで移動するべきではない。二人が

夫婦である場合またはともに独身である場合はこの限りではない。

#### 13.6.25 承認されていない活動

教会のユニットは以下の活動を主催することはできない。教会の活動を計画する、またはそれらに参加する指導者、親、およびその他の人々は、このような制約について知っておくべきである。

1. けがや病気の危険性が高い活動、または著しい出費や移動を必要とする活動（13.6.20 および13.6.24参照）。

2. 教会の標準にそぐわない音楽、歌詞、服装、またはその他の要素を持った運動プログラム。
3. 演劇作品以外で、仮面の着用を伴う活動。
4. 若い女性が初めて社交界に出るための舞踏会、若い人を社交界に紹介するためのパーティー、または王や女王の選出を伴う活動。
5. この章に述べられている指針にそぐわないほかのあらゆる活動。

活動が適切であるかどうかについて質問がある場合、ビショップはステーク会長に問い合わせる。ステーク会長は七十人会長会または地域会長会の一員に照会してもよい。

## 14. 音楽

14.1 教会における音楽の目的 .....	114	14.5.3 ステーク音楽委員長 .....	116
14.2 ワードの音楽指導者 .....	114	14.5.4 ステーク音楽スペシャリスト .....	117
14.2.1 ビショップリック .....	114	14.6 ステークにおける音楽 .....	117
14.2.2 ワード音楽アドバイザー .....	114	14.6.1 ステーク大会 .....	117
14.2.3 ワード音楽委員長 .....	114	14.6.2 ステークおよび複数のステークを対象とした聖歌隊 .....	117
14.2.4 ワード音楽指揮者 .....	114	14.7 音楽訓練 .....	117
14.2.5 ワードオルガニストまたはピアニスト .....	114	14.8 家庭における音楽 .....	117
14.2.6 ワード聖歌隊指揮者と聖歌隊伴奏者 .....	114	14.9 音楽に関するその他の方針や指針 .....	118
14.2.7 神権会の音楽指揮者ならびにピアニストまたはオルガニスト .....	114	14.9.1 礼拝堂におけるその他の音楽 .....	118
14.3 ワードの音楽を地元の状況やリソースに合わせる	115	14.9.2 楽譜の入手と使用 .....	118
14.4 ワードにおける音楽 .....	115	14.9.3 ピアノ、オルガン、キーボード .....	118
14.4.1 教会の礼拝行事の音楽を計画する .....	115	14.9.4 著作権に関する指針 .....	118
14.4.2 教会の礼拝行事にふさわしい音楽を選ぶための指針 .....	115	14.9.5 結婚式の音楽 .....	118
14.4.3 教会の礼拝行事における音楽の標準要素 ..	115	14.9.6 葬儀の音楽 .....	118
14.4.4 聖餐会 .....	116	14.9.7 パプテスマ会の音楽 .....	118
14.4.5 聖歌隊 .....	116	14.10 音楽に関するインターネット上の資料 .....	118
14.4.6 クラスで音楽を用いる .....	116		
14.5 ステーク音楽指導者 .....	116		
14.5.1 ステーク会長会 .....	116		
14.5.2 ステーク音楽アドバイザー .....	116		



## 14. 音楽

### 14.1 教会における音楽の目的

主は預言者ジョセフ・スミスに対する啓示の中でこのように言われた。「わたしは心の歌を喜ぶ……。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。」(教義と聖約 25:12)

大管長会はこのように述べている。

「霊を鼓舞する音楽は、教会の集会に欠かすことができません。賛美歌は主の御霊を招き、敬虔な雰囲気をかもし出し、教会員を一つにし、主に賛歌をささげる機会を与えてくれます。

賛美歌を歌うことが、すばらしい説教となることもあります。賛美歌は、人を悔い改めと良き行いへと駆り立て、証と信仰を強めてくれます。また、疲れた者を元気づけ、悲しむ者を慰め、そして最後まで堪え忍ぶように励ましを与えてくれます。」(『賛美歌』9)

### 14.2 ワードの音楽指導者

#### 14.2.1 ビショッププリック

ビショップと顧問はワードの音楽を監督する。ビショッププリックには次の責任がある。

この章で概説されているように、音楽に関する召しにおいて奉仕するようワードの会員を召し、任命する。

ワード音楽委員長と定期的に話し合い、教会の集会で使用される曲や楽器がふさわしいものであるようにする(14.4.2の指針を参照)。

聖歌隊に参加するようワードの会員を促したり、ほかのワードとぶつからない時間帯を練習時間に設定したりすることで、ワードの聖歌隊を支援する。

会衆で歌う歌に会員が積極的に参加するよう奨励する。

霊を鼓舞する音楽を会員が家庭で使用するよう奨励する(14.8参照)。

#### 14.2.2 ワード音楽アドバイザー

ビショッププリックの一員がワード音楽アドバイザーを務める。音楽アドバイザーはワードの音楽プログラムを監督し、ワード音楽委員長に助言し、指導者会で音楽プログラムについて説明する。

#### 14.2.3 ワード音楽委員長

男性と女性のどちらでもワード音楽委員長として奉仕できる。ワード音楽委員長は、ワード音楽アドバイザーの指示の下で次の責任を負う。

ビショッププリックのために、音楽に関する事柄の助け手として働く。

聖餐会やワードのその他の集会において、音楽が効果的かつ適切であるように手配する。

音楽訓練を行い、要請があれば音楽に関するその他の必要を満たして、ワード補助組織指導者の助け手として働く。

ワードの音楽訓練プログラムを推薦したり、監督したりする(14.7参照)。

要請があれば、ワードの音楽活動を推薦し、実行する。

ワード音楽アドバイザーから要請があれば、音楽に関するワードの召しを果たす会員を推薦する。ワードで音楽に関する召しを果たしている人々を監督する。

ワード音楽委員長は、必要に応じてステーク音楽委員長から訓練と支援を受ける。

#### 14.2.4 ワード音楽指揮者

音楽指揮者は、ワード音楽委員長の指示の下で、聖餐会や、要請があればワードのその他の集会で会衆が歌う賛美歌を推薦し、指揮する。一人の会員がワード音楽委員長とワード音楽指揮者を兼任してもよい。

#### 14.2.5 ワードオルガニストまたはピアニスト

ワードオルガニストまたはピアニストは聖餐会や、要請があればワードのその他の集会で、前奏曲と後奏曲の演奏、ならびに賛美歌の伴奏をする。

#### 14.2.6 ワード聖歌隊指揮者と聖歌隊伴奏者

ワード聖歌隊指揮者は聖歌隊が歌う曲を推薦し、聖歌隊の練習を指導し、聖歌隊の発表を指揮する(14.4.5参照)。

ワード聖歌隊伴奏者は、聖歌隊の練習や発表のために演奏する。

#### 14.2.7 神権会の音楽指揮者ならびにピアニストまたはオルガニスト

神権会の音楽指揮者は、神権会の開会行事の賛美歌を推薦し、指揮をする。

ピアニストまたはオルガニストは前奏曲や後奏曲を演奏し、賛美歌の伴奏をする。

### 14.3 ワードの音楽を地元の状況やリソースに合わせる

この章で述べられている指針は、地元の必要に合わせて調整することができる。例えば、小さな支部ではワード音楽委員長は聖歌隊を指導するだけでなく、聖餐会や神権会または補助組織の集会で音楽を指揮することができる。ピアニストは聖餐会、聖歌隊、神権会または補助組織の集会で弾くことができる。

ピアノを弾ける人がいない場合、以下を活用できる。

1. 『教会資料総合カタログ』には賛美歌や子供の歌のCDが掲載されていて、教会配送センターを通して入手できる。
2. 賛美歌や子供の歌は教会の音楽ウェブサイト (music.lds.org) からMP3形式でダウンロードできる (英語のみ)。
3. 一部の集会所には賛美歌を内蔵した電子ピアノがある。

音楽に関する召しにおいて奉仕している、あるいは将来奉仕するであろう人を対象に、音楽訓練やキーボードを活用できる (14.7 参照)。

### 14.4 ワードにおける音楽

ふさわしい音楽は教会の集会、とりわけ聖餐会に欠かせない。音楽を注意深く選び、適切に演奏・発表すると、礼拝の精神を大いに増すことができる。音楽は敬虔で、集会の精神に適したものにすべきである。何がふさわしいかは神権指導者が判断する。

#### 14.4.1 教会の礼拝行事の音楽を計画する

音楽に関するワードの召しで奉仕する会員は、礼拝行事にふさわしい音楽を選ぶうえで協力する。可能な場合、ビショップと顧問は十分余裕を持って集会のテーマを決めておく。こうすることで、音楽委員長、音楽指揮者、聖歌隊指揮者は、集会のテーマに合い、さらに力を添えるような賛美歌や特別な選曲、聖歌隊の発表を計画できる。また、選ばれた曲目をビショップリックがあらかじめ承認する余裕もできる。

#### 14.4.2 教会の礼拝行事にふさわしい音楽を選ぶための指針

教会の音楽はすべて、以下の指針に則しているべきである。

賛美歌は礼拝行事の基本的な音楽であり、会衆で歌う際の標準曲である。さらに、その他のふさわしい曲は前奏曲、後奏曲、聖歌隊音楽、特別な音楽発表に用いることができる。賛美歌以外の曲を用いる場合は、賛美歌の精神を保つものとするべきである。歌詞は教義上正しくあるべきである。 (「会衆で歌う場合」『賛美歌』330 - 331 参照)

日曜日の集会では、非宗教的な音楽が神聖な音楽に取って代わるべきではない。宗教に基づいていても、ポピュラー風の音楽は聖餐会にふさわしくない。さらに、コンサートやリサイタルに適した宗教音楽のほとんども、末日聖徒の礼拝行事にはふさわしくない。

教会の集会における音楽は、音楽自体に関心を引いたり、披露したりするためのものであるべきではない。この音楽は公演ではなく、礼拝を目的としている。

オルガンやピアノ、または電子オルガン、電子ピアノは教会の集会で使用する標準楽器である。ほかの楽器を用いる場合は、集会の精神を保ちながら使用するべきである。おおかたの金管楽器や打楽器など際立った音や礼拝にそぐわない音を出す楽器は聖餐会にふさわしくない。

聖餐会やワードのその他の集会では通常、生の伴奏を使う。もしピアノやオルガンを用意できない、あるいは伴奏者がいない場合、録音された適切な音楽を用いてもよい (14.3 参照)。

教会の集会における音楽は通常、会衆の言語で歌うべきである。

#### 14.4.3 教会の礼拝行事における音楽の標準要素

##### 前奏曲と後奏曲

静かな前奏曲や後奏曲は教会の集会に礼拝の雰囲気をかもし出し、御霊を招く。オルガニストまたはピアニストは通常、集会の前後5分から10分間、賛美歌またはその他のふさわしい音楽を演奏する。賛美歌を演奏することで、会員が心の中で福音の教えを思い巡らすのに役立つ。

##### 会衆による歌

教会のほとんどの集会は、賛美歌を歌うことでさらに高められる。音楽は会員が教会の礼拝行事に参加するための主要な方法の一つである。会衆で歌うことには、ともに礼拝する会員を一致させる特有の力がある。しかし、その力は十分に活用されていないことが往々にしてある。

適切な場合、神権指導者は会の途中で会衆に起立して賛美歌または国歌を歌うよう求めてもよい（「会衆で歌う場合」『賛美歌』330 - 331 参照）。

#### 特別な音楽発表

音楽は聖歌隊、独唱、独奏、少数グループで発表することができる。賛美歌やその他のふさわしい曲を使用できる（14.4.2 参照）。

#### 14.4.4 聖餐会

聖餐会の音楽はビショップリックが承認する。曲と歌詞は、神聖かつ厳かであるとともに、聖餐会にふさわしいものとする。聖餐会の音楽は礼拝を目的としており、発表会のように、それ自体に注目を集めるものではない。

開閉会の賛美歌は通常、会衆で歌う（「賛美歌の選択」『賛美歌』330 参照）。すでによく知られ、愛唱されている賛美歌を用いることに加え、新しい賛美歌やなじみの薄い賛美歌にも親しむよう奨励されている。音楽指導者は愛唱されている賛美歌とあまり知られていない賛美歌のバランスを取るようにすべきである（「会衆で歌う場合」『賛美歌』330 - 331 参照）。

聖餐の賛美歌は必ず会衆で歌う。聖餐そのものまたは救い主の犠牲に関する曲にするべきである。この賛美歌に代えて独唱や楽器の演奏を行うことはできない。聖餐の祈りの間や聖餐を配っている間に、あるいは聖餐を配った後の後奏曲として音楽を演奏するべきではない。

特別な音楽発表や会衆で歌う賛美歌は聖餐の後か、話者と話者の間に入れることができる（14.4.3 の「特別な音楽発表」を参照）。

音楽発表をする際は簡潔かつ敬虔な、短いものにし、話者が話す時間も取れるようにする。聖餐会を外部の音楽グループに一任するべきではない。リサイタル、コンサート、演劇などは聖餐会にふさわしくない。

#### 14.4.5 聖歌隊

すべてのワードは、少なくとも月に1度聖餐会で歌う活発な聖歌隊を備えるように努めるべきである。ワードの会員が自発的に聖歌隊に参加してもよいし、ビショップリックが参加を勧めたり、召したりしてもよい。

小さな支部では、聖歌隊が会衆全員で構成されることもある。人材豊富な大きなワードでは、ビショップリックが聖歌隊の役員、すなわち隊長、書記、楽譜係、パートリーダーなどを召すことができる。

教会の聖歌隊は基本的に賛美歌集を用いるように奨励されている。賛美歌は回復された福音の真理を

教えるからである。編曲した賛美歌やほかのふさわしい合唱曲も使用できる（14.4.2 参照）。

聖歌隊で賛美歌を用いることについての情報は『賛美歌』331 - 333 ページに記されている。聖歌隊の指揮についての詳細は『指揮者コース』（Conducting Course [英語]）手引き、73 - 83 ページに記されている。

ワードやステークの聖歌隊を組織する際、オーディションは行わない。通常、練習時間は1時間を超えない。

ワード聖歌隊以外にも、扶助協会、神権者、青少年、子供、家族の聖歌隊に教会の集会で賛美歌やその他のふさわしい曲を歌うよう依頼してもよい。

#### 14.4.6 クラスで音楽を用いる

賛美歌を歌うことは、クラスで教えられる福音の原則の導入として、あるいは強調するための効果的な方法となり得る。指導者は教師に、クラスでの指導の質を高めるために賛美歌を活用するよう奨励するべきである。

### 14.5 ステーク音楽指導者

#### 14.5.1 ステーク会長会

ステーク会長と顧問はステークの音楽を監督する。ステーク会長会はこの項で概説されているように、ステークの音楽に関する召しにおいて奉仕するよう、ステークの会員を召し、任命する。

#### 14.5.2 ステーク音楽アドバイザー

ステーク会長会は一人の高等評議員にステーク音楽アドバイザーとなるよう割り当てる。ステーク音楽アドバイザーは、会長会の指示の下でステークの音楽プログラムを監督し、ステーク音楽委員長に助言する。また、ステーク評議会集会で音楽プログラムについて説明する。

ステーク音楽アドバイザーは、ステーク会長会の承認を受けて、ステークの会員を、音楽に関するステークの責任で奉仕するよう召し、任命することができる。

#### 14.5.3 ステーク音楽委員長

男性と女性のどちらでもステーク音楽委員長として奉仕することができる。ステーク音楽委員長はステーク会長会の指示の下で次の責任を負う。

ステーク会長会のための、音楽に関する事柄の助け手として働く。

ステーク大会の各部会や、要請があればステークのその他の集会や行事で、音楽や演奏者の手配をする。

必要に応じてワード音楽委員長に訓練や助けを提供し、ステーク補助組織指導者の助け手として働く。

ステークにおいて音楽訓練プログラムを推薦し、監督する（14.7 参照）。

要請があれば、ステークの音楽活動を推薦し、実行する。

#### 14.5.4 ステーク音楽スペシャリスト

必要に応じて、ステークオルガニストなどのステーク音楽スペシャリストを召すことができる。これらのスペシャリストにステークの特定の集会がある度に音楽を提供するよう割り当てることができる。さらに、音楽訓練を行ったり（14.7 参照）、ステークの活動で音楽の面で支援するよう割り当てたりすることができる。

### 14.6 ステークにおける音楽

#### 14.6.1 ステーク大会

ステーク大会のための音楽は信仰と証を強める目的で計画すべきである。ステーク大会の管理役員は、提示された全曲目を計画の初期段階で確認する。

ステーク大会の一般部会のための音楽には、通常、4 曲が選ばれる。開会と途中の賛美歌は会衆で歌う。ほかの 2 曲は聖歌隊が歌ってもよい。最初の話者の直前と閉会のときに歌うことができるであろう。聖歌隊の曲目のうち少なくとも 1 つは末日聖徒の賛美歌または編曲された賛美歌にするべきである。聖歌隊はワード聖歌隊か、子供、青少年、神権者、扶助協会の姉妹、または家族により構成される特別な聖歌隊でもよい。

ふさわしい音楽を選ぶ指針は 14.4.2 を参照する。

#### 14.6.2 ステークおよび複数のステークを対象とした聖歌隊

神権指導者の承認があれば、ステーク大会や地区大会、およびその他の行事（地域行事など）のためにステークおよび複数のステークを対象とした聖歌隊を組織することができる。発表が終われば、ほかの機会が生じるまでこの聖歌隊は解散する。これらの聖歌隊は、会員がワード聖歌隊に参加する妨げとならないようにするべきである。

教会員が指揮者を務めたり、団員のほとんどが教会員であったりする、地域で活動する合唱団があるが、これらは教会が後援しているものではない。このような合唱団は、教会に関係する「LDS」や「末日聖徒」あるいは「モルモン」などが付く名前を用いるべきではない。ステーク神権指導者が承認すれば、活動や財政に関する教会の標準や方針を守るという条件で、

地域の合唱団が練習や発表のために教会の建物を利用することができる。

### 14.7 音楽訓練

基本的な音楽技術を学べば会員は教会での奉仕に自分の才能を活用できる。ステークおよびワードの音楽委員長は、神権指導者の承認を得て、音楽訓練コース、セミナー、ワークショップを手配することができる。音楽訓練プログラムは現在音楽に関する責任を果たしている人や将来果たせる人を対象にするとよい。参加対象者には、ステークまたはワード音楽指揮者、聖歌隊指揮者、ピアニスト、オルガニストなどを含めることができる。ほかにも、宣教師候補者を含め、音楽に興味のある成人や青少年も参加できる。教会主催の訓練では参加費を徴収しない。

音楽の年間訓練には、音楽指揮者コース、聖歌隊指揮者の訓練、ワード鍵盤コース、ステークまたはワードオルガン訓練コースなどを入れることができる。音楽委員長は神権指導者と相談し、これらの訓練を施すのに適した講師を推薦することができる。訓練を行うステーク音楽スペシャリストが召されていないければ、各ワード聖歌隊指揮者が集まってアイデアを交換したり、ステーク会長会がステーク外に支援を求めたりできる。

『指揮者コースキット』（The Conducting Course Kit [英語]）と『鍵盤コースキット』（Keyboard Course Kit [英語]）は基本的な音楽技術について教えるものである。『指揮者コース』（Conducting Course [英語]）の手引きは、聖歌隊を組織し、指揮する方法についても説明している。これらの資料は『教会資料総合カタログ』に掲載されており、教会配送サービスで入手できる。

ほかに妥当な方法がない場合、神権指導者は集会所を使用するユニットの会員が参加できる練習、有料の個人指導、リサイクルのために、集会所のピアノやオルガンの使用を認可できる。リサイクルでは入場料を徴収してはならない。

ワード音楽委員長は、音楽の才能を伸ばそうと努力している人が、その才能を使う機会を得られるように助けるとともに、技能を磨き続けるよう励ます。

### 14.8 家庭における音楽

神権指導者と音楽指導者は、心を高める音楽を家庭で役立て、賛美歌集と『子供の歌集』を備えて家族で歌うよう、教会員に奨励する。家庭における音楽について、大管長会は次のように述べている。

「賛美歌は家庭に、美と平和を愛する心をもたらし、家族同士の愛と一致を強める力を持っています。

子供たちに賛美歌を愛するように教えてください。安息日や家庭の夕べ、また聖文を学ぶときや祈りのときにも歌うようにしてください。そして、働くときにも、遊ぶときにも、家族で旅行をするときにも歌ってください。小さな子供たちに、子守歌として賛美歌を歌って聞かせ、信仰と証を築く一助としてください。」(『賛美歌』10)

会員は歌の伴奏として、また、賛美歌や初等協会の歌を覚えるときの助けとして教会が制作したCDなどを使用できる。これらの録音資料は『教会資料総合カタログ』に掲載されている。教会の音楽ウェブサイト(music.lds.org [英語])にアクセスし、教会音楽を学んだり聞いたり、基本的な音楽技術を学んだり、音楽に関するその他の役立つ資料を探したりすることもできる。

親は子供に音楽技術を学ぼう励まし、彼らが才能を使って教会で奉仕できるようにするべきである。

折にふれて、ビショップリックは聖餐会の話者に家庭で音楽を役立てることについて話すよう割り当てることができる。時折、一つの家族が聖餐会での音楽の発表で好きな賛美歌や初等協会の歌を歌ってもよい。

オルガンを利用できる場合、前奏曲と後奏曲の演奏ならびに賛美歌の伴奏には通常、オルガンが使用される。オルガンが利用できない場合あるいはオルガニストがいない場合は、これらの目的のためにピアノを使用してもよい。

ピアノとオルガンを同時に使用することは教会の集会では標準とされていない。しかし、折にふれてこれらの楽器を一緒に使用することもできる。

ピアノもオルガンも利用できない場合に、音楽用ポータブル電子キーボードを使用することができる。

#### 楽器の取得

教会の建物には通常、1台のオルガン、複数のピアノまたは音楽用電子キーボードが支給される。神権指導者は教会本部または管轄する管理事務所の購買課に相談して、新規の楽器購入または買い換えについての情報を入手することができる。

#### 楽器の維持

各集会所の代表ビショップならびにステーク施設代表者(高等評議員)には、ピアノとオルガンが調律され、維持され、必要に応じて修理が行われていることを確認する責任がある。

## 14.9 音楽に関するその他の方針や指針

### 14.9.1 礼拝堂におけるその他の音楽

文化的な音楽や娯楽的な音楽の幾つかは、週日に礼拝堂で発表することができる。しかし、そのような音楽は通常、多目的ホールで発表する方が適切である。地元の神権指導者は、礼拝堂にふさわしい音楽に関する質問や疑問を解決する。通常、礼拝堂で拍手することは適切ではない。

### 14.9.2 楽譜の入手と使用

新設の集会所には賛美歌集が支給される。さらに賛美歌集が必要な場合や合唱曲の楽譜、その他の楽譜が必要な場合は、ステークまたはワードの予算で購入することができる。神権指導者はステークおよびワードの音楽委員長に、楽譜を購入するための年間予算案を提出するよう要請してもよい。予算で購入した楽譜は通常、集会所図書室に保管され、図書室を共用するすべてのユニットのものとなる。ステークまたはワードの音楽委員長は、図書委員が楽譜の索引を作るのを支援することができる。

### 14.9.3 ピアノ、オルガン、キーボード

### 14.9.4 著作権に関する指針

21.1.12を参照する。

### 14.9.5 結婚式の音楽

家庭や教会の建物で結婚式を行う場合、前奏曲、賛美歌、特別な音楽の発表、後奏曲などを含めることができる。民事結婚の式典は簡潔かつ控えめに行い、華美な要素を入れるべきではない。教会の建物で結婚式を行う場合、結婚行進曲は適切ではない。

### 14.9.6 葬儀の音楽

18.6.5を参照する。

### 14.9.7 バプテスマ会の音楽

20.3.4の「バプテスマ会」を参照する。

## 14.10 音楽に関するインターネット上の資料

その他の資料については、教会の音楽ウェブサイト(music.lds.org)およびLDS.orgの「Serving in the Church」(教会での奉仕)の「Music Callings and Resources」(音楽に関する召しおよび資料)[すべて英語]を参照する。

## 15. ステークの組織

15.1	ステーキ会長会	120	15.3.1	ステーキ会長会を代表する	120
15.1.1	ステーキの指導者を召し、任命する	120	15.3.2	ステーキ評議会や委員会で働く	121
15.1.2	ステーキの補助組織の働きとプログラムを監督する	120	15.4	ステーキ補助組織	121
15.1.3	ステーキ評議会および委員会を管理する	120	15.4.1	ステーキ補助組織会長会	121
15.2	ステーキ書記、ステーキ書記補佐、およびステーキ幹部書記	120	15.4.2	ステーキ補助組織書記	122
15.3	高等評議会	120	15.5	ステーキスペシャリスト	122
			15.6	地元の必要に応じて適用する	122

## 15. ステークの組織

ステーク会長会およびステークの他の指導者は、ワード指導者を教え、支援するために協力する。本章はステークの全体的な組織について概説し、ステーク補助組織とワード補助組織間の関係について説明している。ステーク会長に対する指示の詳細については、『手引き 第1部』に掲載されている。

### 15.1 ステーク会長会

#### 15.1.1 ステークの指導者を召し、任命する

ステーク会長と顧問は、第19章の「召しの一覧表」に記されているように、ステークの指導者を召し、任命する。

#### 15.1.2 ステークの補助組織の働きとプログラムを監督する

ステーク会長は、ステーク扶助協会を個人的に監督する。ステーク会長はステークのその他の補助組織、すなわち若い男性（承認されているところではスカウトを含む）、若い女性、初等協会、および日曜学校を監督する割り当てを顧問に与える。顧問は、ステーク補助組織会長会が自分たちの務めについて確実に指導を受けられるようにする。

また、ステーク会長はステークの活動、ヤングシングルアダルト、シングルアダルト（必要に応じて）、教会機関誌、広報（必要に応じて）、音楽、セミナーとインスティテュート、および施設に対する取り組みを監督する割り当てを顧問に与える。

ステーク会長会の各員は、それぞれが割り当てを受けている補助組織の会長会と定期的に集会を持つ。これらの集会において、関係者はともに各組織内の会員の進歩と必要について評議する。

また、ステーク会長会の各員は、それぞれが割り当てを受けているその他のプログラムの委員会およびスペシャリストと定期的に集会を持つ。

#### 15.1.3 ステーク評議会および委員会を管理する

ステーク会長はステーク神権役員会とステーク評議会を管理する。また、宗紀評議会を管理する。ステーク会長は、ステークアロン神権・若い女性委員会、ステークヤングシングルアダルト委員会、および（組織されているところでは）ステークシングルアダルト委員会を管理する割り当てを顧問に与える。

### 15.2 ステーク書記、ステーク書記補佐、およびステーク幹部書記

ステーク書記、ステーク書記補佐、およびステーク幹部書記の責任については、『手引き 第1部』の13.3.2 から13.3.4 に概説されている。

### 15.3 高等評議会

ステーク会長会は12人の大祭司を召してステーク高等評議会を組織する（教義と聖約102:1参照）。長老が高等評議会で働くよう召される場合、任命される前に大祭司に聖任されなければならない。

高等評議員は、ステーク会長会の指示の下で、ステークにおける教会の働きの監督業務を補佐する。高等評議員には、以下の段落に述べるような助言を与え管理する責任がある。

#### 15.3.1 ステーク会長会を代表する

高等評議員は、兄弟たちの長老や大祭司の職への聖任に関するステーク会長会の決定について評議し、支持する。ステーク会長は高等評議員に権限を与えて、代理として長老と大祭司の職への聖任に当たらせることができる。

高等評議員は、会員を召すことに関するステーク会長会の決定について評議し、支持する。召しによっては、ステーク会長会は（第19章に示されているとおりに）評議員に権限を与えて、会長会の代理として会員を責任に召したり、支持するために名前を提示したり、任命に当たらせたりすることができる。

高等評議員がメルキゼデク神権の働きの監督業務を補佐できるように、ステーク会長会はステーク内の各長老定員会、大祭司グループ、ワードおよび支部におけるステーク会長会の代理として一人の高等評議員を割り当てる。この割り当てを受けた高等評議員は、新たに召された大祭司グループの指導者や長老定員会会長会を指導する。また、本手引きの1章-7章に基づく指導を含め、それらの指導者に継続的な励まし、援助、および指導を与える。それらの指導者と定期的に集会を持つことによって、彼らの必要を知り、彼らに義務を教え、ステーク会長会からの情報を伝える。長老定員会会長会の集会と大祭司グループ指導者の集会を含め、定期的に長老定員会と大祭司グループ

ブの集会に出席する。招待あるいは割り当てを受けた場合には、ビショップリック、神権役員会、およびワード評議会の各集会にも出席する。

ステーク会長会は、15.1.2に記されているステークの補助組織とともに働き、プログラムを補佐するよう高等評議員に割り当てを与える。(教会機関誌については、ステーク幹部書記またはその他の人がこの責任に割り当てられている場合、例外とする。)ステーク会長会の一員がステーク補助組織会長会と集会を持つ際には、割り当てられている高等評議員もこの集会に出席する。高等評議員は、割り当てを受けている補助組織を対象とするステーク補助組織指導者会にも出席する。

ステーク会長会は、ステークにおける伝道活動、神殿・家族歴史活動の監督業務を補佐する割り当てを高等評議員に与える(5.1.9と5.4.6参照)。

ステーク会長会は、会長会の代理として聖餐会やその他の場で話をする割り当てを高等評議員に与えることができる。ステーク会長会は、このような話の割り当てをどれくらい頻度で与えるか決定する。高等評議員は、必ずしも毎月、聖餐会で話す必要はない。

### 15.3.2 ステーク評議会や委員会で働く

すべての高等評議員はステーク神権役員会、ステーク評議会で作働く。

ステーク会長会の指示により、高等評議員はステーク宗紀評議会に参加する(『手引き 第1部』第6章参照)。

ステーク会長会は、必要に応じて、高等評議員をその他の委員会で働くように割り当てることができる。例えば、長老定員会や大祭司グループとともに働くよう割り当てられた高等評議員たちは、メルキゼデク神権委員会として集会を開くことができる。また、アロン神権に関する割り当てを与えられている高等評議員たちは、アロン神権委員会として集会を開くことができる。

高等評議会はステーク会長会の一員が出席しないかぎり集会を開くことはない。

神権者である。ステーク日曜学校会長会を構成するのも神権者であるが、可能ならば、メルキゼデク神権者とするべきである。扶助協会、若い女性、および初等協会会長会を構成するのは女性である。

本章には、ステーク補助組織指導者に共通の責任が述べられている。加えて、ステークの扶助協会と日曜学校会長会には、各組織に特有の責任が幾つかある。その責任については、それぞれ9.8.2と12.7.3に概説されている。

### 15.4.1 ステーク補助組織会長会

ステーク補助組織会長会のおもな責任は、ステーク会長会を助け、ワード補助組織会長会を指導し、支えることである。ステーク補助組織会長会はワードまたは家族のレベルで行うべき割り当てを果たさない。

ステーク補助組織会長会には以下の責任がある。

新たに召されたワード補助組織会長会を指導する。また、ワード補助組織会長会や教師に継続的な励まし、援助、および指導を与える。一部の指導に関しては、本手引きの第1章-第6章と各補助組織に該当する章に基づいて行うべきである。それらの指導者と定期的に集会を持つことにより、彼らの必要を知り、彼らが奉仕する会員の必要について話し合い、ステーク会長会からの情報を伝える。会長会はワード指導者と定期的に打ち合わせて、ワードの集会やクラスを訪問する。

通常年に1度開かれるステーク補助組織指導者会においてワード補助組織指導者を指導する。地元の実情と移動時間を考慮し、指導者に過度の負担がかからない場合、ステーク会長会は、その年内に2度目の指導者会を承認することもできる(18.3.11参照)。ビショップはワード補助組織会長会のために追加の指導を要請することもできる。

補助組織会長会は、それぞれの会長会で定期的に集会を開く。また、それぞれの働きを監督するステーク会長会の一員および各組織に割り当てられた高等評議員と定期的に集会を持つ。

補助組織の会長はステーク評議会で作働く。この評議会の一員として、ステーク内において信仰を築き、個人や家族を強める取り組みに参加する。

補助組織の会長は、ステークにおけるそれぞれの組織で働くよう召すことのできる会員について、ステーク会長会に推薦を行う。そのような推薦を行うに際しては、19.1.1と19.1.2の指針に従う。

## 15.4 ステーク補助組織

若い男性、扶助協会、若い女性、初等協会、および日曜学校は神権の補助組織である。各補助組織には、ステーク会長会の指示の下で働く会長会がある。ステーク若い男性会長会を構成するのはメルキゼデク



#### 15.4.2 ステーク補助組織書記

ステーク補助組織会長の指示の下で、ステーク補助組織書記は以下の責任を持つ。

会長会のために議事予定案を準備する。

会長会集会に出席し、議事録を取り、割り当ての状況を確認・把握する。

会長会の要請に応じて、その他の記録も取り、報告書を作成する。

それぞれの補助組織の年間予算案の作成や支出の管理を助ける。

割り当てに応じてワード補助組織書記のための訓練を実施する。この訓練では、出席の記録や報告に関する指導を含めることもできる。

---

#### 15.5 ステークスペシャリスト

ステーク会長会は活動（13.3.2 参照）、音楽（14.5.4 参照）、福祉（6.3.3 参照）、およびステークの会員に役立つその他のプログラムを助けるスペシャリストを召し、任命することができる。

また、ステーク会長会は、教会に対する認識がさらに好意的なものとなるよう助け、地域社会における友情と理解の橋渡しをするために広報スペシャリストを召し、任命することもできる。広報スペシャリストのための情報は、LDS.org の「Serving in the Church」(教会における奉仕) [英語] の項で入手できる。これらのスペシャリストはステーク広報ディレクターの指示の下で働く。

---

#### 15.6 地元の必要に応じて適用する

距離、交通費、コミュニケーション手段、また指導する人材の関係で、ステークのプログラムを管理するのが難しい場合、ステーク会長会は地元の実状に合わせて本章の指針を適用することができる。その場合、ワードの指導者が必要な訓練を確実に受けられるようにする。

教会における召しと組織を実状に合わせて適用することについての一般的な情報は、第 17 章に記載されている。神権定員会と補助組織に特有の指示は 8.16, 9.9, 10.11, 11.7 および 12.8 に記載されている。

## 16. 独身会員

16.1 シングルアダルト会員 (31歳以上) を教え導く ..	124	16.5 ヤングシングルアダルトステーク .....	128
16.1.1 ステークシングルアダルト指導者 .....	124	16.6 ヤングシングルアダルトワードおよびヤングシングル	
16.1.2 ステークシングルアダルト委員会 .....	124	アダルトステークの指針と方針 .....	128
16.1.3 複数のステークによる活動 .....	124	16.6.1 教会のプログラム .....	128
16.1.4 シングルアダルトの活動への参加 .....	124	16.6.2 会員がヤングシングルアダルトユニットで奉仕する	
16.1.5 家庭のタベグループ .....	124	よう召された際の協力 .....	129
16.2 ヤングシングルアダルトの会員 (18-30歳) を教え		16.6.3 家庭のタベグループ .....	129
導く .....	125	16.6.4 ホームティーチングと家庭訪問 .....	129
16.3 標準的なステークおよびワードにおけるヤングシング		16.6.5 指導者の会員記録 .....	129
ルアダルト .....	125	16.6.6 ヤングシングルアダルトの会員記録 .....	129
16.3.1 ステークの指導者 .....	125	16.6.7 宣教師の推薦 .....	129
16.3.2 ステークヤングシングルアダルト委員会 .....	125	16.6.8 神権の聖任 .....	129
16.3.3 ワードの指導者 .....	125	16.6.9 学期末休暇 .....	129
16.3.4 ワードヤングシングルアダルト委員会 .....	126	16.6.10 神殿推薦状 .....	129
16.3.5 集会, クラス, 活動 (ステークおよびワード)	126	16.6.11 任期 .....	129
16.3.6 複数のステークによる活動および地域レベルでの		16.6.12 若いひとり親 .....	129
活動 .....	127		
16.3.7 活動のための資金 .....	127		
16.3.8 ヤングアダルトのためのセンター .....	127		
16.4 ヤングシングルアダルトワード .....	128		

## 16. 独身会員

結婚していない男女、離婚または伴侶と死別した男女は、教会の会員の中で重要な存在である。神権指導者および補助組織の指導者はこのような会員に手を差し伸べ、教会の働きに参画させる。ふさわしい独身会員には、長老定員会会長や大祭司定員会の指導者、補助組織の会長会の責任など、指導したり教えたりする責任に就く機会を与えるべきである。

指導者は、独身会員が主に近づき、証を強められるよう、また、自分の霊的、社会的、物質的福利に対して責任を持てるよう助けることによって、支援する。

独身会員を教え導くに当たって、指導者は家庭生活と競合したりそれを損なったりするのではなく、家庭生活を強めるように努める。指導者は、結婚と、親になることの大切さを独身会員に教え、証する。ヤングシングルアダルトが両親と同居していない場合であっても、教会指導者は、両親との関係を大切にはぐくんでいくよう彼らに勧める。また指導者は、ひとり親が自分の子供を教養養育のを支援する。

独身会員は、次の二つのグループに分かれている——シングルアダルト（31歳以上）、ヤングシングルアダルト（18 - 30歳）。

### 16.1 シングルアダルトの会員（31歳以上）を教え導く

指導者は、所属する標準的なステーキおよびワードの定期的な活動やプログラムに参加するよう31歳以上の独身会員に呼びかける。これらのステーキおよびワードは、教会で経験できる事柄をすべて経験する機会を与え、あらゆる年代の人に奉仕し、教え、指導し、かわる機会を与えることができる。また、標準的なワードは、福音の計画において家族と家庭が果たす大切な役割を補い強めることもできる。

指導者は、シングルアダルトの必要を理解し、それに対処するために特に努力するべきである。シングルアダルトの置かれている状況や持っている興味は人により異なることを指導者は認識するべきである。指導者はまた、シングルアダルトは家族中心の活動やクラスに参加すると、時に疎外感を抱くことに細心の注意を払うべきである。

#### 16.1.1 ステーキングアダルト指導者

ステーキ会長会はシングルアダルトの必要を理解し、それらの必要に対処する方法を提供するよう努め

る。ステーキ会長会は、ワードが提供できる範囲を超えた奉仕活動や福音学習、社交の場に来る機会がステーキのシングルアダルトに必要であると判断することもできる。

ステーキ会長はステーキのシングルアダルトの活動を監督する割り当てを顧問の一人に与えることができる。また、ステーキ会長は、この働きを助ける割り当てを一人の高等評議員に与えることもできる。同じ顧問と同じ高等評議員に、ヤングシングルアダルトとともに働く割り当てを与えてもよい。

#### 16.1.2 ステーキングアダルト委員会

ステーキ会長会は、ステーキシングルアダルト委員会を組織することができる。ステーキ会長会の顧問の一人がこの委員会を管理する。また、この委員会は、高等評議員一人とステーキ扶助協会会長会の一員、それに数人のシングルアダルトで構成される。通常この委員会は、ステーキヤングシングルアダルト委員会とは別に組織される。

委員会は必要に応じて集会を持つ。委員会の委員は、ワードが提供できる範囲を超えた奉仕活動や福音学習、社交の場に来る機会をシングルアダルトに提供する方法を計画することができる。

#### 16.1.3 複数のステーキによる活動

複数のステーキによる活動を通して、シングルアダルトに必要な奉仕の機会や指導する機会、社交的な交わりを提供できる場合、地域七十人はステーキ会長たちと協力して、そのような活動を計画、組織する委員会を組織する。

#### 16.1.4 シングルアダルトの活動への参加

シングルアダルトの活動への参加は、シングルアダルト会員、割り当てを受けた教会役員、教会員ではない独身者で教会の標準を守る意志のある者に限る。伴侶と別居している人、また離婚を考えている人は、法律上離婚が成立するまでは参加できない。

#### 16.1.5 家庭の夕べグループ

ビショップリックは、家庭に子供がいないシングルアダルトおよび親と同居していないシングルアダルトのために、一つまたは複数の家庭の夕べグループを組織できる。このグループのことを家族とは呼ばない。

## 16.2 ヤングシングルアダルトの会員（18-30歳）を教え導く

ステーキおよびワードの指導者は、以下の方法でヤングシングルアダルトを見つけ、所在を確認し、教え導く努力を常に行う。

自分と同年代のあまり活発でない人を見つけてフェローシップするようヤングシングルアダルトに働きかける。

ヤングシングルアダルトが有意義な奉仕や福音の学習、社交活動の中で交流する機会を作り出す。こうした活動のおもな目的は、ヤングシングルアダルトが結婚相手を見つけ、神殿で結婚して義になつた家族を育てるための準備を進められるよう助けることである。

ヤングシングルアダルトが価値ある個人の目標を達成し、結婚や教育、職業、財政に関する決断を下す際に助ける。

すべてのヤングシングルアダルトが『真理を守る——福音の参考資料』を入手できるように手配する。ヤングシングルアダルトは福音の原則を学び、話の準備をし、クラスを教え、教会に関する質問に答えるためにこの本を活用するよう奨励されている。

## 16.3 標準的なステーキおよびワードにおけるヤングシングルアダルト

### 16.3.1 ステーキの指導者

ヤングシングルアダルトを教え導くうえで、ステーキ会長会の指導は特に重要である。ヤングシングルアダルトは非常に流動的である。彼らはステーキのすべてのワードに不均等に散在しており、所在の確認が困難な場合がある。このような問題があるため、社交的な活動や福音の学習、奉仕の機会をステーキまたは複数のステーキを対象に与えると、非常に大きな効果を上げることが多い。

ステーキ会長は各ビショップとの定期個人面接の際に、ビショップからワードのヤングシングルアダルトの進歩状況の報告を求める。

ステーキ会長はステーキのヤングシングルアダルトの活動を監督する割り当てを顧問の一人に与える。また、ステーキ会長は、その働きを助ける割り当てを一人の高等評議員に与える。

ステーキの指導者たちは、ステーキのヤングシングルアダルトの必要を満たすために最適なプログラムや活動は何か祈りをもって検討する。いろいろな選択肢は 16.3.5 に記載されている。

たいていのヤングシングルアダルトは（多くは両親とともに）標準的なワードに所属しているが、ヤングシングルアダルトワードを組織することが望ましいような状況であれば、神権指導者はその設立を推薦することができる（16.4 参照）。

### 16.3.2 ステーキヤングシングルアダルト委員会

ステーキ会長会の顧問の一人がステーキヤングシングルアダルト委員会を管理する。この委員会は、ヤングシングルアダルトに関する割り当てを受けた高等評議員とステーキ扶助協会会長会の一員、ヤングシングルアダルトアドバイザーとして奉仕する召しを受けた夫婦、各ワードのヤングシングルアダルトリーダーで構成される。ワードにヤングシングルアダルトリーダーがいない場合は、ほかのふさわしいヤングシングルアダルトがこの委員会で奉仕するよう召される。通常この委員会は、ステーキのシングルアダルト委員会とは別に組織される。

委員会は必要に応じて集会を持つ。委員会の委員は、ワードが提供できる範囲を超えた奉仕活動や福音学習、社交の場に集まる機会をヤングシングルアダルトに提供する方法を計画することができる（16.3.5 参照）。ヤングシングルアダルトの活動を計画する際には、社交の場を提供することだけでなく、霊的成長と奉仕に常に目を向けるようにする。

この委員会は、ワードヤングシングルアダルト委員会が設置されているワードに対して、それがうまく機能するよう助ける。

### 16.3.3 ワードの指導者

#### ビショップリック

ワードのヤングシングルアダルトの必要を理解し、それに対処するために、ビショップリックの一員が各ヤングシングルアダルトと最低年に1回面接する。ビショップリックはワード評議会と協力して、すべてのヤングシングルアダルトのために有意義な召しを選ぶ。また、ビショップリックは、ワードヤングシングルアダルト委員会を組織することもできる。

ビショップリックの顧問の一人がワードのヤングシングルアダルトを監督する。このビショップリックの顧問は、ワードのヤングシングルアダルトを担当している長老定員会会長会と扶助協会会長会の顧問から定期的に報告を受ける。このビショップリックの顧問は、ワード評議会の集会で特定のヤングシングルアダルトについて報告することができる。

ヤングシングルアダルトを担当する長老定員会会長と扶助協会会長の顧問

長老定員会会長および扶助協会会長は、顧問の一人に、長老定員会と扶助協会がヤングシングルアダルトを見守る働きを指揮するよう割り当てを与える。この割り当てを受けた顧問は、定期的にヤングシングルアダルトと話して励ましと助けを与える。また、ホームティーチングや訪問教師によるコンタクト、自分自身の訪問によって分かった情報をビショップリックの担当顧問に提供する。この報告は長老定員会会長または扶助協会会長に対しても行う。長老定員会会長および扶助協会会長は、これらの働きについてワード評議会の集会で報告することができる。

ヤングシングルアダルトリーダー

十分な人数のヤングシングルアダルトがいるワードでは、ビショップリックは一人のヤングシングルアダルトの兄弟と一人のヤングシングルアダルトの姉妹をヤングシングルアダルトリーダーとして召すことができる。このリーダーはビショップリックの顧問に報告する。また、ワードヤングシングルアダルト委員会が設置されていれば、そこでも奉仕する。彼らは長老定員会会長または扶助協会会長と定期的に会合を持ち、ホームティーチングと訪問教師の割り当てをヤングシングルアダルトの必要に対処できるものにするよう努める。彼らはステークヤングシングルアダルト委員会で奉仕する割り当てを受けることができる。

ヤングシングルアダルトアドバイザー

ビショップリックは、ふさわしい夫婦をワードヤングシングルアダルトアドバイザーとして召すことができる。このアドバイザーは、ビショップリックの顧問の一人に報告する。ワードヤングシングルアダルト委員会が組織されていれば、そこでも奉仕する。彼らはステークヤングシングルアダルト委員会でも奉仕することができる。彼らはヤングシングルアダルトが友情を築き、奉仕し、福音を学ぶために集まる機会を持てるように助ける。

### 16.3.4 ワードヤングシングルアダルト委員会

かなりの人数のヤングシングルアダルトがいるワードでは、ステーク会長とビショップはヤングシングルアダルト委員会が必要だと感じる場合がある。ビショップリックの顧問の一人がこの委員会を管理する。この委員会の構成員はそのほかに長老定員会会長と扶助協会会長のヤングシングルアダルト担当顧問、ヤング

シングルアダルトリーダー、ヤングシングルアダルトアドバイザーとして奉仕する召しを受けている夫婦である。

この委員会は必要に応じて集会を持つ。委員会の委員は、ヤングシングルアダルトが奉仕したり、指導力を発揮したり、福音を学んだり、社交的な活動を行ったりする場に参加できるようにする方法について話し合う。委員はまた、あまり活発でないヤングシングルアダルトを見つけてフェローシップする。

### 16.3.5 集会、クラス、活動（ステークおよびワード）

ヤングシングルアダルトには、ワードやステーク、複数のステークを対象に開催できる、福音学習や奉仕、文化的・社会的な活動などの様々な機会を提供すべきである。こうした活動には、神殿訪問、神権準備セミナーまたは神殿準備セミナー、伝道活動、地域社会への奉仕、合唱、文化的行事、ダンス、スポーツなどがある。

ステークヤングシングルアダルト委員会とワードの指導者の支援を受けながら、ステーク会長会はヤングシングルアダルトに最適と思われる集会やクラス、活動を設ける。また、ステーク会長会は、活動をワード単位で行うかステーク単位にするか、または何らかの方法で両者を組み合わせた形で行うかを決定する。

ヤングシングルアダルトの活動は、第13章の方針と指針に従うべきである。これらの活動への参加は、ヤングシングルアダルトの会員、割り当てのある教会役員、教会員ではない独身者で教会の標準を守る意志のある者に限る。伴侶と別居している人、また離婚を考えている人は、法律上離婚が成立するまでは参加できない。

ヤングシングルアダルトの活動を計画するに当たっては、ワードおよびステークの指導者は以下の選択肢を考慮することができる。

見つけ、招く

ヤングシングルアダルトの中には住居を頻繁に変える人が多いため、ステークはステークのヤングシングルアダルトを見つけ、フェローシップできるような活動を定期的に行うとよい。このような活動は近隣のステークの活動と合わせて行ってもよい。活発なヤングシングルアダルトは、このような活動において最も力になる人材である。ワードやステークのヤングシングルアダルト委員会は、このようなヤングシングルアダルトに指示を与える。インスティテュートの指導者も折にふれて手伝うことができる。

### ヤングシングルアダルト奉仕委員会

ヤングシングルアダルトは様々な奉仕委員会に頻繁に呼ばれて一緒に奉仕するべきである。これらの委員会は、ビショップリック、またはワードもしくはステーキのヤングシングルアダルト委員会から割り当てを受けたワードまたはステーキの指導者に報告する。どのような奉仕を委員会で行うかは、地元の指導者が決定する。奉仕活動はしばしば、福祉や家族歴史、広報、伝道活動、ヤングシングルアダルトの再活発化、教会の施設またはプロジェクトの支援など、教会のプログラムに照準を合わせたものにする。この奉仕活動は、地元その他の必要に応じた人道支援に焦点を当ててもよい。奉仕委員会は友好を深め、結婚相手に会えるような機会を提供する。また、指導する技術や社交面での技術も教える。

### 家庭の夕べグループ

ビショップリックは、親と同居していないヤングシングルアダルトおよび家庭に子供がいないヤングシングルアダルトのために、一つまたは複数の家庭の夕べグループを組織できる。可能であれば、神権指導者はヤングシングルアダルトの神権者を指導者として各グループに一人ずつ割り当てる。ヤングシングルアダルトが少ないステーキでは、ステーキの指導者はワードの管轄範囲を超えた家庭の夕べグループを組織してもよい。家庭の夕べグループの指導者は割り当てを受けた神権指導者に報告する責任がある。このグループのことを家族とは呼ばない。

### 日曜学校のクラス

十分な人数のヤングシングルアダルトがいるワードでは、ヤングシングルアダルトのために別個の日曜学校のクラスを持つことができる（12.4.2 参照）。

### 週日の福音学習クラス

ヤングシングルアダルトはインスティテュートのクラスに登録するよう奨励されている。神権指導者は地元のインスティテュート担当職員と協力してインスティテュートの標準にかなった、ヤングシングルアダルトの必要を満たすクラスを設ける。学生でないヤングシングルアダルトもインスティテュートのクラスに登録できる。この場合、インスティテュートに登録することも、神権指導者から召された教師が地元の集会所で教えるクラスに登録することもできる。このようなクラスの

手配は、神権指導者とインスティテュート担当職員の間で調整する。

インスティテュートのクラスを利用できない場合、地元の指導者は宗教教育セミナー・インスティテュートの事務局に助けを求めるとよい。地元の指導者は、必要に応じて、その他の形で週日にグループで福音を学ぶ機会を計画することができる。

### 16.3.6 複数のステーキによる活動および地域レベルでの活動

複数のステーキによる活動および地域レベルでの活動は、ビショップからの宗務的な関心や配慮を離れることなく、ヤングシングルアダルトに社会的な交わりや指導する機会、奉仕する機会を提供できる。

地域七十人はステーキ会長と協力して、そのような活動を計画、組織する委員会を設立する。この地域七十人は、七十人会長会の一員または地域会長会の指示の下に働く。複数のステーキによる委員会には、ヤングシングルアダルトリーダーを含めるべきである。

複数のステーキによる委員会は、多様性に富み、簡単であり費用のかからない活動で、豊かな社会的交流が持てるような活動を計画するべきである。これらの委員会は、ヤングシングルアダルトワードおよび宗教教育インスティテュートと調整して活動とのバランスが適切に取れるようにし、重複したり、スケジュールがぶつかり合ったりしないようにする。

これらの活動を組織することに関するその他の指針は、13.3.1を参照する。

### 16.3.7 活動のための資金

通常、ヤングシングルアダルトの活動のための資金はステーキまたはワードの予算から出す。複数のステーキによる活動や地域レベルでの活動を行う場合、担当の神権指導者は、各ステーキの予算が公平に割り振られるようにする。

活動のための資金については、13.2.8に記載されている方針に従うべきである。例外として、複数のステーキや地域レベルでの大規模な行事が催される場合には、ヤングシングルアダルトに幾分か費用を負担してもらってもよい。ただし、常識的でない金額を自己負担することなく、すべてのヤングシングルアダルトに参加の機会を与えられるよう配慮するべきである。

### 16.3.8 ヤングアダルトのためのセンター

ヤングアダルトのためのセンターは、福音の学習や社会的な活動、伝道活動、再活発化の機会を集約させるために、一部の場所で置くことが承認されている。ヤングアダルトのためのセンターについては、ステーキ会長会とインスティテュート担当の職員、伝道部長が、全体の指揮を執る担当ステーキと協力して取り組む必要がある。これらの指導者たちは、インスティテュートの学生評議会およびステーキヤングシングルアダルト委員会の助けを受けることができる。専任宣教師は多くの場合、既婚の夫婦の助けを受けてこれらのセンターで伝道活動を行うことができる。この夫婦は宣教師であってもそうでなくてもよい。

宗教教育インスティテュート諮問評議会（『手引き 第1部』11.1.3参照）、宗教教育インスティテュート学生評議会（『手引き 第1部』11.2.2参照）、ワードヤングシングルアダルト委員会およびステーキヤングシングルアダルト委員会、ヤングシングルアダルトワードおよびヤングシングルアダルトステーキなど、ヤングシングルアダルトのための組織は、センターを使用する計画を立てる際に、重複したりスケジュールがぶつかり合ったりしないようにするべきである。インスティテュート担当の職員その他の指導者と協議のうえで、ステーキ会長は何かの取り組みのためにこれらの組織を統合することができる。

ヤングアダルトのためのセンターは集会所の中に設けてもよい。その場合は、代表ステーキ会長がその建物の使用とスケジュールを監督する。

インスティテュートの建物がある所では、その建物をヤングアダルトのためのセンターとして使用するよう七十人会長会の一員または地域会長会が要請することがある。この場合、インスティテュートディレクターが引き続き建物の代理人を務める。インスティテュートディレクターはステーキ会長と話し合いながら、インスティテュートのクラス、および建物のその他の使用に関して責任を持つ。これ以外の活動でインスティテュートのクラスを妨げるべきではない。

ヤングアダルトのためのセンター設立の承認を求めるには、神権指導者が七十人会長会の一員または地域会長会に問い合わせる。ヤングアダルトのためのセンターに関するさらなる情報については、指導者は宗教教育セミナー・インスティテュート教育長事務局に問い合わせるべきである。

## 16.4 ヤングシングルアダルトワード

地元の状況やヤングシングルアダルトの人数を考慮して望ましいと思われる地域では、神権指導者は『手

引き 第1部』9.1.6に記載されている指針に従ってヤングシングルアダルトワードの設立を提案することができる。

該当する年齢の会員は、両親と協議のうえでヤングシングルアダルトワードの会員になるか、または標準的なワードの会員のままでいるか選択することができる。ステーキ会長は、ステーキ内のその他のあまり活発でないヤングシングルアダルト会員を見つけてフェロシップすることをヤングシングルアダルトワードに承認することができる。再び活発に出席するようになった会員は、その時点でヤングシングルアダルトワードに所属するか、標準的なワードに所属するかを選ぶことができる。

ステーキ会長の承認の下、ヤングシングルアダルトワードのビショップはヤングシングルアダルトの女性のために第二扶助協会を、ヤングシングルアダルトの男性のために第二長老定員会を組織することができる。これは、互いに奉仕し合い、交流する機会をヤングシングルアダルトに与えるためである。

ヤングシングルアダルトワードの会員記録は一時的なものである。指導者たちは、結婚した場合や31歳になったときに標準的なワードに戻るための準備をヤングシングルアダルトができるよう助ける。標準的なワードのビショップは十分に時間をかけて、またよく意思の疎通を図りながらこの移行を行い、歓迎され、必要とされていると感じられるような召しを、標準的なワードに移る一人一人のヤングシングルアダルトに与えるよう計画するべきである。

## 16.5 ヤングシングルアダルトステーキ

神権指導者は『手引き 第1部』9.1.7に記載されている指針に従ってヤングシングルアダルトステーキの創設を提案することができる。この項には、これらのステーキの会員記録や指導者に関する指針も記載されている。

## 16.6 ヤングシングルアダルトワードおよびヤングシングルアダルトステーキの指針と方針

### 16.6.1 教会のプログラム

ヤングシングルアダルトワードはできるかぎり教会の正規のプログラムを使う。ヤングシングルアダルトステーキおよびヤングシングルアダルトワードのステーキ会長およびビショップは、本手引きおよび『手引き 第1部』に記載されている原則と指示に従う。これには、福祉支援、財政、予算も含まれる。

### 16.6.2 会員がヤングシングルアダルトユニットで奉仕するよう 召された際の協力

ユニットの会員がヤングシングルアダルトステークまたはヤングシングルアダルトワードの指導者として奉仕するよう、権能を持つ神権指導者から要請された場合、標準的なステークおよびワードの役員は十分に協力すべきである。ただし、これらのステークおよびワードの役員は、会員の現在の教会の責任や家族の状況に照らし合わせたうえで、その召しを与えるのは賢明ではないと感じる場合や、不適切だと感じる場合には、権能を持つ神権指導者と相談すべきである。

### 16.6.3 家庭の夕べグループ

ヤングシングルアダルトワードのビショップは、16.3.5で概説されているように家庭の夕べグループを組織することができる。

### 16.6.4 ホームティーチングと家庭訪問

ホームティーチングと家庭訪問の目的からすると、ヤングシングルアダルトワードまたはステークの各会員は、一人一人が一つの家族と考えられる。

### 16.6.5 指導者の会員記録

通常、ヤングシングルアダルトワードのビショップリックの一員とその家族の会員記録は、ホームワードに置いたままにする。同じことが、ヤングシングルアダルトステークのステーク会長会または高等評議会、ステーク扶助協会会長会についても当てはまる。これらの指導者とその家族は、什分の一と献金をホームワードで納める。また、神殿推薦状の面接を受ける場合は、ホームワードやステークの指導者のもとに行き、彼らから面接を受ける。

### 16.6.6 ヤングシングルアダルトの会員記録

ヤングシングルアダルトの会員記録は、彼らが所属しているワードに置くべきである。指導者と書記は、記録が最新の状態となっていることを特に注意する必要がある。また、記録の更新が遅れたり人や記録を把握

できなくなったりするのを避けるために、書記は転入・転出を頻繁に繰り返すヤングシングルアダルトについては非公式な記録をつけてもよい。

### 16.6.7 宣教師の推薦

宣教師の推薦に関する情報については、ステーク会長とビショップは『手引き 第1部』4.3 および 4.4, 4.5, 4.7を参照する。

### 16.6.8 神権の聖任

20.7を参照する。

### 16.6.9 学期末休暇

可能であれば、ヤングシングルアダルトワードは学期末休暇中も引き続きその機能を果たし続けるべきである。学期末休暇中に会員が少なくなるワードは、近隣のヤングシングルアダルトワードと合同で集会を開いてもよい。この場合、各ワードは記録および出席記録、財政記録を別々に取る。

### 16.6.10 神殿推薦状

たいていの場合、自身のエンダウメントを受ける会員および神殿結婚を計画している会員は、ステーク会長が面接を行う。例外として、ヤングシングルアダルトステークでは、自身のエンダウメントを受ける会員または神殿結婚を計画している会員と面接をするよう、ステーク会長が顧問に権限を与えることができる。

### 16.6.11 任期

通常、ヤングシングルアダルトステークまたはヤングシングルアダルトワードのステーク会長会または高等評議会、ビショップリックで奉仕する召しを受けた兄弟は、ホームワードを離れる責任を3年から5年だけ奉仕するにとどめる。ほかの割り当てを果たす期間も合算して、この任期に含める。

### 16.6.12 若いひとり親

家庭に子供のいる若いひとり親は、通常、子供が初等協会や青少年プログラムの恩恵に浴することができるように、自分たちの標準的なワードにとどまる。しかしながら、親はヤングシングルアダルトワードの活動に参加することができる。





## 17. 統一と調整

17.1 統一が必要なもの	132	17.1.9 儀式	133
17.1.1 聖典	132	17.1.10 教科課程	133
17.1.2 戒めと標準	132	17.2 地元での調整を認められる状況	133
17.1.3 教義の純粹さ	132	17.2.1 家族の状況	133
17.1.4 聖餐会と日曜日の集会スケジュール	132	17.2.2 交通手段と連絡手段	134
17.1.5 大会	133	17.2.3 少人数の定員会またはクラスの規模	134
17.1.6 神殿活動	133	17.2.4 指導者の数, 人材	135
17.1.7 宗紀評議会	133	17.2.5 保安	135
17.1.8 記録と報告書	133		

## 17. 統一と調整

教会員は、多種多様な政治的、社会的、また経済的な状況の中で生活している。ワードと支部も、その規模と指導力が異なっている。これらの状況から、地元の指導者は幾つかの教会プログラムを調整する必要があるかもしれない。このような調整は、通常、補助組織、指導者会、ならびに活動プログラムに対して行う。本章の指針は、どの調整が適切で、どれが適切でないかを神権指導者が判断するのを助けることを意図したものである。

規模や状況に関係なく、すべてのワードと支部が同じように主の御霊を豊かに受けることができる。救い主は次のように教えておられる。「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」(マタイ 18:20)

### 17.1 統一が必要なもの

どのような調整が適切かを知るために、指導者はまず、聖典ならびに末日の預言者たちと使徒たちの教えにより、確立されている教義と儀式と慣行を理解しなければならない。これらは教会全体で統一されていなければならない。

ステーク会長、ビショップ、およびその他の地元の指導者は、以下に概略が記されているすべての事項について教会の統一と純粋さを維持する神聖な責務を負っている。これを統一する必要があるのは、「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」という、聖典にある原則に基づいている(エペソ 4:5。モーサヤ 18:21も参照)。

#### 17.1.1 聖典

教会の標準聖典は、聖書、モルモン書、教義と聖約、ならびに高価な真珠である。教会は、教会の集会とクラスで使用される聖書の版を多くの言語で承認してきた。同様に、末日聖徒のその他の3つの聖典についても最新の承認版を使用すべきである。それ以外の版を聖典として教会で奨励したり、使用したりするべきではない。

#### 17.1.2 戒めと標準

主の戒めと教会のふさわしさの標準は、聖典の中に、また大管長会からの公式の通知書の中に記されている。地元の指導者はこれらの戒めと標準を変えるべき

ではない。また、戒めに関する自分自身の規則や解釈を教えるべきではない。

神殿参入に関するふさわしさの標準は、神殿推薦状つづりの中にある面接の質問に詳述されている。地元の指導者はこれらを変えるべきではない。

#### 17.1.3 教義の純粋さ

教会の教義は、聖典ならびに末日の預言者たちと使徒たちの教えの中に見いだされる。主は次のように教えておられる。「この教会の長老と祭司と教師は、『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない。」(教義と聖約 42:12。教義と聖約 52:9, 36も参照)

すべての指導者は、真実の教義が確実に教会で教えられるようにするべきである。偽りの教義や推測の教義を教えている人がいる場合、指導者は、速やかに、また気配りをしながらそれを正すべきである。間違いは、通常、個人的に正すことができる。しかし、重大な間違いや繰り返されている間違いは、公の場での訂正が必要かもしれない。

地元の指導者は特定の主題について、どの教義あるいは教えが正しいか確信がなければ、直接の管理役員からの指導を求めるとよい。

#### 17.1.4 聖餐会と日曜日の集会スケジュール

聖餐会を開くことは聖典で命じられていることである(教義と聖約 59:9参照)。聖餐会に関する指示は、18.2.2に述べられている。日曜日の集会スケジュールは、153ページに記されている。このスケジュールは大管長会と十二使徒定員会が定めたものである。地元の指導者はそれを変えるべきではない。

特別な事情がある場合、地元の指導者は、日曜日の集会を中止することができる。しかしながら、そうすることはまれであるべきである。集会の中止を正当とする事情の例としては、緊急の保安上の問題と悪天候がある。できれば、ビショップは、集会を中止する前にステーク会長に相談するべきである。

地元の異常な状況のため、長期にわたって日曜日のスケジュールを変える必要がある場合が時折あるかもしれない。例えば、集会所が火災や洪水、嵐で被害を受けた場合に変更する必要があるかもしれない。この

ような状況の場合、ステーク会長は、地域会長会、または調整評議会を管理する地域七十人に指示を求める。

きわめて小規模の支部の指導者は、彼らの指導者の指示がある場合、『基本ユニット・プログラム——ガイドブック』を使って日曜日のスケジュールを調整することができる。

### 17.1.5 大会

各ステークは、十二使徒定員会会長が作成する日程に基づいて、年に2回ステーク大会を開催する(18.3.1 参照)。

ステーク会長会は、ステーク内の各ワードや支部のために年に1度のワード大会や支部大会を予定に組み、計画し、管理する(18.2.5 参照)。地方部会長は地方部内の各支部のために同様のことを行う。

### 17.1.6 神殿活動

神殿の神聖な活動は、大管長の直接の権能の下にある。神殿活動に関するすべての事項は、『手引き 第1部』の第3章にある指示に従って執り行うべきである。このような事項の例として、神殿推薦状、結び固め、結び固めの承認、結び固めの取り消しがある。ステーク会長は自分で解決できない問題に直面した場合、大管長会事務局に問い合わせる。

地元の指導者は、神殿の用語および神殿の神聖な儀式と聖約が教会の集会で具体的に話し合われることのないようにする。

### 17.1.7 宗紀評議会

宗紀評議会に関する指示は、『手引き 第1部』の第6章に記されている。指導者は、報告書の提出に関する条件を含め、これらの指示から逸脱するべきではない。ステーク会長は自分で解決できない問題に直面した場合、大管長会事務局に問い合わせる。

### 17.1.8 記録と報告書

教会の記録を残すことは聖典で命じられていることである(教義と聖約 20:81-83 参照)。必要な記録と報告書については、『手引き 第1部』の第13章に概説されている。大管長会は時々これらを変更することがある。

教会の記録と報告書は、教会のコンピューターシステムを使って作成するか、地域によっては書類で作成する。指導者は、正確な記録と報告書が期日までに確実に提出されるようにする。

### 17.1.9 儀式

神権の儀式の執行に関する指示は、第20章に概説されている。これらの指示は変えるべきではない。バプテスマおよびアロン神権への聖任などの儀式を受けるための最低年齢は、いかなる理由があっても変えることができない。

### 17.1.10 教科課程

日曜日の集会スケジュールの中で設けられるクラスでは、教会が承認した教科課程の資料を使用すべきである。これらの資料には、教会が制作したテキスト、機関誌、教授用補足資料が含まれる。地元レベルで新しいテキストやコースを作るべきではない。

ビショップと支部会長は、時折、必要性があると感じる場合、神権組織あるいは補助組織の特別レッスンを教えたり、承認したりすることができる。

## 17.2 地元での調整を認められる状況

ステーク会長、ビショップ、および支部会長は、特定の教会プログラムに簡単な調整を加える権限を持っている。必要な所では、このような調整を次のような事項について行うことができる。

1. 補助組織の人員とプログラム
2. 指導者会の形式と頻度
3. 活動の形式と頻度

どのような調整が適切か検討するとき、ステーク会長会、ビショップリック、支部会長会は、彼ら自身で互いに、またステーク、ワード、支部の評議会とともに協議する。また、様々な状況から大幅な、あるいは特別な調整を加えることが正当とされる場合、直接の管理役員に相談する。調整を加える場合、指導者は常に御霊の導きを求めるべきである。

指導者は、どのような調整が適切か判断するときは、次のような要素を考慮するとよい。

### 17.2.1 家族の状況

指導者は、召しを与え、指導者会の予定を組み、また活動を計画するとき、会員の家族の状況を考慮する。教会の奉仕と参加には常にある程度の犠牲が必要とされる。しかしながら、堅固な家族は教会にとってきわめて重要である。したがって、会員に、奉仕するために、あるいはプログラムや活動を支援するため

に、過度に家族を犠牲にするよう求めるべきではない。

考慮すべき家族の状況の一つは、会員の夫または妻が受けている教会の召しである。教会の責任が個々の家族にとって重荷にならないようにするべきである。考慮すべきもう一つの状況は、会員が自分の家族を養うのに、またその他の個人的な事柄に気を配るのに多大な時間を要するという点である。世界の一部の地域では、会員は必要に迫られて2つか3つの仕事を行っている。これらは召しを伝えるときや指導者会の予定を組むとき、あるいは活動を計画する際に指導者が当然考慮すべき事項である。

## 17.2.2 交通手段と連絡手段

ステーキやワードの中には、地理的範囲が広く、会員が集会や活動に出席するのに長距離を移動しなければならない所がある。集会や活動の必要性を評価するときに、指導者は、会員が移動するのに必要な時間と交通費を考慮する。

世界の多くの地域では、自動車は一般的ではなく、徒歩や自転車、バス、電車が移動手段となっている。距離が遠い場合、このような状況であれば、指導者は、会員がもっと参加しやすいように、教会のプログラムと指導者会を調整するべきである。

広範囲にわたって自動車を利用できる場合であっても、指導者は、長距離の運転にかかる費用に慎重であるべきである。場合によっては、高等評議会の業務を行う場合など、指導者は高額な交通費を減らすために、電話会議や電子メール、インターネットを使うとよい。これらの手段を利用する場合、指導者は内密性を保つことに特に気をつけるべきである。

会員はしばしば世代の違いで交通手段の利用状況が大きく異なる。例えば、ヤングシングルアダルトは、子供がいる家族よりも動きやすく、また往々にしてもっと遠くまで出かける手段を持っている。ヤングシングルアダルトが相応な時間と費用で集まれる所では、相応な頻度で複数のステーキによる活動を行うべきである(13.3.1参照)。

世界の一部の地域では、電話は高価であり、多くの会員が自分の電話を持っていない。同様に、一部の地域では電子メールやインターネットの利用もまれである。このような手段が高価であって、一般的に利用できなければ、指導者は、必要な調整を加えるべきである。

移動が困難であるか、交通費が高く、また連絡手段を十分に利用できない所では、ホームティーチングや

家庭訪問はより困難を伴う。このような場合、指導者は、7.4.3 および 9.5.3 に概略が記されているように調整を加えることができる。

## 17.2.3 少人数の定員会またはクラスの規模

### 長老と大祭司

日曜日の神権会に出席できるワードの長老または大祭司が非常に少数の場合は、集会を合同で行うことができる。しかしながら、決して単独のメルキゼデク神権定員会を設けるべきではない。ワードに聖任を受けた長老と大祭司がいるかぎり、長老定員会と大祭司グループの両方が組織されるべきである。

地方部には大祭司定員会はないので、地方部内の支部には大祭司グループはない。これらの支部に出席している大祭司は、長老定員会とともに集う。

### 若い男性と若い女性

若い男性が少ないワードまたは支部では、アロン神権定員会はレッスンと活動を一緒に行うことができる(8.11 および 8.13.1 参照)。しかしながら、なお定員会はそれぞれに組織し、各定員会のために指導者が召され、支持されるべきである。

若い女性が少ないワードまたは支部では、若い女性はレッスンと活動を一緒に行うことができる(10.6.2 および 10.8.1 参照)。クラス会長会は年齢グループごとに召すとよい。あるいは、会長会をそれぞれのクラスで組織できるようになるまで、合同の年齢グループのために一つの会長会を召すことができる。

成人指導者の人数が限られている場合、若い男性会長会が日曜日のレッスンを教え、アドバイザー補佐なしに活動プログラムを行うことができる。若い女性会長会も若い女性のために同じことを行える。きわめて小規模のユニットでは、若い男性会長と若い女性会長が彼らの組織の唯一の成人指導者ということもあり得る。この場合は、会長が日曜日のレッスンを教え、またすべての若い男性または若い女性のための活動を監督する。可能になったら、それぞれの組織のために顧問と書記を召すべきである。

青少年は大きなグループで交流することによりしばしば益を受けるため、二つまたはそれ以上の小さなワードや支部の若い男性・女性は、折にふれて合同活動を行うことができる。近隣のワードや支部に若い男性・女性が少ない場合には、ビショップや支部会長は、青少年が合同で週日の活動を行うのを承認することができる。このような選択肢を検討する際、ビ

ショップや支部会長は、距離や交通費などの様々な要因を考慮に入れる。

ワードや支部の青少年が少ない所では、ステーキの活動や複数のステーキによる活動を定期的に行うことが特に重要である（13.3 および 13.4 参照）。

小規模のステーキまたは地方部では、若い男性会長が唯一のステーキまたは地方部若い男性指導者ということもあり得る。ステーキまたは地方部若い女性会長についても同様のことがあり得る。可能になったら、それぞれの組織のために顧問と書記を召すべきである。

#### 初等協会

子供が少ないワードまたは支部では、初等協会会長は、複数の年齢グループを合同にして少数のクラスを組織するとよい。

小規模のワードまたは支部では、初等協会会長が唯一の初等協会指導者と教師ということもあり得る。きわめて小規模のユニットでは、初等協会会長が唯一の初等協会指導者ということもあり得る。この場合は、会長が分かち合いの時間に司会をし、一つのクラスで子供たち全員を教える。可能になったら、11.7 に概説されているように、もっと多くの指導者と教師を召すべきである。

小規模のステーキまたは地方部では、初等協会会長が唯一のステーキまたは地方部初等協会指導者ということもあり得る。可能になったら、11.7 に概説されているように、その他の指導者を召すべきである。

#### 17.2.4 指導者の人数、人材

すべての指導者の職を満たすのに十分な人数の資格ある会員がいない場合、管理役員は、最も重要な職だけを満たすとよい。活発で経験のある会員を指導者

の職に召すほかに、管理役員は、新会員、経験が少ない会員、あまり活発でない会員で教会に再び集うようになる可能性がある会員の中から、指導者になる可能性のある人々を見つけるために靈感を求めべきである。教会員は召しを受けるのに経験や高度の資格がある必要はない。召しを受けることは、奉仕し、霊的に成長するうえで重要な過程である。

指導者の職に就いて奉仕する十分な人数の会員がいない場合、管理役員は、ステーキ、ワード、または支部をもっと小規模に組織するとよい。その例として、幾つかの組織を会長と一人の顧問の二人だけにして、その顧問に、書記を兼務してもらい、幾つかのプログラムを簡素化するという方法がある。

若い女性または初等協会の会長がいないきわめて小規模の支部では、若い女性会長と初等協会会長が召されるまで、扶助協会会長は、両親が若い女性と子供たちのためにレッスンを準備するのを助けることができる。

きわめて小規模の支部の指導者は、『基本ユニット・プログラム —— ガイドブック』の指針に従う。

#### 17.2.5 保安

世界の一部の地域は、犯罪率が非常に高く、政情が不安定である。これらの地域の指導者は、夜間に会員が移動することは賢明でないと思う場合、夕方の活動を取りやめることができる。これは、週末に幾つかの活動の予定を組んだり、教会の活動の数を減らしたりすることを意味するかもしれない。

保安上の危険あるいは交通費が深刻な問題である場合、指導者は一部の青少年の活動を日曜日に予定することができる。このような活動は日曜日の集会スケジュールとは切り離し、安息日の精神を保つべきである。



## 18. 教会の集会

18.1 集会を計画し、実施するための指針	138	18.4 教会の集会における視覚資料および視聴覚資料	145
18.2 ワードの集会	138	18.5 教会の集会での祈り	146
18.2.1 日曜日の集会スケジュール	138	18.6 葬儀および不幸があったときに行うその他の典礼	146
18.2.2 聖餐会	138	18.6.1 死と喪	146
18.2.3 断食証会	140	18.6.2 計画と支援	146
18.2.4 神権会	141	18.6.3 ビューイング(慣習がある地域)	147
18.2.5 ワード大会	141	18.6.4 葬儀	147
18.2.6 ビショップリック集会	141	18.6.5 音楽	147
18.2.7 ワード神権役員会集会	141	18.6.6 埋葬または火葬	147
18.2.8 ワード評議会集会	141	18.6.7 金銭上の方針	148
18.2.9 ビショップリック青少年委員会集会	142	18.6.8 教会員でない人のための葬儀	148
18.2.10 ワードヤングシングルアダルト委員会集会	142	ワード集会の一覧表	149
18.2.11 伝道調整集会	142	ステーキ集会の一覧表	151
18.3 ステークの集会	142	日曜日の集会スケジュール	153
18.3.1 ステーク大会	142	異なる言語を使用するユニットのための重複スケジュール	154
18.3.2 ステーク神権会	143		
18.3.3 ステーク神権指導者会	143		
18.3.4 ステーク大祭司定員会集会	144		
18.3.5 ステーク会長会集会	144		
18.3.6 ステーク神権役員会集会(高等評議会集会)	144		
18.3.7 ステーク評議会集会	144		
18.3.8 ビショップリックとの集会	145		
18.3.9 ステークアロン神権・若い女性委員会集会	145		
18.3.10 ステークビショップ福祉評議会集会	145		
18.3.11 ステーク補助組織指導者会	145		
18.3.12 ステークヤングシングルアダルト委員会集会	145		
18.3.13 ステークシングルアダルト委員会集会	145		



## 18. 教会の集会

この章には、教会における集会の情報が要約されている。定員会、扶助協会、若い男性、若い女性、初等協会、日曜学校の集会など、特定の組織を対象とする集会については、本手引きのそれぞれの組織の章に述べられている。

手引きで概略が述べられている集会に加えて、管理役員は折にふれて、出席すべき人や目的を特定したほかの集会を開くことができる。

### 18.1 集会を計画し、実施するための指針

指導者は「神の戒めと啓示にあるとおりに、聖霊に導かれるままに」集会を計画し、執り行う（教義と聖約 20：45。モロナイ 6：9；教義と聖約 46：2も参照）。

管理役員は各集会の議事予定案を作成するか、自分の指示の下で議事予定案を作成するようほかの人に割り当てる。議事予定案は、参加者が集会の目的に焦点を合わせ、時間を効率よく使ううえで役立つ。また、確実に最も重要な案件から話し合えるよう、優先順位をつけるべきである。

指導者の集会では、個人と家族を強めることに焦点を絞るべきである。日程の調整やプログラムの計画、その他管理業務に費やす時間は最小限に抑えるべきである。

集会での話し合いに関する指針は、4.6.1を参照する。

管理役員は自ら司会を行ってもよいし、自分の指示の下で、司会を行うように顧問やその他の人に依頼してもよい。

集会は必要以上に長くするべきでない。

指導者は、日曜日にあまりにも多くの集会が開かれることで、親と子供が一緒に時間を過ごせなくなることがないようにしなくてはならない。可能なら、標準の3時間プログラム、早朝の指導者集会、そして時折開く夕べの集会以外は日曜日の集会を予定することは避けるべきである。

### 18.2 ワードの集会

ビショップはワードの集会を監督する。ビショップは、ステーク会長会の一員、地域七十人、または中央幹部が出席する場合を除いて、これらの集会を管理する。ビショップの顧問はワードの集会を司会すること

ができる。また、ビショップが不在の場合に管理することができる。管理役員および訪問している高等評議員は壇上に座るよう招くべきである。高等評議員がワードの集会に出席してもそれを管理しない。

ビショップと顧問が皆欠席している場合は、ステーク会長が、聖餐会の管理者を指名する。通常は大祭司グループリーダーを指名するが、代わりに別の神権者にその権限を与えることもできる。

#### 18.2.1 日曜日の集会スケジュール

日曜日の集会は教会員にとって、聖餐を受け、礼拝し、福音を学び、自らの義務を学び、奉仕を行う、きわめて重要な時間となる。教会員ではないが福音に関心のある人も、これらの集会に出席することができる。

各ワードは、3時間の中に以下の日曜日の集会を組み入れる（選択が可能な集会日程については153ページの「日曜日の集会スケジュール」の表を参照する）。

1. 聖餐会
2. 神権会（神権者全員、長老見込み会員、アロン神権の年齢で聖任を受けていない若い男性。18.2.4参照）
3. 扶助協会（18歳以上の女性、18歳未満の既婚女性）
4. 若い女性（12歳から18歳までの若い女性）
5. 初等協会（3歳から11歳までの子供。託児クラスが組織されていて、親が子供の出席を希望する場合は1歳6か月から2歳までの子供）
6. 日曜学校（12歳以上全員。12歳の若い男性や若い女性の日曜学校への参加については11.4.3参照）

#### 18.2.2 聖餐会

聖餐会の目的

聖餐会は、教会員に霊的な経験を与える機会であるべきである。教会員は、聖餐を受けることによってバプテスマの聖約を新たにする。聖餐会のその他の目的は、礼拝すること、福音の指導を提供すること、儀式を執行すること、ワードの業務を行うこと、信仰と証を強めることである。

## 聖餐会の計画と実施

ビショップリックは聖餐会を計画し、敬虔かつ厳粛に聖餐会を進める。ビショップリックは聖餐の執行を監督し、話と音楽のテーマを選び、プログラムの参加者を選んで指示を与え、教会員に開会と閉会の祈りを依頼する。聖餐会の前に祈り会を開く必要はない。

ビショップリックは、聖餐会が定刻に始まり、定刻に終わるようにし、またプログラムにあまりにも多くの事柄を盛り込まないようにする。以下は、聖餐会のプログラムの例である。

1. 前奏曲（指針については14.4.3参照）
2. あいさつと歓迎
3. 管理役員または出席している高等評議員の紹介
4. 発表（聖餐会の時間を割かないように、できれば、ほとんどの発表事項を印刷して配付するべきである。ビショップリックはきわめて重要な事項だけを開会の賛美歌の前に簡潔に発表するとよい）
5. 開会の賛美歌と開会の祈り
6. ワードおよびステーキの以下の業務。
  - a. 役員および教師の支持と解任（19.3と19.5参照）
  - b. バプテスマと確認を受けた8歳の子供の名前の発表140ページの「新会員の紹介」参照）
  - c. アロン神権を受けるあるいはアロン神権の新たな職に聖任される兄弟の氏名の提示（『手引き第1部』16.7.2参照）
  - d. 新しいクラスに進級した若い女性を紹介する
  - e. ワードの新会員の氏名の提示140ページの「新会員の紹介」参照）
7. 子供の命名と祝福（通常は断食証会で行う）および新会員への確認と聖霊の賜物の授与
8. 聖餐の賛美歌および聖餐の執行
9. 福音に関する話、会衆による歌、特別な音楽の発表
10. 閉会の賛美歌と閉会の祈り
11. 後奏曲

時々、集会中に予期しないことが起こり、管理役員がはっきりと説明しなくてはならない場合がある。そのときは、人々を困惑させないように注意しながら必要なことを明らかにする。

## 聖餐会の前の時間

指導者は、聖餐会が始まる前の時間帯に敬虔さの模範を示す。ビショップリックと話者は、集会が始まる少なくとも5分前には所定の席に座るべきである。その時間には会話をしたり、連絡事項を伝えたりはしない。敬虔さの模範を示すことで、礼拝の経験に先立って霊的に備えるよう会衆を奨励することができる。

聖餐会前の時間を祈りの気持ちで瞑想する時間とし、聖餐を受けるために霊的に備えるよう会員に教えるべきである。

ビショップリックは、各家族が遅れず到着し、一緒に座るように奨励する。

## 聖餐の祝福とパス

ビショップリックは、敬虔かつ秩序正しく聖餐の祝福とパスが執り行われるようにする。聖餐のテーブルは開会までに準備が整えられているべきである。聖餐の準備、祝福、パスに関する指示については20.4を参照する。

## 話と音楽のテーマの選択

ビショップリックは、聖餐会の話と音楽のテーマを選ぶ。話と音楽は会員が信仰と証をはぐくむうえで役立つ、福音の主題に焦点を当てるべきである。

## 参加者の選任と指導

**参加者の選任。**ビショップリックは、聖餐会のプログラムに参加する会員たちを選ぶ。プログラムへの参加の機会の大部分は、ワードの会員に与えられるべきである。ビショップリックはワードの外部から話者を招く場合、21.1.20の指針に従うべきである。

ビショップリックは、12歳から18歳までの青少年に聖餐会で話をするよう定期的に依頼する。青少年は割り当てられた福音のテーマに基づいて短い話（一人約5分程度）をするべきである。ビショップリックは、両親に準備を手伝うよう奨励してもよいが、青少年は自分で話を準備するべきである。

ビショップリックは通常、伝道に出発する直前と帰還した宣教師には聖餐会で話をするよう依頼する（『手引き第1部』4.8.1と4.10.3参照）。その際、ビショップリックはその集会が通常の聖餐会であって、宣教師の送別会や歓迎会ではないことを明確に伝える。これらの集会はビショップリックが計画し、司会する。宣教師の家族や友人に話を依頼しない。しかし、同時期に出発、あるいは帰還する宣教師やその他の会員に話を依頼することはできる。

ビショップリックは、ステーク会長から割り当てを受けた高等評議員の話を予定に組み入れる。この割り当ての頻度はステーク会長が決定する。高等評議員が毎月聖餐会で話をする必要はない。

ビショップリックは毎年1度、初等協会のプログラムを含む聖餐会を計画し、初等協会の子供たちはそれに参加する(11.5.4 参照)。

ビショップリックは地域内で働いている専任宣教師に、折にふれて話を依頼してもよい。

ビショップリックは、聖餐会を補助組織や外部の音楽グループに任せてはならない。しかしながら、ビショップリックの指示の下で、集会に参画するよう補助組織に依頼することは差し支えない。

ビショップリックは、聖餐会で話す割り当てを十分に前もって会員に依頼するべきである。

**プログラム参加者の指導。**ビショップリックは、聖餐会のプログラムに参加する人々を指導する。聖餐会の目的を説明し、すべての話と音楽を、聖餐の神聖さにふさわしいものとするべきであることを説明する。

教会員に話を依頼するとき、ビショップリックはその人が話すべきテーマと持ち時間を明確に説明する。ビショップリックは、話者に、福音の教義を教え、信仰を鼓舞する経験を話し、神が明らかにされた真理について証を述べ、聖文を用いるよう勧める(教義と聖約 42:12; 52:9 参照)。話者は祈りによって準備した後に、愛をもって教えるべきである。推論に基づいた話や、論争のもととなるようなテーマの話、また教会の教義に反するような話をするべきではない。

聖餐会で敬虔に礼拝する雰囲気を保つために、話者が話の一部として聖句を用いる場合は、聖典のその箇所を開くよう会衆に依頼するべきではない。

聖餐会で割り当てを受けて参加している教会員は、会が終わるまでとどまるべきである。

## 音楽

14.4.3 と 14.4.4 を参照する。

## 新会員の紹介

ワードが会員記録を受け取った場合や、改宗者がバプテスマを受けて確認された場合、ビショップリックは新しい会員を次回の聖餐会で紹介し、歓迎する。ビショップリックは各人の氏名を読み上げ、本人に立ってもらい、自分たちのワードにおける完全な会員資格を受け入れることを、挙手によって表明するよう会衆に求める。同一家族の記録は一括して読み上げる。

もし、何らかの理由で本人が完全な会員資格を得る権利がないことを知っている会員がいれば、その人は内密にビショップに伝えるべきである。

「記録上の会員」である子供がバプテスマを受けて確認された後、ビショップリックは、聖餐会でそれぞれの子供がバプテスマと確認を受けたことを発表する。これらの子供はすでに教会員であるため、ワードに受け入れるための提示は行わない。

## 視覚資料と視聴覚資料

18.4 と 21.1.5 参照。

## 特別な状況における聖餐式

すべての教会員は、聖餐を受けることによってもたらされる霊的な祝福が必要である。家や養護施設、病院を出られないため、聖餐会に出席できない教会員がいる場合、ビショップはこれらの教会員のために聖餐の準備、祝福、パスを執り行うよう神権者に割り当てを与えることができる。

時々、集会所まで遠く離れているために、聖餐会に出席できない教会員がいる。このような例外的な環境に置かれている教会員のために、ビショップは時折、集会所から離れた場所で聖餐式を執行する許可を与えることができる。ビショップは自分の管轄ワードの範囲内でのみ儀式の執行を承認できる。儀式執行の承認を受ける人はメルキゼデク神権を保持しているか、アロン神権の祭司職でなければならない。また、聖餐の祝福とパスを執り行うにふさわしい神権者でなければならない。聖餐式を指揮する神権者は執行後、ビショップに報告する。

教会員は、旅行中あるいは一時的に所属ワードを離れている間、教会のいずれかのワードまたは支部で開かれる聖餐会と日曜日のその他の集会に出席するために最善の努力を払うべきである。

家族の集まりや野外活動の一環として聖餐式を執行するべきではない。

## 18.2.3 断食証会

通常、毎月の第1日曜日の聖餐会は断食証会である。総大会やステーク大会のためにほかの日曜日に行うときもある。

この集会では、ビショップの指示の下に、聖餐の執行に先立って、子供の命名と祝福、確認の儀式を行うことができる。

聖餐が終了したら、司会を務めているビショップリックの一人は短い証を述べる。続いて、心からの証と、信仰を鼓舞する経験を述べるよう教会員に勧める。ビショップリックは多くの人が証を述べることができるように、会員に証を短くするよう勧める。

幼い子供には、親やきょうだい、その他の人の手を借りずに断食証会で証を述べられる年齢になるまでは、家庭の夕べや初等協会で証や話をするを学ばせる方がよいかもしれない。

#### 18.2.4 神権会

すべての神権者はそれぞれの定員会やグループ集会に分類する前に集まり、短い開会行事を一緒に行う。長老見込み会員やアロン神権にまだ聖任されていない若い男性も出席できる。司会はビショップリックの一人が行う。

開会行事には開会の賛美歌と祈りを含めるべきである。また、神権にかかわる業務、指導、短くまとめた発表事項、新会員や訪問者の紹介を含めてもよい。長々と発表したり、報告したりするために開会行事を利用すべきではない。各定員会の集会で福音のレッスンをを行うために最大限の時間を取っておくべきである。

ビショップは大祭司グループリーダー、長老定員会会長、祭司定員会補佐、教師定員会会長、執事定員会会長に、開会行事の間ビショップリックとともに座るように依頼してもよい。

開会行事の後、神権者は個々の業務を行い、神権の義務を学び、福音を研究するために定員会やグループの集会に分類する。ビショップリックは通常アロン神権定員会に出席するが、時折若い女性のクラスに出席する。ビショップリックは時折、この時間を使って大祭司グループと長老定員会、アロン神権の各定員会、あるいは全神権者が合同で指導を受ける機会を設けることができる。

神権会の集会時間帯に、ほかの集会を予定するべきではない。

神権定員会およびグループ集会に関する詳しい情報については 7.8 と 8.11 を参照する。

#### 18.2.5 ワード大会

ステーク会長会は年1回、各ワードでワード大会を開催する計画を立て、指示を与える。ステーク会長の指示の下、ステーク会長会、高等評議会、ステーク補助組織はワード大会の各部会に参加する。ワード大

会の目的は、信仰と証を強め、福音の教えを説き、業務を行い、活動を評価することである。

ワード大会の中心となる部会は聖餐会である。一般にこの聖餐会の内容は通常の聖餐会と同様である。集会の管理はステーク会長が行い、計画は通常ステーク会長会が立てる。通常、ビショップリックの一人が司会を務める。聖餐に先立ってステーク会長会の一人または指名された高等評議員は、(ワード書記が作成した)『役員支持』フォームを使ってワードの会員たちの賛意の表明を求めるために教会中央幹部ならびにステークとワードの役員の名を提示する。聖餐の後の話者には通常、ビショップおよびステーク会長を含める。

通常、ワード大会の一環として定例の神権会と補助組織の集会を開く。ステーク指導者はこれらの集会で指導し、支援することができる。

ワード大会に関連して、ステーク会長会はビショップリックと集会を持ち、ワードの個人や組織の状態を検討する。この集会はワード大会の日曜日または別の日に開くことができる。

#### 18.2.6 ビショップリック集会

ビショップリックは通常、少なくとも毎週集会を持つ。ワード幹部書記とワード書記が出席し、書記が割り当てや決定事項の記録をつける。ビショップは必要に応じてほかの人を招待することができる。

ビショップリックは、ワードの諸事をこの集会でともに話し合う。ビショップリックはまた、個人と家族を強める方法を計画する。定員会、補助組織、プログラム、活動を評価する。さらに、聖文、教会指導者、手引きの指示を実行する計画を立てる。

この集会でビショップリックは、ワードで奉仕するよう召す会員を特定する。また、神権の聖任を含む、儀式を受ける年齢に達した会員たちを特定する。さらに、長老または大祭司として聖任を受けるため、また伝道に出るためにステーク会長に推薦する会員たちを特定する。

この集会のためのその他の議事予定案として、割り当ての報告、集会の計画、ワードの予定の検討、ワード予算の検討などを含めることができる。

#### 18.2.7 ワード神権役員会集会

4.3 を参照する。

#### 18.2.8 ワード評議会集会

4.6 を参照する。

### 18.2.9 ビショップリック青少年委員会集会

ビショップはビショップリック青少年委員会を管理する。この委員会はビショップリック、ビショップの祭司定員会補佐の一人、教師および執事定員会会長、若い女性クラス会長、若い男性および若い女性会長で構成される。

必要に応じて、ビショップリックはほかの人に委員会の集会に出席を要請することができる。これらの人にはもう一人の祭司定員会補佐、定員会およびクラス会長会の顧問、定員会およびクラスの書記、若い男性および若い女性会長会の顧問、若い男性および若い女性の書記が含まれる。

委員会は通常月に1回開かれる。ビショップは自分で司会するか、顧問の一人、祭司定員会補佐の一人、またはローレルクラス会長に司会を依頼してもよい。各集会の前に、ビショップは司会をする予定の人とともに議事予定案を検討し、承認する。議事予定案には以下の項目を含めることができる。

1. ワード内の各青少年の必要および興味を明確にする。それらの必要を満たせるよう助けるための方法を計画する。青少年が教会の標準を擁護し、それに添った生活をするように助けるための方法を計画する。
2. セミナリーを含む教会の集会や活動に参加するよう各青少年を励ます方法を計画する。あまり活発でない青少年、最近バプテスマを受けた青少年、教会について学んでいる青少年に対するフェローシップの取り組みを計画し、報告する。
3. 特定した必要に合った青少年の活動を日程に組み、計画する。これらの活動にはアロン神権・若い女性合同活動やワードユースカンファレンスが含まれる。成人指導者はそれらの活動の計画と実行にできるかぎり青少年を参加させるべきである。
4. 過去の活動を評価し、意図したように目標が果たされたかを確認する。

これらの委員会集会は青少年を指導するとともに、彼らに指導者としての機会を提供するものとするべきである。

### 18.2.10 ワードヤングシングルアダルト委員会集会

16.3.4 を参照する。

### 18.2.11 伝道調整集会

5.1.5 を参照する。

## 18.3 ステークの集会

ステーク会長はステークの集会を監督する。地域七十人または中央幹部が出席する場合を除いて、ステーク会長はこれらの集会を管理する。ステーク会長の顧問はステークの集会を司会してもよい。また、ステーク会長が不在の場合に管理することができる。ステークの集会はワードの日曜日の集会と競合しないようにするべきである。

### 18.3.1 ステーク大会

各ステークは、十二使徒定員会会長が作成する日程に基づいて、年に2回ステーク大会を開催する。世界のほとんどの地域では、ステーク会長が1回のステーク大会を管理し、割り当てを受けた地域七十人または中央幹部がもう1回のステーク大会を管理する。

ステーク大会の日曜日の一般部に衛星放送が組み込まれることもある。この放送には中央幹部による指導が含まれる。衛星放送が使用される場合、大会は地域七十人または中央幹部が管理するステーク大会に取って代わる。

定例のステーク大会より前に新しいステーク会長を召す必要がある場合、特別なステーク大会を開くことができる。

ステーク大会のおもな目的は、信仰と証を強めることである。この目的を考慮しながらすべての話と音楽を計画するべきである。

もう一つの目的は、ステークの業務を行うことである。毎年1回のステーク大会で、ステーク会長会の一員は『役員支持』フォームを使用して、中央、地域、ステークの役員支持を得るためにその氏名を提示する。また、解任されたステーク役員の名も提示して、会衆が彼らの奉仕に感謝を表すことができるようにする。この支持は毎年最初のステーク大会で行われるが、衛星放送が組み込まれる場合は行わない。その場合の業務は2度目のステーク大会で行う。

ステーク大会とステーク大会の間にステーク役員を召しまたは解任を行った場合、教会員の賛意の表明を受けるため、または会員が感謝の意を表すため、次のステーク大会において彼らの氏名を提示するべきである。ステーク神権会 159 - 160 ページの「召しの一覧表」に挙げられている召しまたはワードの聖餐会 (19.3 に概略が述べられているもの) において氏名を提示している場合はこの限りではない。

長老および大祭司の職への聖任を推薦されている兄弟たちは、ステーキ大会またはステーキ神権会で賛意の表明を受けるために氏名を提示される。この件に関する指示は『手引き 第1部』16.7.1にある。

通常、各ステーキ大会では以下の集会が開かれる。

1. 地域七十人または中央幹部（割り当てを受けている場合）、ステーキ会長会、ステーキ書記、ステーキ幹部書記の集会。
2. 神権指導者会。以下の人々が出席する。地域七十人または中央幹部（割り当てを受けている場合）と18.3.3に挙げられている兄弟たち。この集会は管理役員の判断によって土曜日または日曜日に開くことができる。
3. すべての18歳以上のステーキ会員を対象とした土曜日の夜の部会。神殿会長、ステーキ祝福師、専任の伝道部長またはその代理が出席する場合は壇上に着席するべきである。この部会は地元状況により、管理役員の承認があれば日曜日に開いてもよい。
4. 全会員と関心のある教会員でない人を対象とした日曜日の一般部会。神殿会長、ステーキ祝福師、専任の伝道部長またはその代理が出席する場合は壇上に着席するべきである。会場の広さが十分ではなく、全員が同じ部会に着席できない場合は、日曜日の一般部会を2回以上開くことができる。初等協会の子供たちは、分級するのではなく、自分の家族とともにこの部会に出席する。

ステーキ大会の各部会の指導内容は管理役員の指示に従う。地域七十人または中央幹部が管理する場合、ステーキ会長はテーマを提案するよう管理者から求められることがある。ステーキ会長が管理する場合は、ステーキ会長とその顧問が指導のためのテーマを選ぶ。

必要な場合、ステーキ内のほかの地域に大会の各部会の模様を放送で伝えてもよい。

#### ステーキ大会の計画と実施

大会のすべての計画は管理役員が指示する。管理役員は、大会が行われる週末の前に、十分余裕をもって大会のすべての参加者と選曲を承認する。

ステーキ会長は日曜日の一般部会を司会する。会長の顧問は大会のほかの集会を司会してもよい。

ステーキ会長は日曜日の一般部会で話をする。会長の顧問は管理役員が指定する部会で話をする。

大会の計画には、十分な座席の準備、案内、駐車場の手配が含まれる。ステーキ指導者は、これらの奉仕を長老見込み会員を含む神権定員会およびグループに割り当てることができる。

#### ステーキ大会の音楽

14.6.1を参照する。

#### 18.3.2 ステーキ神権会

ステーキ会長会は年に1回、ステーキ神権会を招集する。ステーキ内のアロン神権者とメルキゼデク神権者全員が出席する。

ステーキ会長会はこの集会を使って神権者を指導し、靈感を与える。会長会はこれらの集会のためのテーマと話者を祈りの気持ちで選ぶ。

ステーキ会長会はまた、この集会で、以下のような神権にかかわるステーキの業務を行う。

1. 長老および大祭司の職への聖任を推薦されている兄弟たちの氏名を提示し、賛意の表明を求める（『手引き 第1部』16.7.1参照）。
2. 新たに召されたステーキ役員の名を提示し、賛意の表明を求める（この挙手を受けるためにだれの氏名を提示するかに関する指針については第19章の「召しの一覧表」を参照する）。

#### 18.3.3 ステーキ神権指導者会

ステーキ会長会はそれぞれのステーキ大会に関連してステーキ神権指導者会を開く（18.3.1の第2項参照）。会長会はまた、1年の中でさらに1回、合計年に3回、ステーキ神権指導者会を開く。この集会の目的は神権指導者に義務を教え、彼らの能力を増し、信仰を強めることである。

この集会に出席する兄弟たちは、ステーキ会長会、高等評議会、ステーキ書記（および必要であれば書記補佐）、ステーキ幹部書記、ステーキ若い男性会長会（および必要であれば書記）、ビショップリック、ワード書記（および必要であれば書記補佐）、ワード幹部書記、大祭司グループリーダー、補佐、および書記、長老定員会会長会および書記、ワード伝道主任、ワード若い男性会長会（および必要であれば書記とアドバイザー補佐）である。ステーキ会長は必要に応じてほかの人を招待することができる。

この集会は、最も効果的な指導を行えるよう柔軟な構成になっている。すべての兄弟が終始一緒に集うことができる。あるいは、ステーキの業務および全体指

導のために兄弟たちが集まった後、ステーク会長会は兄弟たちが自分たちの割り当てについてともに話し合い、具体的な指導を受けられるように、彼らをグループに分けてもよい。以下はその例である。

ビショップリックとその他のアロン神権指導者は一緒に集まることができる。

大祭司グループおよび長老定員会の指導者は一緒に集まることができる。

伝道担当の高等評議員またはステーク会長会の一人はワード伝道主任と集まることができる。

ステーク幹部書記は通常ワード幹部書記と集まる。

ステーク書記は通常ワード書記と集まる。

ステーク会長会はこれらのグループで指導を行うか、高等評議員やステーク若い男性会長会、その他の人々に手伝ってもらってもよい。

### 18.3.4 ステーク大祭司定員会集会

ステーク会長会は少なくとも年に1度、ステーク内の全大祭司を対象に大祭司定員会の集会を開く。ステーク会長会はこの集会では定員会の業務を行い、定員会会員にその義務を教える。

### 18.3.5 ステーク会長会集会

ステーク会長会は定期的に集会を持つ。ステーク幹部書記とステーク書記が出席し、書記が割り当てや決定事項の記録をつける。ステーク会長は必要に応じてほかの人を招待することができる。

ステーク会長会は、ステークの諸事についてこの集会でともに話し合う。また、ワード、大祭司グループ、長老定員会、補助組織、プログラム、活動を評価する。さらに、聖文、教会指導者、手引きの指示を実行する計画を立てる。

ステーク会長会はこの集会で、教会の職に召す会員を特定する。ステーク会長会はまた、伝道に出る会員や、長老または大祭司として聖任される兄弟たちに対するビショップの推薦を検討する。

この集会のためのその他の議事予定案として、割り当ての報告、集会の計画、ステークの予定の検討、ステーク予算の検討などを含めることができる。

### 18.3.6 ステーク神権役員会集会(高等評議会集会)

ステーク会長はステーク神権役員会を管理する。この役員会はステーク会長会、高等評議会、ステーク書記、ステーク幹部書記で構成される。ステーク会長は必要に応じてほかの人を招待することができる。

この役員会は可能であれば、月に2回集まる。議事予定案には以下の事項を入れることができる。

1. 教義および神権の義務についてステーク会長会から指導を受ける。
2. メルキゼデク神権、アロン神権、ワードに関する割り当てについて指導を受ける。
3. ワード、長老定員会、および大祭司グループにおける割り当てについて報告する。必要に応じてステーク補助組織についての報告も行う。
4. 兄弟を長老および大祭司の職に聖任すること、および召しを与えることについてのステーク会長会の決定を支持するよう、高等評議員に求める。
5. どのように個人と家族を強めるか、どのようにステーク内の諸問題を解決するか、また指導、ホームテイニング、会員伝道、定着、活発化、神殿・家族歴史の業、福祉、福音の教授などの各領域をどのように改善するかについて、ともに話し合う。
6. その他の割り当てについて報告する。
7. 帰還宣教師からの報告を聞く。
8. ステーク神権指導者会を計画する。

### 18.3.7 ステーク評議会集会

ステーク会長はステーク評議会を管理する。この評議会はステーク会長会、高等評議会、ステーク書記、ステーク幹部書記、ならびにステークの扶助協会、若い男性、若い女性、初等協会、日曜学校の会長で構成される。ステーク会長は必要に応じてほかの人を招待することができる。

ステーク評議会は必要に応じて年に2回から4回、集会を持つ。議事予定案には以下の事項を入れることができる。

1. 教義と義務についてステーク会長会から指導を受ける。
2. どのように個人と家族を強めるか、どのようにステーク内の諸問題を解決するか、指導、定着、活発化、福音の教授などの各領域をどのように改善するかについてともに話し合う。
3. ステーク内の伝道の取り組みや神殿・家族歴史の活動について計画し、報告する。
4. 福祉に関して話し合う。自立するよう会員をどのように励ますかについて計画を立てる。ステークの福祉資源が必要に応じて確実にワードに渡るようにする。緊急事態が起きた場合のステークとしての対

策を簡潔に書き出し、保管する。詳しい情報は『手引き 第1部』5.1.1の「ステーキ評議会の福祉活動を管理する」を参照する。

5. 必要に応じてステーキ補助組織やステーキの活動、ステーキのプログラムについて報告する。
6. ステーキプログラムや活動の計画を調整する。
7. 承認されている地域では、永代教育基金の進捗状況を確認する。

### 18.3.8 ビショップリックとの集会

ステーキ会長会はビショップリックの義務について指導し、教会の方針を確認し、ともに話し合うためにビショップリックと集会を持つ。この集会は必要に応じて年に1回から4回開く。

この集会にはステーキ会長会、すべてのビショップリック、ステーキ書記、ステーキ幹部書記が出席する。ステーキ会長が望む場合は、ビショップだけが出席する集会とすることもできる。

### 18.3.9 ステーキアロン神権・若い女性委員会集会

ステーキ会長は顧問の一人にステーキアロン神権・若い女性委員会を管理するよう割り当てる。この委員会のその他の出席者は、ステーキ若い男性と若い女性組織を担当している高等評議員、ステーキ若い男性会長および書記、ステーキ若い女性会長および書記である。ステーキ会長会は必要に応じて青少年を委員会に招待できる。また、ステーキ活動委員長を務める高等評議員などほかの人々も招待できる。

この委員会は必要に応じて集まり、ステーキ主催の若い男性と若い女性のための合同活動を計画する。ユースカンファレンスやダンス、デイボーショナル、複数ステーキ合同の行事などの活動を計画し実行する際、できるかぎり青少年を参加させるべきである。また、ステーキ内の青少年が直面している問題について話し合うときに青少年も参加できる。

ステーキの活動はワードの活動を補足するものであるべきであり、それと競合するべきではない。それらはステーキの評議会集会で調整する。ワードの指導者は十分な余裕をもってその行事について知らされるべきである。

### 18.3.10 ステーキビショップ福祉評議会集会

ステーキビショップ福祉評議会に関する情報は『手引き 第1部』5.3に述べられている。

### 18.3.11 ステーキ補助組織指導者会

ステーキ扶助協会、若い女性、初等協会、日曜学校の会長会は、年に1度ステーキ補助組織指導者集会所を計画し開く。もし地元の状況と移動時間が指導者に過度の負担をかけなければ、ステーキ会長会は同年に2度目の集会所を開くことを承認できる。ステーキ会長会が全部の集会所を同じ日時と場所で開くと決定する場合を除いて、各組織でそれぞれの集会所を計画する。

ステーキ会長会の一員が出席する場合を除いて、その組織を担当する高等評議員が集会所を管理する。すべてのワード補助組織の会長会および書記が招待される。その補助組織を担当するビショップリックの一員に加え、ワード補助組織のほかの指導者、教師、アドバイザーも必要に応じて招待できる。

この集会所の目的は補助組織指導者にその義務を教え、教授法や指導の技術について指導し、彼らの信仰を強めることである。また、活動を調整し、報告し、アイデアを分かち合うためにこの集会所を活用することもできる。

最も効果的な指導を行えるよう、これらの集会所の構成は柔軟になっている。一つの補助組織の指導者が全員一緒に集まって指導と情報交換をすることができる。あるいは組織内の具体的な働きについて検討するためにより小さなグループに分けることもできる。すべての補助組織が同時に集まる場合、初めに全体で一般指導を受けた後、各組織の指導者から指導を受けるために分級することができる。

ステーキ若い男性会長会はステーキ補助組織指導者集会所を開かない。その代わりに、ステーキおよびワードの若い男性会長会はステーキ神権会に出席する(18.3.3参照)。

### 18.3.12 ステーキヤングシングルアダルト委員会集会

16.3.2を参照する。

### 18.3.13 ステーキシングルアダルト委員会集会

16.1.2を参照する。

## 18.4 教会の集会における視覚資料および視聴覚資料

会員は聖餐会やステーキ大会で視覚資料を用いるべきでない。そのような教授法はクラスや指導者集会所で行う方が適切である。

教会の集会所で視聴覚資料を用いる際の指針については、21.1.5を参照する。



## 18.5 教会の集会での祈り

教会の集会では、男女ともに開会および閉会の祈りをささげることができる。

祈りは簡潔明瞭に、御霊に導かれるままにささげるべきである。全会員は、祈りが終わったときに「アーメン」と声に出して応じるよう勧められている。

会員は、祈りにふさわしい特別な言葉遣いをする事によって、天の御父に対して尊敬の念を表すべきである。祈りの言葉遣いは言語によって様々である。家族や特に親しい友人の間でのみ使う、私的で打ち解けた表現のある言語もある。また深い敬意を表す言葉遣いのある言語もある。しかし祈りに用いる言葉遣いの原則は同じである。会員は、その言語を話す人が、愛と尊敬、敬虔さ、親密さを連想できる言葉遣いで祈るべきである。例えば英語では、教会員は天の御父を言い表すときに、Thee (あなたを)、Thy (あなたの)、Thine (あなたの)、Thou (あなたは) などの敬意表現を用いるべきである。

ビショップリックは、夫と妻が同じ集会で祈るという決まった形を避けるようにするべきである。これは、自分は疎外されているという思わぬ印象を独身者に与えかねない。祈りを依頼されることの少ない会員には、祈りの機会が割り当てられるよう配慮するべきである。適切であれば、ビショップは祈る人に説教めいた祈りをしないように、またあまりに長い祈りをしないように注意することができる。

祈りをささげる人に、祈りの前に聖句を朗読するよう依頼するべきではない。

## 18.6 葬儀および不幸があったときに行うその他の典礼

教会指導者と会員は、不幸があったときに開く典礼が出席者全員にとって威厳のある、厳粛で霊的な経験となるよう努める。それらの典礼は通常、ビショップの指示の下に開かれる。

亡くなった人のための典礼は宗教、文化、伝統、法律上の条件など、世界各地で大きく異なる。教会員のための典礼も、世界中で多種多様である。この項では、伝統や文化を問わず、指導者が葬儀や、亡くなった会員のためのその他の典礼を行う際に従うべき一般的な原則が述べられている。さらに、死と喪にかかわる地元の伝統のうち、参加してもよいものとそうでないものを判断する際の指針も述べられている。

### 18.6.1 死と喪

死は天の御父の救いの計画で不可欠な部分である(2 ニーファイ 9:6 参照)。完全な、復活した体を受け取るためにはすべての人が死を経験しなければならない。救いの計画について、特に救い主の贖罪と復活について教え、証することは、教会員の死に伴う一連の典礼の大切な目的である。

人が亡くなると、残された人々を慰める必要が生じる。イエス・キリストの弟子として、教会の指導者と会員は「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」(モーサヤ 18:9)。

多くの文化において、遺族を慰め、亡くなった人に敬意を表すために葬儀社のサービスや故人とのビューイング(対面)、葬儀がある。文化的に適切とされている地域では、これらの典礼のほとんどは、家族の集まり、墓地における典礼、その他の威厳のある、厳粛な場で行うことができる。

多くの宗教や文化には、死や喪に関して儀礼、礼式、慣習がある。回復されたイエス・キリストの福音にはそのような儀礼や儀式はない。教会指導者は亡くなった会員のために教会で行う集会にほかの宗教や団体の儀礼を組み込むべきではない。

教会員はほかの宗教の儀礼や慣習に敬意を示すべきである。しかし、会員は戒めを守り、回復された福音の原則に従って生活する力を弱める儀礼、慣習、伝統に参加しないよう勧められている。

亡くなった人の弔いや典礼に関連して、会員は遺族に大きな負担をかけた、前進するうえで妨げとなるような、経費や時間が過度にかかる慣習や伝統を行ったりしないよう勧告されている。そのような慣習の中には、長距離移動を要する、特別な喪服を着用する、手の込んだ死亡記事を出す、遺族に金銭を贈る、葬儀において豪勢で長時間に渡る食事を開く、葬儀が終わった後にしのぶ会や記念行事を過度に行うことが含まれる。

ほとんどの国では人が亡くなったときに行う葬祭に関して規制がある。教会指導者と会員はこれらの条件を把握し、それに従うべきである。

### 18.6.2 計画と支援

会員が亡くなった場合、ビショップは遺族を慰めるために訪問し、ワードからの援助を申し出る。ビショップはその顧問に同行を求めるとよい。ビショップは親戚、友人、関係者に死去を通知する手伝いを申し出る。また、葬儀の計画、適切な死亡記事の準備、死去に関する新聞社への連絡について援助を申し出る。葬儀の前に故人とのビューイング(対面)が行われる場合、そ

の開始および終了時間を死亡記事に載せるべきである。

さらに、地元の法律と慣習に従って、遺体安置所と墓地の手配について援助を申し出る。必要であれば、ビショップは遺族の地元での交通手段の手配についてワードの援助を申し出ることができる。

ビショップは遺族に対して責任を有するメルキゼデク神権指導者と連絡を取り、その指導者をはじめとする兄弟たち（ホームティーチャーを含む）が遺族を援助できるようにする。この援助には、亡くなった男性の遺体に埋葬衣を着せる手伝い、葬儀の間の留守番、その他の支援が含まれる（7.10.2 参照）。

ビショップは扶助協会会長にも連絡を取り、会長をはじめとする姉妹たち（訪問教師を含む）が遺族を援助できるようにする。この援助には、亡くなった女性の遺体に埋葬衣を着せる手伝い、花の手配、幼い子供たちの世話、葬儀の間の留守番、食事の用意などの支援が含まれる（9.10.3 参照）。

### 18.6.3 ビューイング（慣習がある地域）

葬儀の直前に故人とのビューイング（対面）が行われる場合、ビショップは遅くとも葬儀の開始 20 分前にはビューイングを終えるようにすべきである。ビューイングが終了した後、遺族が望むのであれば、家族の祈りをささげてもよい。この祈りは葬儀の開始予定時刻までに終えて、礼拝堂に集まった参会者を待たせないようにする。ひつぎは葬儀のために礼拝堂に移動する前に閉じておく。

指導者は葬儀担当者のために、少なくともビューイングおよび葬儀の 1 時間前には集会所を開けておくべきである。

### 18.6.4 葬儀

教会員の葬儀を教会の建物で行う場合、ビショップが葬儀の司会を務める。家庭、遺体安置所、あるいは墓地で葬儀を行う場合、家族はビショップに司会を依頼することができる。ビショップが出席できない場合、一人の顧問が司会できる。

ビショップが司会を務める葬儀は、それが集会所であろうとほかの場所であろうと、教会の集会であり、宗教的な儀式である。葬儀は家族の集まりであるとともに霊的な機会である。ビショップは教会員に対して、葬儀および葬儀に関連する集まりの間は、敬虔さと威厳、厳粛さを保つよう強く促すべきである。

ビショップが葬儀を司会する場合、ビショップまたは一人の顧問は葬儀の計画を監督する。遺族の希望

を取り入れながら、葬儀が簡潔で威厳があり、救い主の贖罪と復活がもたらす慰めを含めて、福音を中心とした音楽や短い話や講話を入れるようにする。遺族に、葬儀で話をしたり、その他の形で葬儀の内容に参加したりする義務があると感じさせるべきではない。

ステーク会長会の一員、地域七十人、あるいは中央幹部が参列している場合、その役員が管理する。司会者はその役員に前もって相談し、葬儀の中で紹介する。管理役員には、もし本人が望むなら、最後の話者として話をする機会を与えるべきである。

葬儀ではビデオ映像やパソコンなどの電子機器を使用したプレゼンテーションをしない。インターネットやその他の方法での葬儀の放送もするべきではない。

葬儀は定刻に始める。参会者への礼儀として、あまり長時間にわたることのないようにすべきである。1 時間半以上に及ぶ葬儀は関係者に過度の負担をかけることになる。

葬儀は福音を教え、救いの計画について証する大切な機会となる。また、故人へ賛辞を表す機会でもある。しかし、そのような賛辞が葬儀の中心となるべきではない。大勢の人々が弔辞や思い出を語ると葬儀が長くなり、教会で行う典礼として適切でないこともある。もし遺族がそのような時間を長く取りたい場合、葬儀とは別の、親族の集まりでそれをする 것도検討できる。

通常、日曜日に葬儀は行わない。

### 18.6.5 音楽

葬儀で演奏する音楽には、前奏曲、開会の賛美歌、特別な音楽の発表、閉会の賛美歌、後奏曲が含まれる。このような行事には、簡素な賛美歌や福音のメッセージを伝えるその他の曲が最適である。開会と閉会の賛美歌は通常会衆が歌う。

### 18.6.6 埋葬または火葬

可能であれば、エンダウメントを受けた故人には神殿の衣服を着せて埋葬するべきである。文化的習慣や埋葬慣習からこれが不適切であったり、困難であったりする場合は、神殿衣を畳んで、ひつぎの中の遺体の横に置いてよい。神殿の埋葬衣と死者の服装に関する詳しい情報については 7.10.2、9.10.3 および『手引き第 1 部』3.4.9 を参照する。

可能な場合、少なくともビショップリックの一人が葬列とともに墓地へ行く。墓の奉獻を行う場合、ビショップリックの一員は遺族と相談したうえで一人のメルキゼデク神権者に 20.9 の指示に添って奉獻するよう依頼す

る。もし遺族が望むなら、奉献の祈りの代わりに墓の傍らで一般的な祈りをささげてもよい。

教会では火葬を勧めていない。しかし、エンダウメントを受けた死者の遺体が火葬される場合、可能ならば神殿衣を着せるべきである。遺骨・遺灰を保管する場所を奉献することについての詳細は 20.9 を参照する。

#### 18.6.7 金銭上の方針

教会員の葬儀であるか教会員でない人の葬儀であるかを問わず、教会員は葬儀の司会や手伝いをしたことに対して謝礼や寄付金を受け取ってはならない。

教会の断食献金基金から葬儀社に費用を支払う際、ビショップは場合によって、実費だけで立派な葬

儀を行うことができるか葬儀社に話をすることができる。

#### 18.6.8 教会員でない人のための葬儀

ビショップは、教会員でない人の葬儀のために、教会の集会所を使用することを申し出てもよい。この場合、通常は故人が属していた教会が定める方法によって行うことができる。しかしながら、ほかの教会や外部組織の典礼を教会の集会所内で行うことはできない。遺族が望むならば、葬儀が厳粛かつ適切なものであるかぎり、故人の教会の聖職者が司会をすることができる。

## ワード集会の一覧表

集会	目的	出席者	頻度
聖餐会	聖餐を受け、礼拝し、福音を教え、儀式を執行し、ワードの業務を行い、信仰と証を強める。	ワードの全教会員	毎週日曜日
断食証会	聖餐を受け、礼拝し、儀式を執行し、ワードの業務を行い、証を述べる。	ワードの全教会員	通常は毎月の第1日曜日
神権会	定員会の業務を行い、神権の義務を学び、個人や家族を強め、福音を教える。	ワードの全神権者、長老見込み会員、アロン神権の年齢で聖任を受けていないすべての若い男性	毎週日曜日
日曜日の扶助協会集会	福音を教え、信仰と義を増し加え、個人と家族を強める。	ワードの18歳以上の女性（および18歳未満の既婚女性）	毎週日曜日
扶助協会のその他の集会や活動	扶助協会の姉妹が信仰と義を増し加え、個人と家族を強め、助けの必要な人々を見つけ助けるうえで役立つ原則と技術を学び実践する。	ワードの18歳以上の女性（および18歳未満の既婚女性）	通常、日曜日および月曜日の夜以外の時間に毎月1度開かれる。四半期に1度でもよい。
若い女性	日常生活で福音の原則を応用することに重点を置いて福音を教える。	12歳から18歳までの若い女性とその指導者	毎週日曜日
初等協会	福音を教え、子供たちが自分に対する天の御父の愛を感じられるよう助ける。	1歳6か月から11歳までの子供および初等協会の役員教師	毎週日曜日
日曜学校	信仰を強め、教会員が互いに教え合うのを助ける。	12歳以上のワードの会員および日曜学校の役員教師	毎週日曜日
ワード大会	信仰と証を強め、福音を教え、業務を行い、活動を評価する。	ステーク会長会、ステーク補助組織指導者、担当高等評議員、ビショップリック、ワードの会員	年に1度
ビショップリック集会	ワードに関連するあらゆる事柄を計画し、検討し、考慮する。	ビショップリック、ワード書記、ワード幹部書記、招待されたその他の人々	通常は少なくとも週に1度

## ワード集会の一覧表(続き)

集会	目的	出席者	頻度
ワード神権役員会集会	神権にかかわる事柄を検討する。必要な場合、ワード評議会の議事予定案に載る事柄を前もって確認し、福祉に関する内密事項について話し合い、ホームティーチングおよび家庭訪問の割り当てを調整する。	ビショップリック、ワード書記、ワード幹部書記、大祭司グループリーダー、長老定員会会長、若い男性会長。必要な場合、福祉に関する内密事項を話し合ったり、ホームティーチングおよび家庭訪問の割り当てを調整したりするために扶助協会会長を招くことができる。	定期的
ワード評議会集会	個人と家族を強める方法を計画する。霊的・物質的な福利、伝道活動、定着、活発化、神殿と家族歴史活動、福音の教授と学習に関する働きを調整する。プログラムや活動を確認し、調整する。	ビショップリック、ワード書記、ワード幹部書記、大祭司グループリーダー、長老定員会会長、ワード伝道主任、ならびに扶助協会、若い男性、若い女性、初等協会、日曜学校の各会長、その他の招待された人々	定期的に（少なくとも月に1度）
ビショップリック青少年委員会集会	ワード内の青少年の必要を特定する。必要を満たし、青少年が教会の標準に従うよう助け、教会の集会と活動への参加を奨励する方法を計画する。青少年活動を計画する。	ビショップリック、ビショップの祭司定員会補佐の一人、教師定員会および執事定員会会長、若い女性クラス会長、若い男性および若い女性会長、招待されたその他の人（定員会およびクラス会長会の顧問など）	通常は月に1度
ワードヤングシングルアダルト委員会集会	ヤングシングルアダルトが奉仕や指導に参加する方法を推薦する、あまり活発でないヤングシングルアダルトを見つけ出して友情を築く。	ビショップリックの顧問、ヤングシングルアダルト担当の扶助協会および長老定員会の顧問、ヤングシングルアダルト指導者、ヤングシングルアダルトアドバイザーに召されている夫婦	必要に応じて
伝道調整集会	伝道、定着化、活発化に関する専任宣教師とワード会員の働きを調整する。	ワード伝道主任、ワード宣教師、専任宣教師（該当する地域）	定期的

## ステーク集会の一覧表

集会	目的	出席者	頻度
ステーク大会	信仰と証を強め、福音を教え、ステークの業務を行う。	中央幹部または地域七十人（割り当てられた場合）、ステーク会長会、ステークの全会員	年に2度
ステーク神権会	神権者を指導し、鼓舞し、ステークの神権にかかわる業務を行う。	ステークの全神権者、長老見込み会員、アロン神権の年齢で聖任を受けていないすべての若い男性	年に1度
ステーク神権指導者会	神権指導者に義務を教え、彼らの能力を高め、信仰を築く。	ステーク会長会、高等評議会、ステーク書記（必要に応じて書記補佐）、ステーク幹部書記、ステーク若い男性会長会（必要に応じて書記）、ビショップリック、ワード書記（必要に応じて書記補佐）、ワード幹部書記、大祭司グループリーダー、同補佐、同書記、長老定員会会長会、同書記、ワード伝道主任、ワード若い男性会長会（必要に応じて書記とアドバイザー補佐）、招待されたその他の人	年3回（2回はステーク大会の際）
ステーク大祭司定員会集会	定員会の業務を行い、定員会会員に義務を教える。	ステーク内の全大祭司（地方部では開かない）	少なくとも年に1度
ステーク会長会集会	ステークに関連するすべての事項を検討し、計画し、考慮する。	ステーク会長会、ステーク書記、ステーク幹部書記、その他の招待された人々	定期的
ステーク神権役員会集会（高等評議会集会）	指導を受け、報告を行い、業務を行い、ともに協議する。	ステーク会長会、高等評議会、ステーク書記、ステーク幹部書記、招待されたその他の人々	可能な地域では月に2度
ステーク評議会集会	指導を受け、互いに協議し、報告を行い、ステークの全プログラムと活動を調整する。	ステーク会長会、高等評議会、ステーク書記、ステーク幹部書記、ステーク扶助協会、ステーク若い男性、ステーク若い女性、ステーク初等協会、ステーク日曜学校の各会長、招待されたその他の人々	必要に応じて年に2回から4回

## ステーク集会の一覧表(続き)

集会	目的	出席者	頻度
ビショップリックとの集会	ビショップリックを指導し、方針を確認し、ともに協議する。	ステーク会長会、ビショップリック、ステーク書記、ステーク幹部書記	必要に応じて年に1回から4回
ステークアロン神権・若い女性委員会集会	ステークが主催する若い男性と若い女性の合同活動を計画する。	ステーク会長会顧問、若い男性および若い女性を担当する高等評議員、ステーク若い男性会長会、同書記、ステーク若い女性会長会、同書記、青少年、招待されたその他の人々	必要に応じて
ステークビショップ福祉評議会集会	福祉に関する指導を受ける。アイデアや経験を交換する。断食献金納入の動向、福祉関連の必要、福祉援助について検討する。支援を受ける人々のための労働の機会を確認する。地域社会の福祉援助機関を確認する。教会福祉の運営状況を評価する。福祉に関する割り当てを調整する。	ステーク内の全ビショップおよび支部会長(ステーク会長は、一人のビショップを議長に任命する)、ステーク会長(時々出席する)、必要に応じて福祉スペシャリスト	少なくとも四半期ごと
ステーク補助組織指導者会(扶助協会、若い女性、初等協会、日曜学校)	ワードの補助組織指導者にその義務を教える、教授法や指導技術を教える、彼らの信仰を強める、アイデアを分かち合う。	ステーク会長会の一員(要望がある場合)、その補助組織の担当高等評議員、ステーク補助組織会長会および書記、ワード補助組織会長会および書記、その他のワード補助組織指導者、同教師、同アドバイザー(必要に応じて)、その補助組織担当のビショップリックの一員(必要に応じて)	各組織で年に1度、またはステーク会長の承認があれば2度(18.3.11参照)
ステークヤングシングルアダルト委員会集会	ステークのヤングシングルアダルトの必要に対処する。ワードの範囲を超えて、奉仕、福音学習、交流の機会をヤングシングルアダルトに提供する。設置されているワードでは、ワードヤングシングルアダルト委員会がしっかりと機能するように図る。	ステーク会長会の顧問、ヤングシングルアダルトの担当高等評議員、ステーク扶助協会会長会の一員、ステークヤングシングルアダルトアドバイザー、ワードヤングシングルアダルト指導者(召されている場合)、ステーク内のその他のヤングシングルアダルト	必要に応じて
ステークシングルアダルト委員会集会	ステークのシングルアダルトの必要に対処する。必要に応じてワードの範囲を超えて、奉仕、福音学習、交流の機会をシングルアダルトに提供する。	ステーク会長会の顧問、高等評議会の一員、ステーク扶助協会会長会の一員、数名のシングルアダルト	必要に応じて

## 日曜日の集会スケジュール

## 計画1

70分	聖餐会				
10分	休憩				
40分	日曜学校				初等協会 (託児を含む) 詳細は11.4.1を 参照する。
10分	休憩				
50分	ワード神権会開会行事		開会行事	開会行事	
	メルキゼデク神権	アロン神権	扶助協会	若い女性	

3時間

各集会と休憩時間は、地元の状況に応じて柔軟に調整できる。

## 計画2

50分	ワード神権会開会行事		開会行事	開会行事	初等協会 (託児を含む) 詳細は11.4.1を 参照する。
	メルキゼデク神権	アロン神権	扶助協会	若い女性	
10分	休憩				
40分	日曜学校				
10分	休憩				
70分	聖餐会				

3時間

各集会と休憩時間は、地元の状況に応じて柔軟に調整できる。



**異なる言語を使用するユニットの重複スケジュール**

異なる言語を話す会員のいる二つのユニットが同一の建物を使用している場合、子供や青少年は一緒にクラスに出席する方がよいかもしれない。例えば、英語を話すワードとスペイン語を話す支部が同じ建物を使っている場合、スペイン語支部の初等協会の子供は英語ワードの初等協会に参加することができる。スペイン語支部の青少年は英語ワードの日曜学校、アロン神権、若い女性のクラスに参加することができる。

また、スペイン語支部の青少年は英語ワードとミューチャルを行うことができる。子供は英語ワードのカブスカウトや活動の日を合同で行うことができる。

この計画を実行するにはステーク会長の承認が必要である。承認を得た場合、ビショップリックと支部会長会は、各ユニットの神権指導者および補助組織

指導者と集会を持ち、計画を実行するに当たって彼らの助言と協力を求める。

また、ビショップリックと支部会長会はその組織で奉仕するために各ユニットのどの会員を召すべきか判断するために集会を持つ。指導者はアロン神権定員会および若い女性クラスの指導者の召しについても話し合う。計画を実施した後も、神権指導者は定期的に集会を持ち続け、働きを調整し、問題があればそれを解決する。

ビショップリックの一員と支部会長会の一員が代表として、ビショップリック青少年委員会集会に出席する。

この計画を実行するには、二つのユニットの集会スケジュールを次の表のように重複させる必要がある。この表ではワードが先に集会を開始するが、支部が先に始めてもよい。

ワード		支部	
聖餐会		支部はワードの80分後に開始する。	
日曜学校	初等協会	日曜学校（青少年はワードのクラスと合同）	初等協会（ワードの初等協会に参加する）
神権会 扶助協会 若い女性		神権会（若い男性はワードの定員会に参加する） 扶助協会 若い女性（ワードの若い女性に参加する）	
ワードは支部より80分早く終了。		聖餐会	

## 19. 教会の召し

19.1 召すべき人を決める	156	召しの一覧表	159
19.1.1 一般的な指針	156	ステークの召し	159
19.1.2 召しの推薦と承認	156	メルキゼデク神権の召し	161
19.1.3 ステークの召し	156	ワードにおけるアロン神権の召し	161
19.1.4 ワードの召し	156	ステーク内の支部におけるアロン神権の召し	162
19.1.5 長老定員会と大祭司グループの召し	157	ワードの召し	162
19.2 召しを伝える	157	ステーク内の支部の召し	164
19.3 教会の召しを受けた会員を支持する	157	伝道部の召し	164
19.4 役員および教師を任命する	157	地方部の召し	165
19.5 会員を教会の召しから解任する	158	伝道部内の支部における長老定員会の召し	165
19.6 ビショップを召し、聖任し、任命する	158	伝道部内の支部におけるアロン神権の召し	165
		伝道部内における支部の召し	166
		軍人会員グループの召し	166

## 19. 教会の召し

本章には、教会で奉仕する会員の召しと解任についての情報を提供する。159 - 166 ページの「召しの一覧表」には、召しの一部と、その推薦を挙げる人、推薦を承認する人、支持する人、召し、任命する人が列挙されている。表の各召しは、必要に応じて、またその召しを果たせる会員がいる場合に召す。

### 19.1 召すべき人を決める

#### 19.1.1 一般的な指針

人が教会で奉仕するには、神によって召されなければならない（信仰簡条 1:5 参照）。指導者はだれを召すべきかを決めるに当たり、御霊の導きを求める。召しを果たすうえで必要なふさわしさについて考慮する。また、会員自身やその家族の状況についても考慮する。召しを通して、会員と家族および奉仕を受ける人々が益を得られるようにするべきである。

教会の召しを受けて奉仕する際には犠牲が求められるが、そのために会員が家庭や仕事での責任を果たす能力が弱まることがないようにするべきである（17.2.1. 参照）。教会指導者は、かなりの時間が取られる責任に既婚者を召す前に、その召しが結婚生活や家族に及ぼす影響を考慮する。

可能であれば、会員が奉仕する召しは、ホームティーチャーまたは訪問教師の割り当て以外に一つだけにする。

指導者は、検討中の召しと解任に関する情報を内密にする。その会会員を監督する補助組織の会長など、知る必要のある人々だけが、賛意の表明のために名前を提示する前に知らされる。召しが検討されている本人には、召しを告げるまでそれについて知らせない。

ステーク会長が、あるいはステーク会長の指示によって召しを伝える場合、会員のふさわしさ、家族や仕事、教会での奉仕の状況について、まずビショップと相談するべきである。ステーク会長会はその後に、「召しの一覧表」に照らして、必要であれば、高等評議会に対し召しの決定を支持するよう求める。

若い男性や若い女性を教会の責任に召す場合、ビショップリックの一員は、召しを告げる前に両親または保護者から承認を得る。

教会の召しを伝える前に、指導者は必ず以下のことを確認する。（1）本人の会員記録がワードのファイル

にあることを確認し、それをビショップが慎重に検討する。あるいは、（2）会会員がふさわしく、会員記録に未解決の教会宗紀上の処置に関する注意書きや説明が記載されていないことを確認するために、ビショップがその会会員の以前のビショップと連絡を取る。

新会員にはできるだけ早い時期に、適切な召し、あるいは責任を与えるべきである。新会員の中には、バプテスマと確認を受けると同時に召しを受ける準備ができていてもいれば、召しを受ける準備段階として簡単な割り当てを受ける必要のある人もいる。新会員が子供や青少年を教える召しを受ける前には、ビショップリックの一員が面接をする。

会会員でない人を、オルガニスト、音楽指揮者、スカウト指導者の補佐などの責任に召すこともできる。しかし、教えたり、管理したりする責任や、初等協会の音楽指導者には召すべきでない。会会員でない人を幾つかの責任に召す許可は、召しを受けることができない破門された会会員には適用されない。

#### 19.1.2 召しの推薦と承認

「召しの一覧表」には、それぞれの召しを推薦できる人と承認する人が示されている。神権指導者と補助組織指導者は、ステーク会長会あるいはビショップリックに推薦を求められる場合がある。指導者は、だれを推薦するべきかについて主から導きを受けられると確信して、祈りの気持ちでこの責任に取り組むべきである。しかし、だれを召すかに関する靈感を受ける最終責任は、ステーク会長会あるいはビショップリックにあることを覚えておくべきである。

ステーク会長とビショップは、それぞれの推薦がよく祈って考慮されたことを認識したうえで、慎重に評価するべきである。必要な場合は、別の推薦を要請することができる。

#### 19.1.3 ステークの召し

ステーク会長は、「召しの一覧表」に列挙されるように、ステークのほとんどの職における会会員の奉仕の召しを監督する。

#### 19.1.4 ワードの召し

ステーク会長会は、ビショップとして召す兄弟、あるいは解任する兄弟を推薦する（19.6 参照）。また、ステーク会長会は、ビショップリック顧問、ワード書記、

ワード書記補佐、ワード幹部書記の召しを監督する。ビショップは「召しの一覧表」に列挙されているワードのその他の召しを監督する。

### 19.1.5 長老定員会と大祭司グループの召し

ステーク会長は、「召しの一覧表」に列挙されている、長老定員会会長とその顧問、また大祭司グループリーダーとその補佐の召しを監督する。

長老定員会会長と大祭司グループリーダーは、定員会またはグループの書記と教師の召しを監督する。兄弟たちをこれらの責任に召す前には、ビショップの承認が必要である。

## 19.2 召しを伝える

「召しの一覧表」には、だれが召しを伝えることができるかが示されている。必要な承認を受けた後、権限を与えられた指導者は、教会員の忠実さと召しを進んで果たす意志があるかどうかを確認するために個人面接を行う。教会員に進んで奉仕する意志があれば、指導者は召しを伝える。召される人が結婚していれば、指導者は召しを伝える際に、その伴侶を招待し、同席してもらい、支持を求めるとよい。

教会の召しを伝える指導者は、召しの目的、重要性、責任について説明する。指導者はまた、召しを果たすために主の御霊を求めよう教会員を励ます。直接の責任者の名前を伝え、指導者を支持する必要性を強調する。必要があれば、出席する必要がある集会について概要を伝え、入手可能な教会出版物について説明する。また、その召しについて特に懸念している事柄や課題となっている事柄を明らかにし、その会員に召しについて不明な点があれば尋ねるよう勧めるとよい。

指導者は召しを伝える際、召しの神聖さに調和する方法で伝えるよう配慮する。威厳をもった正式な方法で伝えるべきであり、召しを軽んじるような状況や、くだけた方法で伝えるべきではない。

### 19.3 教会の召しを受けた会員を支持する

教会のほとんどの役職に召される会員は、召しを果たし始める前に賛意の表明を得るべきである。「召しの一覧表」には賛意の表明が必要かどうか、どの集会で賛意の表明を得るべきかが明記されている。召しを監督した指導者、またはその指導者から権限を与えら

れた神権役員は、賛意の表明のために、その人の氏名を会衆に提示する。

支持を取る人は、最初に責任を解任された人を発表し、その人の働きに感謝の意を表明するよう会員に求める（言い表し方については 19.5 を参照）。

賛意の表明を求めるときにその人の氏名を提示するに当たって、権限を与えられた神権役員は、支持を受ける人に立ち上がるように言う。神権役員は次のように言うといふ。

「〔姓名〕は〔役職名〕として召されました。彼〔または彼女〕を支持するよう提議します。支持してくださる方は手を挙げてその意を表してください。〔賛意の表明をする時間を短く置く。〕反対の方があれば、その意を表してください。〔反対の人がいる場合のためにその意を表明する時間を短く置く。〕

名前を提示された人も賛意の表明に参加するべきである。複数の人を提示する場合は、通常はまとめて支持を取る。

支持を求めて提示しているときに、信頼の置ける会員が反対の表明をした場合、管理役員または割り当てを受けた他の神権役員は、集会後、反対した会員と内密に話し合う。役員は、名前を提示された人が、その役職で奉仕する資格を失うような罪を犯しているという認識の下に反対の表明がなされたのかどうかを確認する。教会員以外の人の反対の表明については考慮する必要はない。

例外として、新しく召されるステーク役員が、通常支持を受けるはずの次のステーク大会またはステーク神権会を待たずに働き始める必要がある場合、その役員はステーク内の各ワードおよび支部の聖餐会において支持を受けるべきである。このような支持は最小限にとどめるべきである。ステーク会長会の一員または高等評議員が、支持を求めて提示する。

### 19.4 役員および教師を任命する

教会のほとんどの役職に召される教会員は、召しを果たし始める前に任命を受けるべきである。「召しの一覧表」には、だれが任命を行う権能を持つかが示されている。会長はその顧問より先に任命を受ける。

管理役員の指示の下で、一人あるいはそれ以上のメルキゼデク神権者が任命に参加する。ふさわしい父親や夫もその中に加わってよい（20.1.2 参照）。これ

らの兄弟たちは任命を受ける人の頭に軽く手を置く。次いで執行する神権者は以下のように言う。

1. 任命を受ける人の姓名を呼ぶ。
2. メルキゼデク神権の権能によって執行することを告げる。
3. ステーク、ワード、定員会、大祭司グループ、クラスの該当する役職に任命する。
4. 任命を受ける人にその権限がある場合、鍵を授ける。(ステークとワードにおいてはステーク会長、ビショップ、定員会会長だけが任命時に会長会の鍵を受け。顧問、高等評議員、大祭司グループリーダー、補助組織の会長、ビショップの祭司定員会補佐、組織の教師を任命する際には、「鍵」という言葉を使うべきではない。)
5. 御霊の導きのままに祝福の言葉を添える。
6. イエス・キリストの名によって終える。

任命は、祝福を与える機会である。通常、詳細な勧告や指示は、責任に関して教えるときに与え、任命の際には与えない。

任命を公式の集会に拡大するべきではない。任命時に祈り、証、指示を行う必要はない。

### 19.5 会員を教会の召しから解任する

教会の召しの解任は靈感によって行われるべきである。ただし、召しを受けている人が転出するために解任を必要とする場合や、専任宣教師の奉仕の場合のように、召しに一定の期限がある場合は例外である。

教会の召しの解任は、召した人と同じレベルの権能を持つ人が行う。解任を告げるには、権限を与えられた指導者が解任される教会員と個々に会って、解任することを知らせ、それまでの働きに対して感謝を表す。指導者はまた、後任に引き継げるよう、解任される人が持っている現行の使用可能な資料をすべて返却するよう依頼する。解任が公表される前に解任について知らせるのは、それを知っておく必要のある人だけにとどめる。

その人を支持したのと同じ会衆が、解任の際に感謝の表明を行う。権限を与えられた神権指導者は、次のように言うといふ。

「〔姓名〕は〔役職名〕を解任されました。そこでわたしたちは彼〔または彼女〕の働きに対して、感謝の

表明をすることを提議します。感謝を表してくださる方は手を挙げてその意を表してください。」反対の表明を取る必要はない。

会長、ビショップ、または大祭司グループリーダーが解任されると、顧問または補佐は自動的に解任される。書記や教師のように、その組織のほかの役職にある人々は自動的に解任されない。

### 19.6 ビショップを召し、聖任し、任命する

ステーク会長会は、ビショップとして召す兄弟、あるいは解任する兄弟を推薦する。本件に関する指示は『ビショップ推薦状』フォームに記されている。このフォームは、教会の記録作成ソフトウェアを使用しているユニットでは、電子データで入手可能である。その他のユニットでは、管轄する管理事務所から入手できる。

ビショップとして奉仕する人を推薦するとき、ステーク会長会は、テモテへの第一の手紙第3章2節から7節に示されている原則を慎重に検討するべきである。ビショップとして奉仕する召しにだれを考慮できるかについて、ワードの会員に推薦を要請したり、あるいはワードの会員の間で調査を行ったりするのは適切ではない。

新しいビショップの面接、召し、聖任、任命を実施する前に、その推薦は大管長会の承認を受けなければならない。ステーク会長は、大管長会から書面による承認を受けた後に、ビショップに召しを伝えることができる。この承認を受け、ワードの会員の賛意の表明を受けた後に、ステーク会長はビショップを聖任し、任命することができる。ステーク会長がビショップを解任する際も、大管長会の承認が必要である。ステーク会長はこれらの責任を顧問に割り当てることはできない。

ビショップに召される人が大祭司でなければ、ステーク会長は彼がビショップに聖任される前に、確実に大祭司に聖任されるようにする。以前にビショップとして聖任されていれば、ワードのビショップとして任命するだけでよい。

大管長会はビショップとして働く人の推薦を承認した後、彼を聖任し任命する権限を、中央幹部、地域七十人、あるいはステーク会長に与える。権限を与えられた神権役員は、以下のように行う。

1. 聖任・任命を受ける人の姓名を呼ぶ。
2. メルキゼデク神権の権能によって執行することを告げる。

3. 召された人をビショップに聖任する（以前に聖任されていない場合）。
4. ワードを管理する者として、またアロン神権および祭司定員会の会長として任命する。その際、ワードのアロン神権者と若い女性に対するビショップの責任を強調する。
5. ビショップの職に付随するすべての鍵、権利、力、権能を授ける。その際、特に、イスラエルの一般判士、ワードの管理大祭司としてビショップが果たすべき義務に触れる。
6. 御霊の導きのままに祝福の言葉を添える。
7. イエス・キリストの名によって終える。

## 召しの一覧表

### ステークの召し

以下の一覧表には、ステークの召しの抜粋が列挙されている。ここに記されていない召しや奉仕の機会については、本手引きの該当する章を参照する。召しは、必要に応じて、それを果たせる会員がいる場合に召す。

職	推薦	承認	支持 <sup>1</sup>	召しと任命
ステーク会長	割り当てを受けた中央幹部または地域七十人	割り当てを受けた中央幹部または地域七十人	ステーク大会に出席する教会員	割り当てを受けた中央幹部または地域七十人
ステーク会長会顧問	ステーク会長	割り当てを受けた中央幹部もしくは地域七十人、または大管長会からの書面による通知	ステーク大会またはステーク神権会に出席する教会員	割り当てを受けた中央幹部もしくは地域七十人、または大管長会からの書面による承認を受けたステーク会長
ステーク書記	ステーク会長会	ステーク会長会および高等評議会	ステーク大会またはステーク神権会に出席する教会員	ステーク会長
ステーク書記補佐	ステーク会長会	ステーク会長会および高等評議会	ステーク大会またはステーク神権会に出席する教会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問
ステーク幹部書記	ステーク会長会	ステーク会長会および高等評議会	ステーク大会またはステーク神権会に出席する教会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問
高等評議員	ステーク会長会	ステーク会長会および高等評議会	ステーク大会またはステーク神権会に出席する教会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問

<sup>1</sup> 例外として、新しく召されるステーク役員が、通常支持を受けるはずの次回のステーク大会またはステーク神権会を待たずに働き始める必要がある場合、その役員は、ステーク内の各ワードおよび支部の聖餐会において支持を受けるべきである（19.3参照）。

ステーキの召し(続き)				
職	推薦	承認	支持 <sup>1</sup>	召しと任命
ステーキ祝福師	ステーキ会長会	十二使徒定員会	ステーキ大会またはステーキ神権会に出席する教会員	大管長会もしくは十二使徒会の一員、または十二使徒定員会から書面による承認を受けたステーキ会長
すでに聖任されているがほかのステーキへ転居したステーキ祝福師	転入先のステーキの会長会	十二使徒定員会	ステーキ大会またはステーキ神権会に出席する教会員	転入先の新しいステーキで働き始めるために聖任または任命はされない
ステーキ補助組織会長(若い男性、扶助協会、若い女性、初等協会、日曜学校)	ステーキ会長会(割り当てを受けた高等評議員と相談のうえ)	ステーキ会長会および高等評議会	ステーキ大会に出席する教会員	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問
ステーキ補助組織会長会顧問、書記、その他の補助組織指導者	ステーキ補助組織会長(割り当てを受けた高等評議員と相談のうえ)	ステーキ会長会および高等評議会	ステーキ大会に出席する教会員	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員
ステーキ総合施設代表者(高等評議員)	ステーキ会長会により割り当てられる。召し、支持、任命を受けない。			
ステーキ活動委員会委員長(高等評議員)	ステーキ会長会により割り当てられる。召し、支持、任命を受けない。			
家族歴史センターディレクターならびにディレクター補佐	ステーキ会長会	ステーキ会長会および高等評議会	ステーキ大会に出席する教会員	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員
ステーキ索引作成ディレクターおよびディレクター補佐	ステーキ会長会	ステーキ会長会および高等評議会	ステーキ大会に出席する教会員	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員
ステーキ音楽委員長	ステーキ音楽アドバイザー(高等評議員)	ステーキ会長会および高等評議会	ステーキ大会に出席する教会員	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員
ステーキ監査員	ステーキ監査委員会委員長(ステーキ会長会顧問)	ステーキ会長会および高等評議会	支持は取らない	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問 <sup>2</sup>
ステーキ福祉スペシャリスト(ステーキ雇用スペシャリストを含む)	ステーキ会長会	ステーキ会長会および高等評議会	支持は取らない	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員 <sup>2</sup>
ステーキセミナー教師およびインスティテュート教師	ビショップ(セミナーおよびインスティテュート担当の職員と相談することができる)	ステーキ会長会および高等評議会	ステーキ大会に出席する教会員	ステーキ会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員

<sup>1</sup> 例外として、新しく召されるステーキ役員が、通常支持を受けるはずの次のステーキ大会またはステーキ神権会を待たずに働き始める必要がある場合、その役員は、ステーキ内の各ワードおよび支部の聖餐会において支持を受けるべきである(19.3参照)。

<sup>2</sup> ステーキ会長は、これらの役職で奉仕する会員が任命を受けるべきかどうかを決める。

## メルキゼデク神権の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
ステーク大祭司定員会会長会 (ステーク会会長会)	159ページの「ステークの召し」の項を参照する。			
ワード大祭司グループリーダー	ステーク会長会 (ビショップと相談のうえ)	ステーク会長会および高等評議会	グループの会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問
ワード大祭司グループリーダー補佐	グループリーダー (ビショップと相談のうえ)	ステーク会長会および高等評議会	グループの会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員
長老定員会会長	ステーク会長会 (ビショップと相談のうえ)	ステーク会長会および高等評議会	定員会の会員	ステーク会長
長老定員会会長会顧問	定員会会長 (ビショップと相談のうえ)	ステーク会長会および高等評議会	定員会の会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員
大祭司グループおよび長老定員会書記、教師	グループリーダーまたは定員会会長 (ビショップおよび大祭司グループリーダー補佐あるいは長老定員会会長補佐と相談のうえ)	ビショップ	グループまたは定員会の会員	グループリーダーまたは割り当てを受けた補佐。定員会会長または割り当てを受けた顧問
ホームティーチャー	ホームティーチングは長老と大祭司の神権にかかわる責任である。したがって、これらの兄弟たちは、ビショップの指示の下に、定員会とグループの指導者からホームティーチャーとしての割り当てを受け取る。彼らは召し、支持、任命を受けない。			

## ワードにおけるアロン神権の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
祭司定員会会長 (ビショップ)	「ワードの召し」参照, 162ページ			
祭司定員会会長補佐	ビショップ (祭司定員会会長)	ビショップリック	定員会の会員	ビショップ
教師および執事定員会会長	ビショップリック	ビショップリック	定員会の会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問により召される。ビショップにより任命される。
教師ならびに執事定員会会長会顧問および定員会書記	定員会会長	ビショップリック	定員会の会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問



## ワードにおけるアロン神権の召し(続き)

職	推薦	承認	支持	召しと任命
祭司定員会アドバイザー(ワード若い男性会長)	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップ
教師および執事定員会アドバイザー(ワード若い男性会長会顧問), アドバイザー補佐, ワード若い男性書記	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問
ホームティーチャー	ホームティーチングは教師と祭司の神権にかかわる責任である。したがって、これらの兄弟たちは、ビショップリックによってホームティーチャーとして割り当てを受ける。彼らは召し、支持、任命を受けない。			

## ステーク内の支部におけるアロン神権の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
祭司定員会会長(支部会長が祭司定員会会長として働く)	ステーク会長会	ステーク会長会および高等評議会	支部の会員	ステーク会長
その他のアロン神権の召し	「ビショップ」を「支部会長」に、「ワード」を「支部」に置き換えて、161-162ページの「ワードにおけるアロン神権の召し」の項を参照する。			

## ワードの召し

以下の一覧表には、ワードの召しの一部が列挙されている。ここに記されていない召しや奉仕の機会については、本手引きの該当する章を参照する。必要に応じて、またその召しを果たせる会員がいる場合に召す。

職	推薦	承認	支持	召しと任命
ビショップ	ステーク会長会	大管長会および十二使徒定員会	ワードの会員	中央幹部もしくは地域七十人、または大管長会から書面による承認を受けたステーク会長
ビショップリック顧問	ビショップ	ステーク会長会および高等評議会	ワードの会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問
ワード書記	ビショップリック	ステーク会長会および高等評議会	ワードの会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問
ワード書記補佐	ビショップリック	ステーク会長会および高等評議会	ワードの会員	ステーク会長または割り当てを受けた顧問もしくは高等評議員

## ワードの召し(続き)

職	推薦	承認	支持	召しと任命
ワード幹部書記	ビショップリック	ステーク会長会および 高等評議会	ワードの会員	ステーク会長または割り当 てを受けた顧問もしくは高 等評議員
ワード伝道主任	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップ
ワード宣教師	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
ワード補助組織会長 (若い男性, 扶助協 会, 若い女性, 初等協 会, 日曜学校)	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップ
ワード若い男性会長会 顧問(教師および執事 定員会アドバイザー), アドバイザー補佐, ワ ード若い男性書記	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
ワード補助組織顧問 および書記(若い男性 を除く)	補助組織会長	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
ワード補助組織アドバ イザー, 教師またはイ ンストラクター, 音楽 指揮者, その他の召し (若い男性を除く)	補助組織会長会	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
扶助協会訪問教師	扶助協会の姉妹たちは, ビショップの指示の下に, 扶助協会会長会によって訪問教師として割り当て を受ける。訪問教師は, 召し, 支持, 任命を受けない。			
神殿準備セミナー教 師	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
若い女性クラス会長	ビショップリック(若 い女性会長会と相談 のうえ)	ビショップリック	クラスの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
若い女性クラス会長会 顧問およびクラス書記	クラス会長	ビショップリック	クラスの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
ワード音楽委員長	ワード音楽アドバイ ザー(ビショップリック の一員)	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問
ワード音楽指揮者, ワ ードオルガニストまた はピアニスト, ワード聖 歌隊指揮者および伴奏 者, ワード聖歌隊隊長	ワード音楽委員長	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当て を受けた顧問

## ワードの召し(続き)

職	推薦	承認	支持	召しと任命
神権会音楽指揮者ならびにピアニストまたはオルガニスト	ワード音楽アドバイザー(ビショップリックの一員)	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問
ワード図書委員	日曜学校会長	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問
ワード図書委員補佐	日曜学校会長	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問
家族歴史相談員	ビショップリック(大祭司グループリーダーと相談のうえ)	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問
ワードヤングシングルアダルト指導者	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問
ワード教会機関誌代表者	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問 <sup>1</sup>
ワード福祉スペシャリスト(ワード雇用スペシャリストを含む)	ビショップリック	ビショップリック	ワードの会員	ビショップまたは割り当てを受けた顧問 <sup>1</sup>

<sup>1</sup> ビショップは、これらの役職で奉仕するよう召される会員たちが任命されるべきかどうかを決める。

## ステーク内の支部の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
支部会長	ステーク会長会	ステーク会長会および高等評議会	支部の会員	ステーク会長
支部のその他の召し	「ビショップ」を「支部会長」に、「ワード」を「支部」に置き換えて、162-164ページの「ワードの召し」の項を参照する。			

## 伝道部の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
伝道部会長	中央幹部または地域七十人	大管長会および十二使徒定員会	支持は取らない	大管長会または十二使徒定員会の一員
伝道部会長会顧問	伝道部会長	地域会長会、または七十人会長会の一員	すべての地方部の地方部大会において追認を受ける	地域会長会もしくは七十人会長会の一員、またはその指示の下で伝道部会長
伝道部書記および伝道部幹部書記	伝道部会長	伝道部会長会	すべての地方部の地方部大会において追認を受ける	伝道部会長
伝道部補助組織会長会は勧められていない。伝道部会長は、支部補助組織会長がさらに経験を積んだ補助組織指導者からの訓練を必要としていると判断した場合、訓練を提供するために個人に割り当てを与えることができる。				

## 地方部の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
地方部会長	伝道部会長	地域会長会、または七十人会長会の一員	地方部大会に出席する教会員	伝道部会長
地方部会長会顧問	地方部会長	伝道部会長会	地方部大会または地方部神権会に出席する教会員	伝道部会長または割り当てを受けた顧問
地方部評議員および地方部書記、書記補佐、幹部書記、補助組織指導者	「ステーキ会長」を「地方部会長」に、「ステーキ」を「地方部」に置き換えて、159-160ページの「ステーキの召し」の項を参照する。			

## 伝道部内の支部における長老定員会の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
長老定員会会長	伝道部会長会または地方部会長会	伝道部会長会、または伝道部会長から権限を与えられた場合に地方部会長会	定員会の会員	伝道部会長または割り当てを受けた場合に地方部会長
長老定員会会長会顧問	定員会会長（支部会長と相談のうえ）	伝道部会長会、または伝道部会長から権限を与えられた場合に地方部会長会	定員会の会員	伝道部会長または割り当てを受けた場合に地方部会長か他の神権役員
長老定員会書記、教師	定員会会長（支部会長および定員会会長顧問と相談のうえ）	支部会長および定員会会長会	定員会の会員	定員会会長または割り当てを受けた顧問
ホームティーチャー	ホームティーチングは長老にとって神権にかかわる責任である。したがって、これらの兄弟たちは、支部会長の指示の下、長老定員会会長会からホームティーチャーとして割り当てを受ける。彼らは召し、支持、任命を受けない。			

## 伝道部内の支部におけるアロン神権の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
祭司定員会会長（支部会長が祭司定員会会長として働く）	伝道部会長会、または地方部会長会	伝道部会長会	支部の会員	伝道部会長または割り当てを受けた場合に地方部会長
その他のアロン神権の召し	「ビショップ」を「支部会長」に、「ワード」を「支部」に置き換えて、161-162ページの「ワードにおけるアロン神権の召し」の項を参照する。			

## 伝道部内における支部の召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
支部会長	伝道部会長会または 地方部会長会	伝道部会長会	支部の会員	伝道部会長または割り当 てを受けた場合に地方部 会長
支部会長会顧問	支部会長	伝道部会長会、または 伝道部会長から権限 を与えられた場合に 地方部会長会	支部の会員	伝道部会長または割り当 てを受けた場合にその顧問、 地方部会長、もしくは地方 部会長会顧問
支部書記、書記補佐、 および幹部書記	支部会長会	伝道部会長会、または 伝道部会長から権限 を与えられた場合に 地方部会長会	支部の会員	地方部会長または地方部会 長が割り当てた神権役員
支部補助組織指導者 およびその他の召し	「ビショップ」を「支部会長」に、「ワード」を「支部」に置き換えて、162-164ページの「ワードの召し」の項を参照する。			

## 軍人会員グループの召し

職	推薦	承認	支持	召しと任命
軍人会員グループリー ダー	ステーク会長会または 伝道部会長	ステーク会長会およ び高等評議会または 伝道部会長会	グループの会員	ステーク会長または伝道部 会長(可能な地域) <sup>1</sup>
軍人会員グループリー ダー補佐	グループリーダー	ステーク会長会およ び高等評議会または 伝道部会長会	グループの会員	ステーク会長もしくは伝道 部会長、またはどちらかが 割り当てた神権指導者 <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 交戦地帯または遠隔地域においては、ステーク会長や伝道部会長が軍人会員グループリーダーや補佐を召し、任命することができない場合がある。そのような状況で適用される指示が、『手引き 第1部』10.5に記されている。

## 20. 神権の儀式と祝福

20.1	一般的な指示	168	20.6.1	一般的な指針	174
20.1.1	儀式と祝福への参加	168	20.6.2	油注ぎ	174
20.1.2	儀式または祝福に参加するためのふさわしさ	168	20.6.3	油注ぎの結び固め	175
20.1.3	ほかのワードで儀式または祝福を施す	169	20.7	神権の授与と職への聖任	175
20.1.4	障がいを持つ人による儀式の執行, ならびに障がいを持つ人のための儀式の執行	169	20.7.1	聖任の執行に関する指示	175
20.1.5	儀式と祝福の翻訳	169	20.7.2	聖任の記録および証明書	175
20.1.6	儀式と祝福の執行に関する指示	169	20.8	父親の祝福ならびに慰めと助言を与えるそのほかの祝福	176
20.2	子供の命名と祝福	169	20.9	墓の奉献	176
20.2.1	一般的な指針	169	20.10	役員および教師を任命する	176
20.2.2	子供の命名と祝福に関する指示	169	20.11	家の奉献	176
20.2.3	祝福の記録と証明書	169	20.12	祝福師の祝福	177
20.3	バプテスマと確認	170	20.12.1	一般的な指針	177
20.3.1	記録上の会員である子供	170	20.12.2	祝福師の祝福を受ける	177
20.3.2	改宗者	170	20.12.3	祝福師の祝福文の複写の入手	177
20.3.3	バプテスマと確認のための面接	170			
20.3.4	バプテスマ会	170			
20.3.5	バプテスマフォント	171			
20.3.6	バプテスマの衣服	171			
20.3.7	バプテスマの証人	171			
20.3.8	バプテスマの執行に関する指示	172			
20.3.9	確認および聖霊の賜物	172			
20.3.10	確認の執行に関する指示	172			
20.3.11	バプテスマと確認の記録, および証明書	172			
20.4	聖餐	173			
20.4.1	一般的な指針	173			
20.4.2	聖餐の準備	173			
20.4.3	聖餐の祝福とパス	173			
20.4.4	出席できない会員のための聖餐	174			
20.5	油の聖別	174			
20.6	病人への癒しの祝福	174			

## 20. 神権の儀式と祝福

本章には、神権の儀式と祝福の執行に関する指示の概略が記されている。ステーク会長とビショップは『手引き 第1部』第16章に概略が記されている儀式に関する方針にも精通しておくべきである。

### 20.1 一般的な指示

儀式は、例えばバプテスマのように、神権の権能によって執行される神聖な行為である。バプテスマ、確認、メルキゼデク神権への聖任（男性の場合）、神殿のエンダウメントと神殿の結び固めの儀式は、責任能力のあるすべての人にとって昇栄のために必要なものである。これらは救いの儀式と呼ばれる。儀式を受ける人は、それぞれの救いの儀式の一部として、神と聖約を交わす。

救いの儀式を執行するには適切な鍵を持つ、あるいはそのような鍵を持つ人の指示の下で働く神権指導者の承認が必要となる。そのような承認は子供の命名と祝福、墓の奉献、祝福師の祝福の授与、聖餐の準備、祝福、およびパスを行う際にも必要となる。メルキゼデク神権者であれば、事前に神権指導者の承認を受けなくても、油を聖別し、病人への癒しの祝福を施し、父親の祝福を与え、慰めと助言を与えるそのほかの祝福を施すことができる。

儀式と祝福を施す兄弟たちは、ふさわしく生活し、聖なる御霊に導かれるよう努力することによって、自らを備えるべきである。兄弟たちは威厳をもってそれぞれの儀式または祝福を施し、その儀式と祝福が以下の要件を満たしていることを確認するべきである。

1. イエス・キリストの名によって執行する。
2. 神権の権能によって執行する。
3. 特定の言葉を使う、あるいは聖別された油を用いるなど、必要とされる手続きに従って執行する。
4. 本章で指示されているように、必要であれば正当な鍵を持つ管理役員（通常はビショップまたはステーク会長）から承認を受ける。

儀式または祝福を監督する神権指導者は、執行者が必要とされる神権の権能を持っていること、ふさわしい状態にあること、正しい手続きを知っており、それに従っていることを確認する。指導者はまた、儀式または祝福が敬虔で霊的な経験となるように配慮する。

聖餐会において儀式または祝福が行われる場合、ビショップはそれらが適正に施されるように配慮する。ビショップは、儀式または祝福の基本的な部分が間違っていたときのみ、神権者が当惑することのないように静かにそれを正す。

神権の祝福を授ける人は、祈りをささげる（「天の父なる神様、どうぞ……ように彼〔または彼女〕を祝福してください」というよりもむしろ祝福の言葉を述べる（「わたし〔またはわたしたち〕は……ようにあなたを祝福します」）。

### 20.1.1 儀式と祝福への参加

必要とされる神権を持つ、ふさわしい兄弟たちだけが、儀式または祝福を施し、あるいは執行者の輪に加わることができる。参加する人々は通常、神権指導者や近親者を含む数人、ならびにホームティーチャーなどの親しい人だけに限定される。儀式または祝福を手伝ってもらうために大勢の家族、友人、指導者などを招く習慣は勧められていない。儀式または祝福にあまりに大勢の兄弟が参加すると儀式が円滑に進められなくなり、儀式の精神が損なわれる。儀式執行者と管理者だけが必要な人たちであり、そのほかの人たちはいろいろな形で援助を提供し儀式執行者を支える。

儀式または祝福に数名の兄弟たちが参加する場合、それぞれの兄弟は右手を儀式または祝福を受ける人の頭に軽く置き（幼児を祝福する場合は幼児の背に手を添え）、左手を左側に立つ兄弟の肩に載せる。

執行者の輪に加わる兄弟の人数は限定されているが、儀式または祝福を受ける人の家族は、その場に同席するよう求められるのが通例である。

指導者は、必要とされる神権を持つふさわしい兄弟が自分の家族の儀式と祝福を施す、もしくはそのような儀式と祝福に参加するよう勧める。

### 20.1.2 儀式または祝福に参加するためのふさわしさ

教会員としての確認、メルキゼデク神権の授与、メルキゼデク神権の各職への聖任、あるいは教会で召しを受けて働くための任命を行う際に執行者を務められるのは、神殿推薦状を受けるにふさわしいメルキゼデク神権者だけである。

御霊と以下の指示に従い、ビショップとステーク会長は、神殿に参入するふさわしさを十分には備えていない神権者に、幾つかの儀式や祝福を執行させたり、その

ような儀式や祝福に参加させたりすることができるかどうか判断する。しかし、神権者に未解決の重大な罪がある場合、管理役員はそのような参加を許可するべきではない。

ビショップは、メルキゼデク神権を有する父親が神殿に参入するふさわしさを十分に備えていない場合でも、子供を命名し祝福する許可を与えることができる。ビショップは、同じような状態にある祭司またはメルキゼデク神権者である父親が、子供にバプテスマを施す、もしくは息子をアロン神権のそれぞれの職に聖任する許可を与えることができる。また、そのようなメルキゼデク神権者が、子供を教会員として確認する、息子にメルキゼデク神権を授与する、もしくは妻または子供を任命する際に、執行者の輪に立つ許可を与えることができる。しかし、執行者を務めることはできない。

### 20.1.3 ほかのワードで儀式または祝福を施す

子供の命名と祝福、バプテスマや確認、神権の職への聖任、あるいは墓の奉獻において、神権者が所属するワード以外の地域で執行者を務める場合、その神権者は有効な神殿推薦状または所属ワードのビショップリックの一員が署名した『儀式執行推薦状』フォームを管理役員に提示する。

### 20.1.4 障がいを持つ人による儀式の執行、ならびに障がいを持つ人のための儀式の執行

障がいを持つ人による儀式の執行、ならびに障がいを持つ人のための儀式の執行に関する指針は、『手引き 第1部』16.1.8と16.1.9に掲載されている。

聴覚障がいを持つ会員のための儀式の通訳に関する指針については、本手引きの21.1.26を参照する。

### 20.1.5 儀式と祝福の翻訳

儀式と祝福の翻訳に関する指針は『手引き 第1部』16.1.2に掲載されている。

### 20.1.6 儀式と祝福の執行に関する指示

儀式と祝福の執行に関する指示は、以下の出版物に掲載されている。

1. 本手引きの本章
2. 『家族ガイドブック』18-25
3. 『神権の義務と祝福 B』41-45

以上の出版物を用いて、神権指導者は兄弟たちに儀式と祝福の執行方法を教える。指導者は各神権者が『家族ガイドブック』または『神権の義務と祝福 B』

を持つように配慮する。これらの指示が掲載された出版物を、各自が1冊ずつ持つようにするためである。

指導者は、大管長会が承認したものでないかぎり、儀式、祝福、または祈りに関する指示事項を記載したその他の出版物を作成したり、使用したりするべきではない。

## 20.2 子供の命名と祝福

### 20.2.1 一般的な指針

「子供を持つキリストの教会の各会員は、教会員の前で長老たちのもとに子供たちを連れて来なければならない。そして長老たちは、イエス・キリストの名によって彼らに手を置き、その名によって彼らに祝福を授けなければならない。」(教義と聖約 20:70) この啓示に従って、メルキゼデク神権者だけが子供の命名と祝福に参加することができる。神権指導者は子供の命名と祝福を行う前に、この指示を教会員に知らせるべきである。指導者は祝福の持つ神聖さを維持すると同時に、個人や家族が当惑したり、気分を害したりしないように、あらゆる適切な努力を払うべきである。

子供の命名と祝福は通常、両親が記録上会員として登録されているワードの断食証会で行う。

### 20.2.2 子供の命名と祝福に関する指示

幼児を祝福するに当たって、メルキゼデク神権者たちは、集まって円陣を作り、幼児の背に自分たちの手を添える。成長した子供に祝福を与える場合、兄弟たちは子供の頭に軽く手を置く。祝福を与える人は、以下のように行う。

1. 天の御父に呼びかける。
2. メルキゼデク神権の権能により祝福が授けられることを宣言する。
3. 子供に命名する。
4. 御霊の導きのままに祝福の言葉を告げる。
5. イエス・キリストの名によって終える。

### 20.2.3 祝福の記録と証明書

子供が祝福を受ける前に、ワード書記は『子供の祝福の記録』を作成する。祝福の後、ワード書記はこのフォームに必要な事項が記入されていることを確認し、その指示に従って処理または配付する。また、ワード書記は祝福証明書を作成する。この証明書は、ビショップが署名し、ビショップまたはワード書記が、子供の両親または保護者に渡す。



非嫡出子の場合、会員記録と祝福証明書に記載される姓名は、出生証明書または戸籍の記載と一致しているべきである。出生証明書または戸籍が存在しない場合、地元の文化で認められている命名上の取り決めが適用される。

## 20.3 バプテスマと確認

### 20.3.1 記録上の会員である子供

記録上の会員である子供は、管理役員の指示の下で、8歳の誕生日または8歳の誕生日後できるかぎり早い時期にバプテスマと確認を受けるべきである。ここで言う記録上の会員とは、会員記録がすでに存在する子供を指す。

ビショップはワードの7歳児に特別な関心を払って、子供たちの両親、初等協会の指導者と教師、ホームティーチャーが子供たちにバプテスマと確認の準備をさせるように助ける。メルキゼデク神権指導者と扶助協会指導者も、これらの儀式のために子供たちを教え、準備させるよう両親を励ます。ビショップは子供が8歳になるとき、福音を受け入れ、バプテスマと確認を受けるためのあらゆる機会が与えられてきたことを確認する。

### 20.3.2 改宗者

改宗者は、『手引き 第1部』16.3.3「面接に関する指示」で概略が記されている資格を満たしたときにバプテスマと確認を受けるべきである。

改宗者のバプテスマとは、(1) 過去にバプテスマと確認を受けたことのない9歳以上の人、(2) 両親が二人とも教会員でない、または両親が子供と同時にバプテスマと確認を受ける8歳の子供のバプテスマを言う。

### 20.3.3 バプテスマと確認のための面接

ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、記録上の会員である8歳の子供と記録上の会員ではないが少なくとも一人の親または保護者が会員である8歳の子供のバプテスマと確認のために面接を行う。

専任宣教師は、改宗者（20.3.2で定義されている）にバプテスマと確認のための面接をする。

面接のための指示は『手引き 第1部』16.3.3に掲載されている。

### 20.3.4 バプテスマ会

バプテスマ会は、簡潔で、時間をあまりかけず、かつ霊的な集会にするべきである。通常はワードまたはス

テークの指導者が、ワードまたはステークに所属するすべての記録上の8歳児を対象とする月例のバプテスマ会を司会する。教会員は特定の時間を指定したり、会の中で個人的な時間を要求したり、バプテスマ会の内容を指定したりするべきではない。

バプテスマ会には、家族、その他の親戚、友人、神権指導者、ホームティーチャー、訪問教師、新会員を担当する補助組織の役員および教師、福音を学んでいる求道者などを招くことができる。ワードに所属するその他の会員も出席することができる。

バプテスマ会を月曜日の夕べに予定するべきではない。

#### 単一のワードで行われるバプテスマ会

記録上の8歳児を対象とするバプテスマ会。ビショップリックの一員は、単一のワードで行われる場合に、記録上の8歳児を対象とするバプテスマ会を管理する。

ビショップリックの一員は、バプテスマ会の計画を監督する。ビショップリックの一員がバプテスマ会を司会してもよいし、ワード伝道主任に司会の割り当てを与えてもよい。初等協会指導者はビショップリックの指示の下でバプテスマ会の計画を手伝うことができる。

改宗者のためのバプテスマ会。可能であれば、ビショップリックの一員は改宗者のためのバプテスマ会に毎回出席する。単一のワードで行われる場合、ステーク会長会の一員が出席していなければ、ビショップリックの一員が管理する。

ビショップリックの指示の下で、ワード伝道主任は通常、専任宣教師と協力してバプテスマ会を計画する。ビショップリックの一員またはワード伝道主任が通常、司会を務める。これらのワードの指導者が一人も出席できなければ、専任宣教師のディストリクトリーダーまたはゾーンリーダーは、伝道部会長の承認を得て、バプテスマ会を計画し、司会する。

#### 複数のワードが参加するバプテスマ会

記録上の8歳児を対象とするバプテスマ会。複数のワードが参加する場合、ステーク会長会の一員が、記録上の8歳児を対象とするバプテスマ会を管理する。しかしながら、ステーク会長会は一人の高等評議員に管理させてもよい。参加する各ワードからビショップリックの一員が出席するべきである。

ステーク会長会は一人の高等評議員に、8歳児を対象とするバプテスマ会の計画を監督し、司会をするよ

う割り当ててもよい。初等協会指導者は管理役員の指示の下でバプテスマ会の計画を手伝うことができる。

改宗者のためのバプテスマ会。複数のワードで改宗者のバプテスマ会を開く場合、通常はステーク会長会の一員が会を管理する。しかしながら、ステーク会長会は一人の高等評議員に管理させてもよい。参加する各ワードからビショップリックの一員が出席するべきである。

ステーク会長会は一人の高等評議員または一人のビショップにバプテスマ会の計画を監督し、バプテスマ会を司会する割り当てを与えてもよい。

#### 改宗者のためのバプテスマ会の日程

バプテスマ会は、求道者がバプテスマを受ける決意をしたときに実施するよう日程を組むべきである。求道者に準備ができていない場合を除いて、通常はいったん決めたバプテスマの日付を延期するべきではない。父親が神権を受けて自らバプテスマを執行することができるように、家族のバプテスマを延期するべきではない。

改宗者のためのバプテスマ会の日程については、ワード伝道主任と調整を図るべきである。日曜日にバプテスマ会を行う場合、日曜日の定例集会への妨げを最小限にとどめる時間に開くべきである。

#### バプテスマ会の要素

バプテスマ会には以下の事項が含まれる。

1. 前奏曲
2. 司会する神権指導者による簡単な歓迎
3. 開会の賛美歌と祈り
4. バプテスマや聖霊など、福音のテーマに関する一人か二人の短い話。
5. 音楽の発表
6. バプテスマの儀式の執行 (20.3.8参照)
7. バプテスマに参加した人々が乾いた衣服に着替えている間の敬虔な時間。この時間に間奏曲を演奏したり、よく知られた賛美歌および初等協会の歌を歌ったりするとよい。会員でない出席者のために専任宣教師が福音に関する短い発表を行ってもよい。

8. 確認の儀式の執行 (8歳の記録上の会員で、断食証会で確認を受けない場合のみ；20.3.9と20.3.10参照)
9. 希望があれば、新しい改宗者が証を述べる機会
10. 閉会の賛美歌と祈り
11. 後奏曲

#### 20.3.5 バプテスマフォント

宣教師は、バプテスマフォントの使用について、代表ビショップまたはステーク会長会が指名した人と調整を図る。バプテスマフォントの使用日程を取り決めるに当たっては、宣教師がバプテスマ会を週に1度、また必要な場合はそれ以上行えるように配慮する。しかしながら、宣教師は常識的でない時間帯にバプテスマフォントを使用できると考えてはならない。バプテスマフォントの使用は無料である。

バプテスマフォントに水を入れている間、信頼できる成人が立ち会う。彼らは、その後、完全に排水し、安全であることが確認されるまでその場にいる。バプテスマの儀式が終了する度に、フォントから直ちに水を抜いて、掃除する。フォントに水が張られているときは常に、適切な安全上の予防策が必要である。

フォントが使用されていない間、出入りするすべての扉は施錠しておく。

バプテスマフォントを利用できない場合、志願者を水に沈め、執行する神権者が志願者とともに水の中に立つだけの広さがあり、安全な場所であれば、水のたまっている所をバプテスマに使用できる。バプテスマを執行するために水の奉獻は行わない。

#### 20.3.6 バプテスマの衣服

バプテスマを施す人と受ける人は、水にぬれたときに透けない、白い布地の衣服を身に着ける。エンダウメントを受けている人は、バプテスマを施すときに、この衣服の下に神殿のガーメントを着用する。

地元のユニットはバプテスマの衣服を利用できるように準備しておくべきである。この衣服の使用料を請求するべきではない。この衣服は予算交付金で購入する。ビショップは会員たちに衣服の洗濯と繕いを依頼することができる。

#### 20.3.7 バプテスマの証人

二人の祭司またはメルキゼデク神権者がバプテスマの証人を務め、儀式が正しく執行されたかどうかを確

認する。バプテスマの祈りが教義と聖約第 20 章 73 節に記されているとおりに宣言されなかったり、バプテスマを受ける人の体または衣服の一部が完全に水に沈められなかったりした場合は、儀式を再度行わなければならない。

### 20.3.8 バプテスマの執行に関する指示

祭司またはメルキゼデク神権者は、管理役員の指示の下でバプテスマの儀式を執行することができる。執行者は以下のように行う。

1. バプテスマを受ける人とともに水中に立つ。
2. (執行を容易にし、安全を期すために) 左手で志願者の右手首を持つ。志願者は左手で神権者の左手首を持つ。
3. 右腕を直角に上げる。
4. 志願者の姓名を呼び、次のように言う。「わたしはイエス・キリストより権能を受けたので、御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバプテスマを施します。アーメン。」(教義と聖約 20:73)
5. (執行を容易にするために) 志願者は右手で自分の鼻をつまむ。神権者は右手を志願者の背の上部に当て、衣服を含めて志願者を完全に水中に沈める。
6. 志願者が水中から上がるのを助ける。

改宗者のバプテスマは通常ワードの神権者または志願者を教えた宣教師の一人が執行する。改宗者はほかの資格ある会員に対してバプテスマの執行を依頼してもよい。

### 20.3.9 確認および聖霊の賜物

志願者はバプテスマを受けた後、教会員に確認され聖霊の賜物を受ける(教義と聖約 20:41 参照)。志願者はバプテスマの儀式と確認の儀式の両方を受け正式に記録されて初めて教会員として見なされる(ヨハネ 3:5; 教義と聖約 33:11 参照)。

ビショップは 8 歳になる記録上の会員を確認する鍵を有する。伝道部長は改宗者を確認する鍵を有する。しかし、8 歳になる記録上の会員の確認であれ、改宗者の確認であれ、ビショップがこの儀式の執行を監督する。ビショップはバプテスマ後、速やかに確認が行われるよう配慮する。

記録上の会員である 8 歳児に対しては、バプテスマ会で、または所属ワードの聖餐会(できれば断食証会)で確認を行うことができる。

改宗者の確認は居住地域のワードにおけるいずれかの聖餐会で行われる。バプテスマ後の次の日曜日に行うことが望ましい。改宗者の確認はバプテスマ会では行わない。

確認には、少なくともビショップリックの一人が参加する。宣教師の長老が改宗者を教えてきた場合、ビショップは彼らを確認に参加するよう招くべきである。

ビショップは確認の儀式のために別途面接を行わない。

### 20.3.10 確認の執行に関する指示

ビショップリックの指示の下で、一人または複数のメルキゼデク神権者が確認に参加してもよい。彼らは確認を受ける人の頭に手を軽く置く。そして執行者は以下のように儀式を執行する。

1. 確認を受ける人の姓名を呼ぶ。
2. メルキゼデク神権の権能によって儀式が執行されていることを宣言する。
3. 末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に確認する。
4. 「聖霊を受けなさい」と言う(「聖霊の賜物を受けなさい」ではない)。
5. 御霊の導きのままに祝福の言葉を告げる。
6. イエス・キリストの名によって終える。

### 20.3.11 バプテスマと確認の記録、および証明書

ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、8 歳になる子供を面接するとき、フォームの指示に従って『バプテスマと確認の記録』に情報を記入する。バプテスマと確認の後で、ワード書記は『バプテスマと確認の記録』の情報を基に子供の会員記録を更新する。

専任宣教師は、改宗者のバプテスマ志願者を面接するとき、確認に関する情報を除くすべての情報を『バプテスマと確認の記録』に記入する。バプテスマ会のために、宣教師はこのフォームをビショップまたは顧問の一人に渡す。確認の後、ビショップまたはワード書記は確認の情報をすべて記入する。ワード書記はフォームの控えを 2 枚、専任宣教師に返す。宣教師はそのうち 1 枚を会員記録作成のために伝道本部へ送付する。

会員記録の作成または更新には、『バプテスマと確認の記録』の適切な記入および配付が不可欠である。

確認が終わったら、ワード書記はバプテスマと確認の証明書を作成する。証明書は、ビショップが署名し、ビショップまたはワード書記が新会員に渡す。

地元の法律または慣習で定められている志願者の正式名を『バプテスマと確認の記録』および証明書に記載するべきである。

## 20.4 聖餐

### 20.4.1 一般的な指針

教会員は、神を礼拝し、聖餐を受けるために安息日に集まる（教義と聖約 20：75；59：9 参照）。この神聖な儀式の間、教会員は救い主の体と血を記念するパンと水を受けて、バプテスマの聖約を新たにする（マタイ 26：26 - 28；ジョセフ・スミス訳マルコ 14：20 - 25；ルカ 22：15 - 20；3 ニーフアイ 18 章；モロナイ 6：6 参照）。

ビショップリックの指示の下で、神権者は、毎回の聖餐会において聖餐を祝福し、集まった教会員に聖餐を配る。通常はアロン神権者がこれらの義務を果たす。執事定員会会長はビショップリックの指示の下で、ほかの神権者に聖餐のパスの援助を要請する特権と責任を有している。十分な数の執事がいない場合、執事定員会会長はだれに援助を要請するかを決めるためにビショップリックの一員に相談する。

メルキゼデク神権者に依頼する前に、アロン神権の教師と祭司に聖餐のパスを依頼するのが一般的である。十分な数のアロン神権者がいる場合、メルキゼデク神権者に聖餐の祝福とパスを定期的に依頼するべきではない。

この儀式に参加する神権者は皆、主に代わって執行していることを理解するべきである。ビショップリックは、聖餐を準備し、祝福し、配るときに、救い主の贖罪について深く考えるよう神権者に奨励する。ビショップリックはまた、この儀式に参加する神権者が敬虔さと威厳のある態度を示すよう配慮する。

聖餐を祝福し、配る神権者は、慎み深い服装をし、清潔な身だしなみをするべきである。聖餐の間、衣服または装身具によって人々の注意を集めたり、人々の注意をそらしたりしないようにするべきである。しかしながら、これらに参加する神権者に必須の条件とするべきではない。服装や身なりを統一するよう求めるべきでもない。ビショップは若い男性にそのような指示を与えるに当たって、彼らの財政状態や教会における成熟度を考慮し、慎重を期すべきである。

この儀式の持つ神聖な性質から、秩序と敬虔さが維持されるように最大の関心と準備が必要である。聖餐の祝福とパスの割り当ては前もって行うべきである。

儀式に参加する神権者は集会の始まる前に敬虔な態度で席に着いているべきである。

聖餐のパスは自然で謙虚な態度で行う。また堅苦しくなく、形式にとらわれすぎることのないようにする。聖餐を配る神権者に、左腕を曲げて腰の後ろにつけるなど、特定の姿勢や行動を取るよう求めるべきではない。聖餐を配る方法自体に出席者の注目を集めたり、儀式の目的から逸脱したりするようなことがないようにするべきである。

神権者は、聖餐の準備、祝福、パスを行う前に石けんや使い捨てタオル、あるいはその他の洗剤を用いて、両手を十分に清潔にする。

重大な背罪を犯した神権者は、悔い改めてビショップのもとでその問題を解決するまで、聖餐の準備、祝福、パスに携わるべきではない。

聖餐の儀式は教会員のために執行されるが、ビショップリックは教会員だけのために配られることを発表するべきではない。また、教会員でない人が聖餐を取るのを妨げるような行為をするべきではない。

### 20.4.2 聖餐の準備

教師、祭司、メルキゼデク神権者は、聖餐を準備することができる。聖餐を準備する人は、集会が始まる前に、裂かれていないパンを載せたパン用のトレイ、新鮮な水が入ったカップを載せた水用のトレイ、テーブルクロスが所定の位置に置かれていることを確認するべきである。集会後、これらの兄弟たちはトレイとテーブルクロスを片付ける。

聖餐のテーブルクロスは白地で、透けて見えない、清潔な、アイロンのかかっているものとするべきである。聖餐のトレイは清潔に保つべきである。聖餐のトレイとカップは教会配送センターから入手できる。

### 20.4.3 聖餐の祝福とパス

祭司とメルキゼデク神権者は聖餐を祝福することができる。執事、教師、祭司、メルキゼデク神権者は、聖餐を配ることができる。

会衆が聖餐の賛美歌を歌っている間、聖餐を祝福する神権者は敬虔な態度で立ち上がり、パンのトレイを覆っている布を取り、パンを一口大に裂く。パンを裂き終えたら、着席し、賛美歌と一緒に歌う。この賛美歌に代えて独唱や楽器の演奏を行うことはできない。

賛美歌の後に、パンを祝福する人はひざまずいてパンの聖餐の祈りをささげる。聖餐の祈りは主から啓示されたものである（教義と聖約 20：77, 79；モロナイ 4－5 章参照）。ビショップは祈りの言葉がはっきりと、正確に、威厳をもって述べられていることを確認する。聖餐を祝福する人が言葉を間違えて、自ら訂正した場合は、さらに訂正する必要はない。祝福する人が間違いを正さなければ、ビショップは祈りを繰り返して正確に述べなければならないことを指摘する。その際、ビショップは本人を当惑させたり、儀式の神聖さを損なったりすることのないように注意するべきである。

祈りの後に、執事またはほかの神権者は、敬虔かつ秩序ある態度で会衆にパンを配る。管理役員が最初に聖餐を受ける。ステーキ会長会、地域七十人、あるいは中央幹部が壇上に座っている場合を除いて、ビショップ（ビショップ不在の場合は顧問の一人）が聖餐会を管理する。高等評議員は管理することも、聖餐を最初に受けることもない。

管理役員が聖餐を受けている間、聖餐を配るほかの神権者は指定された場所へ向かうことができる。

神権者は聖餐のトレイを会員に渡したら、会員たちは便宜のため、次々とトレイを手渡していくことができる。

兄弟たちはパンを配り終えたら、トレイを聖餐のテーブルに戻す。聖餐のテーブルを前にして儀式を執行する神権者は、パンのトレイに覆いをかけて、水のトレイの覆いを取る。次に、水を祝福する人はひざまずいて、祈りの言葉のうち、「ぶどう酒」を「水」に代えて、水の聖餐の祈りをささげる（教義と聖約 20：79 参照）。

祈りの後に、執事またはほかの神権者は水を会衆に配る。兄弟たちは水を配り終えたら、トレイを聖餐のテーブルに戻し、執行者がトレイに覆いをかけるのを待ち、そして敬虔な態度で自分の席に戻る。

集会の出席者は皆、聖餐の祝福とパスが行われる儀式の間、敬虔な態度でいるべきである。

祈りの間またはパスの間に、また、パスが終わった後の後奏曲として、いかなる音楽も演奏するべきではない。

#### 20.4.4 出席できない会員のための聖餐

18.2.2 の「特別な状況における聖餐式」を参照する。

### 20.5 油の聖別

病人または苦しむ人に注ぐ以前に、一人または複数のメルキゼデク神権者がオリーブ油を聖別しなければならない。ほかの油を用いてはならない。神権者は以下のようにして油を聖別する。

1. オリーブ油の容器を開けて持つ。
2. 天の御父に呼びかける。
3. メルキゼデク神権の権能によって執行することを告げる。
4. 油（容器ではない）を奉獻し、病人と苦しむ人に注ぎ、祝福するために聖別する。
5. イエス・キリストの名によって終える。

会員は聖別された油を服用したり、体の患部に塗布したりするべきではない。

### 20.6 病人への癒しの祝福

#### 20.6.1 一般的な指針

病人や苦しむ人に癒しの祝福を施せるのは、メルキゼデク神権者だけである。通常、二人以上のメルキゼデク神権者が病人への癒しの祝福を施すが、必要であれば油注ぎと結び固めを一人で行うこともできる。聖別された油を持っていない場合は、油注ぎを行わずに、神権の権能によって祝福を与えるといふ。

メルキゼデク神権を持つ父親は通常、病気の家族に癒しの祝福を施すべきである。

兄弟たちは、その信仰に応じて祝福がもたらされるよう、病人本人か、病人に重大な関心を寄せている人の要請によって癒しの祝福を施すべきである（教義と聖約 24：13－14；42：43－44, 48－52 参照）。メルキゼデク神権者は病院を訪れる際に、病人に癒しの祝福を施す機会を自分から求めるべきではない。

同じ病気に対して 2 度以上の祝福を求められた場合、神権者は 2 度目以降については油を注ぐ必要はない。その代わりに、按手して、神権の権能によって祝福を与える。

病人への癒しの祝福は、油注ぎと油注ぎの結び固めの二つの部分に分けて執行される。

#### 20.6.2 油注ぎ

油注ぎは、一人のメルキゼデク神権者が以下のように執行する。

1. 聖別された油を 1 滴、儀式を受ける人の頭に注ぐ。

2. 儀式を受ける人の頭に両手を軽く置き、その人の姓名を呼ぶ。
3. メルキゼデク神権の権能によって執行することを告げる。
4. 病人または苦しむ人に注ぎ、祝福を与えるために聖別された油を注いでいることを宣言する。
5. イエス・キリストの名によって終える。

### 20.6.3 油注ぎの結び固め

通常、二人以上のメルキゼデク神権者が、儀式を受ける人の頭に軽く手を置く。油注ぎを結び固めるメルキゼデク神権者は、以下のように行う。

1. 儀式を受ける人の姓名を呼ぶ。
2. メルキゼデク神権の権能によって油注ぎを結び固めていることを宣言する。
3. 御霊の導きのままに祝福の言葉を告げる。
4. イエス・キリストの名によって終える。

## 20.7 神権の授与と職への聖任

ステーク会長は、メルキゼデク神権の授与ならびに長老および大祭司の職への聖任を監督する。しかしながら、これらの聖任を推薦するために最初の手続きを取るのは通常、ビショップである。賛意の表明を得るために、これらの兄弟たちを推薦し、面接し、その氏名を提示する際の指示については、『手引き 第1部』16.7.1に概略が述べられている。

ビショップはアロン神権の授与と、執事、教師、祭司の職への聖任を監督する。ふさわしい兄弟たちが以下の最低年齢に達したときに、聖任するべきである。

執事 — 12 歳

教師 — 14 歳

祭司 — 16 歳

これらの兄弟たちを面接し、賛意を得るためにその氏名を提示する際の指示については、『手引き 第1部』16.7.2に概略が述べられている。

### 20.7.1 聖任の執行に関する指示

必要な面接と承認が完了したら、以下のことを行う。

1. ステーク会長（またはステーク会長の指示を受けた人）は、候補者を長老の職に聖任できる。またはほかのメルキゼデク神権者に対して、そうするための

権限を与えることができる。聖任の輪に加わることができるのはメルキゼデク神権者だけである。

2. ステーク会長（またはステーク会長の指示を受けた人）は、候補者を大祭司の職に聖任できる。またはほかの大祭司に対して、そうするための権限を与えることができる。聖任の輪に加わることができるのは大祭司だけである。
3. ビショップ（またはビショップの指示を受けた顧問）は、候補者を執事、教師、または祭司の職に聖任できる。執行者を務める、あるいは聖任の輪に加わることができるのは祭司およびメルキゼデク神権者だけである。

聖任に参加する人は、(1) 祭司またはメルキゼデク神権者でなければならない。また、(2) 儀式の中で授けられる神権の権能と同等または上位の神権の権能を有していなければならない。例えば、大祭司を聖任する場合や、ある人が大祭司であることを条件とする職に任命される場合に、長老はその輪に加わることができない。

神権の聖任を行うには、権限を受けた一人または複数の神権者が神権を受ける人の頭に軽く手を置く。そして、聖任を行う神権者は以下のようにする。

1. 聖任を受ける人の姓名を呼ぶ。
2. 聖任が行われる権能（アロン神権またはメルキゼデク神権）を宣言する。
3. 以前に授与されていなければ、アロン神権またはメルキゼデク神権を授与する。
4. アロン神権またはメルキゼデク神権の職に聖任し、その職に付随する権利、力、権能を授ける。（神権を授ける際、またはこれらの職の一つに聖任する際に、神権の鍵は授けられない）。
5. 御霊の導きのままに祝福の言葉を告げる。
6. イエス・キリストの名によって終える。

聖任は祝福を与える機会である。詳しい勧告や指示は通常、その人が聖任されるときではなく、義務について教えを受けるときに与えられる。

聖任は拡大して公式な集会とするべきではない。ある人が聖任される際に祈りをささげたり、証を述べたり、指示を与えたりする必要はない。

### 20.7.2 聖任の記録および証明書

メルキゼデク神権への聖任後、ステーク書記は『メルキゼデク神権の聖任の記録』に必要事項が記入されて

いることを確認し、フォームの指示に従ってこれを提出する。また、ステーク書記またはワード書記は聖任の証明書を作成し、ステーク会長がこれに署名する。ステークの神権指導者、例えば、高等評議員も、ステーク会長を代表する割り当てを受ければ、聖任の証明書に署名することができる。神権指導者または書記が、聖任を受けた会員に、この署名済みの証明書を渡す。

アロン神権への聖任後、ワード書記は『アロン神権の聖任の記録』に必要事項が記入されていることを確認し、フォームの指示に従ってこれを処理または提出する。ワード書記は聖任の証明書も作成する。ビショップがこの証明書に署名し、ビショップまたはワード書記が、聖任を受けた会員にこの証明書を渡す。

地元の法律または慣習で規定されたとおりに、聖任を受けた人の正式名を聖任の記録ならびに聖任の証明書に記載するべきである。

## 20.8 父親の祝福ならびに慰めと助言を与えるそのほかの祝福

父親の祝福ならびに神権のそのほかの祝福は、指示と慰めを与えるために、御霊に導かれるままに施す。

メルキゼデク神権を持つ父親は、子供たちに父親の祝福を与えることができる。これらの祝福は、子供たちが学校に入学するとき、伝道に出るとき、結婚するとき、軍務に就くとき、特別な問題に直面しているときなどに大きな助けとなる。家族は家族の記録として父親の祝福を記録してもよいが、教会の記録には保存されない。両親は、必要な場合に父親の祝福を求めよう子供たちに奨励するべきである。

メルキゼデク神権者は、家族ならびにその他祝福を求めの人に慰めと助言を与える祝福を施すことができる。

父親の祝福ならびに慰めと助言を与えるそのほかの祝福を施すには、一人または複数のメルキゼデク神権者が祝福を受ける人の頭に軽く両手を置く。そして、祝福を与える神権者は以下のように行う。

1. 祝福を受ける人の姓名を呼ぶ。
2. メルキゼデク神権の権能により祝福が授けられることを宣言する。
3. 御霊の導きのままに祝福の言葉を告げる。
4. イエス・キリストの名によって終える。

## 20.9 墓の奉獻

墓を奉獻する人は、メルキゼデク神権を持ち、その儀式を管理する神権役員承認を受けて行わなければならない。墓を奉獻するには、以下のように行う。

1. 天の御父に呼びかける。
2. メルキゼデク神権の権能によって執行することを告げる。
3. 埋葬地を遺体の休息の地として奉獻し、聖別する。
4. その地が復活まで神聖にされ、守られるように祈る(適切な場合)。
5. 家族に慰めが与えられるように主に願い、御霊の導きのままに思いを述べる。
6. イエス・キリストの名によって終える。

家族が希望するならば、奉獻の祈りでなく、墓の傍らで一般的な祈りをささげてもよい。

教会員の遺体を火葬にする場合、遺骨・遺灰の保管場所を奉獻するかどうかは、管理役員の判断に任せられる。管理役員は家族の希望、地元の慣習および法律を考慮する。保管場所を奉獻する場合、管理役員として召されている神権者は墓の奉獻に関する指示を実状に合わせて変更することができる。

## 20.10 役員および教師を任命する

19.4 を参照する。

## 20.11 家の奉獻

教会員は自分の家を、聖なる御霊の宿る神聖な場所として、また、家族が礼拝し、世から離れて安らぎを得、霊的に成長し、永遠の家族関係に備える神聖な建物として奉獻できる。奉獻するうえで、家屋の債務の支払いを終えている必要はない。家屋は教会の建物と異なり、主に聖別することはしない。

メルキゼデク神権者は神権の力によって家を奉獻することができる。家族にメルキゼデク神権者がいない場合は、近い親戚やホームティーチャーその他のメルキゼデク神権者に家の奉獻を依頼することができる。あるいは家族が集まって祈りをささげることもできる。祈りの中では、前述の事項をはじめとして、御霊の導きままにそのほかの言葉を付け加える。

## 20.12 祝福師の祝福

### 20.12.1 一般的な指針

バプテスマを受けたふさわしい教会員は皆、主からの靈感あふれる指示が与えられる祝福師の祝福を受ける権利があり、また受けるべきである。教会の指導者と両親は会員に対して、祝福師の祝福を受けるために霊的な備えをするよう奨励する。

ビショップまたは割り当てを受けた顧問は、祝福師の祝福を受けたいと望んでいる会員を面接する。教会員がふさわしければ、面接者は『祝福師の祝福への推薦状』を発行して署名する。

ステーク会長とビショップは、祝福師の祝福に関するその他の情報が必要であれば、以下の資料を参照するとよい。

『手引き 第1部』16.12

『祝福師への情報と提案』

『世界指導者訓練集会——祝福師』

### 20.12.2 祝福師の祝福を受ける

教会員は祈りの気持ちを込めて、日曜日の服装で祝福師のもとへ行く。断食してもよいが、要求されているわけではない。

祝福師の祝福は、神聖かつ内密を要する個人的なものである。したがって、他人が同席することなしに授けられるものであるが、例外として、限られた人数の家族がその場に立ち会うことはできる。

教会員は自分の祝福文を他人の祝福文と比較したり、近親以外の人に見せたりするべきではない。また、祝福師の祝福は教会の集会やほかの公の集まりで読み上げてはならない。

祝福師の祝福に血統の宣言が含まれていない場合、祝福師は後日、追加の祝福を授けて血統を宣言することができる。

### 20.12.3 祝福師の祝福文の複写の入手

祝福師の祝福を受けた人は、受け取った控えを注意して保管するべきである。しかし、失くしたり、棄損したりした場合は、祝福師が自分のバインダーに原本を保管していれば祝福師から複写を入手することができる。原本が教会本部に送付されていれば、以下に連絡して複写を入手することができる。

Patriarchal Blessings

15 East North Temple Street

Salt Lake City UT 84150 - 1600

電話：1 - 801 - 240 - 3581

祝福師の祝福の複写を申請する人は、祝福を受けた人の姓名、(入手できるならば) 会員記録番号および生年月日を連絡する。可能であれば、祝福師の氏名と祝福が授けられたおおよその日付を書き添えるべきである。





## 21. 教会の方針と指針の抜粋

21.1 管理運営に関する方針	180	21.2.7 月曜日の夜	193
21.1.1 事故の予防と対応	180	21.2.8 宿泊または宿泊を要するキャンプ	193
21.1.2 活動に関する方針	180	21.2.9 駐車場	193
21.1.3 養子と生みの親	180	21.2.10 礼拝堂における写真撮影、ビデオ撮影、放映	193
21.1.4 養子縁組と里親としての世話	180	21.2.11 台所	193
21.1.5 視聴覚資料	180	21.2.12 保管	193
21.1.6 中央幹部と地域七十人のサインと写真	180	21.3 医療および健康に関する方針	193
21.1.7 聖書	180	21.3.1 遺体解剖	193
21.1.8 モルモン書	181	21.3.2 火葬	193
21.1.9 教会機関誌	181	21.3.3 安楽死	193
21.1.10 教会の名称とロゴタイプ	181	21.3.4 HIVの感染とエイズ	193
21.1.11 コンピューター機器	181	21.3.5 催眠術	194
21.1.12 著作権表示のある資料	182	21.3.6 治療法および健康法	194
21.1.13 教科課程の資料	183	21.3.7 臓器および組織の提供と移植	194
21.1.14 独身会員にデートあるいは交際を仲介する業者	183	21.3.8 延命措置	194
21.1.15 住所録	183	21.3.9 自己認識運動グループ	194
21.1.16 会員の移民	184	21.3.10 死産児(出生前に死亡した子供)	194
21.1.17 断食日	184	21.3.11 知恵の言葉	195
21.1.18 資金獲得活動	184	21.4 道徳上の問題に関する方針	195
21.1.19 ギャンブルと富くじ	184	21.4.1 墮胎	195
21.1.20 話者または講師の招待	184	21.4.2 虐待および苦痛を与える行為	195
21.1.21 所得税	184	21.4.3 人工授精	195
21.1.22 インターネット	184	21.4.4 産児制限	195
21.1.23 国の法律	185	21.4.5 純潔と貞節	195
21.1.24 教会本部と会員との連絡	185	21.4.6 同性愛行為と同性に感じる魅力	195
21.1.25 教会員の仕事、職業、および所属組織	186	21.4.7 体外受精	196
21.1.26 障がいのある会員	186	21.4.8 オカルトとのかかわり	196
21.1.27 他の宗教	189	21.4.9 ポルノグラフィー	196
21.1.28 宿泊を伴う活動	189	21.4.10 同性との結婚	196
21.1.29 政治活動および公民活動	189	21.4.11 性教育	196
21.1.30 郵便法	189	21.4.12 親になろうとしている独身者	196
21.1.31 会員のプライバシー	189	21.4.13 精子の提供	197
21.1.32 私的な出版物	189	21.4.14 自殺	197
21.1.33 中央幹部および地域七十人の話または説教の録音や録画	189	21.4.15 不妊手術(精管切除術を含む)	197
21.1.34 教会と教会員の呼称	189	21.4.16 代理出産	197
21.1.35 教会における調査活動	190		
21.1.36 販売員	190		
21.1.37 衛星放送およびビデオ機器	190		
21.1.38 資金提供の要請	190		
21.1.39 教会指導者の言葉であるとする声明	190		
21.1.40 討論会ならびにそれに類する集会	191		
21.1.41 課税対象となる活動	191		
21.1.42 神殿衣とガーメント	191		
21.1.43 移動に関する方針	191		
21.2 教会の建物とその他の資産の使用に関する方針	191		
21.2.1 絵画	192		
21.2.2 装飾	192		
21.2.3 緊急事態	192		
21.2.4 小型銃器	192		
21.2.5 火とろうそく	192		
21.2.6 旗	193		

## 21. 教会の方針と指針の抜粋

以下の方針のほとんどは、『手引き 第1部』の「教会の方針」および「施設」の章からの抜粋である。これらの指針および教会のその他の方針に関する質問は、ビショップに問い合わせるべきである。

本章は4つの部から成っており、それぞれの部では副題が50音順に並べられている。

1. 管理運営に関する方針
2. 教会の建物とその他の資産の使用に関する方針
3. 医療および健康に関する方針
4. 道徳上の問題に関する方針

### 21.1 管理運営に関する方針

#### 21.1.1 事故の予防と対応

13.6.20を参照する。

#### 21.1.2 活動に関する方針

13.6を参照する。

#### 21.1.3 養子と生みの親

養子と生みの親の間の情報交換や連絡に関する問い合わせには、よく気をつけて対処するべきである。関係者全員の法的権利と感情的な要求を考慮するべきである。

#### 21.1.4 養子縁組と里親としての世話

養子を迎えたい会員、あるいは里親として世話をしたい会員は、関係する国（および政府機関）の法律上の要件をすべて厳密に満たすべきである。これらの会員は、資格のある、認可された機関を通じて手続きをするように奨励されている。

#### 21.1.5 視聴覚資料

会員は、次のような条件の下で、CD、DVD、コンピュータープレゼンテーションなどの視聴覚資料を教会の集会で使用することができる。

1. 聖餐会やステーク大会の一般部会で使用してはならない（ただし、ピアノやオルガンがない場合、または伴奏者がいない場合、適切な伴奏曲の録音を使用することはできる）。
2. 著作権によってこのような使用が禁止されている場合は、使用してはならない（21.1.12参照）。

3. 教会の集会に適さない要素を含む場合は、使用してはならない。

これらの基準を満たす視聴覚資料は、それが集会において重要な役割を持つ場合、聖餐会やステーク大会の一般部会以外の集会において礼拝堂で使用することができる。

### 21.1.6 中央幹部と地域七十人のサインと写真

教会員は、聖典や賛美歌集やプログラムへのサインも含めて、中央幹部や地域七十人にサインを求めべきではない。サインを求めることは、彼らの神聖な召しから注意をそらすとともに、集会の雰囲気や損なうものである。また、彼らがほかの会員とあいさつを交わすのを妨げることにもなりかねない。

会員は、礼拝堂内で中央幹部や地域七十人の写真を撮るべきではない。

### 21.1.7 聖書

英語を話す会員は、欽定訳聖書の末日聖徒版を使用すべきである。この版には、「項目別ガイド」（Topical Guide）、脚注、ジョセフ・スミス訳の抜粋、ならびに聖書中の他の聖句やモルモン書、教義と聖約、および高価な真珠との相互参照、またその他の研究資料が付いている。欽定訳聖書よりもほかの訳文の聖書の方が読みやすい場合があるとしても、教義の面において、末日の啓示は英語で出版されているほかの訳文よりも欽定訳を支持している。

スペイン語を話す会員は、レイナ・バレラ聖書の末日聖徒版を使用すべきである。この版には、英語の末日聖徒版と同様の研究資料が付いている。

英語以外のそのほかの多くの言語について、教会は、教会の集会とクラスで使用するための末日聖徒版以外の聖書を承認している。会員はその版の聖書を使用すべきである。

聖書の翻訳の正確さを検討する最も確かな方法は、様々な訳文を比較検討することではなく、モルモン書ならびに近代の啓示と照らし合わせることである。

聖書の承認された版は、教会配送センターから入手できる。末日聖徒版の電子テキストと録音も、[scriptures.lds.org](http://scriptures.lds.org) [一部の言語]から利用できる。

### 21.1.8 モルモン書

教会は、モルモン書を理解しやすい英語あるいは現代英語に書き直すことを認めていない。大管長会は次のような声明を発表している。

「神聖な原文を別の言語に翻訳したり、理解しやすい言語に書き直したりする場合に、この過程において教義上の誤りをもたらしたり、古代におけるその起源についての証拠をあいまいにしたりするという大きな危険性が生じます。これらの危険を未然に防ぐため、大管長会ならびに十二使徒評議会は、聖典を英語からほかの言語に翻訳する作業を直接厳密に監督しており、モルモン書の教義的な内容を、理解しやすい英語あるいは現代英語で表現することを承認していません。（この声明は、教会が子供向けに出版している書物には適用されない。）」(Ensign, 1993年4月号, 74)

### 21.1.9 教会機関誌

大管長会は、教会機関誌を読むように教会員に絶えず勧めてきた。地元の指導者は、家庭に教会機関誌を備えるように教会員に奨励するべきである。これらの機関誌には、末日の預言者たちを通して与えられる主の導きが記されている。教会機関誌は、救い主を信じる信仰を強め、個人の問題に対する靈感による指導を与えるものである。

ステーク会長およびビショップは、教会機関誌の購読促進活動を調整するように幹部書記に割り当てを与えることができる(『手引き 第1部』13.3.4および13.4.4参照)。ビショップリックは、ワード教会機関誌代表者を召し、また補佐するよう他の人を指名することもできる。ワード教会機関誌代表者が召されている場合、彼は教会機関誌キャンペーンを計画し指導するのを助け、会員が予約を開始あるいは更新するのを助け、また教会機関誌を予約することの利点を教会員に教える。

会員は、教会配送センターを通じて教会機関誌を予約することができる。地域によっては、教会機関誌のウェブページ上の予約フォームに記入して予約できる所もある。

### 21.1.10 教会の名称とロゴタイプ

教会の名称とロゴタイプは、明確に教会を他と区別させるのに役立つものである。それらは公式に登録され、世界的に法的に保護されている。それらは、次の指針に従って使用するべきである。

次の条件をすべて満たしている場合、地元のユニットは教会の名称(ロゴタイプではない)を印刷物や掲示物に使用することができる。

1. 名称を使用して実施する活動または行事が正式に教会のユニットにより主催される(例えば、聖餐会のプログラム)。
2. 教会の名称とともに地元の教会ユニットの名称が使用される(例えば、末日聖徒イエス・キリスト教会キャニオンビューワード)。
3. 名称の書体が正式のロゴタイプを模写あるいは似せて作成したものではない。

教会の公式ロゴタイプ(本手引きの表紙参照)は、教会本部のコーリレーション部によって承認された項目のためにのみ使用しなければならない。下記はその例である。

1. 公式の教会出版物および便せん。
2. 宣教師の名札。
3. 集会所外部の表示板。

ロゴタイプを装飾素材として、あるいはコンピューターのスクリーンセーバーとして使用してはならない。ロゴタイプを、家族歴史の書籍、Tシャツ、バッジ、横断幕など、私的、商業目的、または事業促進を目的に使用してはならない。不明な点は下記に問い合わせることができる。

Intellectual Property Office  
50 East North Temple Street, Room 1888  
Salt Lake City, UT 84150-0018  
電話: 1-801-240-3959 または  
1-800-453-3860, 内線 2-3959  
ファックス: 1-801-240-1187  
電子メール:  
cor-intellectualproperty@ldschurch.org

### 21.1.11 コンピューター機器

教会の管理評議会の承認を得て、一部の教会ユニットには、記録の作成と家族歴史などを目的としてコンピューターが導入されている。ステーク会長は、ステークにおけるコンピューターの設置と利用を監督する。教会のコンピューターの導入と管理に関する指針は、教会本部または管轄する管理事務所から入手できる。これらの指針には、ハードウェアとソフトウェア、寄贈されたコンピューター、インターネット接続、修理、コンピューターの廃棄、盗難、破損、セキュリティ、会員の使用などについての情報が記載されている。

必要であれば、ステーク会長は、会員が家族歴史プログラムを使用するために、ワードとステークのコンピューターを利用できるように手配する。ワードとステークのコンピューターをその他の私的な目的で利用することは認められていない。

コンピューター上の内密情報を保護するために、指導者および書記は、教会記録作成システムのパスワード機能を使用すべきである。内密情報の保護に関する追加の指示については、『手引き 第1部』13.8 および 13.9 を参照する。

コンピューターは、ビショップリックと書記が会員の毎週の献金を人の目に触れないで処理できる場所に設置すべきである（訳注——日本では直接献金制度が導入されているため、毎週献金を教会で処理するということはない）。

コンピューターソフトウェアのコピーに関する規定については、21.1.12を参照する。

### 21.1.12 著作権表示のある資料

創作品とその許可使用を規定する法律は、国によって異なっている。本項に概説されている教会の方針は、大部分の国で適用できる国際条約と一致している。分かりやすくするため、本項では、創作者の権利を「著作権」と呼ぶことにする。しかしながら、これらの権利の一部は、国によっては別の呼称で呼ばれていることがある。

著作権とは、著作者の有形のオリジナル作品に関して著作者に与えられる、法律による保護を指す。次のものが含まれる。

1. 文芸作品、音楽作品、脚本、舞踊作品。
2. 絵画、写真、彫刻作品。
3. 視聴覚作品（映画、ビデオ、CD、DVDなど）。
4. コンピュータープログラム、またはゲーム。
5. インターネットやその他のデータベース。

教会員は著作権法をすべて厳密に守るべきである。通常は、作品の複製（複写）、配付、公演、展示、派生品を承認できるのは、著作権所有者だけである。著作権所有者の承認を受けずにこれらのいずれの方法であろうと作品を使用すると、それは教会の方針に反しており、また教会や使用者を法的に不利な立場に置く可能性がある。

作品を使用する人は、作品が著作権によって保護されていることを考慮に入れるべきである。出版物には通常、「©1959 山田太郎」というような著作権の表示がある（音響録音の場合はⓂが用いられる）。しかしながら、法的な保護を受けるのに、著作権の表示は必要がない。同様に、絶版となった出版物であってもその著作権が無効となるわけではなく、許可なく複製、配付、公演、展示、派生作品の制作をすることが容認されるわけではない。

教会の知的財産事務所（IPO）は、著作権のある教会資料やプログラムの使用を申請する手続きを支援する。その中には、Intellectual Reserve, Inc. (IRI) が著作権を所有している資料も含まれる。IRI は、教会が使用する知的財産を所有している独立した非営利団体である。教会が所有している資料の使用申請に関する追加の情報は、LDS.org 上の「Rights and Use Information」（権利と使用に関する情報）のリンク [英語] から見ることができる。

次の質問と回答は、会員が教会や家庭で著作権のある資料を使用する際に、著作権法を理解し、守るための助けとなるであろう。これらの指針から回答を得られない質問がある会員は、下記に問い合わせることができる。

Intellectual Property Office  
50 East North Temple Street, Room 1888  
Salt Lake City, UT 84150-0018  
電話: 1-801-240-3959 または  
1-800-453-3860, 内線 2-3959  
ファックス: 1-801-240-1187  
電子メール:  
cor-intellectualproperty@ldschurch.org

「教会機関誌の絵や写真を複写してもいいですか。」  
教会出版物の絵や写真は、一般に、営利目的でなく教会、家庭、家族による使用のために複写することができる。しかしながら、営利目的のためには、IPO の書面による特別の許可がなければ複写することはできない。複写を禁じている絵や写真には、「複写は禁じられています」などの言葉が絵や写真の著作権表示に記載されている。

「出版されている教会の資料を複写してもいいですか。」  
教会出版物は、一般に、営利目的でなく教会、家庭、家族による使用のために複写することができる。IPO の書面による特別の許可がなければ教会資料を営利目的に使用することはできない。

「楽譜をコピーしてもいいですか。」  
楽譜には特有の著作権法が適用される。賛美歌または歌に著作権制限が特に記載されていなければ、営利目的でなく教会、家庭、家族が使用するために、『賛美歌』『子供の歌集』、教会機関誌から楽譜をコピーすることはできる。印刷された楽譜や録音された音楽を著作権所有者から承認を得ないで複写・複製することは、教会の方針に反する。この方針に反して複写・複製した楽譜や音楽は、教会のために使用してはならない。

「教会制作の視聴覚資料を作り変えたり、コピーしたり、分割したりしてもいいですか。」  
IPO からそ

のような使用の承認を特別に得ていないかぎり、それを行ってはならない。教会制作の視聴覚資料は、その資料の指示書やパッケージに記載されている指示に従って使用するべきである。

「*教会が所有していない資料をコピーしてもいいですか。*」一般的には、行ってはならない。著作権法は、個人が所有する資料の使用も規制している。通常、一般の人が教会外の資料をコピーする前に従わなければならない条件を示す制限事項がある。通常、このような制限は出版物の巻頭近くに記されている。会員は著作権法のすべてを厳密に守るべきである。

「*市販の視聴覚作品を教会の集会で上映してもいいですか。*」一般的には、上映してはならない。会員は、市販の視聴覚作品に記載されている注意書きと制限に違反するべきではない。市販の視聴覚作品を教会の集会で使用する場合、一般的には、著作権所有者の許可が必要である。

「*教会で使うために、コンピューターのソフトウェアやその他のプログラムをダウンロードしたり、コピーしたりしてもいいですか。*」一般的には、行ってはならない。コンピューターのプログラムやその他のソフトウェアは、すべてのライセンスを適正に購入したものでなければ、コピーやダウンロードしてはならない。例外として、教会家族歴史プログラムは、無料でダウンロードすることができる。

「*教会のウェブサイトで見つけた資料をダウンロードしたり、配付したりしてもいいですか。*」教会は幾つかのウェブサイトを開設している。LDS.org, Mormon.org, FamilySearch.orgなどがそれである。教会所有のウェブサイトにある資料はすべて、映像、テキスト、アイコン、ディスプレイ、データベース、ならびに一般情報を含めて、特に表示がなければ、営利目的でなく教会、家庭、家族が使用するためであれば、閲覧、ダウンロード、印刷することができる。これらのサイトの資料を、IPOの許可なしに、他のウェブサイトやコンピューターネットワークに掲示、転写、あるいは配信してはならない。

教会所有のサイトとサイト上の情報は、情報提供者の名前や住所も含め、商品やサービスの販売・販売促進、顧客勧誘、その他の営利目的のために使用してはならない。

追加の情報については、各ウェブサイトの権利と使用に関する情報を参照する。

「*音楽を公開で演奏したり演劇作品を上演したりするには、どのような許可が必要ですか。*」教会また

はIRIが所有する作品は、教会本部の許可がなくても教会の集会で演奏や上演をすることができる。著作権で保護された作品を教会が所有していない場合、教会員は、作品の全体であっても一部であっても、教会の集会で演奏や上演をするためには、著作権所有者の許可を得なければならない。通常、著作権所有者は、たとえ演奏や上演が無料で行われる場合であっても、報酬または特許権使用料を要求する。すべての演奏や上演には地元の神権指導者の承認が必要である。

### 21.1.13 教科課程の資料

教会は、会員がイエス・キリストの福音を学び、それに従って生活するのに助けとなる聖典や手引き、書籍、その他の資料を入手できるようにしている。

神権指導者と補助組織指導者は、家庭や教会で使用するために聖典とその他の教科課程の資料を入手するように会員に勧める。

指導者は、教師が定員会やクラスのレッスンで教会の承認した資料を使っていることを確認する。『教科課程に関する指示』には、日曜学校のクラスを組織する方法と、レッスンで使用する資料に関する情報が記されている。

### 21.1.14 独身会員にデートあるいは交際を仲介する業者

デートや交際を仲介する業者がしばしば、教会の独身会員を勧誘することがある。教会の集会所、クラス、あるいはプログラムを、デートや交際を仲介する業者とその営業活動を含め、民間企業の事業促進のために使用することはできない。教会のグループの名簿や会員に関するそのほかの情報を、このような業者に開示するべきではない。

### 21.1.15 住所録

ステーキとワードの住所録は、次の指示に従って公表することができる。

氏名、住所、電話番号は、一般の電話帳に掲載されている場合にかぎり、住所録に掲載することができる。電話帳に掲載されていない場合は、会員の許可が必要である。電子メールアドレスも、会員の許可がある場合のみ掲載できる。

住所録の作成費用は、ステーキまたはワードの予算基金から支払う。住所録には広告を掲載してはならない。

指導者は、住所録をステーキまたはワードの管轄区域外に配付してはならない。また、営利目的や政治目的に利用するのを許可してはならない。

個々の住所録の冒頭に、教会の用途のみに使用し、ビショップまたはステーク会長の許可なしに複写すべきではないことを明記するべきである。

#### 21.1.16 会員の移民

一般的に、会員は自国にとどまって、教会を築き、強めるように奨励されている。世界中のどの地域でも、教会活動に参加し、福音の祝福を受けて分かち合う機会は著しく増大している。会員が自国にとどまって、その地で教会を築くように努めるときに、大いなる祝福が会員個人と教会にもたらされるであろう。世界各地のステークとワードは強くなり、福音の祝福を、さらにより多くの天の御父の子供たちとともに分かち合うことができるであろう。

過去の事例によると、移民した人は、言語、文化、また経済的な障害に出遭い、その結果失望し、個人も家族も苦難を負うことが往々にしてある。

宣教師は、自分の親や親族、そのほかの人々に、他国への移民を希望する会員の保証人になるように要請してはならない。

他国に移民する会員は、該当する法令を遵守するべきである。

会員は、学生ビザや観光ビザでアメリカ合衆国またはそのほかの国を訪れる際、入国後に職を見つけることや永住ビザを得ることを期待するべきではない。

どの国においても教会職員として雇用の検討を受けするには、その人は、移民と帰化に関連する法令の要件をすべて満たしていなければならない。教会は、教会職員として雇用することで移民の保証人となることはない。

#### 21.1.17 断食日

断食日を正しく守るということには、24時間の中の連続した2回の食事の食べ物と飲み物を断つこと、断食証会に出席すること、また援助を必要とする人々を助けるために惜しみなく断食献金を納めることが含まれる。

#### 21.1.18 資金獲得活動

13.6.8を参照する。

#### 21.1.19 ギャンブルと富くじ

教会は、公営の富くじを含むあらゆる形のギャンブルに反対する。

#### 21.1.20 話者または講師の招待

ほとんどの教会の集会での話者および講師は、地元のワードまたはステークに属する人であるべきである。

補助組織の集会を含むワードのいかなる集会であっても、話者または講師を招待するには、事前にビショップの承認が必要である。ステークの集会において同様の招待をするには、ステーク会長の承認が必要である。

ビショップまたはステーク会長は、招待する話者または講師について、また彼らの話や講習のテーマについて慎重に調べるべきである。これには、その人のビショップと連絡を取ることが含まれる。ビショップまたはステーク会長は、次のことを確認する。

1. 話や講習の内容が教会の教義と一致している。
2. 話者または講師は、報酬を受けない、参加者を勧誘しない、また商品購入や仕事の依頼を要請しない。
3. 話者または講師の交通費を、地元ユニットの予算基金、または私的な寄付金から支給しない。
4. 話や講習の内容が、教会の施設を使用する際の指針に添ったものである(21.2参照)。

#### 21.1.21 所得税

教会員は、信仰簡条第12条にのっとり、居住する国の税法に従うことを義務づけられている(教義と聖約134:5も参照)。税法に異議のある会員は、新たな法律の制定や法律改正を通じて税法の変更を求めることができる。反対意見に十分な法的根拠がある会員は、税法への異議を法廷に申し立てることができる。

必要な納税申告をすることや、支払うべき所得税を支払うこと、または納税に関する法廷の最終判決に従うことを拒否する教会員は、法律に真っ向から対立するものであり、教会の教義に反する。このような会員は、神殿推薦状の発行を差し控えられることがあり得、教会における重要な職に召されるべきではない。税法を意図的に破る会員は、状況により教会宗紀の対象となる。

#### 21.1.22 インターネット

慎重に使用するなら、インターネットは、教会の働きを調整し、信仰を強め、他の人々の必要を満たすのに役立てることができる。しかしながら、可能であれば、会員は、電子手段による連絡を個人的に接触する機会に代えることのないようにするべきである。

#### 公式の教会インターネットリソース

教会は、広く一般に使用できるように幾つかの公式ウェブサイトとその他のインターネットリソースを提供している。これらのサイトと情報源は、教会ロゴの使用あるいはその他の方法により、公式のものであること

が明確に示されている。これらはまた、法律上の要件と、教会の知的財産およびプライバシーに関する方針に従っている。

ステーキおよびワードのウェブサイトは、公式の教会インターネットリソースを使用することによってのみ作成することができる。ステーキおよびワードは、その他のウェブサイトやブログを作成すること、あるいはそのほかインターネット上に「教会後援」「教会主催」の表示を出すことは認められていない。

ステーキおよびワードのウェブサイトは、地元ユニット内の調整と連絡を容易にすることができる。これらのウェブサイトには、ニュースや発表、予定表、指導者と会員の住所録、施設スケジュールを載せることができる。ステーキあるいはワードのウェブサイトを作成したら、所期の目的を達するためにそれを定期的に維持するべきである。

ステーキあるいはワードのウェブサイトを作成するために公式の教会リソースを使用する承認を申請する場合、ステーキ会長は、教会本部の次の事務所に連絡する。

Member and Statistical Records Division  
Attn: Local Unit Internet Resources  
50 East North Temple Street, Room 1320  
Salt Lake City, UT 84150-0013  
電話: 1-801-240-3500 または  
1-800-453-3860, 内線 2-3500  
電子メール: msrmail@ldsmail.net

ステーキとワードのウェブサイトに関する追加の指針は、LDS.org上の「LDS Site Development Guide」(LDS サイト作成ガイド) [英語]を検索して見ることができる。

時には、複数のステーキを対象にしたプロジェクト、特別行事、ヤングシングルアダルトの活動と組織など、他の目的のために公式の教会ウェブサイトが承認されることがある。このようなウェブサイトの承認を求めるために、その組織の神権指導者は、七十人会長会の一員または地域会長会にその目的と必要性を述べた申請書を提出する。

神殿、伝道部、ならびに訪問者センターは、ウェブサイトを作成することを認められない。

#### 教会の召しにおける会員のインターネットの利用

個々の会員は、教会の召しにおいてウェブサイトやブログを作成することができる。あるいは、その他の適切なインターネットリソースを使用することができる。その際、「これは末日聖徒イエス・キリスト教会の公式ウェブサイトではありません」というような断り書きを入

れなければならない。会員はまた、次の指針に従うべきである。

1. 教会ロゴは、使用も模倣もできない。
2. ウェブサイトに責任を持つ会員の名前と連絡先情報を含めるべきである。
3. 会員は、教会がそのウェブサイトあるいは活動を後援あるいは推奨していると述べたり、その含みを持たせたりしてはならない。
4. 教会所有の絵画、楽譜、あるいはその他の資料は、公式の教会ウェブサイトの「Rights and Use Information」(権利と使用に関する情報) ページでその使用について明確な承認が与えられないかぎり、あるいは教会の知的財産権事務所から承認を得ていないかぎり、ウェブサイトなどに再掲示してはならない。
5. 他の個人の写真や個人情報、その人の同意がないかぎり載せてはならない。

#### 個人のインターネットの使用

会員は、いつでも、またインターネットを含めてどんな場所でも、信仰の模範となるように勧められている。ブログ、ソーシャルネットワーク、その他のインターネット技術を使用する場合、他の人々を強めるように、また便利で、有益で、賞賛に値するものについて人々に気づかせるように奨励されている。適切なきに、会員は、教会のことを述べ、また承認された教会の資料にリンクし、それを分かち合うように奨励されている。

会員は、教会の召し以外の目的でインターネットを使用する場合、自分が伝えるメッセージは個人的なものであることを理解しておくべきである。自分が教会を代表しているという印象、あるいは教会の後援を受けているという印象を与えるべきではない。

追加の支援と指針は、LDS.org上の「Internet Usage Helps for Members」(会員のためのインターネット使用に関する支援) [英語]を検索して見ることができる。

#### 21.1.23 国の法律

会員は、自分が居住している国や旅行先の国の法律に従い、それを尊び、支持するべきである(教義と聖約 58:21-22; 信仰箇条 1:12 参照)。これには、伝道を禁じる法律も含まれる。

#### 21.1.24 教会本部と会員との連絡

教員は、教義の問題や個人的な事柄で、中央幹部に電話をかけたり手紙を書いたりすることは控える。



教会員数のかつてない増加に伴い、中央幹部がこのような問い合わせに直接に返答することはほとんど不可能であり、また中央幹部に託されている義務を遂行する妨げとなる。中央幹部は、教会員を愛しており、教会員が必要な支援も導きも得られないと感じることがないように願っている。しかしながら、すべてのことは賢明に秩序正しく行う必要がある。

主は御自分の教会を組織して、すべての会員が、霊的な助言者およびこの世の事柄に関する相談役として奉仕するビショップや支部会長、ステーク会長、地方部会長、伝道部会長と親しく接することができるようにしておられる。これらの召しに基づき、これらの地元の指導者は、識別の霊と靈感を受ける資格が与えられており、管轄区域内の会員に助言を与えることができる。

霊的な導きを必要としている会員、重大な個人的問題を抱えている会員、あるいは教義上の疑問を抱いている会員は、自分自身で解決策と答えを見いだすために、熱烈な祈りと聖文の研究を含め一生懸命に努力すべきである。教会員は、個人の生活や家族の責任、教会の責任について助けを得るために、聖霊の導きを求めるように勧められている。

会員は、それでもなお助けが必要であれば、まずビショップに相談するべきである。必要であれば、ビショップはステーク会長に問い合わせることができる。

ほとんどの場合、中央幹部にあてた会員からの手紙は、地元の指導者に差し戻される。教義上の事柄やその他の教会に関する事柄について説明の必要なステーク会長は、会員に代わって大管長会に手紙を書くことができる。

### 21.1.25 教会員の仕事、職業、および所属組織

教会に加入するためのバプテスマ、神権の聖任、ならびに神殿推薦状の発行は、その人の地元の神権指導者により行われる入念な面接によって証明された各個人のふさわしさに基づいて執り行われる。教会員は、良心に恥じることなく主の祝福を求めることができる活動や職業、また福音の原則と救い主の教えに調和している活動や職業に携わるように努めるべきである。

### 21.1.26 障がいのある会員

教会員は救い主の模範に従って、障がいを持つ人々に希望を与え、彼らを理解し愛するよう奨励されている。神権指導者と補助組織の指導者は、障がいを持つ人々と知り合い、心からの関心と思いやりを示すべきである。

また、神権指導者および補助組織の指導者は、障がいのある親や子、きょうだいがいるために、特別な助け

や配慮を必要とする可能性のある会員がいないかどうかも見極める。障がいを持つ人が家族にいる場合、その世話をすることは家族にとって信仰を築く精練の過程となり得る。しかし、それは同時に財政的な問題、夫婦間の問題、および家族のチャレンジをもたらす可能性もある。

神権指導者および補助組織の指導者は、障がいのある会員で、家族から離れてグループホームなどの施設に住んでいる人がいないかどうか調べる。

### 障がいへの認識と理解を増す

指導者や教師、その他の会員はその人の障がいと、それに付随する可能性がある必要事項について理解するよう努めるべきである。本人やその家族と話をすることによって、理解を深めることができる。また、教会の指導者の話や教会機関誌の記事を読んだり、[disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) でオンラインの資料を読んだりすることもできる。

### 援助を与える

神権指導者および補助組織の指導者は、障がいを持つ人およびその世話をする人の必要を検討する。これを行う指導者は、適切であればワードまたはステークの援助手段をどのように使って必要を満たすことができるか判断する。指導者は、愛と友情をもって援助を与え、手を差し伸べるよう会員に奨励する。ビショップリックまたはステーク会長会は、ワードまたはステークの障がい者スペシャリストを召して、個人や家族を支援することができる。

また、指導者は、障がいを持つ人やその家族の助けとなる地域のリソース（援助手段や情報）があるかどうか確認することもできる。

障がいを持つ人の援助に関してその他の情報が必要な場合、指導者や会員は [disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) にアクセスするとよい。指導者は、LDS ファミリーサービス（設置されている場合）に問い合わせることもできる。

指導者や会員は、障がいというチャレンジがなぜその家族に与えられているかを説明しようと試みるべきではない。障がいがあることが神からの罰であると示唆するようなことは決してするべきではない（ヨハネ 9：2-3 参照）。また、障がいを持つ子供を持つことは祝福であると示唆するべきでもない。

### 儀式を施す

精神的な障がいを持つ人に対して儀式を執行するかどうかを検討する場合、神権指導者は『手引き 第一部』16.1.8 にある指針に従う。

奉仕し、参加する機会を与える

障がいのある会員の多くは、ほとんどすべての教会の割り当てを行うことができる。神権指導者や補助組織の指導者は、各人の能力と望みについて祈りをもって考慮し、そのうえでふさわしい奉仕の機会を与える。指導者は本人の家族と協議し、教会の召しが本人または家族、世話をしている人に与える影響を考慮するべきである。

障がいを持つ人の世話をしている人に教会の割り当てまたは召しを与えることを検討する場合、指導者は本人とその家族の状況を慎重に考慮する。

指導者や教師は、障がいのある会員をできるかぎりすべての集会やクラス、活動に参加させるべきである。レッスンや話、教授法は各人の必要に合わせたものに調整するべきである。レッスンの調整に関する詳しい情報は [disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) を参照する。

ビショップリックは、クラスでその人を助ける教師補佐を召してもよい。また、ビショップリックは集会または活動でその人を助けるようだれかに依頼することもできる。

その人が集会やクラス、活動に参加できない場合、指導者と教師はその人の必要を満たすためにどうしたらよいのか家族と相談するとよい。ステーキ会長またはビショップは、障がいのある会員のための特別なクラスまたはプログラムの組織を承認することができる（下記の「特別クラスまたは特別プログラム、特別ユニットを組織する」を参照）。教会に出席できない人のためには、資料を印刷したり、レッスンや話を録音したりして届けてもよい。

神権指導者は、適切な場合には、神権を持つ男性に儀式に携わるよう奨励する。すでにバプテスマと確認を受けていてふさわしい12歳以上の神権者および女性は、神殿において死者のためにバプテスマや確認の儀式を受けることができる。障がいのある会員が自身の神殿儀式を受けることに関する指針は『手引き 第1部』3.3.3に記載されている。

特別クラスまたは特別プログラム、特別ユニットを組織する

障がいや特別な問題を抱えた会員に対しては、教会のプログラムが組み込まれている養護施設に住んでいる場合を除き、所属ワードにおいて日曜日の集会に出席することを奨励する。

ワード、複数のワード、ステーキ、または複数のステーキの中に同様の障がいのある会員がいる場合、教会指導者は彼らのために特別なミューチャルまたは初等協

会の特別なクラスもしくはプログラムを組織することができる。また、教会指導者は特別日曜学校クラスその他のクラスを組織することもできる。これらのクラスまたはプログラムは、その人の所属ワードのプログラムを補足するものがある。

複数のステーキを対象とした特別クラスまたは特別プログラムを組織するには、七十人会長会または地域会長会の一員の承認が必要となる。これらの指導者は代表ステーキ会長を任命し、クラスまたはプログラムの組織およびそれ以後の運営を、指定された期間、監督させる。

複数のワードを対象とした特別クラスまたは特別プログラムを組織するには、ステーキ会長会の承認が必要となる。ステーキ会長は代表ビショップを任命し、クラスまたはプログラムの組織およびそれ以後の運営を、指定された期間、監督させる。

代表ステーキ会長または代表ビショップは、参加しているほかのステーキのステーキ会長またはほかのワードのビショップと協議して、これらのクラスまたはプログラムのための財政的な支援について方針を定める。交通手段の手配については両親または世話をしている人の責任とする。

複数のステーキを対象とするクラスまたはプログラムを組織する場合、参加している各ステーキの会長は一人の高等評議員を任命して、参加希望者の登録、指導者および教師の提供、代表ステーキ会長により定められた財政方針の管理運営についての調整を支援させることができる。

特別クラスまたは特別プログラムにおいて働く会員は、代表ステーキ会長または代表ビショップによって、あるいは彼らの指示の下で召され、任命される。これらの指導者は、通常の教会の手順に従って召しの任命と解任を行う。特別クラスまたは特別プログラムの指導者と教師は、会員の活動や達成の情報を所属ワードの指導者に伝える。それらの記録は所属ワードにおいて保存し、表彰は所属ワードで行うことができる。

代表ステーキ会長または代表ビショップから招かれれば、特別クラスまたは特別プログラムの指導者はステーキまたはワードの指導者会に出席することができる。また、クラスまたはプログラムの活動を計画するために、自分たちの集会を開いてもよい。

指導者は、教会教育システムに設置することのできる、障がいのある会員のためのクラスについて知るために、宗教教育セミナー・インスティテュートの教育長に問い合わせることができる。

ろう者または聴覚障がいのある会員のためのワードまたは支部を創設することができる。または、ワードが主体となって、指定された地域に住む、聴覚障がい者のグループを組織することができる。これを行うワードや支部、グループは、聴覚障がいのある会員が奉仕や福音の学習に十分参加できるよう助ける。このようなユニットを組織する際の指示については、『手引き 第一部』9.1.4 および 9.1.10 に記載されている。

手話を使う会員とその家族は、次のいずれかのユニットに教会員記録を置くことができる。(1)所属ワード(2)聴覚障がいのある会員を招待するよう指定されたワード(3)聴覚障がいのある会員のために組織されたワードまたは支部。

### 聴覚障がいのある会員のための通訳

聴覚障がいのある会員は、福音の原則や教義を学ぶ際に意思疎通の障壁に直面する。手話を用いる人が、教会の集会や神権の儀式、神殿活動、証を述べること、面接、活動に十分に参加するには通訳者を必要とする。

聴覚障がいのある会員に対しては、自立をし、必要とする通訳サービスの調整について自分から神権指導者に働きかけるように勧める。個人面接や教会宗紀評議会など内密事項を扱う状況の準備段階で、神権指導者は通訳者を用いるかどうかを決定するために本人と話し合う。このような場合、指導者は(可能であれば)本人の家族以外の通訳を探し、内密事項を口外しないよう念を押すべきである。

十分な通訳者がいない場合、地元の指導者はその地域で用いる手話を教えるクラスをワードまたはステークで組織することができる。指導者は、ふさわしい会員を召して手話クラスを教えてもらうことができる。このクラスの教師としては、聴覚障がい者であって、日常言語として手話を用いている会員が最初に考慮されるべきである。役に立つ資料としては、*Dictionary of Sign Language Terms for The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints* (末日聖徒イエス・キリスト教会のための手話用語辞典)がある(訳注——日本では、日本語手話用に『手話用語辞典』〔35099 300〕が発行されている)。

聖餐会、神権会、および面接では、ふさわしい会員のみが通訳を行う。神権会で通訳する神権者が見つからない場合、管理役員は女性に通訳を依頼することができる。会員たちが通訳技術を伸ばすまでは、活動やほとんどのその他の集会において教会員でない通訳者をボランティアとして一時的に起用してもよい。

聴覚障がいを持つ人が儀式または祝福を受ける場合、管理役員はその儀式または祝福の言葉の通訳を神

権者に依頼することができる。神権者が見つからない場合、管理役員は女性に通訳を依頼することができる。

クラスまたは集会において、通訳者は教室や礼拝堂の前にいるようにするべきであるが、壇上にいるべきではない。また、通訳者は話者の横にるようにして、視覚的に人々の気を散らすことのないようにも配慮するべきである。話者の口や意思・感情を伝える身ぶりを見ることによって理解が高められるので、聴覚障がいのある会員は通訳者が見えるとともに、話者や教師も視界に入る位置に着席するべきである。十分な人数の通訳者がいる場合は、疲労を避けるため、指導者は約30分ごとに交代するよう通訳者に要請する。

神権の儀式や面接の際、通訳者は儀式執行者や面接を行っている人のすぐそばに在るべきである。

手話を用いない聴覚障がいのある会員が読唇を助ける通訳者を必要とする場合は、指導者は手話を用いる通訳者を見つけるのと同じ手順に従う。

### プライバシー

指導者は個人の必要について話し合う指導者会の中中やその後では、障がいのある会員のプライバシーを尊重するべきである。

### 資料

障がいのある会員およびその家族、その世話をしている人、指導者や教師のための資料は [disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) に掲載されている。このウェブサイトには、以下の事柄が記されている。

1. 障がいを持つ人が直面している問題について理解を深めるのに役立つ情報。
2. 具体的な障がいの項目と、よくある質問に対する答え。
3. 障がいのある会員やその家族にとって慰めとなるような聖句や引用、有益な情報へのリンク。
4. 障がいのある会員がイエス・キリストの福音に従って生活し、教会で奉仕するために役立つ資料のリスト。

障がいのある会員のための資料は *Church Materials Catalog* および [disabilities.lds.org](http://disabilities.lds.org) に記載されている。

障がいのある会員のための資料については以下に問い合わせることができる。

Members with Disabilities  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, UT 84150-0024

電話: 1-801-240-2477

電子メール: specialcurriculum@ldschurch.org

### 21.1.27 他の宗教

他の多くの宗教には、精神を鼓舞し、気高く、最高の尊敬を集めるのにふさわしい要素が数多く見られる。宣教師ならびにその他の会員は、ほかの人々の信条に対して慎重な配慮と尊敬の念を持ち、また彼らの感情を害することのないようにしなければならない。キリスト教以外の宗教との間でどのような関係を維持すべきかについて質問があるステーク会長および伝道部会長は、七十人会長会の一員または地域会長会に問い合わせるべきである。このような質問があるその他の地域の指導者は、ステーク会長または伝道部会長に問い合わせるべきである。

### 21.1.28 宿泊を伴う活動

13.6.12 および21.2.8を参照する。

### 21.1.29 政治活動および公民活動

教会員は、市民として、自分が選ぶ政党に関与することを含め、政治または行政に参加するように勧められている。また会員は、地域社会を改善し、生活と家族の養育のための健全な場所とするために、ふさわしい目的を掲げた活動に積極的に参加するように勧められている。

会員は、それぞれの政府の法律に従って、有権者登録（訳注——日本には該当しない）をし、論点や候補者を慎重に検討し、また誠実に正しい判断力をもって行動すると思われる人に投票するように勧められている。末日聖徒には、正直で、善良で、賢明な指導者を探し求め、投票し、支援する特別な義務がある（教義と聖約 98:10 参照）。

教会は、政治問題および社会問題に関する表現の自由を肯定しながらも、政党、政策綱領、公職への立候補者に関して中立の立場を取っている。教会は、いかなる政党や立候補者も後援しない。また会員に投票の助言も行わない。しかしながら、例外的な事例において、教会は、特定の法律の制定に関しては、特にそれが道徳的な問題に関係する場合、教会の立場を表明する。特定の法律の制定を支援するように、または反対するように、あるいは司法の問題に介入することを求めるように、教会に代わって語るができるのは、あるいは教会にゆだねることができるのは、大管長会だけである。その場合以外、ステーク会長ならびにその他の地域の指導者は、政治的な事柄に関与するために会員を組織化したり、会員が関与する方法に影響を与えようとしたりすべきではない。

教会員は、地方自治体や国の政府で、選挙による選出または指名に基づく公職に就いて働くことを考えるように奨励されている。公職への立候補者は、教会または教会指導者の支持を受けて立候補しているかのようにほめかすべきではない。教会指導者および会員は、教会がいずれかの政党や政策綱領、候補者を支持していると解釈されるような言動を慎むべきである。

会員は、社会の道徳的基盤を強化する政策、特に社会の基本単位としての家族を守り強めることを目指した政策を支援するように勧められている。

教会の記録、住所録、およびこれらに類する資料を政治目的で利用してはならない。

教会の施設を政治目的で使用してはならない。しかしながら、ほかに適切な場所がない場合、有権者登録所（訳注——日本では該当しない）または投票所として使用することはできる（21.2 参照）。

### 21.1.30 郵便法

合衆国およびその他一部の国では、郵便受けの中あるいは上に、切手のはっていない物を置くと、郵便法違反となる。この規定は、ワードやステークの回報、発表、ちらし、その他の教会関係資料にも適用される。教会指導者は、会員と宣教師に、そのような物を郵便受けの中や上に置かないように教えるべきである。

### 21.1.31 会員のプライバシー

教会指導者は会員のプライバシーを守る義務がある。教会の記録、住所録、およびそれに類する資料を、個人的な目的や営利目的、または政治目的で利用してはならない（21.1.15 も参照）。

### 21.1.32 私的な出版物

会員は、教会に関連する書籍やその他の教会に関連する文書について、中央幹部または地域七十人に共同執筆を依頼したり、推薦を求めたりすべきではない。

### 21.1.33 中央幹部および地域七十人の話または説教の録音や録画

教会員は、ステーク大会、宣教師集会、その他の集会における中央幹部ならびに地域七十人の話や説教を録音・録画するべきではない。しかしながら、総大会の放送は、営利目的でなく個人で使用するために家庭用の機器を使って録音や録画してもよい。

### 21.1.34 教会と教会員の呼称

国境、文化、言語を越えた教会の発展に伴い、末日聖徒イエス・キリスト教会（教義と聖約 115:4 参照）

という教会の啓示された名称を使うことは、全世界で救い主の御名を宣言する教会と教会員の責任にとってますます重要になっている。したがって、教会について述べるときは、可能であればフルネームを使うべきである。教会のフルネームを最初に述べた後は、「教会」(the Church)、または「イエス・キリスト教会」(the Church of Jesus Christ)と短縮してもよい。

教会を「モルモン教会」(the Mormon Church)、「末日聖徒教会」(the Latter-day Saints Church)、「LDS 教会」(LDS Church)と呼ぶことは控える。

教会員を言い表すときは、「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員」(members of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints)が望ましい。短縮して言い表す場合は、「末日聖徒」(Latter-day Saints)が望ましいが、「モルモン」(Mormons)も認められている。

「モルモン」(Mormon)という言葉は、「モルモン書」や「モルモンタバナクル合唱団」のように、固有名詞の一部として引き続き使用する。また、「モルモンの開拓者」(Mormon pioneers)のように、語句の形容詞として引き続き使用する。さらに、「モルモン」(Mormon)は、一部の国で一般に知られているように教会を指す言葉として引き続き使用する必要があるであろう。

### 21.1.35 教会における調査活動

教会が承認している調査機関は、コーリレーション部の情報調査課だけである。この部門の代表者は、中央幹部が重要視している事項に関する情報を入手するため、アンケートと面談を実施する。教会が承認する調査員は、会員に連絡する場合、教会の無料通話番号と本部の担当者名を伝える。さらに彼らは、必ず、回答者が調査上の質問事項の一部または全部について答えないうという選択もできるようにする。

承認を受けていない人や機関が、教会の集会を使って情報を収集することはできない。教会員の氏名をそのような個人または機関に知らせるべきではない。地元の指導者は、アンケートや面談が承認を受けたものかどうか確認したい場合、情報調査課 (Research Information Division) に連絡する (電話: 1-801-240-2727, または 1-800-453-3860, 内線 2-2727)。

### 21.1.36 販売員

地元の指導者は、商品を販売するために地元の指導者や会員を訪ねる許可を教会あるいは教会指導者から得ていると主張する販売員の言葉を受け入れるべきではない。

### 21.1.37 衛星放送およびビデオ機器

教会の衛星放送およびビデオ機器は、ステーク会長会またはビショップリックが承認する、教会に関連する非営利の目的だけに使用することができる。この機器を使用して、教会が主催していないテレビ、ケーブルテレビ、または衛星放送のプログラムを録画してはならない。また、教会の衛星放送機器を使用して、教会と無関係なプログラムを視聴してはならない。会員は、教会本部の承認を受けずに衛星放送用のアンテナを規定の通信衛星や中継器から別の方向に向けてはならない。

機器の取り扱い、訓練を受けた人だけが行える。若人は、監督者がいるときに限って操作を手伝うことができる。

すべての機器は、使用しないときは、鍵のかかる場所に安全に保管しなければならない。家庭や個人で使用するために建物から機器を移動してはならない。

### 21.1.38 資金提供の要請

教会では、ふさわしい個人に対して適切な根拠がある場合に、財政援助を提供するプログラムが確立されている。教会による援助は、状況を把握しており、援助の重複や乱用を防止できる立場にあるビショップによって実施される。したがって、会員は、教会本部または地元の指導者や会員に追加の財政援助を請い求めるべきではない。

会員は、このような資金の要請を受けた場合、確立された教会福祉の原則に従って援助資金を提供するために所属ワードに献金していることを告げて、その要請に対処することができる。

### 21.1.39 教会指導者の言葉であるとする声明

時々、教会指導者の言葉であるとする不確かな声明が流布される。そのような声明の多くは、現行の教会の教えを歪曲したものであり、うわさや皮肉に基づいている。それらは決して公式に発信されるものではなく、口伝え、電子メール、その他の非公式な手段で流される。公式声明、連絡事項、出版物など、教会が承認した出所からの情報であると確認できないたぐいの声明を、教会員は、人に教えたり伝えたりしないようにするべきである。

中央幹部、地域七十人、またはその他の中央の教会役員がステーク大会やその他の集会で話したときのような記録も、話者の承諾なしに配布してはならない。個人的な記録は、個人用としてだけ使用する。

#### 21.1.40 討論会ならびにそれに類する集会

教会は、(1) 神聖な事柄を非難したり、嘲笑したり、軽視したり、またはそのほか不適切に扱ったりする、あるいは(2) 教会を傷つけたり、教会の使命を損なったり、または会員の福利に脅威を与えたりしかねない内容を含んだ討論会ならびにそれに類する集会に参加しないように会員に警告を発している。会員は、そのような集会を奨励するために、あるいは推薦していると思わせるために教会における職や立場が利用されることを許すべきではない。

#### 21.1.41 課税対象となる活動

ワードならびにステーキの指導者は、地元の教会活動によって非課税措置が適用されている教会の立場を危うくすることのないように注意すべきである。指針については、21.2を参照する。

#### 21.1.42 神殿衣とガーメント

エンダウメントを受けた会員は、神殿の儀式を受けるときに使用するために自分の神殿衣を購入するように勧められている。この神聖な衣服は教会配送サービスを通じて購入できる。一部の神殿には貸し出し用の神殿衣も用意されている。神殿に貸し出し用の神殿衣が用意されていない場合、会員は神殿衣を持参する必要がある。

会員は、認可された前掛けの刺しゅうと縫製キットを使用する場合にかぎり、自分自身の神殿の前掛けを製作できる。このキットは教会配送サービスから入手できる。そのほかの神殿の儀式用衣服は製作してはならない。神殿ガーメントも製作してはならない。

神殿でガーメントを着せられた教会員は、エンダウメントの中で受けた指示に従ってそれを着用するという神聖な義務を負っている。ガーメントは神殿で交わした聖約を常に思い起こさせてくれる。正しく着用するときに、それは誘惑と邪悪に対する守りとなる。ガーメントを着用することは、救い主に従う内なる決意を外に向かって表明することでもある。

エンダウメントを受けた会員は、昼夜を問わず、神殿のガーメントを身に着けているべきである。衣服の下にガーメントを正しく着用して無理なくできる庭仕事やそのほかの活動の場合、ガーメントのすべてまたは一部を脱ぐべきではない。また、ガーメントを脱いで、家の周りで水着や慎みのない衣服で過ごすようなことをするべきではない。水泳などでガーメントを脱がなければならない場合、それが済み次第すぐにガーメントを着用するべきである。

会員は、様々なスタイルの衣服に合わせるためにガーメントの寸法を調整したり、指示に反する方法で着用したりするべきではない。承認されたガーメントのデザインを変えてはならない。ツーピースのガーメントの場合は、常に上下と一緒に着用するべきである。

ガーメントは神聖であり、常に敬意をもって扱うべきである。ガーメントを床に置くべきではない。また、ガーメントは清潔に保ち、きちんと手入れをするべきである。ガーメントを洗った後は、それを乾かすために公共の場に干すべきではない。ガーメントの意味を理解していない人々の目に触れる場所に置いていたり、さらしたりするべきではない。

神殿で聖約を交わした会員は、ガーメントの着用に関して分からないことがあれば、聖なる御霊の導きにより自分自身で答えを得るようにするべきである。

会員は、着古した神殿のガーメントを処分する場合、マークを切り取って破棄するべきである。その後、残りの布地を切り刻み、ガーメントであることが分からないようにする。マークを取り去った布地は、もはや神聖なものとは見なされない。

着古した神殿の儀式用衣服を処分するときは、布地を切り刻んで本来の使用方法が分からないように形を変えて破棄する。

着られる状態にあるガーメントや神殿衣は、エンダウメントを受けたふさわしい会員に譲ってもよい。ビショップはこのような衣類を必要としている人々を紹介することができる。いかなる場合も、ガーメントや神殿の儀式用衣服をデゼレト産業、ビショップの倉、あるいは慈善施設に譲渡してはならない。

神殿衣の注文または特別な状況にある人々(軍務に就いている会員、寝たきりの会員、障がいのある会員など)のためのガーメントの注文に関する情報は、『手引き 第1部』3.4に記されている。

#### 21.1.43 移動に関する方針

13.6.24を参照する。

### 21.2 教会の建物とその他の資産の使用に関する方針

教会の建物とその他の資産は、礼拝、宗教教育、教会に関連するその他の活動のために使用するものである。教会の資産を営利または政治的な目的のために使用するべきではない。これは非課税措置を規定する法律に違反する行為である。法律に違反する恐れのあるその他の目的のためにも資産を使用することはできない。承認されない使用例には次のようなものがある。

1. 教会の施設を営利目的で賃貸する。
2. 商業広告の掲示または営利目的の催しの主催を含む、投機事業もしくは投資事業を促進する。
3. 製品、サービス、出版物、あるいは創作品の購入、販売、または宣伝を行う、あるいは製品の実演を行う。
4. 承認されていない資金獲得活動を行う（13.6.8を参照）。
5. セミナー、レッスン、エアロビクスのクラスなどで参加者を勧誘する、あるいは商品購入や仕事の依頼を要請する講演者または講師を報酬を支払って招く。有料で個人指導を行うために集会所のピアノやオルガンを使用することは例外として認めることができる（14.7を参照）。
6. 教会の主催でない運動競技を実施する。これには練習も含まれる。
7. 政治集会または政治運動を行う。例外として、次のような状況下であれば、選挙役員の要請に基づき、教会の施設を有権者登録所および投票所として使用することができる。
  - a. ほかに適切な場所がない。
  - b. 選挙役員および投票者が建物内で教会の標準に従う。
  - c. 行事によって建物に物理的な危害が加えられない。
  - d. 行事によって教会のイメージが損なわれない。

教会資産を使用することによって、参加者に重大な危害を及ぼしたり、資産を著しく損なったりするべきではない。また、教会を不当に不利な状況に陥れたり、周辺の住民に迷惑をかけたりするべきではない。

教会の建物とその他の資産の使用と管理に関するもっと詳細な指示については、『集会所およびその他の教会資産のための施設運営ガイドライン』を参照する。あるいは、教会本部または管轄する管理事務所に問い合わせる。

### 21.2.1 絵画

教会が集会所用に承認している絵画は、『教会施設絵画』(Church Facilities Artwork [英語]) カタログを使って、施設主任を通じて入手できる。施設主任も、教会配送サービスを通じて集会所のためにふさわしい絵画を入手できる。

集会所内の適切な場所に、写真や絵画を飾ることができる。しかしながら、礼拝堂内やバプテスマフォントの付近に置くことはできない。彫像や壁画、モザイク画は承認されていない。この方針は、既存の集会所に長年にわたって展示されている美術品には適用されない。

集会所の絵画はふさわしい額に入れてあるべきである。

### 21.2.2 装飾

ステーク会長会の指示の下で承認を受けた場合、クリスマス、そのほかの祝日、あるいはこれらに類する行事の装飾を集会所の入り口やロビー、または文化ホールに一時的に設置することができる。集会所の礼拝堂には花以外の装飾を施してはならない。また、集会所の外壁や敷地にも装飾を施すべきではない。

装飾は控えめであり、高価でなく、また燃えやすいものを使用すべきではない。干し草、麦わら、ヤシの葉、その他の乾燥した材料、ろうそくを使用してはならない。クリスマスツリーを使用する場合は、人工の木を使用するか、または燃えない加工の施されたものとする。装飾に電球やろうそくは使用しない。消防や安全に関する地元の条例を遵守するべきである。

### 21.2.3 緊急事態

緊急事態が発生した場合、ステーク会長会は、ワードの定例集会を開くかどうかを決定する。

地域社会全域にわたる緊急事態または災害の場合、ステーク会長は、公的な災害救援機関に協力するために、集会所を緊急避難所として使用することに同意してもよい。この場合、教会が管理権を保つ。ステークおよびワードの指導者は、建物を使用する人々には、建物内にいる間は知恵の言葉を含めて教会の行いの標準を必ず守ってもらう。

### 21.2.4 小型銃器

教会は、神を礼拝するために、また、世の不安と心配事からの避難所として奉献されている。法律によって定められている職にある人々を除いて、人目に付かないように保持しているか否かを問わず、殺傷武器を教会の建物内に持ち込むことは適切ではない。

### 21.2.5 火とろうそく

教会の建物内で、裸火や、ともした状態のろうそくを使用してはならない。

### 21.2.6 旗

地元の慣習と慣行に合致するのであれば、教会の敷地内にいつでも国旗を掲揚してよい。国家を尊ぶプログラムなどの特別な場合に、教会建物の内部に国旗を掲げることは差し支えない。真の愛国心は、必ずしも礼拝の場所に常に国旗を掲げておくことを必要とはしない。

### 21.2.7 月曜日の夜

13.6.10を参照する

### 21.2.8 宿泊または宿泊を要するキャンプ

教会集会所の敷地を宿泊施設、または宿泊を要するキャンプやパジャマパーティーの場所として使用してはならない。

### 21.2.9 駐車場

教会の駐車場を利用するに当たっては、21.2の項の始めにある指針に従うべきである。その他、実務ディレクターから許可を得ないかぎり、教会の駐車場を通勤用の駐車場として使用してはならない。

### 21.2.10 礼拝堂における写真撮影、ビデオ撮影、放映

礼拝堂で写真を撮ることやビデオ撮影をすることは許可されない。礼拝堂で行われる集会やその他の行事を、インターネットあるいはその他の手段で放映してはならない（例外については、18.3.1を参照）。

### 21.2.11 台所

教会集会所の台所は、食物の準備をしたり、料理をしたりするためにあるのではない。ただし、レッスンの一環としてこれを行ったり、実演やそのほかの指導で行ったりする場合は、この限りではない。建物内または敷地内で食物を出す場合は、別の場所で調理し、集会所へ運び込むようにすべきである。集会所では、食べるときまで温めておいたり、冷やしておいたりすることはできる。

### 21.2.12 保管

集会所内での保管が許可されているのは、維持管理用品とその他承認された備品および機器だけである。福祉関連の物資やこれに類するものを集会所内に保管してはならない。

ガソリン、プロパンガス、マッチ、キャンプ用品などは集会所から離れた建物に保管するべきである。

自動車、レクリエーション用自動車、その他個人の機材類を教会の敷地内に保管してはならない。

## 21.3 医療および健康に関する方針

### 21.3.1 遺体解剖

遺体解剖は、遺族の同意があり、しかも法的に認められている場合に行うことができる。

### 21.3.2 火葬

教会は一般的に火葬を奨励していない。遺体を火葬にするかどうかは、埋葬や火葬に関する法律を考慮して、遺族が決めなければならない。国によっては、火葬が法律で義務づけられている所がある。

エンダウメントを受けている会員の遺体には、可能であれば、火葬にするときに神殿衣を着せておく。その場合も、葬儀を催すことができる（18.6を参照）。

### 21.3.3 安楽死

安楽死とは、回復の見込みのない状態や不治の病にある人を故意に死に至らしめることと定義されている。自殺しようとしている人のほう助を含め、安楽死にかかわる人は神の戒めを破ることになる（21.3.8も参照）。

### 21.3.4 HIVの感染とエイズ

HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染している会員やエイズ（後天性免疫不全症候群）になっている会員には、尊厳と思いやりをもって接するべきである。HIVに感染している人の中には、自分の責任ではなく、他の人の行為の犠牲者がいる。例えば、不注意で行われた輸血や感染者の親から感染したかもしれない。神の律法に背いた結果として感染したとしても、教会は、罪を非難しながらも罪人を愛し、悔い改めをお勧めになった主の模範に従うように唱道している。会員は、苦しんでいる人に対して、彼らの必要を満ちし、問題を解決する方法を見つける助けを与えることによって、思いやりと慰めの手を差し伸べるべきである。

HIVやエイズに対する第1の防御策は、結婚前の純潔を保つこと、結婚生活において完全に貞節を守ること、いかなる同性愛関係も避けること、不法な薬物を避けること、そして身体を敬虔な気持ちで扱うことである。

HIVに感染している人またはエイズになっている人が教会の集会に出席しても、それが健康上の重大な問題を引き起こすわけではない。公共の保健機関は、家庭、学校、教会、あるいは職場における通常の接触によってHIVに感染することはないと断言している。



血液を時折浄化する必要のある人、または応急処置を必要とする人は、地元の保健当局が推薦する方法を学び、それに従うべきである。

パプテスマと確認に関しては、HIVに感染している人またはエイズになっている人は、神を信じる信仰を表明し、悔い改め、イエス・キリストの福音に従って生活しているほかの人々と同じように扱われる。

### 21.3.5 催眠術

資格ある医療専門家の監督の下で、疾病や精神障害の治療のために催眠術を使用するかどうかは、資格ある医師の判断にゆだねられるべきものである。会員は、実演や娯楽を目的とした催眠術に加わるべきではない。

### 21.3.6 治療法および健康法

会員は、倫理上または法律上疑問のある治療法および健康法を用いるべきではない。地元の指導者は、健康上の問題を抱えている会員に対し、開業して国から免許を与えられている、資格ある専門の医師に相談するように助言するべきである。

### 21.3.7 臓器および組織の提供と移植

臓器と組織の提供は、しばしば疾患のある個人に偉大な恩恵をもたらす無私的行為である。医学上の目的のために自分の臓器や組織を遺贈もしくは提供するかどうかの判断、あるいは亡くなった家族の臓器や組織を移植することを許可するかどうかの判断は、本人または亡くなった会員の家族にゆだねられる。

臓器の提供を受けるかどうかの判断は、資格ある医師の助言と、祈りによる確認を受けた後に行うべきである。

### 21.3.8 延命措置

大病を患ったとき、会員は、主への信仰を働かせ、また資格ある医師の助けを求めるべきである。しかしながら、死が避けられない状態となったとき、死は祝福であり、永遠の存在にとって意味の深い一つの過程であると考えらるべきである。会員は、過度の手段をもって現世の命を延ばす義務があると感じる必要はない。この判断は、賢明で有能な医師の助言と、断食と祈りによって神の導きを求めたうえで、家族が下すべきである。

### 21.3.9 自己認識運動グループ

自我を覚醒し、自尊心や靈性を高揚させると称するプログラムを提供している私的なグループや営利組織が数多く存在する。あるグループは、自己実現を図ることや家族関係を改善することを約束している。ある

グループは「経験的」または「力を賦与する」訓練を提供している。

あるグループは偽って、教会あるいは中央幹部個人が自分たちのプログラムを推薦していると主張したり、ほめかしたりしている。しかしながら、教会は、そのような事業も推薦しておらず、またそのような主張を信じないようにと会員に警告している。教会がそのような事業に対して公式に抗議していないことを、暗黙の推薦または承認のしるしと受け止めるべきではない。

教会はまた、これらのグループの一部は危害を及ぼしかねない概念を唱道したり手段を用いたりしていると、教会員に警告している。そのほか、法外な料金を請求し、長期間の契約を勧めるグループも多く存在する。また、靈性や信仰を弱めかねない方法で、世俗的な概念と福音の原則とを混ぜ合わせるグループも存在する。

これらのグループは、普通であれば時間をかけ、個人の努力を通して解決しなければならない問題を、直ちに解決すると約束する傾向がある。参加者は一時的に気休めや高揚感を体験するかもしれないが、往々にして元の問題は再びよみがえり、以前よりも深い落胆と絶望を味わうことになる。

教会指導者は、このようなグループや活動に金銭を支払ったり、参加を勧めたり、あるいはこれを支援したりしてはならない。また、教会の施設をこれらの活動のために使用してはならない。

指導者は、真の自己改善は福音の原則に従って生活することによって実現することを会員に勧告するべきである。対人関係の問題や情緒的な問題を抱える会員は、福音の原則に添った援助手段を見つける方法について神権指導者に相談し、指導を受けることができる。

### 21.3.10 死産児（出生前に死亡した子供）

死産児のためには神殿の儀式は執行しない。しかしながら、これは死産児が永遠の家族の一員となる可能性を否定するものではない。主を信頼するように両親に勧めるべきである。主は、御自身が知っておられる最も良い方法でこの問題を解決してくださるからである。家族は死産児の名前を「家族の記録」に記録し、その名前の後に括弧付きで「(死産)」と付記しておくことよい。

両親の判断で、追悼式や墓地における儀式を行ってもよい。

誕生前の子供に命があることは事実である。しかしながら、霊が肉体に入る時期について直接的な啓示は与えられていない。

### 21.3.11 知恵の言葉

知恵の言葉で「熱い飲み物」(教義と聖約 89:9) と呼ばれているものの唯一の公式見解は、初期の教会指導者たちによる声明で、茶とコーヒーを指すというものである。

会員は、不法な薬物を含むいかなる物質も摂取するべきではない。また、資格ある医師の監督下で使用するのでないかぎり、有害な物質や常習性を持つ物質を使用するべきではない。

## 21.4 道徳上の問題に関する方針

### 21.4.1 墮胎

主は、「あなたは……殺してはならない。これに類することをしてはならない」と命じられた(教義と聖約 59:6)。教会は、個人の都合や社会的な都合で自分の意思に基づいて行う墮胎に反対している。会員は、墮胎手術を受けたり、施したり、手配したり、その費用を支払ったり、それに同意したり、それを勧めたりしてはならない。例外と考えられる可能性があるのは、次の場合だけである。

1. 強姦または近親相姦によって妊娠した。
2. 母親の生命や健康が重大な危機に瀕していると、資格ある医師が診断している。
3. 胎児に重大な欠陥があって出生後生命を維持できないと、資格ある医師が診断している。

これらの例外的な状況であっても、墮胎が自動的に正当化されるわけではない。墮胎はきわめて重大な事柄であり、当事者は、ビショップと相談したうえで、祈りを通して神からの確認を得てからでなければ、墮胎を考えるべきではない。

墮胎手術を受けたり、施したり、手配したり、その費用を支払ったり、それに同意したり、それを勧めたりした教会員は、教会宗紀の対象となる可能性がある。

これまでの啓示によれば、人は墮胎の罪を悔い改めて赦しを得ることができる。

### 21.4.2 虐待および苦痛を与える行為

教会は、いかなる形の虐待も許容しない立場を取っている。伴侶、子供、その他の家族、あるいはほかの人に対して虐待や苦痛を与える行為を行う人は、神の律法と人の法規範に背くことになる。すべての会員、特に両親と指導者は、子供たちやその他の人々を、虐待と、義務の放棄から守るために、絶えず油断なく注意を払い、行えることをすべて行うように勧められている。

る。ほかの人を虐待した会員は教会宗紀の対象となる。

指導者または教師は、虐待に気づいたら、ビショップに相談するべきである。ビショップへの指示は、『手引き 第1部』17.3.2 に述べられている。

### 21.4.3 人工授精

教会は、夫以外の人の精液を用いる人工授精を思いとどまるように強く勧めている。しかしながら、これは個人的な事柄であり、最終的な判断はその夫婦にゆだねられている。その決定に責任を負うのは夫婦だけである。

独身の姉妹が人工授精を受けることは承認されない。この件に関する教会指導者の勧告を故意に拒む独身の姉妹は、教会宗紀の対象となる。

### 21.4.4 産児制限

神の霊の子供たちに死すべき体を与えることは、子供をもうけることができる結婚した夫婦に与えられた特権である。夫婦は子供が生まれると、養育する責任を負う。何人の子供を、いつ持つかについての判断は、きわめて個人的かつ内密の事柄であって、夫婦と主の間で行うべきものである。教会員はこの件について互いを裁くべきではない。

結婚した男女は、結婚のきずなにおける性的な関係は、子供を産むためだけでなく、愛情を表現し、夫婦の間の情緒的および霊的なきずなを強めるために、神が承認しておられることを理解するべきである。

### 21.4.5 純潔と貞節

純潔に関する主の律法は、合法的な結婚関係によらない性的関係、ならびに夫婦の貞節を逸脱する性的関係を禁じている。性的な関係は、夫婦として合法的かつ正当に結婚した男女の間でだけ適正とされるものである。姦淫、私通、男性間または女性間の同性愛関係、その他のあらゆる汚れた不自然で不潔な行いは、罪深いものである。純潔に関する主の律法に違反する会員、あるいはそのような行為をするように他の人々を誘う会員は、教会宗紀の対象となる。

### 21.4.6 同性愛行為と同性に感じる魅力

同性愛行為は、神の戒めを破ることであり、人の持つ性の目的に反しており、家族生活の中に、また救いにかかわる福音の儀式の中に見いだすことのできる祝福を人々から奪うものである。このような行為をやめようとしない人、またはほかの人々を同性愛行為に引き込む人は、教会宗紀の対象となる。同性愛行為は、心からの悔い改めによって赦しを得ることができる。

会員が同性愛行為を行っている場合、教会指導者は、彼らがイエス・キリストを信じる信仰、悔い改めの過程、また地上における人生の目的について明確な理解を得られるように助けるべきである。

教会は、同性愛行為に反対する一方で、同性に魅力を感じてしまう人に理解と敬意をもって手を差し伸べている。

会員が同性に魅力を感じるものの、同性愛行為を行うことはない場合、指導者は、純潔の律法に従って生活し、義にかなっていない思いを抑えようと決意している彼らを支援し、励ますべきである。これらの会員は教会の召しを受けることができる。彼らはそのほかのあらゆる点でふさわしく、資格があれば、神殿推薦状を持ち、神殿の儀式を受けることもできる。

#### 21.4.7 体外受精

教会は、夫以外の人の精液、または妻以外の人の卵子を用いる体外受精を思いとどまるように強く勧めている。しかしながら、これは個人的な事柄であり、最終的な判断はその夫婦にゆだねられている。その決定に責任を負うのは夫婦だけである。

#### 21.4.8 オカルトとのかかわり

教会員は、いかなる形であろうといわゆる悪魔礼拝に参加したり、いかなる方法によってもオカルトに関与したりしてはならない。「この種の活動は、聖典の中で闇の業と言われているたぐいのものであり、その目的はキリストへの信仰を破壊し、悪と知りながらそれらを奨励する人々の救いを危うくすることにあります。これらの活動は、戯れに行うべきものではありません。また教会の集会の主題とするべきものでもありませんし、個人的な会話の中で詮索するべきものでもありません。」(大管長会からの手紙、1991年9月18日付)

#### 21.4.9 ポルノグラフィー

教会は、あらゆる形態のポルノグラフィーに反対している。ポルノグラフィーにおぼれると、個人の生活、家族、社会は害を被り、また主の御霊は遠ざかる。教会員はあらゆる形態のポルノグラフィーを避けるとともに、その製作、拡散、使用に反対するべきである。

小冊子『徳であなたの思いを飾るようにしなさい』は、ポルノグラフィーを避け、その問題を克服する方法に関する助言を提供するものである。

#### 21.4.10 同性との結婚

聖典に基づく教義上の原則として、教会は、男女の間の結婚は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画にとって重要であることを断言している。

性的な関係は、夫婦として合法的かつ正当に結婚した男女の間でだけ適正とされるものである。それ以外の性的関係は、同性同士も含め、神聖に創造された家族制度を損なうものである。したがって、教会は、結婚とは男性と女性の間で合法的かつ正当な結びつきであるという定義を確認している。

#### 21.4.11 性教育

子供の性教育に対する第一の責任は親にある。家庭で性について正直に、また分かりやすく教えることは、若人が重大な道徳的背罪を避けるのに役立つであろう。親がこの繊細かつ重要な知識を与える助けとして、教会は、『良い親になるために』と題する冊子を発行している。

学校で性教育が実施されている場合、親は、子供に教えられていることが健全な道徳的かつ倫理的価値観に基づいたものであることを確認するように努めるべきである。

#### 21.4.12 親になろうとしている独身者

独身で妊娠している教会員は、ビショップのもとへ行くように勧められている。ビショップはその神権の職と召しによって、彼ら自身とその子供の福利に影響を与える重大な決断を彼らが下すときに、助言を与えることができる。ビショップはまた、適切であれば、彼らが悔い改めの道を歩み始めるように助けを与えることができる。ビショップへの指示が『手引き 第1部』17.3.12に述べられている。

男性と女性が結婚生活によらずに子供をもうけたときは、二人が結婚するように、あらゆる努力をして彼らに勧めるべきである。年齢やその他の事情で、実りある結婚生活を送る可能性が薄い場合は、LDSファミリーサービスの協力を得て子供を養子に出すように、未婚の親に助言を与えるべきである。そうすれば、その子供は神殿に参入するふさわしさを備えた両親に結び固められる機会がある。養子縁組は、生みの親とその子供の双方にとって、現世においても永遠の世においても祝福となる無私的愛に満ちた決定である。

LDSファミリーサービスを利用できない地域では、指導者は、地元で認可を受けた機関を通じて、神殿に参入する資格のある夫婦に子供を養子縁組するように勧めるべきである。LDSファミリーサービスは、信頼

の置ける、認可を受けた養子縁組機関を見つける援助をすることができる。認可を受けた機関は、子供の利益を保護し、養子縁組を実行する前に養親について調査し、また必要な監督業務とカウンセリングを実施するために組織されている。

結婚しない生みの親に対して、悔い改めの一つの条件として、あるいは自分の子供の世話をすべきであるという義務感から、子供を引き取るように助言すべきではない。そのほか、祖父母ならびにその他の家族は、未婚の親として親の務めを果たすように促す義務があると考えべきではない。そのようにすれば、その子供は結び固めの聖約に伴う祝福を通常受けることができなからである。さらに、未婚の親は、結婚している父母が与えることのできる安堵感と養育環境を通常与えることができない。未婚の親は、子供にとっての最大の利益について、また父母に結び固められる幼児が受けることのできる祝福について、祈りの気持ちで考慮すべきである（大管長会からの手紙、2002年6月26日付〔訳注——日本では、2002年7月19日付で「養子縁組と未婚の親」という件名で発行されている〕参照）。

親になろうとしている人がその子供を育てると決心した場合、教会指導者およびその他の会員は、配慮と思いやりをもってその親子に接し、また親としての能力を伸ばすようにすべきである。LDSファミリーサービスは、このような状況にある人を援助することができる。指導者は、子供の命名と祝福を行うように親に勧める（20.2を参照）。

妊娠している若い女性が扶助協会と若い女性のどちらの集会に出席するかに関する情報については、10.12.4を参照する。

LDSファミリーサービスでは、親になろうとしている独身者とその他の人々が妊娠と関連事項について援助を得られるように、通話料無料のヘルプライン（電話：1-800-537-2229）を設けている。このヘルプラインは合衆国とカナダの全域で利用できる。会員も会員でない人も、この番号に直接電話するか、地元のLDSファミリーサービス事務局に電話することができる。地元事務局の電話番号が分からなければ、指導

者は、ヘルプラインに電話するか、itsaboutlove.orgで調べることができる。そのウェブサイトは、独身で妊娠していて選択肢を考慮している人々のために有益な情報を提供している。

#### 21.4.13 精子の提供

教会は、精子の提供を思いとどまるように強く勧めている。

#### 21.4.14 自殺

自分の命も含めて、命を取ることは間違っている。しかしながら、自殺した人がその行為について責任を問われない場合もある。このようなことは神のみが判断されることである。

家族は、ビショップと相談のうえで、このような状況で亡くなった人のために行う葬儀の場所、ならびにどのような葬儀にするかを決める。教会の施設を使用することができる。その人がエンダウメントを受けていた場合、神殿衣を着せて埋葬することができる。

#### 21.4.15 不妊手術（精管切除術を含む）

教会は、産児制限の選択肢としての不妊手術を思いとどまるように強く勧めている。不妊手術が考慮されるのは、次に挙げる場合のみである。（1）病状から考えて生命や健康状態が重大な危機に瀕していると判断される、または（2）生まれつきの障がいや重大な心的外傷によって心神喪失となり、自分自身の行動に責任が持てない。このような状況については、資格ある医師の診断ならびに法律に基づいて判断しなければならない。またそのうえで、この決定について責任を持つ人々はよく話し合い、ビショップと相談し、また祈りを通して決定について神から確認を得るべきである。

#### 21.4.16 代理出産

教会は、代理出産を思いとどまるように強く勧めている。



JAPANESE



4 02087 02300 0

08702 300